

菟田東遺跡

国道291号街路改良工事地域
埋蔵文化財発掘調査報告書

1982

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

菟田東遺跡正誤表

ページ	行または番号	誤	正
64		7号 ¹ 住居址出土土器観察表	7号 ¹ 住居址出土土器観察表
69	下から3行目	長さ ¹ cm	長さ250cm
73	上から6行目	堆積す	堆積す
94	第63団中	遺物番号加入	左側の列(92の下から)94、96、98、100、102、104、106、108、110、112、右側の列(上から)93、95、97、99、101、103、105、107、109、111、
131	上から12行目	平均20 ¹ 前後	平均20 ¹ 前後
136	観察表、2段目	8の出土位置	1号土坑
162	上から20行目	南多摩原址群G 29号窟	南多摩原址群G 62号窟
#	上から21行目	ている(注4)。	(注4)削除
#	最下行	掘出す ¹ する	掘出す ¹ る
163	上から8行目	きる構造的には	きる ¹ 、構造的には
#	下から6行目	文献4、5参照	文献4、6参照



菟田東遺跡

国道291号街路改良工事地域
埋蔵文化財発掘調査報告書

1982



序 言

上越新幹線は、日本を横断して首都圏と新潟地方とを結ぶ新しい交通機関として建設がすすめられ、関越自動車道の建設とあいまって群馬県の新しい交通システムの幕あけとなりました。

一方、これらの建設事業及び関連事業に伴って、埋蔵文化財の発掘調査も県内各地で実施され、地中に残された人々のくらしの様子を記録に残す努力も続けられています。

ここに報告します遺跡は、利根郡月夜野町にできる上越新幹線上毛高原駅の駅前広場整備事業（国道291号街路改良工事）に伴って発掘調査を実施したものです。この遺跡の近くには、平安時代に須恵器を生産した窯跡も発見され、月夜野古窯址群として古くから注目されていた所です。今回の調査では、この須恵器の原料となる粘土採掘の跡が数多く発見されるとともに、生産に携わった人々の住いの跡も調査されました。一地区で原料採取、工房、窯・そして職人の住居と当時の生産に関連する一連の遺構が調査された事例は県内唯一であり、貴重な資料を得ることができました。

発掘調査及び報告書刊行にいたるまでには、群馬県土木部・群馬県教育委員会をはじめとする関係諸機関の方々、直接調査にあたった担当者と地元の方々そして、整理にあたっていただいた方と数多くの人々の御協力をいただきました。報告書刊行にあたりまして改めて感謝の意を表するとともに、本報告書が広く有効に活用されんことを念じ序といたします。

昭和54年3月25日

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 清水 一郎

例 言

1. 本書は国道291号街路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 事業主体者 群馬県土木部
3. 調査主体者 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
4. 調査体制及び調査期間は次の通りである。

予備調査	昭和54年3月26日～3月28日	原 雅信 (群馬県埋蔵文化財調査事業団調査研究員)			
		木津博明 (同 上 調査員)			
本 調 査	昭和54年4月12日～10月31日	原 雅信 (同 上 調査研究員)			
		中沢 悟 (同 上)			
		相京建史 (同 上)			

5. 調査地域 群馬県利根郡月夜野町

6. 調査面積 5,600㎡

7. 本書の執筆者は次の通りである。(敬称略)

磯貝基一 (群馬県教育委員会青少年課) 花岡紘一 (群馬県工業試験場化学課)
中沢 悟、原 雅信 (群馬県埋蔵文化財調査事業団調査研究員)

8. 本書に使用した地図は、建設省国土地理院発行50000分の1の四万(第1図)、25000分の1の後閑、沼田、猿ヶ京、上野中山(第3図)である。

9. 本書に使用した遺構写真は各調査担当者が、遺物写真は佐藤元彦(群馬県埋蔵文化財調査事業団写真室)が撮影した。

10. 出土遺物及び調査図面の保管場所は、群馬県埋蔵文化財調査センターにある。

11. 発掘調査作業員は次の通りである。(敬称略)

五十嵐美代子、石川佐兵衛、稲田政一、生方民治、大島一夫、大島ふじ、小川さん、奥木かつみ
小野塚キクヨ、剣持みよ、小林てい、斉木ひで、鈴木キク、高橋たけ、高橋千代子、高橋直行
高橋泰易、田中兼太郎、田中ヨシ、中村しげ、中村ゆき、野沢たか、林ミチ子、原 ふみ
原沢つね子、笛田富次、星かほる、星野久仁子、牧田ヒサ子、丸山そう、宮下良雄、村上はま
山岸まり、芳沢せつ
青木公一、上野洋介、中島正義、富水 盾、永松聡子、鈴木久恵、宇都宮雅彦(神奈川大学生)

12. 本書の作成及び資料整理は次の者が実施した。

石井弘子、霜田恵子、須田まさ江、萩原弘子

13. 出土遺物の保存処理は次の者が担当した。

浜野和宗作、伊能敬司、関 邦一

14. 本書を作成するにあたり次の方々の協力を得ており、貴重な助言を頂いている。(敬称略)

井上唯雄、大江正行、真下高幸、相京建史、飯田陽一、坂口 一、徳江秀夫、坂井 隆、大西雅広
唐沢至朗、石守 晃、菅 英一郎、国定 均、笠原秀樹、山本朋子、吉田有光、柳岡良宏
月夜野町教育委員会

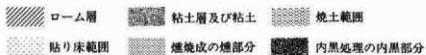
15. 本書の編集は原 雅信が担当した。

凡 例

1. 各遺構図の縮尺は原則として次の通りとした。

住居址 $\frac{1}{60}$ 、土坑 $\frac{1}{60}$ 、獨立柱建物址 $\frac{1}{60}$ 、集石状遺構 $\frac{1}{60}$ 、溝状遺構・石組遺構 $\frac{1}{60}$ 、尚、粘土探掘域は各群の規模にかなり差があるため縮尺は不統一である。これについては挿図目次に示してあるので参照して頂きたい。

2. 遺構図中に記した断面基準線は標高で表わした。
3. 遺物実測図の縮尺は原則として $\frac{1}{5}$ に統一した。尚、一部不統一の実測図もあるため、これについては挿図目次及び各実測図中に注記した。
4. 遺構及び遺物挿図中におけるスクリーントーンは次のことを表示している。



5. 遺跡全体図は $\frac{1}{600}$ とした。尚、(1)は平安時代、(2)はそれ以外の遺構をまとめた。
6. 住居址平面図は原則としてカマドを上に乗図した。
7. 出土遺物については全て観察表に記述した。
8. 遺構図に関し、重複関係については新しい遺構を実線、古い遺構を破線で表示した。
9. 住居址実測図中に示す遺物番号は、土器観察表の番号と一致する。
10. 探掘粘土量の計測は、各探掘域における粘土層の上面の面積をプランリメーターにより算出し、その計測値に、粘土層の厚みの平均値をかけ数量化したものである。

目 次

序 言	
例 言・凡 例	
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の立地と環境	1
1. 遺跡の位置	1
2. 周辺の遺跡	2
III 調査の方法と経過	8
1. 調査の方法	8
2. 調査の経過	9
IV 検出された遺構と遺物	14
1. 平安時代の遺構と遺物	14
(1) 住 居 址	14
(2) 粘土採掘塚	73
(3) 土 塚	131
(4) 骨蔵器出土遺構	138
(5) グリッド出土土器	142
2. 近世の遺構と遺物	144
(1) 掘立柱建物址	144
(2) 土 塚	149
(3) 集石状遺構	157
(4) 溝状遺構	157
(5) 石組遺構	157
3. グリッド出土遺物	159
V 成果と問題点	162
平安時代の遺跡について	162
VI 化学分析	165
はじめに	165
1. 試料について	165
2. 分析の意図と目的	168
3. 試験方法	170
4. 試験結果	170
ま と め	173
VII 菟田東遺跡周辺の地質 磯貝基一	174
1. 地 形	174
2. 地 質	174
3. 粘土層について	175

挿 図 目 次

第 1 図	菟田東遺跡の位置	2
第 2 図	遺跡周辺の地形	3
第 3 図	周辺の遺跡	4
第 4 図	グリッド設定図	8
第 5 図	菟田東遺跡全体図 (1)	12
第 6 図	菟田東遺跡全体図 (2)	13
第 7 図	1号住居址実測図	14
第 8 図	1号住居址出土土器 (1)	15
第 9 図	1号住居址出土土器 (2)	16
第 10 図	2号住居址実測図	18
第 11 図	2号住居址出土土器 (1)	19
第 12 図	2号住居址出土土器 (2)	20
第 13 図	3号住居址遺物分布図	24
第 14 図	3号住居址実測図	24
第 15 図	3号住居址出土土器 (1)	25
第 16 図	3号住居址出土土器 (2)	26
第 17 図	3号住居址出土土器 (3)	27
第 18 図	3号住居址出土土器 (4)	28
第 19 図	3号住居址出土土器 (5)	29
第 20 図	3号住居址出土土器 (6)	30
第 21 図	3号住居址出土土器 (7)	31
第 22 図	3号住居址出土土器 (8)	32
第 23 図	4号住居址実測図	40
第 24 図	4号住居址出土土器 (1)	41
第 25 図	4号住居址出土土器 (2)	42
第 26 図	5号住居址遺物分布図	45
第 27 図	5号住居址実測図	45
第 28 図	5号住居址出土土器 (1)	46
第 29 図	5号住居址出土土器 (2)	47
第 30 図	5号住居址出土土器 (3)	48
第 31 図	5号住居址出土土器 (4)	49
第 32 図	5号住居址出土土器 (5)	50
第 33 図	5号住居址出土土器 (6)	51
第 34 図	5号住居址出土土器 (7)	52
第 35 図	6号住居址実測図	58

第 36 图	6 号住居址出土土器 (1)	59
第 37 图	6 号住居址出土土器 (2)	60
第 38 图	6 号住居址出土土器 (3)	61
第 39 图	7 号住居址实测图	64
第 40 图	7 号住居址出土土器 (1)	65
第 41 图	7 号住居址出土土器 (2)	66
第 42 图	7 号住居址出土土器 (3)	67
第 43 图	7 号住居址出土遗物 (4)	68
第 44 图	8 号住居址实测图	70
第 45 图	8 号住居址出土土器	71
第 46 图	粘土探掘坑剖面模式图	73
第 47 图	第 1 群粘土探掘坑实测图	74
第 48 图	第 2 群粘土探掘坑平面图	75
第 49 图	第 2 群粘土探掘坑出土土器	76
第 50 图	第 3 群粘土探掘坑土层断面图	77、78
第 51 图	第 3 群粘土探掘坑平面图	79
第 52 图	第 3 群粘土探掘坑出土土器 (1)	80
第 53 图	第 3 群粘土探掘坑出土土器 (2)	81
第 54 图	第 3 群粘土探掘坑出土土器 (3)	82
第 55 图	第 4 群粘土探掘坑土层断面图	85、86
第 56 图	第 4 群粘土探掘坑平面图	87
第 57 图	第 4 群粘土探掘坑出土土器 (1)	88
第 58 图	第 4 群粘土探掘坑出土土器 (2)	89
第 59 图	第 4 群粘土探掘坑出土土器 (3)	90
第 60 图	第 4 群粘土探掘坑出土土器 (4)	91
第 61 图	第 4 群粘土探掘坑出土土器 (5)	92
第 62 图	第 4 群粘土探掘坑出土土器 (6)	93
第 63 图	第 4 群粘土探掘坑出土土器 (7)	94
第 64 图	第 4 群粘土探掘坑出土土器 (8)	95
第 65 图	第 4 群粘土探掘坑出土土器 (9)	96
第 66 图	第 4 群粘土探掘坑出土土器 (10)	97
第 67 图	第 4 群粘土探掘坑出土遗物 (11)	98
第 68 图	第 5 群粘土探掘坑平面图	109
第 69 图	第 5 群粘土探掘坑出土土器	110
第 70 图	第 6 群粘土探掘坑实测图	112
第 71 图	第 6 群粘土探掘坑平面图	113
第 72 图	第 6 群粘土探掘坑出土土器 (1)	114
第 73 图	第 6 群粘土探掘坑出土土器 (2)	115

第 74 図	第 6 群粘土探掘坑出土土器 (3)	116
第 75 図	第 6 群粘土探掘坑出土土器 (4)	117
第 76 図	第 6 群粘土探掘坑出土土器 (5)	118
第 77 図	第 6 群粘土探掘坑出土土器 (6)	119
第 78 図	第 6 群粘土探掘坑出土土器 (7)	120
第 79 図	第 7 群粘土探掘坑実測図	124
第 80 図	第 7 群粘土探掘坑出土土器	124
第 81 図	第 8 群粘土探掘坑実測図	125
第 82 図	第 9 群粘土探掘坑実測図	126
第 83 図	第 10 群粘土探掘坑平面図	127
第 84 図	第 10 群粘土探掘坑出土土器	127
第 85 図	第 11 群粘土探掘坑実測図	128
第 86 図	第 11 群粘土探掘坑出土土器	129
第 87 図	土坑実測図	132
第 88 図	1 号土坑出土土器 (1)	133
第 89 図	1 号土坑出土土器 (2)	134
第 90 図	2・3・4 号土坑出土土器	135
第 91 図	5 号土坑出土土器	136
第 92 図	7 号土坑実測図	139
第 93 図	No.3 骨蔵器出土状態図 (L-76 グリッド)	140
第 94 図	7 号土坑・L-76 グリッド出土土器	141
第 95 図	グリッド出土土器	142
第 96 図	掘立柱建物址関係遺物	144
第 97 図	1 号掘立柱建物址実測図	145
第 98 図	4 号掘立柱建物址実測図	145
第 99 図	2 号掘立柱建物址実測図	146
第 100 図	3 号掘立柱建物址実測図	147
第 101 図	5 号掘立柱建物址実測図	148
第 102 図	6 号掘立柱建物址実測図	148
第 103 図	土坑実測図	151
第 104 図	土坑実測図	152
第 105 図	9・10・11・12・13 号土坑出土遺物	153
第 106 図	16・18 号土坑出土遺物	154
第 107 図	土坑実測図	156
第 108 図	集石状遺構実測図	157
第 109 図	集石状遺構出土遺物	157
第 110 図	溝状遺構実測図	158
第 111 図	石組遺構実測図	158

第 112 図	グリッド出土遺物	159
第 113 図	石臼実測図	160
第 114 図	羽口・磁石・鉄製品実測図	161
第 115 図	古銭拓影図（表採及びグリッド出土）	161
第 116 図	胎土分析資料実測図	166
第 117 図	地質図および地質断面図	174
第 118 図	模式地質柱状図	175
第 119 図	アバット不整合スケッチ	175
第 120 図	藪田東遺跡西崖の柱状図	175

図 版 目 次

図版 1	1 遺跡遺景（南西から）	2 第 3 群粘土探掘址
	2 グリッド調査	図版 11
図版 2	1 水田部分グリッド調査	1 第 3・7・8・9 群粘土探掘址
	2 粘土探掘址発掘作業	2 第 3・7・8 群粘土探掘址
図版 3	1 1号住居址	図版 12
	2 2号住居址	1 第 3・7・8 群粘土探掘址
図版 4	1 3号住居址	2 第 4 群粘土探掘址
	2 同住居址カマド部分遺物出土状態	図版 13
	3 同住居址カマド掘り方	1 第 4 群粘土探掘址
	4 同住居址貯蔵施設部分遺物出土状態	2 第 6 群粘土探掘址遺物出土状態
	5 同住居址貯蔵施設部分遺物出土状態	図版 14
図版 5	1 4号住居址	1 第 6 群粘土探掘址土層断面
	2 5号住居址	2 第 6 群粘土探掘址土層断面
図版 6	1 6号住居址	図版 15
	2 同住居址遺物出土状態（P23）	1 第 6 群粘土探掘址
	3 同住居址遺物出土状態（P19）	2 第 6 群粘土探掘址
	4 同住居址遺物出土状態（P5）	図版 16
	5 同住居址遺物出土状態（P2）	1 第 7 群粘土探掘址
図版 7	1 7号住居址	2 第 8・9 群粘土探掘址
	2 7号及び8号住居址	図版 17
図版 8	1 第 1 群粘土探掘址	1 第 9 群粘土探掘址
	2 第 2 群粘土探掘址	2 第 11 群粘土探掘址
図版 9	1 第 1・3・4 群粘土探掘址発掘状況	図版 18
	2 同完掘状態	1 1号土壇
図版 10	1 第 3 群粘土探掘址検出状態	2 2号土壇
		3 3号土壇
		4 4号土壇
		5 5号土壇
		6 6号土壇
		図版 19
		1 7号土壇（No 1 骨蔵器出土状態）
		2 No 1 骨蔵器
		3 No 2 骨蔵器
		4 No 3 骨蔵器出土状態

	5	No.3 骨董器	図版29	3号住居址出土土器
図版20	1	1号及び2号掘立柱建物址	図版30	3号住居址出土土器
	2	3号掘立柱建物址	図版31	3号住居址出土土器
図版21	1	4号掘立柱建物址	図版32	3号住居址出土土器
	2	5号及び6号掘立柱建物址	図版33	4号住居址出土遺物
図版22	1	8号土坑	図版34	5号住居址出土土器
	2	9号土坑	図版35	5号住居址出土土器
	3	10号土坑	図版36	5号住居址出土土器
	4	11号土坑	図版37	5号住居址出土土器
	5	12号土坑	図版38	6号住居址出土土器
	6	13号土坑	図版39	7号住居址出土土器
図版23	1	14号土坑	図版40	7号住居址出土遺物
	2	15号土坑		8号住居址出土土器
	3	16号土坑	図版41	第2・3群粘土採掘坑出土土器
	4	18号土坑	図版42	第3・4群粘土採掘坑出土土器
	5	17号土坑	図版43	第4群粘土採掘坑出土土器
	6	19号土坑	図版44	第4群粘土採掘坑出土土器
図版24	1	21号土坑	図版45	第4群粘土採掘坑出土土器
	2	20号土坑	図版46	第4群粘土採掘坑出土土器
	3	23号土坑	図版47	第4・5・6群粘土採掘坑出土土器
	4	24号土坑	図版48	第6群粘土採掘坑出土土器
	5	25号土坑	図版49	第6群粘土採掘坑出土土器
	6	26号土坑	図版50	第6群粘土採掘坑出土土器
図版25	1	27号土坑	図版51	第6・7群粘土採掘坑出土土器
	2	28号土坑	図版52	第11群粘土採掘坑・グリッド出土土器
	3	集石状遺構	図版53	1号土坑出土土器
図版26	1	溝状遺構	図版54	2・3・4・5号土坑出土土器
	2	石組遺構	図版55	10・13・17号土坑・グリッド出土遺物
図版27	1	1号住居址出土土器	図版56	グリッド出土遺物
図版28	2	2号住居址出土土器		

藪田東遺跡

I 調査に至る経緯

昭和46年10月に上越新幹線新潟線の建設計画が発表されて以降、通過地域内の埋蔵文化財の発掘調査が昭和48年から群馬県教育委員会により実施されてきた。月夜野町地域では路線は利根川右岸をほぼ南北方向に走り、同地域内において県内2ヶ所の停車駅のうち1ヶ所（仮称上毛高原駅、昭和57年2月に正式名称）の建設が決定した。又、関越自動車道は利根川左岸を通過し、月夜野町内では、師において月夜野インターチェンジが設けられることになり、現在もこれら幹線交通開発と同時に関連諸開発も急ピッチで進んでいる。なお、上越新幹線は昭和57年、関越自動車道は昭和60年開通の予定となっている。

上毛高原駅建設予定地は、藪田東遺跡と同一台地東側にあたり、昭和52年に群馬県教育委員会により発掘調査が実施された。（注）昭和53年に至り駅前広場整備として国道291号街路改良工事計画が策定された。この計画地内は、西接する上毛高原駅地内藪田遺跡の調査により埋蔵文化財包蔵地（平安時代集落跡）として確認されており、同発掘調査について群馬県土木部及び群馬県教育委員会との協議を経て、群馬県埋蔵文化財調査事業団が受託事業として実施することとなった。

なお、発掘調査の計画、概要は次のとおりである。

- 1 発掘予定地の所在 利根郡月夜野町 1756・1763番地他
- 2 発掘予定面積 5600㎡
- 3 発掘予定地の現状 桑畑
- 4 発掘調査の目的 国道291号街路改良工事に伴う事前調査
- 5 事業主体 群馬県土木部
- 6 調査主体 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 7 調査期間 昭和54年3月～同年10月（予備調査を含む）

注「藪田遺跡」上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査概報Ⅵ 群馬県教育委員会 昭和55年3月

II 遺跡の立地と環境

1. 遺跡の位置

藪田東遺跡は、群馬県利根郡月夜野町内に所在し、上越新幹線上毛高原駅構内藪田遺跡の東側にあたる。県北部山間部に水源を有す利根川は、月夜野町内をほぼ南流し、同地域内小川島付近において東流する赤谷川と合流し、沼田盆地へと流下する。利根川上流域は、赤谷川、片品川、吾妻川などの諸支流とともに良好な河岸段丘を形成しており、数多くの遺跡が分布している。藪田東遺跡は、赤谷川との合流地点より北西約2km上流の利根川右岸段丘上位面に立地している。なお、詳細については、Ⅶ、藪田東遺跡周辺の地質の項を参照して頂きたい。

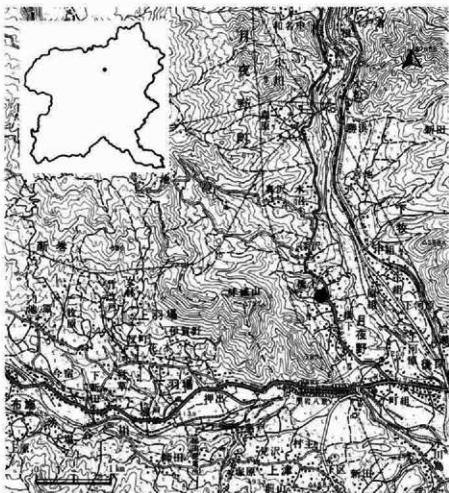
2. 周辺の遺跡

藪田東遺跡周辺の遺跡については、昭和48年以降実施されている上越新幹線建設に伴う調査及びこれに関連する諸開発によって次第に明らかにされつつある。

縄文時代以前の遺跡については、現在の段階では不明な部分が多く今後の課題としなければならないが、

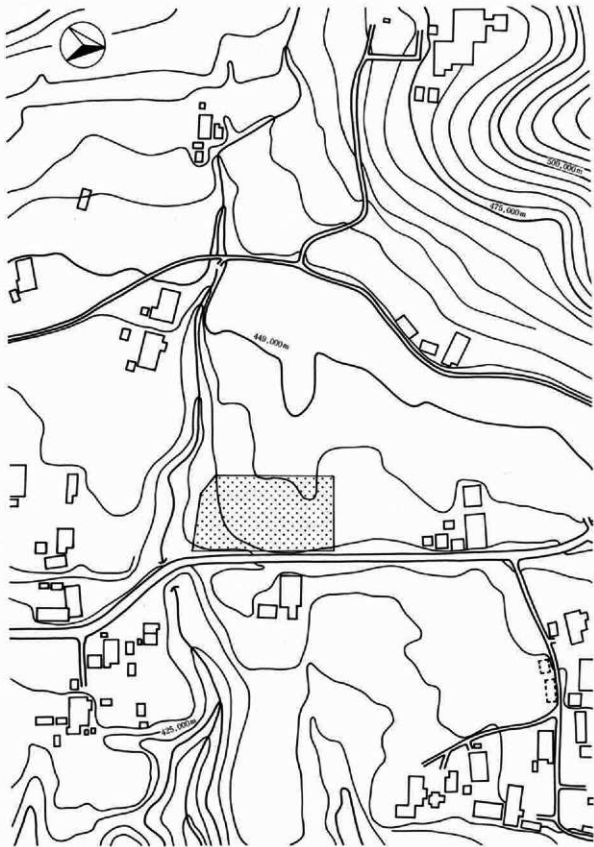
II 遺跡の立地と環境

近年関越自動車道建設に伴う調査において良好な資料が抽出されはじめており、その成果に期待したい。縄文時代の遺跡は、前中原遺跡（第3図、3）、梨の木平遺跡（同図、10）、深沢遺跡（同図、8）等の他、利根川上流域では、月夜野町道木原遺跡（前期、住居址2軒）、水上町大穴（中期、敷石住居址）、赤谷川流域では、新治村新巻遺跡（注1）、布施（役場）遺跡（注2）等中で～晩期の調査が行なわれている。弥生時代の遺跡は、大原遺跡（第3図、18）、十二原遺跡（同図、19）、藪田遺跡（同図、11）において後期埴土器を伴う住居址が検出されている。又、中期については、現在まで梨の木平遺跡において検出された資料が唯一のものとなっている。古墳時代の遺跡は、調査例が少なく、十二原遺跡において和泉式土器を伴う住居址が1軒調査されている。平安時代を中心とする歴史時代の遺跡は比較的調査例が多く、特に昭和16年、同45年（注3）に調査された深沢および洞の窟跡をはじめとする月夜野窟跡群の存在は、本県における重要な生産址として注目されてきた。窟跡の調査は上記の例以外特に実施されていない。調査の主体は住居址を中心とした集落址であり、前中原遺跡、梨の木平遺跡、洞Ⅰ・Ⅱ遺跡、等で良好な資料が抽出されている他藪田遺跡および本遺跡の調査により集落址の調査が行なわれている。近年これらの調査例の増加により、先の窟跡群との関係について再度注目されてきている。特に今回の調査により検出した粘土採掘場の存在により、窟跡群に関連する窯業集団の実体についてその関係の一端を把握されるようになってきており、これを契機に各窟跡（支）群と集落址の関係について、窟跡の分布調査、出土遺物の胎土分析等を通じ、より具体的な把握がされつつある状況である。



第1図 藪田東遺跡の位置（1/50000）

- 注1 塚田光「群馬県新巻遺跡の中期縄文土器」下総考古学1 昭和39年
- 注2 塚田光 芝崎孝 戸田哲也「群馬県新治村役場遺跡と出土遺物について」考古学雑誌56-1 昭和45年
- 注3 山崎義男「上野国利根郡月夜野町二家址について」古代文化12-4 昭和16年
井上唯雄「群馬県利根郡月夜野町洞窟跡発掘調査報告」月夜野町教育委員会 昭和48年



第2図 遺跡周辺の地形



II 遺跡の立地と環境



第3図 周辺の遺跡

遺跡地名表

No.	遺跡名	所在地	調査年度	遺跡の概要	文献
1	藪田東遺跡	利根郡月夜野町1756他	S54. 3～10	粘土採掘址を伴う平安時代集落址。	
2	真沢A支群	利根郡月夜野町真沢		1941年発見される。現在では確定できない。10世紀前半。環、羽釜、甕、銅付櫃等出土。	21
3	前中原遺跡	利根郡月夜野町中原	S50. 51年度	縄文早、前期の住居4軒、炉穴4か所、土壇23か所が確認され、平安時代の住居1軒、基礎4基がある。	5
4	水沼A支群	利根郡月夜野町水沼		1基。8世紀中頃。須恵器、瓦の焼造をした可能性。	21
5	水沼B支群	利根郡月夜野町水沼		1基。	21
6	深沢B支群	利根郡月夜野町深沢		2基の窯体が確認されている。9世紀末から10世紀初頭頃。2基の窯体が確認されている。	21
7	深沢C支群	利根郡月夜野町深沢		2基以上であろう。10世紀前半	21
8	深沢遺跡	利根郡月夜野町深沢211	S51. 10～12	縄文時代後期住居址。敷石遺構、ビット群、縄文中期の遺物は多出したが、遺構は未確認。	5、19、20
9	沢入A支群	利根郡月夜野町藪田		2基の窯体が確認されている(1979)。月夜野古窯址群の中では最も古い8世紀。	21
10	梨の木平遺跡	利根郡月夜野町藪田	S 5 1. 5, 24～9, 25	縄文中期敷石住居址、弥生中期の土壇5基、平安時代の住居1軒。	8
11	藪田遺跡	利根郡月夜野町藪田	SS2. 4～12(1次) 53. 6～9(2次)	弥生後期住居址1軒、平安住居址10軒、掘立柱建物址25棟(1次) 平安住居址1軒、掘立柱建物址2棟、掘立柱穴群3群、土壇など(2次)	7
12	洞田遺跡	利根郡月夜野町洞	SS2. 9～12(1次) 53. 7～12(2次)	竪穴住居址1軒、掘立柱建物址3棟、土壇8基、基礎1基、竪穴状遺構1基、溝1条(1次) 総敷敷穴住居址7軒。	6、7
13	小川城址	利根郡月夜野町月夜野1132	S55. 5～7	掘立柱建物址、7棟。柱列は9列、配石遺構、土壇は15基。二の丸推定地にあたり、15～16世紀ごろのものである。	9
14	洞A支群	利根郡月夜野町上船洞1443	S45. 7(1次) 46. 7～8(2次)	一次調査によって2基、二次調査によって1基確認。半地下式無段登壇。9世紀初頭。	2

II 遺跡の立地と環境

15	同I、II遺跡	利根郡月夜野町詞	S51. 4～10(1次) 53. 9～12(2次)	国分期住居址2軒、製鉄遺構1軒、獨立建物址10棟、井戸3基など(1次) 獨立建物址8棟、土壇28基、井戸3基など。	5、7
16	洞古墳	利根郡月夜野町月夜野上組洞		味城山東麓突端台地上に立地。	19
17	郡遺跡	利根郡月夜野町月夜野上組			
18	大原遺跡	利根郡月夜野町上津大原	S48年度(1, 2次) 49. 9～10(3次)	縄文時代中期阿玉台式土器の包含層、および弥生時代前期の住居址2軒、和泉、真開期の住居址2軒。	4
19	十二原遺跡	利根郡月夜野町上津十二原	S48. 5～7	弥生時代住居1軒、古墳時代住居1軒、平安時代住居1軒、縄文時代中期遺物出土。	3
20	(3273)	利根郡月夜野町村主神社東西一帯		縄文時代、包蔵地	19
21	村主下遺跡	利根郡月夜野町上津村主		縄文時代、包蔵地。	19
22	鎌后改戸遺跡	利根郡月夜野町上津貝沢1556		縄文時代、包蔵地。	19
23	小川島八幡塚	利根郡月夜野町小川島八幡塚		円墳(径7～8m)、利根川と赤谷川合流点右岸河岸段丘上に立地。	19、20
24	三後沢遺跡	利根郡月夜野町下津三後沢、十二原	S57. 4～12	縄文前期の墓し穴17基、前期住居8軒、中期住居9軒、弥生後期の住居13軒、土壇120基を確認。	14
25	城平遺跡	利根郡月夜野町下津城平	S56. 4～12	縄文前期住居1軒、墓し穴10基、鬼高期住居8軒、丸馬出しを持つ中世城郭。	10
26	名胡桃城址	利根郡月夜野町下津城平3475～3480	同上	城館址。昭和56に馬出し部の発掘調査実施。昭和24県史跡指定。	10、19
27	天神住居址	利根郡月夜野町上津天動天神2609		古墳時代、集落跡。	19
28	(3284)	利根郡月夜野町下津中村天神2333、2357		弥生時代、包蔵地。赤谷川右岸河岸段丘上に立地。	19
29	宮の森遺跡	利根郡月夜野町下津岳改戸宮の森4344、新原高地4146		縄文時代、包蔵地。	19
30	宮地遺跡	利根郡月夜野町下牧宮地		縄文時代、包蔵地。	

2. 周辺の遺跡

31	小竹遺跡	利根郡月夜野町下牧小竹		縄文時代、包蔵地。	
32	(3261)	利根郡月夜野町下牧東島井、1571砂田120		縄文、弥生時代集落跡。	19
33	大竹遺跡	利根郡月夜野町下牧大竹		縄文時代、包蔵地。	
34	高平遺跡	利根郡月夜野町下牧高平		縄文時代、包蔵地。	
35	八東新洞窟	利根郡月夜野町後園六切		縄文、弥生、土器器。須恵器等出土。	19、20
36	豆窪遺跡	利根郡月夜野町後園豆窪2396		弥生時代、包蔵地。	19、20
37	(3289)	利根郡月夜野町後園小原1032		縄文時代、包蔵地。	19、20
38	門前A遺跡	利根郡月夜野町後園門前		縄文時代、包蔵地。	
39	明徳寺址	利根郡月夜野町後園城山1717		城館址、室町時代。	19、20
40	大沢田古墳	利根郡月夜野町後園下梅田1605		古墳	19、20

参考文献

- 1 山崎義男「上野国利根郡月夜野町二室址について」古代文化12-4 昭和16年4月
- 2 井上唯雄「群馬県利根郡月夜野町洞窟跡発掘調査報告」月夜野町教育委員会 昭和48年3月
- 3 上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ 群馬県教育委員会 昭和50年3月
- 4 上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ 群馬県教育委員会 昭和50年12月
- 5 上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲ 群馬県教育委員会 昭和53年3月
- 6 上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査概報Ⅳ 群馬県教育委員会 昭和54年3月
- 7 上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査概報Ⅴ 群馬県教育委員会 昭和55年3月
- 8 上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査概報Ⅵ 群馬県教育委員会 昭和55年3月
- 9 梨の水平遺跡 群馬県教育委員会 昭和52年3月
- 10 小川城址 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 昭和56年3月
- 11 城平遺跡 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 昭和56年3月
- 12 山崎 一「群馬県古城址の研究」上巻 昭和46年
- 13 山崎 一「群馬県古城址の研究」下巻 昭和47年
- 14 名胡桃城址 1981年11月1日に行なわれた現地説明会パンフレット (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 15 三後沢遺跡 1982年10月に行なわれた現地説明会パンフレット (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 16 天代瓦窯遺跡 中之条町教育委員会 昭和57年2月
- 17 古高牧村史 月夜野町誌第二集 古高牧村史編纂委員会編 月夜野町誌編纂委員会 昭和47年
- 18 桃野村史 月夜野町誌第一集 桃野村史編纂委員会編 月夜野町誌編纂委員会 昭和36年
- 19 後田遺跡 1982年12月11、12日に行なわれた現地説明会パンフレット (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 20 群馬県遺跡地図 群馬県教育委員会 昭和48年
- 21 群馬県遺跡台帳Ⅰ東毛編 群馬県教育委員会 昭和46年
- 22 土器部会研究資料№2 群馬県歴史考古同人会 昭和58年

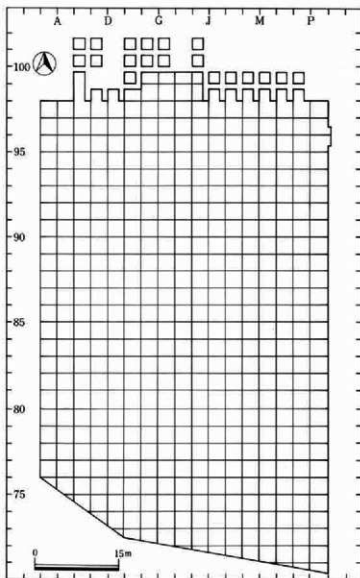
III 調査の方法と経過

1. 調査の方法

葦田東遺跡の発掘調査を実施前に西接する葦田遺跡（注）が調査終了しており、遺跡の概要、性格等がある程度把握され、本遺跡も葦田遺跡と同一の平安時代の集落が主体となることが予想された。なお、両遺跡は、同一段丘面上に形成された集落遺跡であるため、本来ならば「葦田遺跡」として一括すべきであるが、調査主体及び原因者等が異なり又整理作業も同一歩調をとり得ないことにより、本遺跡については発掘調査開始時から報告書にいたるまで「葦田東遺跡」として呼称することとした。

調査の前段階として遺構の内容、範囲及び土層状態等の情報を得ることを目的として予備調査を実施した。予備調査は3×3mのグリッドを設定後、1×2mのトレンチ調査により行った。この結果から、住居址はあまり密ではなく10軒前後の基数であること、遺跡北半部に粘土探掘坑と考えられる落ち込みが広範囲に広がること、遺物は平安時代の土器類を中心とし多量に出土すること及び土層は耕作による攪乱をかなり受けており、特に南半部では表土下20cm内外でローム面となること等が確認された。この結果と葦田遺跡の調査成果をもとに本遺跡が平安時代の粘土探掘坑を伴う集落遺跡であることが確実視された。調査はこれらの内容をふまえ、次のような方法で実施することとした。

- ① グリッドは葦田遺跡調査時のものと一致できるよう設置する。設定は葦田遺跡W-24杭を基準として行った。グリッドの名称は、このW-24杭をA-101ポイントとし、これを基点にN-S軸は南側へ100、99、98……70とし、E-W軸は東側へB、C、D……Qとする。グリッドは南西コーナーを原点としA-90グリッド、B-90グリッドと表記する。（第4図）
- ② 調査はグリッド単位で行い南側と西側に幅30cmのセクショ



第4図 グリッド設定図

2. 調査の経過

ンペルトを残す。遺構未検出の場合は土層図等の作成を行わずに除去する。

- ③ 遺物の取り上げについて、遺構内出土遺物については出土状態図を作成し、遺構外のものについてはグリッド単位で一括し、調査進行に伴い遺構と関係する場合は、その時点で還元する。
- ④ 図面は、遺構図については平面図、断面図とも縮尺 $1/2$ で作図する。同時に遺構配置図(全体図)、コンタ実測図を縮尺 $1/2$ で作図する。
- ⑤ 写真は、遺構写真は 6×9 版ブローサイズを使用し、補助的に 35mm 版を併用する。発掘調査状況等は 35mm 版により随時撮影する。
- ⑥ 発掘調査体制及び期間については次のとおりとする。

予備調査 昭和54年3月26日～同月28日 担当者 原 雅信、木津博明

本調査 昭和54年4月12日～10月31日 # 原 雅信、中沢 悟、相京建史

注 菟田遺跡は、昭和53年群馬県教育委員会より調査された。「上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査概報Ⅶ」

2. 調査の経過(発掘調査日誌)

予備調査

- 3月26日(晴) 予備調査のための大グリッド(9×9m)を設定し、トレンチ調査(1×2m)を行う。
27日(晴) トレンチ調査継続。遺構は地表面から20～30cm、ローム上面において検出される。
28日(晴) 耕作による擾乱をかなり受けている。粘土探掘域が北半に大きく広がっている。遺物は坏、羽蓋等が多く出土している。

本調査

- 4月12、13日 発掘調査機材及び備品等の搬入を行う。
16日(晴) 調査区域内の整備を行う。
17日(曇) 午後より雪のため予備調査時の出土遺物の水洗作業を行う。
18日(晴) 午前中は積雪のため遺物水洗作業を継続する。午後から遺物検出トレンチの拡張及び遺跡東南部の表土排除作業を行う。
19日(晴) 昨日からの作業の継続を行う。簡易トイレの設置。
20日(雨) 出土遺物の水洗作業を行う。
23日(晴) バックホーにより表土を排除した部分の遺構検出作業を行う。
24日(晴) #
25日(晴) #
26日(曇) #
27日(雨) 出土遺物の水洗作業。バックホー及びブルドーザー本日引き上げる。
5月1日(曇) 遺構検出作業継続。遺跡北側において道路工事開始する。
2日(曇) 遺構検出作業継続。月夜野町教育長高井氏他3名、見学に訪れる。作業員賃金支払い。
4日(晴) 遺構検出作業継続。臨時電話設置。
7日(曇) 遺構検出作業継続。北側よりグリッド調査開始。
8日(雨) 作業休止。
9日(晴) グリッド調査及び遺構検出作業を継続する。
10日(晴/曇) #
11日(曇) #
14日(雨) 出土遺物の水洗作業を行う。
15日(晴) グリッド調査及び遺構検出作業を継続。
16日(雨/曇) 午前中、雨のため出土遺物の水洗作業を行う。午後グリッド調査及び遺構検出作業を行う。
17日(雨) 出土遺物の水洗、及び注記を行う。図面整理。
18日(晴) グリッド調査及び遺構検出作業を継続。
21日(晴) 作業継続。作業進行状況の写真撮影を行う。
22日(晴) 遺構未検出グリッドのセクションペルトをはずす。97ライン北側の拡張作業。
23日(晴) 粘土探掘域及び掘立柱建物址調査を始める。
24日(晴) #
25日(曇/雨) #
28日(晴/曇) #
29日(晴) #

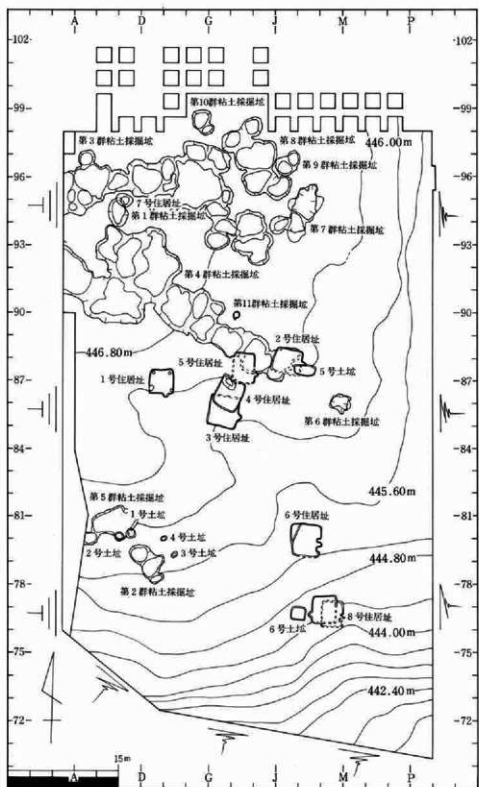
III 調査の方法と経過

- 30日(晴) #
- 31日(晴) 掘立柱建物址平面図作成、粘土探掘調査継続。
- 6月1日(晴) 粘土探掘址調査継続。土壌調査開始。
- 4日(晴) 粘土探掘址調査継続。土壌調査、1号住居址調査始める。作業員賃金支払い。
- 5日(晴) 調査継続。
- 6日(晴) 調査継続。
- 7日(曇/雨) 調査継続。気象庁、関東地方の梅雨入宣言。
- 8日(雨/晴) 午前中、出土遺物の水洗及び注記作業。午後、調査継続。
- 11日(雨) 出土遺物の水洗、注記及び図面整理を行う。
- 12日(晴) 調査継続。
- 13日(晴) 調査継続。90ライン及びFラインセクション図作成。10号及び18号土壌写真撮影。
- 14日(雨) 出土遺物の水洗、注記及び図面整理。
- 15日(晴) 調査継続。粘土探掘址セクション図作成。
- 18日(晴) 集石遺構調査、平面図作成及び写真撮影。Gライン東側グリッド調査し、探掘址の広がりを確認。
- 19日(曇/雨) 7号土壌調査(骨董器出土)実測の後、写真撮影。
- 20日(曇) 第4群粘土探掘址の東側への広がりがKラインまでであることを確認。第1群粘土探掘、平面図作成及び写真撮影。
- 21日(曇) 第2群粘土探掘址プラン確認の後、調査。
- 22日(晴) 第3群粘土探掘址セクション図作成の後、ベルトとりはずし。コンタ実測。
- 23日(晴) 物置整理。月夜野町教育長高井氏他1名来訪。
- 25日(晴) 調査継続。
- 26日(曇) 調査継続。1号土壌調査。第2群粘土探掘址調査終了。
- 27日(曇) 土壌平面図及び写真撮影、調査継続。
- 28日(晴) 土壌平面図及び写真撮影。午後3時すぎはげしい雷雨あり。
- 29日(雨) 出土遺物の水洗、図面整理。
- 7月2日(曇/雨) 探掘址内の雨水の排水作業。作業員賃金払い。
- 3日(曇) 探掘址内セクションベルトとりはずし。
- 4日(晴) 第4群粘土探掘址コンタ実測。1号及び2号掘立柱建物址平面図作成。
- 5日(晴) 第2群粘土探掘址コンタ実測、調査。
- 6日(晴) 第3群及び第4群粘土探掘址、Gライン以西平面実測。掘立柱建物址写真撮影。
- 7日(曇) 図面整理を行う。
- 9日(晴) 第1群、第3群、第4群粘土探掘址写真撮影を行う。Gライン以東グリッド調査。
- 10日(曇) Gライン以東グリッド調査及び遺構未検出グリッドセクションベルト除去。
- 11日(雨) 図面整理及び出土遺物の水洗及び注記作業を行う。
- 12日(晴/曇) グリッド調査継続。第2群、第5群粘土探掘址コンタ実測。A～G-87グリッド以南の地形実測。
- 13日(晴/曇) グリッド調査及び遺構実測作業継続。
- 16日(雨/晴) 遺物の水洗。グリッド調査継続。
- 17日(曇) 掘立柱建物址実測及び写真撮影。県議会文教治安常任委員21名遺跡見学。
- 18日(曇/雨) グリッド調査継続。午後は雨のため遺物の水洗作業。
- 19日(曇) グリッド調査継続。2号住居址調査。
- 20日(曇/雨) 調査継続。午後、雨のため遺物の水洗及び図面整理。
- 23日(晴) グリッド調査終了。
- 24日(晴) 石組遺構実測。午後、雨のため遺物の水洗及び図面整理。
- 25日(雨) 遺物の水洗及び図面整理。
- 26日(晴) 6号住居址調査。地形コンタ実測。
- 27日(曇/雨) 調査継続。午後、雷雨のため遺物の水洗及び図面整理。
- 30日(晴) 近世土壌調査。本日から神奈川大学考古学研究会の学生7名、調査に参加する。
- 31日(晴) 土壌調査。7月分作業員賃金報告。
- 8月1日(晴/雨) 土壌調査。午後から雨のため遺物水洗及び図面整理。
- 2日(晴) 土壌写真撮影。作業員賃金支払い。
- 3日(曇/雨) 調査継続。
- 4日(曇/雨) 図面及び写真の整理。
- 6日(晴) 3号住居址調査。
- 7日(雨/晴) 午前中は雨のため室内作業。午後から調査継続。
- 8日(晴/曇) 土壌調査及び写真撮影。3号、4号及び5号住居址調査。
- 9日(晴) 3号住居址実測図作成。
- 10日(晴) 土壌調査及び写真撮影。6号住居址調査。

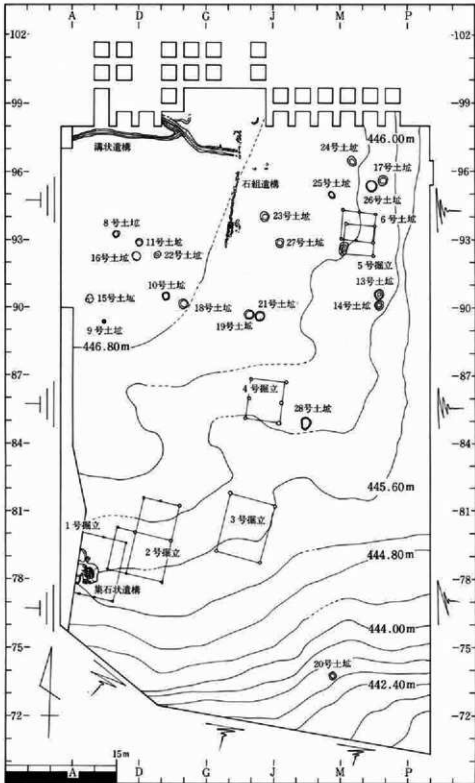
2. 調査の経過

- 11日(晴) 図面整理及び遺構記録カードの作成。
 13日(晴/曇) 遺構全体図作成。6号住居址調査終了。7号住居址調査。3号住居址調査継続。
 14日(晴/雨) 調査継続。午後より雨。
 15日(晴) 7号住居址調査継続。
 16日(晴) 調査継続。
 17日(曇/雨) 第6群粘土探掘坑調査。調査範囲の安全ロープの点検。
 20日(曇) 掘立建物跡写真撮影終了。
 21日(雨) 図面整理、遺構記録カードの作成及び遺物の水洗作業。午後月夜野町可成会議員15名見学。
 22日(雨) 図面整理、遺物の水洗作業。
 23日(雨/曇) 午前中は図面整理、遺構記録カードの作成を行う。午後から発掘調査を行う。
 24日(晴) 7号住居址調査。住居中央部より骨蔵器出土。
 27日(曇) 調査継続。鉄道建設公団職員、埼玉県柳川市教育委員会石田利夫氏遺跡見学。
 28日(晴) 第6群粘土探掘坑調査継続。少なくとも2回の探掘作業が行われていることが確認される。
 29日(晴) 第6群粘土探掘坑、第3群粘土探掘坑調査継続。
 30日(曇) 調査継続。県教育事務所長遺跡見学。
 31日(曇) 第6群粘土探掘坑遺物出土状態図作成の後取り上げ。群馬県企業局赤山谷道氏遺跡見学。作業員8月分賃金報告。
- 9月1日(曇) 図面整理。見学者2名。
 3日(曇) 8号住居址調査。作業員賃金支払い。
 4日(晴/雨) 粘土探掘坑調査。
 5日(晴) 調査継続。群馬県教育センター職員基一氏(現群馬県教育委員会青少年課)遺跡見学。
 6日(曇) 道路公団職員遺跡見学。
 7日(曇/雨) 8号住居址調査終了。
 8日(晴) 図面整理。月夜野町教育長高井氏他2名、埋蔵文化財調査事業団職員16名遺跡見学。
 10日(曇) 第6群粘土探掘坑調査終了。写真撮影。
 11日(晴) 粘土探掘坑平面図作成。
 12日(晴) 調査継続。
 13日(晴) 土坑調査及び実測図作成。粘土探掘坑調査及び実測図継続。
 14日(曇) 調査継続。
 17日～21日 粘土探掘坑調査継続。原県外研修。
 25日～28日 雨のため遺物の水洗及び図面整理。
- 10月1日(晴) 連続的な雨により遺跡にかなりの量の水がたまったため復旧作業を行う。作業員賃金支払い。
 2日(雨) 粘土探掘坑調査開始。午後は雨のため遺物の水洗及び図面整理。
 3日(雨) 遺物の水洗及び図面整理、遺構記録カードの作成。
 4日(雨/曇) 再度遺跡内の水のくみ出し作業を行う。
 5日(晴/曇) 粘土探掘坑調査継続。土層断面図及び写真撮影を行う。
 6日(曇) 発掘作業休止、図面整理を行う。
 8日(曇) 粘土探掘坑調査継続。
 9日(晴/曇) 調査継続。月夜野町立第1中学校生徒遺跡見学。
 11日(晴) 粘土探掘坑調査継続。中沢本日より県外研修。
 12日(晴/曇) 粘土探掘坑調査継続。
 15日(晴) 粘土探掘坑調査継続。
 16日(晴) 粘土探掘坑調査継続。
 17日(晴) 粘土探掘坑調査継続。
 18日(雨) 午前中から台風20号通過のため作業休止。
 19日(雨) 台風20号通過のため作業休止。
 22日(晴) 前日までの台風の影響により遺跡内にもかなりの災害をうけた。水のくみ出し及び復旧作業を行う。
 23日(晴) 粘土探掘坑各部の個別写真撮影。
 24日(曇) 粘土探掘坑実測開始。朝日新聞沼田支局鈴木得三氏来訪。
 25日(晴) 粘土探掘坑実測継続。
 26日(晴) 粘土探掘坑実測継続。午後電話の取りはずし。鉄道建設公団職員遺跡見学。調査用機器材の整理。
 29日(曇) 粘土探掘坑実測研修了。遺物の水洗作業。道路公団職員遺跡見学。事務所内整理。
 30日(晴) 調査用機器材の撤出作業を行う。作業員賃金報告。
 31日(晴) 調査用具の撤収終了。作業員賃金支払い。

III 調査の方法と経過



第5図 菟田東遺跡全体図(1)



第6図 蕨田東遺跡全体図(2)

Ⅳ 検出された遺構と遺物

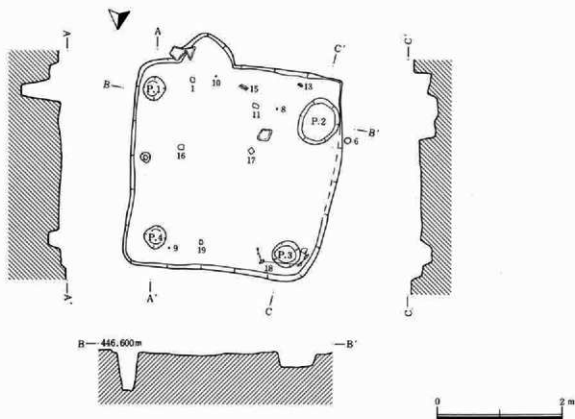
1. 平安時代の遺構と遺物

(1) 住居址

発掘調査により8軒の住居址が検出された。各住居址はいずれも耕作等後世の攪乱を受けており、壁及び床面等部分的に破壊されている。又、3・4・5号住居址の3軒、7・8号住居址の2軒は住居相互の切り合いがあり、2号住居址、5号住居址は各々第4群粘土採掘坑と重複している。各住居址は、いずれも平安時代に属し、1号住居址～6号住居址は台地平坦部に、7・8号住居址は南側斜面にそれぞれ立地している。

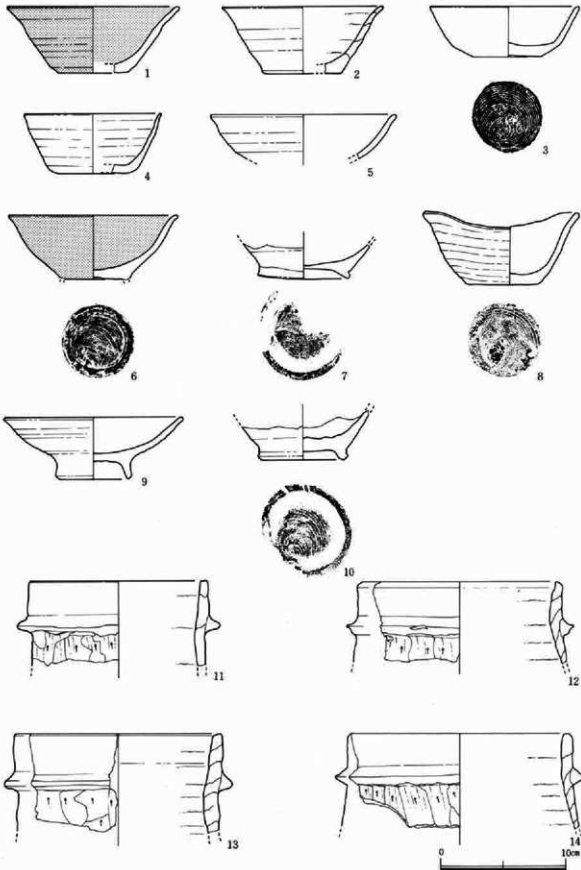
1号住居址（第7図、図版3-1）

D・E-86・87グリッドに位置する。耕作等による後世の攪乱が著しく、壁はコーナー部分が検出された他は、ほとんど破壊されている。平面形は一辺3.3m前後を測り、ほぼ正方形のプランを呈する。面積は11㎡、主軸方位はN-76°-W。床面は軟弱であり、約 $\frac{1}{2}$ 位の面積を攪乱により破壊されている。柱穴は、各コーナーに近接して4本確認された。周溝はみられない。カマドも攪乱によりほとんど消失しているが、住居南壁東コーナー寄りに灰土及び掘り込みが検出され、この部分にカマドが構築されていたと考えられる。南カマドは本遺跡ではこの1号住居址のみである。遺物は遺構自体の残存状態が悪いため量的には少ない。第8図、9図に示した個体の他、小破片が若干出土している。



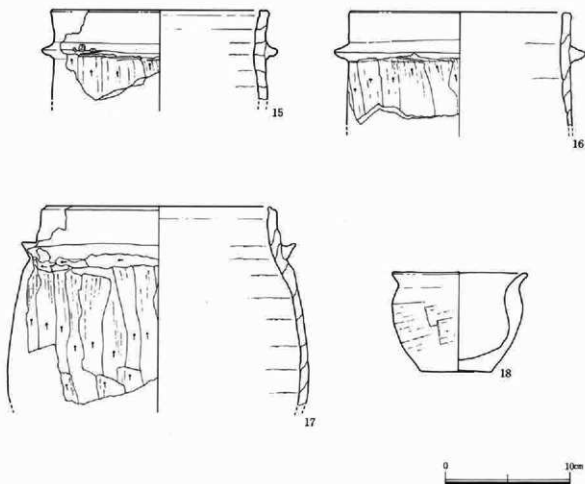
第7図 1号住居址実測図

1. 平安時代の遺構と遺物 (1号住居址)



第8図 1号住居址出土土器(1)

IV 検出された遺構と遺物



第9図 1号住居址出土土器(2)

1号住居址出土土器観察表(1)

遺物番号 (図版No.)	器種 器形	法 口径	底径	趾高	出土 位置	成形・整形の特徴	①色調 ④胎土	②焼成 ⑤備考	③残存	
1H-1	須恵 坏 イブシ	13.8	5.6	5.2	床面	底面に回転承切り痕。口縁部はゆるやかに外反。	①灰白色	②還元	③1/4	④白色鉱物粒を多く含み、石英粒がわずかにまじる。
1H-2	須恵 坏	13.0	6.4	5.3	カマド	口縁部はわずかに外反する。底面に右回転承切り痕。	①灰白色	②還元	③1/4	④白色鉱物粒、石英粒を含む。
1H-3	須恵 坏	11.9	5.5	4.0	床面	底面左回転承切り痕。口径に比して底径が小さい坏。底面が肉厚で、承切り面は外面へやや張り出す。	①灰褐色	②酸化	③1/4	④白色鉱物粒を多く含み、2mm前後の黒色鉱物粒が多少まじる。
1H-4	須恵 坏	11.0	5.4	4.8	覆土	底径・口径ともに小さな坏である。ロクロ目が比較的明瞭である。左回転により整形されている。	①灰褐色	②酸化	③1/4	④白色鉱物粒、石英粒をわずかに含む。
1H-5	須恵 坏	15.0	—	—	床下	口縁部がわずかに外反する。器内面に一部炭素が吸着する。	①灰白色	②還元	③1/4	④1mm前後の白色鉱物粒が多少含まれる。

1. 平安時代の遺構と遺物（1号住居址）

1号住居址出土土器観察表（2）

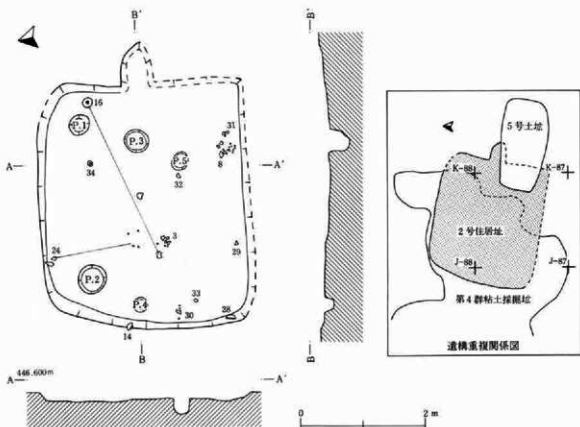
1H-6 (27-2)	須恵 埴 イブシ	13.6 5.6 5.0 (高台貼付部)	床 面	高台が貼付部からきれいにはずれている。底面に右回転糸切り痕。口縁部はゆるやかに外反する。	①灰褐色 ②酸化 ③% ④砂粒、白色鉱物粒を多く含む。石英粒も目立つ。
1H-7 (27-3)	須恵 埴	— 7.4 —	床 下	高台部内側右回転糸切り痕。貼付高台部内側は一部割離している。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁欠 ④白色鉱物粒が含まれ、3～4mmの黒色鉱物粒、石英粒がわずかにみられる
1H-8 (27-1)	須恵 埴	12.5 5.6 4.6 5.8	床 面 覆 土	口縁部が大きく横円形に歪んだ埴である。底面右回転糸切り痕。口縁部はゆるやかに外反する。	①灰白色 ②還元 ③% ④砂粒を多く含む、2mm前後の黒色鉱物粒がわずかにみられる。
1H-9 (27-5)	須恵 埴	14.4 6.2 4.9	床 面	高台部内側に回転糸切り痕。体部は右回転で整形。高台が高く埴部の浅い埴。	①灰白色 ②還元 ③% ④砂粒を含み、黒色鉱物粒がみられる。
1H-10 (27-4)	須恵 埴	— 7.3 —	床 面	高台部内側右回転糸切り痕。底面は肉厚で高台の貼付は丁寧である。	①褐色 ②酸化 ③口縁欠 ④黒色鉱物粒が含まれ、石英粒もわずかにみられる。
1H-11 (27-7)	須恵 羽 釜	14.2 — —	床 面	胴部から口縁部にかけて直立ぎみに立ち上がる。口唇部上端は平坦である。罫は三角形を呈す。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁% ④白色微鉱物粒が多く、石英粒もわずかに含まれる。
1H-12 (27-6)	須恵 羽 釜	16.4 — —	床 下	口縁部はほぼ直立し、口唇部は外側に面をもつ。罫は三角形を呈し、わずかに上向きに付けられる。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁% ④石英粒が目につき、黒色鉱物粒もわずかに含まれる。
1H-13 (27-9)	須恵 羽 釜	16.7 — —	床 面	胴部から口縁部にかけて直立ぎみに立ち上がる。口縁部は長く、罫は大きく下向きに付けられる。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁% ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒および石英粒も含まれる。
1H-14 (27-10)	須恵 羽 釜	17.4 — —	柱 穴	口縁はほぼ直立する。口唇上端は平坦面をもつ。罫は三角形を呈し、しっかり付着する。罫下端には胴部ヘラ削りの止め押えが残る。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁% ④砂粒が多く含まれ、わずかに石英粒もみられる。
1H-15 (27-8)	須恵 羽 釜	17.6 — —	床 面	胴部から口縁部にかけて直立ぎみに立ち上がり、わずかに外反する。罫は三角形を呈し、下端に胴部からのヘラ削り止め押えが明確に残る。	①灰白色 ②還元 ③口縁% ④黒色鉱物粒をわずかに含む、石英粒もみられる。
1H-16 (27-12)	須恵 羽 釜	17.8 — —	床 面	胴部から口縁部にかけてほぼ直立する。口唇上端は平坦面をもつ。罫は三角形を呈し、しっかり付着する。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁% ④白色鉱物粒、砂粒の他に石英粒も多く含まれる。
1H-17 (27-11)	須恵 羽 釜	18.8 — —	床 面	胴部から口縁部にかけてわずかに内傾する。口唇部は外側に面をもつ。罫は三角形を呈し、上向きである。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁～胴上半% ④砂粒、白色鉱物粒を多く含む石英粒もみられる。
1H-18 (27-13)	須恵 小型罫	10.8 5.8 7.9	床 面	口縁部及び頸部は横ナデ。以下は横位のヘラ削りを施す。口縁部は短かく、くの字状に外反する。	①灰褐色 ②酸化 ③% ④白色鉱物粒を含み、石英粒もわずかにみられる。

IV 検出された遺構と遺物

2号住居址 (第10図、図版3-2)

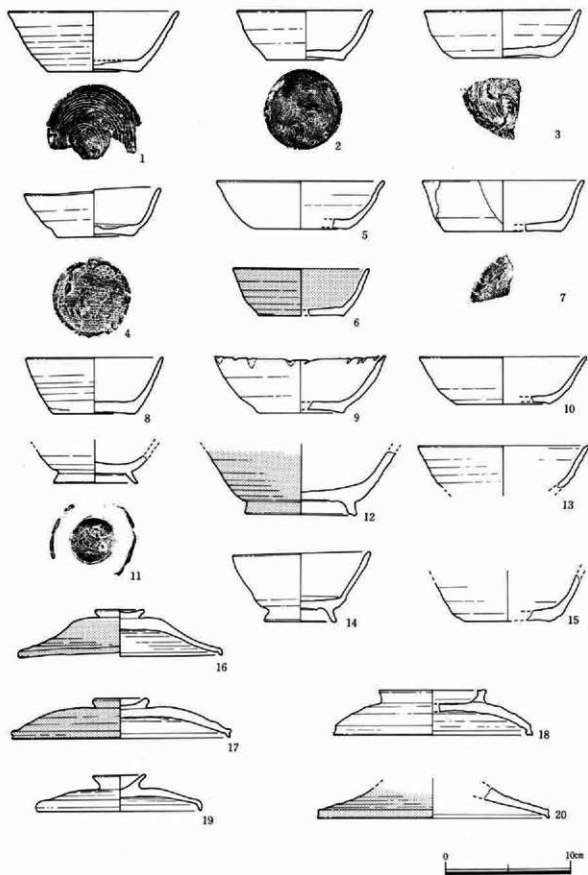
I・J・K-87・88グリッドに位置する。表土から確認面(ローム面)まで20cm弱と浅く、耕作溝による攪乱が著しく、検出された住居址の中で最も残存状態の悪い住居址である。又、第4群粘土探掘址東端部に構築されているため、より状態を悪くしている。平面形は、長辺3.9m、短辺3.4mを測る長方形プランを呈し、面積は約13.26㎡である。主軸方位はN-101°-Eである。壁は北側で15cm、南側で10cmの残存高であり、全体的にはどうかプランの確認が出来得る程度である。床面には一部ロームによる貼床が検出されたが残存状態は極めて悪く、約1/3は破壊されている。周溝はみられない。カマドは5号土壇により南半部分を切られ、北半部も耕作等による攪乱をうけており残存状態は悪く掘り方のみが検出された。東壁中央部に付設され、壁掘り込みは東へ65cm、焚き口部分は幅50cmを測る。柱穴は北西コーナー及び北東コーナーに近接して2本(P1、P2)確認された。P1は径30cm、深さ40cm、P2は径42cm、深さ35cmを測る。その他カマド焚き口部から西側へ60cmの位置、西壁中央部及び住居址中央南東寄りに各々pitが検出された。P3は径40cm、深さ35cm、P4は径27cm、深さ25cm、P5は径25cm、深さ15cmを測る。

遺物は、1号住居址同様、攪乱が著しいため量的には少ない。第11・12図に示す遺物の他、破片が若干出土している。



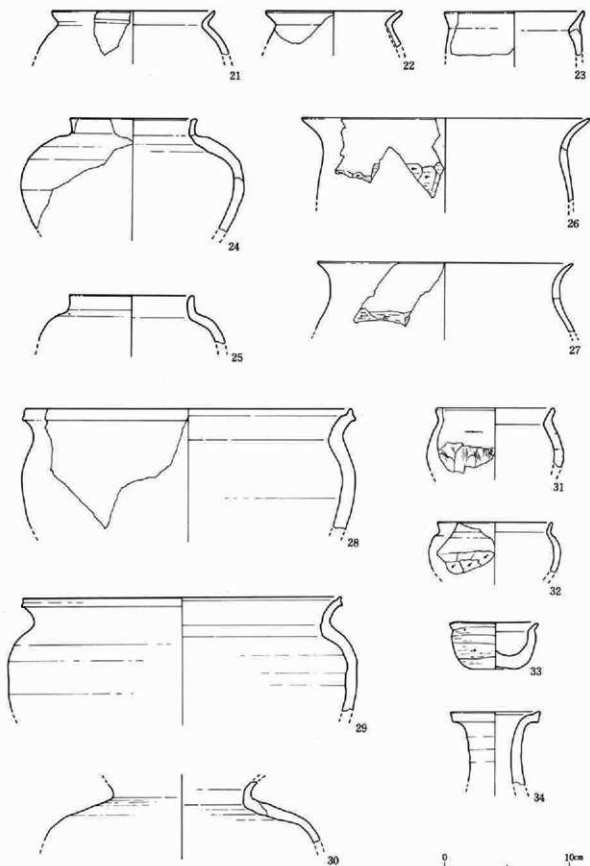
第10図 2号住居址実測図

1. 平安時代の遺構と遺物（2号住居址）



第11圖 2号住居址出土土器(1)

IV 検出された遺構と遺物



第12図 2号住居址出土土器(2)

1. 平安時代の遺構と遺物（2号住居址）

2号住居址出土土器観察表（1）

遺物番号 (図記No)	器種 器形	口径	底径	高さ	出土 位置	成形・整形の特徴	①色調 ②胎土 ③酸化 ④備考	④残存
2H-1 (28-1)	須恵 環	13.8	7.4	4.8	床面 カマド	肉厚の底部からほぼ直線的に立ち上がる。体部にロクロ目が見られる。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③% ④3mm前後の鉱物粒および石英粒もわずかに含まれる。	
2H-2 (28-2)	須恵 環	11.0	6.2	3.9	床面	体部から口縁部にかけて、わずかに丸みをもちながら立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③% ④黒色鉱物粒が目につき、白色鉱物粒、石英粒も多少含まれる	
2H-3	須恵 環	12.5	8.0	3.8	床面	器高に比し、口径・底径ともに大きい環。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③% ④白色鉱物粒が多いが、黒色鉱物粒も多少含まれる	
2H-4 (28-3)	須恵 環	11.0	6.2	3.7	床面	口縁部・体部とも歪む。底部内面にロクロ目が残る。体部右回転。底面に静止糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③口縁部欠 ④黒色鉱物粒が多く、白色鉱物粒、石英粒も多少含まれる。	
2H-5	須恵 環	13.4	7.4	3.8	床面	口縁部はわずかに外反する。口径の大きい環である。底面に回転糸切り痕。体部に部分的に炭素が吸着している。	①灰白色 ②還元 ③% ④白色鉱物粒が含まれ、石英粒もわずかにみられる。	
2H-6	須恵 環 イブシ	11.0	6.9	3.7	床下	体部わずかに彎曲する。底面に回転糸切り痕。器内外面とも炭素が吸着している。	①灰白色 ②還元 ③% ④2mm前後の白色鉱物粒が含まれる。	
2H-7	須恵 環	12.8	9.2	4.0	覆土	器径が大きく、体部下位で撓をもち口縁部がわずかに外反する。内外面とも横ナデが施される。底面に回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③% ④砂粒が多く含まれ、わずかに石英粒もみられる。	
2H-8	須恵 環	11.0	6.6	4.4	床面	肉厚の底部からほぼ直線的に立ち上がる。体部にロクロ目が見る。床面右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③% ④黒色鉱物粒が含まれる。石英粒はわずかにみられる。	
2H-9 (28-4)	須恵 環	13.8	7.0	4.5	床下	体部わずかに彎曲し、口縁部は変化なく立ち上がる。口唇部にヘラ状工具による刻み目が見られる。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③% ④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒がやや含まれる。	
2H-10	須恵 環	13.4	7.4	3.8	覆土	体部下半はわずかに彎曲しながら直線的に立ち上がる。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③% ④黒色鉱物粒が含まれる。胎土は密である。	
2H-11	須恵 埴	—	6.8	—	床面 (高台部)	底部は肉厚であり、回転糸切り痕一部残る。高台貼付は丁寧であり、強く外側へ張り出す。先端部は尖りまみである。	①灰白色 ②還元 ③口縁欠 ④白色鉱物粒の他、石英粒もわずかに含まれる。	
2H-12 (28-5)	須恵 埴 イブシ	—	9.0	—	覆土 (高台部)	底部のかなり大きな埴である。貼付高台はしっかりしており丁寧である。	①灰白色 ②還元 ③底部% ④白色鉱物粒の他、石英粒もわずかに含まれる。	
2H-13	須恵 環	13.6	—	—	覆土	体部から口縁部にかけてほぼ直線状に立ち上がる。口唇部わずかに内側に面をもつ。	①灰褐色 ②酸化 ③% ④底部欠 ⑤鉱物粒、石英粒ともわずかに含まれる。	
2H-14 (28-6)	須恵 埴	11.1	5.8	5.4	床面 (高台部)	体部下位に撓をもつ。体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。口縁部は若干肉厚である。貼付高台の付着は丁寧である。	①灰白色 ②還元 ③口縁部欠 ④白色鉱物粒の他、石英粒もわずかに含まれる。	

IV 検出された遺構と遺物

2号住居址出土土器観察表(2)

2H-15	須恵 環	—	7.0	—	覆土	内厚の底部からわずかに稜をもち立ち上がる。 底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③ㄥ ④口縁欠 ④ 2~4mmの鉱物粒が多く含まれる。 胎土はやや粗い。
2H-16 (28-7)	須恵 蓋 イブシ	16.4	4.0	3.8	床面	ロクロ成形。天井部外面は回転ヘタ削り。内厚 の天井部から内湾し大きく開く体部となり、口 縁部は垂直にあり突起の端部をもつ。	①灰褐色 ②酸化 ③完形 ④白色 鉱物粒、黒色鉱物粒が含まれ、石英 粒もわずかにみられる。
2H-17 (28-8)	須恵 蓋 イブシ	17.4	4.5	3.2	覆土	ロクロ成形。天井部外面は回転ヘタ削り。天井 部はホタン状つまみの付着によりわずかに低く なる。口縁端部はくの字状を呈する。	①灰褐色 ②酸化 ③ㄥ ④白色鉱 物粒の他、石英粒もわずかに含まれる。
2H-18	須恵 蓋	16.0	8.6	3.6	床下	ロクロ成形。天井部にはリング状のつまみが丁 家につけられる。体部は短く。口唇部はやや張 り出し、端部に平坦面をもつ。	①灰白色 ②還元 ③ㄥ ④白色鉱 物粒が多く含まれる。
2H-19 (28-9)	須恵 蓋	13.0	4.3	2.8	覆土	天井部は内厚でわずかに段をもち短い体部とな る。口縁端部は直角に屈折し尖りぎみとなり、天 井部中央に大きく開く中くぼみツマミが行く。	①灰白色 ②還元 ③ㄥ ④白色鉱 物粒の他、夾雑物が比較的多く含ま れる。
2H-20	須恵 蓋 イブシ	18.6	—	—	覆土	口縁上部及び口唇部外面に凹面をもつ。端部は 尖りぎみにわずかに外反する。ロクロ成形。	①灰褐色 ②酸化 ③ㄥ ④白色鉱 物粒の他、石英粒もわずかにみられ る。
2H-21	土師 小型壺	13.0	—	—	覆土	短いくの字状の口縁を呈する。内外面とも横ナ デ。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白 色の微粒子が多く含まれる。
2H-22	土師 小型壺	11.0	—	—	床下	くの字状に屈曲し、短かい口縁となる。内外面 とも横ナデが施される。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④1 mm前後の粒子が多く含まれる。
2H-23	小型壺	11.2	—	—	床面	彎曲の少ない体部からゆるやかな、くの字状口 縁となる。口縁部は短く、頸部の器内に特に厚 い。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④砂 粒が多く含まれる。
2H-24	須恵 短頸壺	10.1	17.8	—	床面	大きく彎曲する体部から直立する短い口縁部と なる。口唇部は内側に面をもつ。	①灰白色 ②還元 ③ㄥ ④白色鉱 物粒とともに、石英粒もわずかにみ られる。
2H-25	須恵 短頸壺	10.0	—	—	床下	短い口縁は直立し、口唇部は丸みをもつ。口縁 部内外面とも横ナデ	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白 色微粒子を多く含む。
2H-26	土師 壺	23.0	—	—	床下	ゆるやかな体部から頸部がややすぼまり、口縁 部は強く外反する。口縁部は内外面とも横ナデ。 体部は横位のヘタ削りが施される。	①褐色 ②酸化 ③口縁ㄥ ④白色 鉱物粒が多少含まれる。
2H-27	土師 壺	20.4	—	—	床下	体部から彎曲しながら口縁部は強く外反する。 口縁部内外面横ナデ。体部は横位のヘタ削りが 施される。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白 色鉱物粒が多少含まれる。
2H-28 (28-12)	須恵 壺	26.2	—	—	床面	ゆるやかに彎曲する体部から頸部は、くの字状 に屈曲し口縁部は外反する。口唇部の内、外側 に凹面をもち、端部は尖りぎみに立ち上がる。	①灰白色 ②還元 ③口縁ㄥ ④白 色粒子の他、黒色鉱物粒が比較的 多く含まれる。
2H-29 (28-13)	須恵 壺	25.5	—	—	床面 覆土	彎曲する体部から、くの字状に外反する口縁部 となる。口唇部は外側に凹面をもち尖りぎみに 立ち上がる。内外面とも横ナデ。	①灰白色 ②還元 ③口縁ㄥ④砂 粒、白色鉱物粒が含まれる。

1. 平安時代の遺構と遺物(3号住居址)

2号住居址出土土器観察表(3)

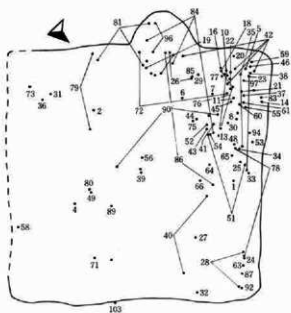
2H-30	須恵	—	11.0	—	床面	体部は大きく彎曲し、頸部は強く、くの字状に屈曲する。内外面に横ナデが施される。	①灰白色 ②還元 ③頸部片 ④黒色鉱物粒の他に、石英粒をわずかに含まれる。
2H-31	土師 小型壺	9.4	—	—	床面	短い口縁が、くの字状に外反する。口縁部内外面とも横ナデ。体部に底部からのヘラ削りが施される。	①褐色 ②酸化 ③口縁片 ④白色微細粒の他に、石英粒をわずかに含む。
2H-32	土師 小型壺	9.2	—	—	床面	体部は丸味をもち、下半部に斜位のヘラ削りが施される。口縁部は横ナデ整形。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④砂粒が多く含まれ、白色粒子も多少みられる。
2H-33 (28-10)	土師 小型壺	7.1	4.0	3.7	床面	内厚の底部から彎曲する体部に至り、口縁部はくの字状に外反する。体部ヘラ削り。	①褐色 ②酸化 ③片 ④砂粒、白色微細粒が含まれる。
2H-34 (28-11)	須恵 兵須壺	7.2	—	—	床面	頸部は口縁に向けてやや開きぎみに立ち上る。口縁部は外側に面をもち、口唇部は突る。	①青灰色 ②還元 ③口縁 ④白色微細粒が含まれる。胎土は密である。

3号住居址(第13・14図、図版4)

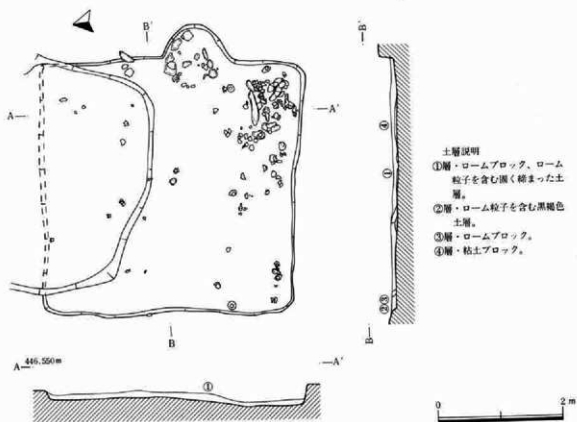
F・G・H-84・85・86グリッドに位置する。住居北半部は4号住居址により切られている。平面形は一辺4.1m前後を測る正方形のプランを呈する。面積は約16.7㎡、主軸方位はN-98°-Eである。本址は大部分が黒色土層中に構築され、又耕作による擾乱も受けているため遺構上半は残りは良くない。壁はほぼ垂直に立ち上がり残存高は東側で23cm、西側で8cmである。床面は軟弱であり、踏み固められたような面は検出されなかった。柱穴及び周溝はみられない。カマドは東壁中央南寄りに位置する。他の住居址と同様に残存状態は悪く掘り方が検出されただけである。掘り方は、床掘り込み、深さともわずかで皿状をなし、東壁への掘り込みは幅110cm、奥行き54cmを測る。又、カマド内に主体部及び軸石として使用された礫が掘り方に沿って6個並んで検出された。南東コーナー付近に長さ58cm、幅12cmの河原石の他4個の礫による石組状の貯蔵施設が検出された。規模は一辺60cmの正方形を呈し、底面は深さ10cmで皿状にくぼんでいる。

本址は今回の調査により検出された住居址中、最も多量の遺物が出土している。第13図に示した遺物は床面密着もしくは直上の状態で検出されたものである。同時に覆土も単一土層であり一括遺物として取り扱うこととした。遺物の出土状況は大半がカマド周辺及び南東コーナーの貯蔵施設部分を中心に検出されている。住居北半は4号住居址と重複している関係もあり本址に伴うと確定できるものが少なく量的にも少ない。

IV 検出された遺構と遺物

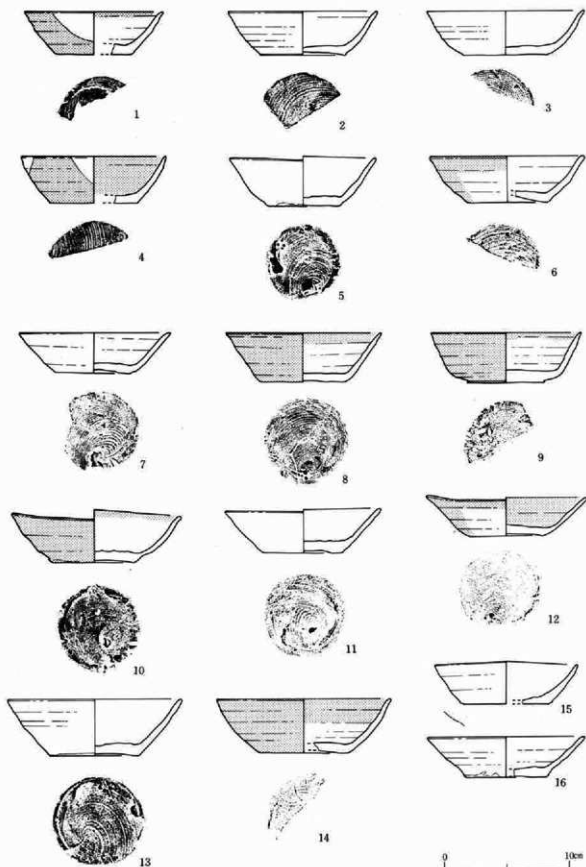


第13図 3号住居址遺物分布図



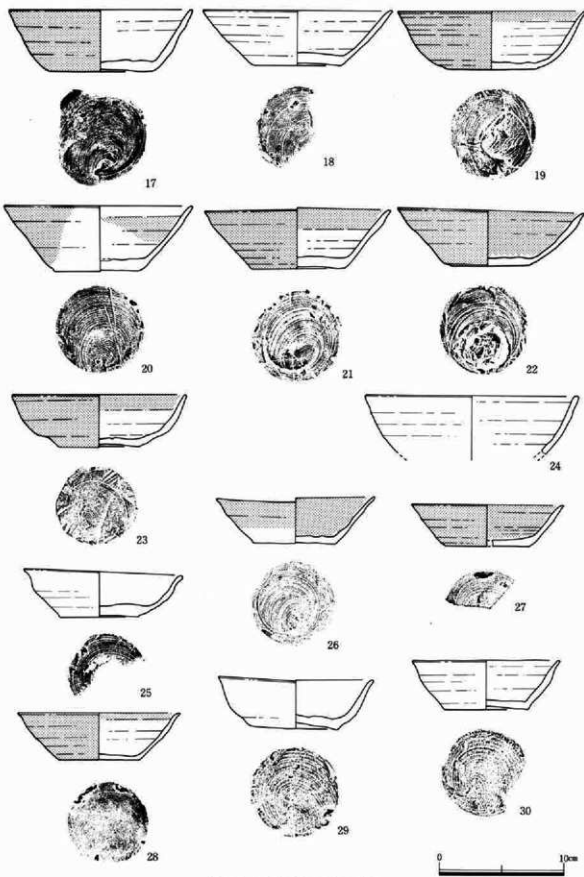
第14図 3号住居址実測図

1. 平安時代の遺構と遺物 (3号住居址)



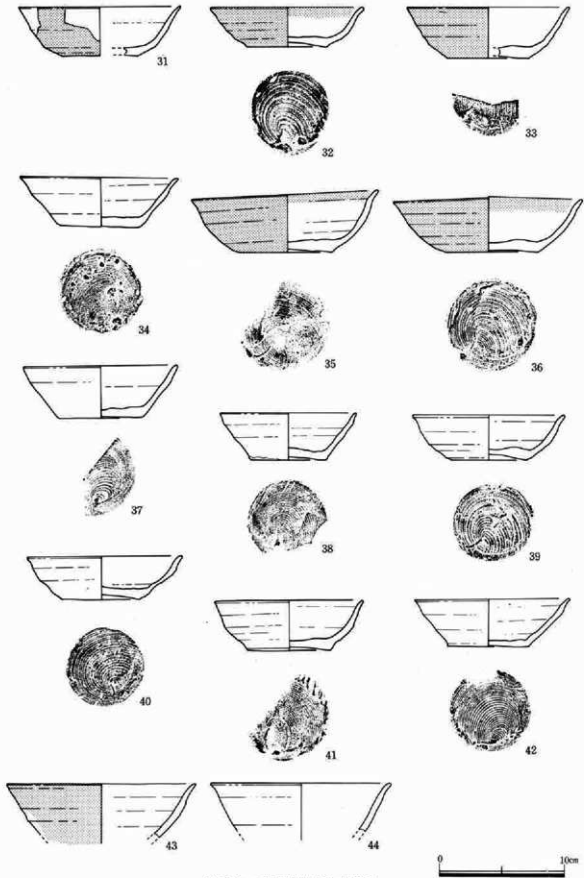
第15図 3号住居址出土土器(1)

IV 検出された遺構と遺物



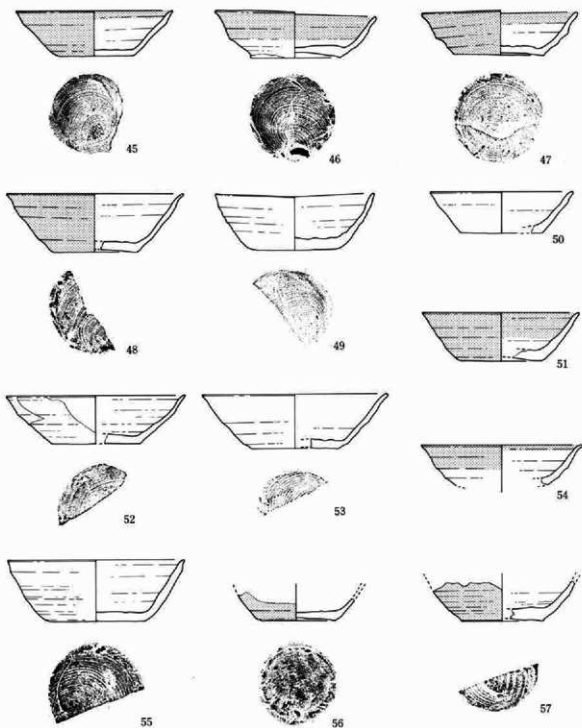
第16図 3号住居址出土土器(2)

1. 平安時代の遺構と遺物 (3号住居址)



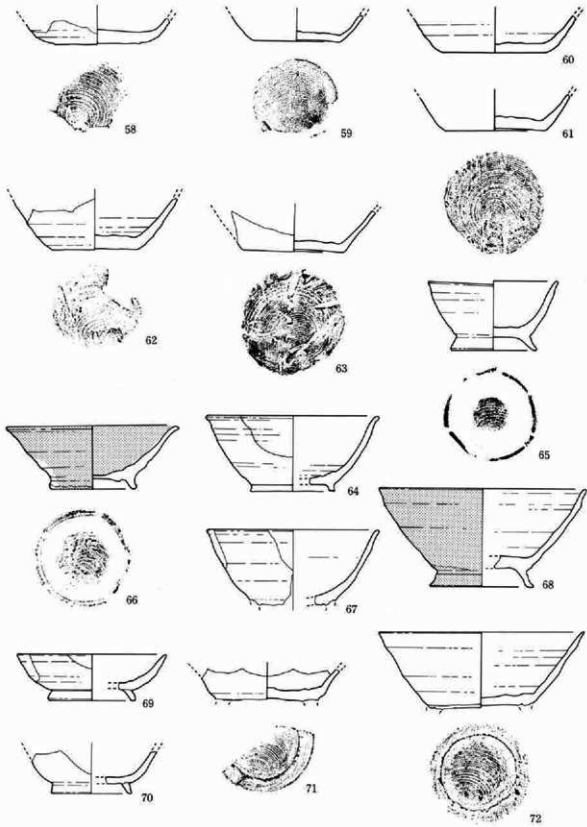
第17図 3号住居址出土土器(3)

IV 検出された遺構と遺物



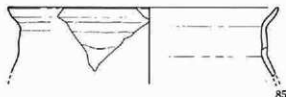
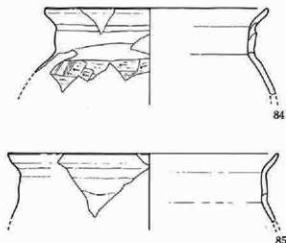
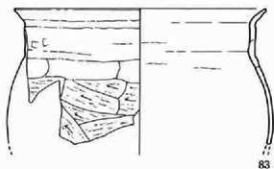
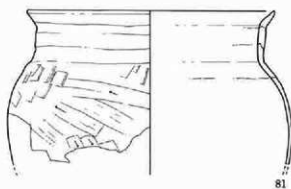
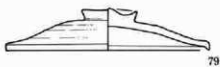
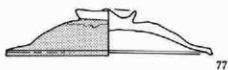
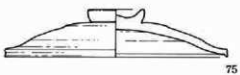
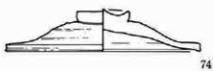
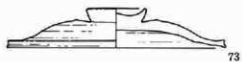
第18図 3号住居址出土土器(4)

1. 平安時代の遺構と遺物（3号住居址）



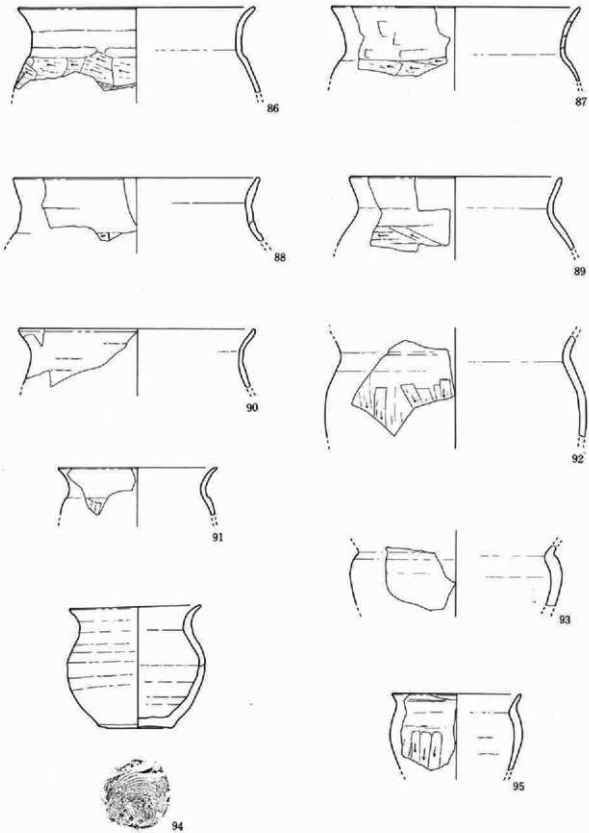
第19図 3号住居址出土土器(5)

IV 検出された遺構と遺物



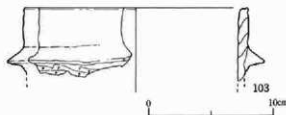
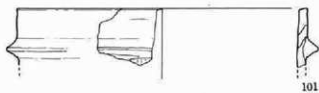
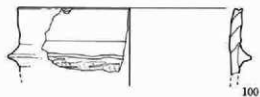
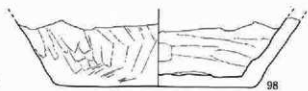
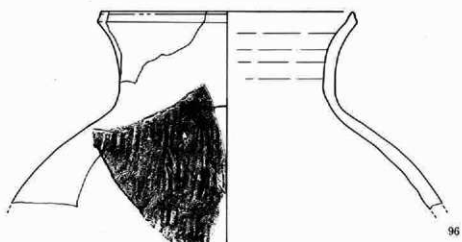
第20図 3号住居址出土土器(6)

1. 平安時代の遺構と遺物 (3号住居址)



第21図 3号住居址出土土器(7)

IV 検出された遺構と遺物



0 10cm

第22図 3号住居址出土土器(8)

1. 平安時代の遺構と遺物（3号住居址）

3号住居址出土土器観察表（1）

遺物番号 (図版No.)	器 形	口 径	法 底径	足 器高	出 土 位	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	①色 ②胎 ③土 ④胎 ⑤成 ⑥番 ⑦焼 ⑧号 ⑨残 ⑩存
3H-1	須恵 坪 イブシ	11.2	6.2	3.4	床 面	底部から直線的に立ち上がり、体部上半でわずかに屈曲し丸みをもつ口唇部となる。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅳ ④白色鉱物粒を含む。胎土は密である。
3H-2	須恵 坪	12.0	6.9	3.5	床 面	底部から口縁にかけわずかに彎曲しながら立ち上がる。口唇部はやや尖りきみ。底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④白色鉱物粒を含む。石英粒もわずかに認められる。
3H-3 (29-1)	須恵 坪	12.6	6.8	3.5	覆 土	底部から内彎ぎみに立ち上がる。口唇は尖りきみとなる。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒、石英粒が多少含まれる。
3H-4	須恵 坪 イブシ	11.6	7.0	3.7	床 面	底部から内彎ぎみに立ち上がる。胎厚はほぼ一定している。体部左回転、底面に静止糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅳ ④白色鉱物粒の他に、石英粒がわずかに含まれる。
3H-5 (29-2)	須恵 坪	11.8	6.0	4.0	床 面	底部からほぼ直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。体部がわずかに重む。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③完形 ④白色鉱物粒の他に、石英粒がわずかに含まれる。
3H-6 (29-3)	須恵 坪 イブシ	12.4	6.4	3.7	床 面	体部は内彎ぎみに立ち上がりロクロ目が明確に残る。口唇部はわずかに外反し丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③Ⅳ ④白色鉱物粒の他に、石英粒がわずかに含まれる。
3H-7 (29-4)	須恵 坪	12.1	6.0	3.2	床 面	底部から直線的に立ち上がり、口唇部は尖りきみである。底面に糸切りによる切り離しの際の凹凸が残る。左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④白色鉱物粒を含む。黒色鉱物粒、石英粒をわずかに含む。
3H-8 (29-5)	須恵 坪 イブシ	12.5	6.7	3.9	床 面	底部から直線的に立ち上がり口唇部はわずかに外反する。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁一部欠 ④白色鉱物粒を多く含む。胎土は密である。⑤胎土分析資料3
3H-9 (29-6)	須恵 坪 イブシ	12.0	6.2	4.0		底部が一部段状に残る。体部は直線的に立ち上がりロクロ目が残る。口唇部は尖りきみで内側に面をもつ。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④白色鉱物粒の他に、石英粒がわずかに含まれる。
3H-10 (29-7)	須恵 坪 イブシ	13.6	6.5	4.3 5 3.5	床 面	段状の底部から内彎ぎみに立ち上がり、口唇部はわずかに外反する。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅳ ④細かい鉱物粒の他に、石英粒がわずかに含まれる。
3H-11 (29-8)	須恵 坪	12.6	6.3	3.5	床 面	肉厚の底部から口唇部にかけて直線的に立ち上がる。体部の胎厚は一定し、口唇は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。一部に切り直し痕。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁一部欠 ④白色鉱物粒の他に、砂粒等夾雑物が多く、石英粒もわずかに含まれる。
3H-12 (29-9)	須恵 坪 イブシ	12.8	5.8	3.0	床 覆 土	底部から口唇部にかけて直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅳ ④白色鉱物粒の他、石英粒がわずかに含まれる。
3H-13 (29-10)	須恵 坪	14.0	7.0	4.5	床 面	底部中央周辺は肉厚で、体部はほぼ直線的に立ち上がる。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③Ⅳ ④白色鉱物粒の他に、石英粒がわずかに含まれる。⑤胎土分析資料4
3H-14	須恵 坪 イブシ	14.0	7.2	4.3	床 面	底部から内彎ぎみに立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。体部にはロクロ目が残る。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅳ ④白色鉱物粒の他に、石英粒がわずかに含まれる。

IV 検出された遺構と遺物

3号住居址出土土器観察表(2)

3H-15	須恵 埴	11.4	7.0	3.1 ↓ 3.4	覆土	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は尖り ぎみである。内側は底部から体部にかけてゆる やかに立ち上がる。底面に静止糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③珩 ④白色鉱 物粒の他に、黒色鉱物粒を多少含む。
3H-16	須恵 埴	12.6	6.4	3.2	床面	底部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。口 唇部は丸みをもつ。体部にロクロ目が残る。底 面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③珩 ④白色お よび黒色鉱物粒を含む。
3H-17 (29-11)	須恵 埴 イブシ	14.8	8.4	4.9	床面	内厚の底部から直線的に立ち上がり、口唇部は 丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③珩 ④白色鉱 物粒を多く含む。石英粒もわずかに 認められる。
3H-18 (29-12)	須恵 埴	15.2	7.0	4.4	床面	内厚の底部から直線的に立ち上がる。口唇部は やや肥厚し丸みをもつ。	①灰白色 ②還元 ③珩 ④白色鉱 物粒の他に、黒色鉱物粒、石英粒も 多少含まれる。
3H-19 (29-13)	須恵 埴 イブシ	15.0	7.3	4.6	床面	体部は内彎ぎみに立ち上がり、口唇部はやや尖 りぎみになる。底面に左回転糸切り痕。2回切 り痕じがみられる。	①褐色 ②酸化 ③珩 ④白色鉱 物粒を多く含む。石英粒もわずかに認 められる。
3H-20 (29-14)	須恵 埴 イブシ	15.1	6.8	5.1	床面	体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がり、口 縁部はわずかに肥厚し、口唇部は尖りぎみとな る。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③珩 ④白色鉱 物粒の他に、石英粒を比較的多く含 まれる。
3H-2 (29-15)	須恵 埴 イブシ	14.9	7.4	4.6	床面	体部は直線的に立ち上がり口縁部はわずかに彎 曲し尖りぎみの口唇部となる。底面に左回転糸 切り痕。	①灰白色 ②還元 ③口縁一部欠 ④白色鉱物粒を多く含む。石英粒が わずかにみられる。
3H-22 (29-16)	須恵 埴 イブシ	14.9	6.4	4.4	床面	体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部は肥厚 し口唇部は尖りぎみにわずかに外反する。底面 に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁一部欠 ④白色鉱物粒を多く含む。
3H-23 (29-23)	須恵 埴 イブシ	14.0	6.2	4.2	床面 覆土	段状の底部から彎曲しながら丸みをもつ口唇部 へ立ち上がる。体部にはロクロ目がやや残る。 底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③珩 ④白色鉱 物粒を多く含む。石英粒わずかに認 められる。
3H-24	須恵 埴	17.2	—	—	床面 覆土	体部は内彎ぎみに立ち上がり、口縁部外面に凹 面をもつ。口唇部は丸みをもつ。	①灰白色 ②還元 ③珩 ④底部欠 ⑤白色および黒色鉱物粒がわずかに 含まれる。
3H-25 (29-18)	須恵 埴	12.7	6.4	3.6	床面 覆土	底部から彎曲しながら立ち上がり、口縁部はく の字状に外反。口唇部はわずかに肥厚し丸みも もつ。体部は歪みをもつ。床面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③珩 ④黒色鉱 物粒、石英粒が多少含まれる。
3H-26 (29-19)	須恵 埴 イブシ	12.8	6.6	3.6	床面	底部からほぼ直線的に立ち上がり口縁部はわず かに外反ぎみであり口唇部は丸みをもつ。底面 に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③珩 ④白色鉱 物粒の他に、黒色鉱物粒がわずかに含 まれる。
3H-27	須恵 埴 イブシ	12.2	6.7	3.3	床面	底部から直線的に立ち上がり、口縁部はわずか に外反して口唇部は尖りぎみとなる。底面に回 転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③珩 ④白色鉱 物粒を多く含む。
3H-28 (29-20)	須恵 埴 イブシ	13.0	6.5	3.7	床面 覆土	体部はわずかに内彎ぎみに立ち上がり口縁部は やや外反する。口唇部は尖りぎみである。底面 に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③珩 ④白色鉱 物粒を多く含む。石英粒もわずかに 認められる。
3H-29 (29-21)	須恵 埴	12.4	6.5	4.2 ↓ 3.8	床面	底部は段状となり体部はやや彎曲しながら立ち 上がり、口縁部は外反する。口唇部は尖りぎみ となる。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②還元 ③口縁一部欠 ④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒もわ ずかに含まれる。

1. 平安時代の遺構と遺物（3号住居址）

3号住居址出土土器観察表（3）

3H-30 (29-22)	須恵 坏	11.8	6.7	3.9	床 面	底部から内彎ぎみに立ち上がり、口縁部はゆるやかに屈曲し口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③珩 ④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒もわずかに含まれる。
3H-31	須恵 坏 イブシ	13.0	6.0	3.9	床 面	底部から内彎ぎみに立ち上がり、口縁部はわずかに外反し口唇部は尖りぎみとなる。底面に回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③珩 ④白色および黒色鉱物粒の他、4mm前後の小礫石英粒等もわずかに含まれる。
3H-32 (29-17)	須恵 坏 イブシ	12.4	6.5	3.2	床 面	底部縁辺が内厚で体部は内彎ぎみに立ち上がり口縁部は外反ぎみに開き口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③完形 ④白色鉱物粒の他、石英粒がわずかに含まれる。
3H-33	須恵 坏 イブシ	13.0	6.5	4.1	床 面 下	底部縁辺は内厚。体部は内彎ぎみに立ち上がり口唇部は外反ぎみとなる。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③珩 ④白色鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかにみられる。
3H-34 (30-13)	須恵 坏	12.7	6.2	3.8	床 面	体部はゆるやかな段をもち、口縁部はわずかに外反する。口唇部は尖りぎみである。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③珩 ④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒、石英粒がわずかに含まれる。
3H-35 (30-1)	須恵 坏 イブシ	15.0	7.3	4.8	床 面	内厚の底部から内彎ぎみに立ち上がり、口縁部はくの字状に外反する。口唇部は丸みをもつがやや内側に面をもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁一部欠 ④白色鉱物粒を多く含む。黒色鉱物粒、石英粒もわずかに認められる。
3H-36 (30-14)	須恵 坏 イブシ	15.0	7.4	4.2	床 面 土 覆	底部は中央周辺が特に内厚。体部は内彎ぎみに立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁一部欠 ④白色鉱物粒の他に黒色鉱物粒を含む。石英粒もわずかに認められる。
3H-37 (30-5)	須恵 坏	12.4	6.8	4.1	床 面	底部から直線的に立ち上がる。体部上半でわずかに膨厚を増す。口唇部は丸い。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③珩 ④白色鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかに認められる。
3H-38 (30-6)	須恵 坏	11.0	6.0	3.7	床 面	体部はほぼ直線的に立ち上がり口縁部はわずかに屈曲する。口唇部は丸みをもつが内側にやや面がある。底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③珩 ④2~3mmの鉱物粒が比較的多く含まれる。
3H-39 (30-7)	須恵 坏	12.2	6.0	3.6	床 面	底部中央周辺が内厚。体部は内彎ぎみに立ち上がり口唇部は外反し、口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③珩 ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒がわずかに含まれる。
3H-40 (30-8)	須恵 坏	12.4	6.3	3.4	床 面 土 覆	底部から体部下半で段をもち立ち上がり、口縁部は外反ぎみに開く。口縁部は肥厚し、口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③珩 ④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒もわずかに認められる。
3H-41 (30-9)	須恵 坏	12.0	6.8	4.0	床 面	底部は段をもち体部は内彎ぎみに立ち上がる。口縁部はわずかに外反し、丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③珩 ④白色鉱物粒の他、3~4mmの小礫が含まれる。
3H-42 (30-10)	須恵 坏	12.4	6.4	3.8	床 面 土 覆	底部からほぼ直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反ぎみに開く。口唇部はやや尖りぎみとなる。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③完形 ④白色鉱物粒を多く含む。⑤胎土分析資料2
3H-43 (30-4)	須恵 坏 イブシ	15.2	—	—	床 面	口縁部は外反ぎみに開き、口唇部はやや尖りぎみである。わずかに内側に面をもつ。イブシは不完全である。	①褐色 ②酸化 ③珩、底部欠 ④白色鉱物粒を多く含む。
3H-44	須恵 坏	14.6	—	—	床 面	体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口唇部は丸みをもつ。	①青灰色 ②還元 ③珩 ④底部欠 ⑤白色鉱物粒を多く含む。全体的に夾雑物少なく、胎土は密である。

IV 検出された遺構と遺物

3号住居址出土土器観察表(4)

3H-45 (30-11)	須恵 環 イブシ	12.6	6.2	3.6	床 面	体部はほぼ直線状に立ち上がり、口縁部にわずかに、くの字状の段があり、口縁部は尖りぎみに外反する。底面に左回転余切り痕。	①灰白色 ②還元 ③片 ④白色鉱物粒を多く含む。石英粒がわずかにみられる。
3H-46 (30-12)	須恵 環 イブシ	12.9	7.1	3.2 3.8	床 面 覆 土	体部は内彎ぎみに立ち上がりロクロ目が残る。口縁部は外反し、口唇部は丸みをもつ。底部中央周辺は肉厚。右回転余切り痕、切り損じ有り。	①灰褐色 ②酸化 ③完形 ④白色鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかにみられる。
3H-47 (30-2)	須恵 環 イブシ	12.5	7.2	3.6	下 床 覆 土	底部から内彎ぎみに立ち上がり口縁部はわずかに外反し口唇部は丸みをもつ。体部にロクロ目が明瞭に残る。底面に右回転余切り痕。	①褐色 ②酸化 ③完形 ④白色鉱物粒を多く含まれ、石英粒もわずかにみられる。
3H-48 (30-3)	須恵 環 イブシ	14.2	6.8	4.6	床 面	底部から変化なく立ち上がり、肩部がわずかに肥厚し口縁部は外反ぎみに開く。底面に左回転余切り痕。体部にロクロ目が残る。	①灰白色 ②還元 ③片 ④白色鉱物粒を多く含まれ、石英粒もわずかにみられる。
3H-49 (30-15)	須恵 環	12.8	7.0	4.5	床 面	底部中央は肉厚で体部は内彎ぎみに立ち上がり口唇部は丸みをもつ。底面に左回転余切り痕。体部はわずかに楕円形に歪む。	①灰白色 ②還元 ③片 ④白色鉱物粒を多く含まれる。石英粒もわずかに含まれる。
3H-50	須恵 環	11.4	6.6	3.3	覆 土	底部から口縁部にかけて、ほぼ直線的に立ち上がる。口唇部は丸みをもつ。底面に回転余切り痕。	①灰白色 ②還元 ③片 ④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒がわずかに含まれる。
3H-51 (30-16)	須恵 環 イブシ	12.6	6.6	3.9	床 面	肉厚の底部からほぼ直線的に立ち上がり、口唇部はやや尖りぎみに外反する。底面に回転余切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③片 ④白色鉱物粒を多く含まれ、石英粒もわずかにみられる。
3H-52	須恵 環	14.4	7.0	3.8	床 面	底部から直線的に立ち上がり、体部上半でわずかに屈曲する。口唇部は尖りぎみ。底面に回転余切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③片 ④白色鉱物粒を多く含まれ、石英粒もわずかにみられる。
3H-53	須恵 環	14.8	7.0	4.3	床 面	体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口唇部は丸みをもつ。底部は肉厚で底面に回転余切り痕。	①灰白色 ②還元 ③片 ④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒も含まれる。
3H-54	須恵 環 イブシ	13.0	—	—	床 面	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、ロクロ目が明瞭に残る。口縁部はやや開きぎみで、口唇部は丸みをもつ。	①褐色 ②酸化 ③片 ④白色鉱物粒を多く含む。
3H-55 (30-17)	須恵 環	14.2	7.7	4.9	床 面	体部は直線的に開き、口縁部に鞭をもち口唇部はわずかに外反する。体部に成形時の凹線が多数残る。底面に左回転余切り痕。	①灰白色 ②還元 ③片 ④白色鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかに認められる。
3H-56	須恵 環 イブシ	—	5.9	—	床 面	底面に左回転余切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部、口唇欠 ④白色鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかに認められる。
3H-57	須恵 環 イブシ	—	6.4	—	覆 土	体部は内彎ぎみに立ち上がり、ロクロ目が残る。底面に左回転余切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③片 ④白色鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかにみられる。
3H-58	須恵 環	—	6.7	—	床 面	底部から内彎ぎみに立ち上がる。底面に右回転余切り痕。	①褐色 ②酸化 ③片 ④白色鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかに認められる。
3H-59	須恵 環	—	7.0	—	床 面	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がる。底面に左回転余切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部、口縁欠 ④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒、石英粒が含まれる。

1. 平安時代の遺構と遺物（3号住居址）

3号住居址出土土器観察表（5）

3H-60	須恵 坏	—	8.0	—	床面	体部にロクロ目が残る。底面に回転糸切り痕。縁辺部はヘラ調整が行なわれる。	①褐色 ②酸化 ③底部片 ④白色鉱物粒を含むが、全体的に夾雑物が少なく胎土は密である。
3H-61	須恵 坏	—	8.0	—	床面	底部は肉厚で、底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部 ④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒も含まれる。
3H-62	須恵 坏	—	7.0	—	覆土	体部にロクロ目が残る。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部 ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒が含まれ、石英粒もわずかにみられる。
3H-63	須恵 坏	—	8.1	—	床面	体部は直線的に立ち上がる。器面は磨ると粉状にザラつく。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部 ④白色鉱物粒を多く含む、石英粒もわずかにみられる。
3H-64 (30-19)	須恵 埴	14.0	6.8	6.0	床面	体部は内彎ぎみに立ち上がり、口唇部が外反する。高台は丁寧に貼付けられ、底面中央に凹面をもち端部は尖る。	①灰褐色 ②酸化 ③片 ④白色鉱物粒を多く含む
3H-65 (30-20)	須恵 埴	10.4	6.9	5.5 (高台部)	床面	高台は強く外側に張り、端部は丸みをもつ。貼付部に凹面をもち体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり口唇部は丸みをもつ。体部は右回転	①青灰色 ②還元 ③変形 ④白色鉱物粒の他、石英粒をわずかに含む。
3H-66 (30-21)	須恵 イブシ	13.8	7.0	5.0 (高台部)	床面	高台は縁であり端部も平坦面と尖りぎみの部分とがある。体部はやや直線的に立ち上がり口縁部は外反し口唇部は丸い。体部右回転。	①灰褐色 ②酸化 ③片 ④白色鉱物粒の他、石英粒を比較的多く含む。
3H-67	須恵 埴	13.8	—	—	覆土	高台部割落。体部はやや彎曲しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反し口唇部は丸みをもつ。器面は磨ると粒状にザラつく。	①灰褐色 ②酸化 ③片 ④白色鉱物粒の他、石英粒も含まれる。
3H-68 (30-22)	須恵 イブシ	16.6	8.4	7.8 (高台部)	覆土	高台は端部が外反し貼付は丁寧に、貼付部外面に凹面をもつ。体部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに稜をもち、口唇部は丸みをもつ。	①灰白色 ②還元 ③片 ④白色鉱物粒と共に、黒色鉱物粒および石英粒が含まれる。
3H-69	須恵 埴	12.0	7.0	3.7 (高台部)	覆土	体部は比較的扁平であり、口唇部は尖りぎみとなる。高台は丸みをもち肉厚である。体部下端にヘラ調整がみられる。	①灰褐色 ②酸化 ③片 ④白色鉱物粒を多く含む。
3H-70	須恵 埴	—	6.4	— (高台部)	覆土	高台は丁寧に調整され端部はやや丸みをもつ。体部は彎曲ぎみに立ち上がる。高台貼付部に凹面をもつ。体部右回転。	①青灰色 ②還元 ③片 ④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒もみられる。
3H-71	須恵 埴	—	8.0	— (高台貼付部)	床面	高台部は全部が割落する。底面に左回転糸切り痕。体部下端に段をもちやや外反ぎみに立ち上がる。	①灰白色 ②還元 ③片、口縁欠 ④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒および石英粒が含まれる。
3H-72 (30-18)	須恵 埴	16.4	8.5	— (高台貼付部)	床面	高台部は全部が割落する。底面に左回転糸切り痕。体部はほぼ直線的に立ち上がり口唇部は尖りぎみである。	①灰褐色 ②酸化 ③片 ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒および石英粒等夾雑物が多く含まれる。
3H-73 (31-1)	須恵 蓋	17.5	4.8	3.1 (ツマミ部)	床面	天井部中央にボタン状ツマミが付けられ、わずかに窪んでいる。体部は短く口縁部外面に凹面がみられる。端部は尖りぎみである。	①灰褐色 ②酸化 ③片 ④白色鉱物粒を多量に含む。
3H-74 (31-2)	須恵 蓋	15.6	4.2	3.4 (ツマミ部)	床面	肉厚の天井部中央にボタン状ツマミが付く。天井部から体部へゆるやかに続き、口縁部外面に凹面をもち口唇部は短く尖りぎみ。体部は歪む。	①灰白色 ②還元 ③片 ④白色鉱物粒を多く含む、黒色鉱物粒もわずかにみられる。

IV 検出された遺構と遺物

3号住居址出土土器観察表(6)

3H-75 (31-3)	須 蓋	17.8 4.4 (ツمامミ部)	3.7	床 面	天井部中央にボタン状ツمامミが付く。天井部から体部にかけて厚はほぼ一定する。口縁部外側に凹面があり、端部は尖りぎみである。	①褐色 ②酸化 ③珎 ④白色鉱物粒を多量に含む。
3H-76	須 蓋	15.0	—	床 面	体部は短く、口縁部は垂直に下り端部は尖りぎみとなる。	①灰白色 ②還元 ③珎 ④白色鉱物粒が含まれるが、夾雑物が少ない粘土は密である。
3H-77 (31-4)	須 蓋 イブシ	16.6 4.8 (ツمامミ部)	3.7	床 覆 土	天井部上面は広いヘラ削り。体部は彎曲し口縁部に至る。口唇部は歪曲し外面に凹面をもつ。天井部中央にボタン状ツمامミが付けられる。	①灰褐色 ②酸化 ③完形 ④白色鉱物粒が含まれる。
3H-78	須 蓋 イブシ	17.5	—	床 覆 土	口縁部はわずかに内傾し、端部は尖りぎみである。ロクロ成形。体部右回転。	①褐色 ②酸化 ③珎 ④白色鉱物粒、砂粒等、夾雑物が多く含まれる。
3H-79 (31-5)	須 蓋 イブシ	16.4 4.5 (ツمامミ部)	3.4	床 面	天井部から口縁部にかけてあまり変化なく開く。口唇部は直角に屈折し尖りぎみとなる。天井部中央にボタン状ツمامミが付けられる。	①灰白色 ②還元 ③珎 ④白色鉱物粒が含まれる。
3H-80	須 蓋	14.2 1.9 (ツمامミ部)	1.8	床 面	天井部は平足で、口縁部はわずかに外側へ開きぎみで外面に凹面をもち口唇部は尖りぎみ。中央部にボタン状ツمامミ付く。一部にタール付着。	①灰白色 ②還元 ③珎 ④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒も含まれる。
3H-81 (31-6)	土 師 甕	19.8	—	床 面	コの字状口縁。肩部はゆるやかに彎曲し口縁部に至る。肩部は右下から左上への斜位へ削り。	①褐色 ②酸化 ③珎 ④ガラス質の黒色鉱物粒子および砂粒を多く含む。
3H-82	土 師 甕	19.0	—	覆 土	コの字状口縁。口唇部は丸みをもちやや直立ぎみになる。口縁部ヨコナデ。肩部は右下から左上への斜位へ削り施す。	①褐色 ②酸化 ③珎 ④黒色鉱物粒の他、砂粒を多く含む。
3H-83 (31-7)	土 師 甕	20.2	—	床 面	コの字状口縁。肩部からゆるやかに立ち上がり口縁部は強く外反し口唇部は丸い。口縁部は横カデ。肩部は右下から左上への斜位へ削り。	①褐色 ②酸化 ③珎 ④ガラス質の黒色鉱物粒および砂粒を多く含む。⑤粘土分析資料1
3H-84 (31-9)	土 師 甕	17.8	—	床 面	コの字状口縁。最大径を胴部にもつ。肩部は右下から左上への斜位へ削り。口縁部横ナデ。特にくびれ部は工具を用いる。口唇部尖りぎみ。	①褐色 ②酸化 ③珎 ④黒色鉱物粒の他、砂粒が含まれる。
3H-85	土 師 甕	21.7	—	床 面	コの字状口縁。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④ガラス質の鉱物粒および砂粒が含まれる。
3H-86	土 師 甕	19.0	—	床 覆 土	コの字状口縁。肩部は斜位傾位のヘラ削り。口縁下部屈曲部は工具による強い横ナデが行われ凹面をもち、上半は彎曲しながら外反する。	①褐色 ②酸化 ③珎 ④ガラス質の黒色鉱物粒および砂粒が多く含まれる。
3H-87	土 師 甕	20.0	—	床 面	コの字状口縁。口縁下部屈曲部は工具による横ナデが行われるが不明瞭。内面にも同様の横ナデがあり、上半は彎曲しながら外反する。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④ガラス質の黒色鉱物粒および砂粒を多く含む。
3H-88	土 師 甕	19.6	—	覆 土	コの字状口縁。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④ガラス質の黒色鉱物粒および砂粒を多く含む。
3H-89	土 師 甕	17.0	—	床 覆 土	コの字状口縁。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④ガラス質の鉱物粒および砂粒が多く含まれる。

1. 平安時代の遺構と遺物（3号住居址）

3号住居址出土土器観察表（7）

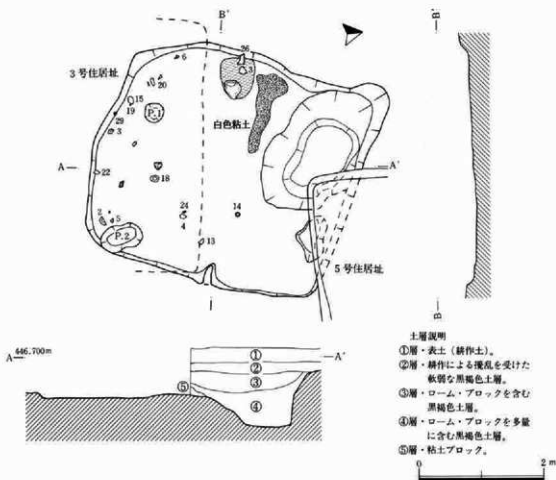
3H-90	土師 甕	18.8	—	—	床面	コの字状口縁。口縁部は内外面とも横ナゲが行なわれる。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④ガラス質の鉱物粒および砂粒が多く含まれる。
3H-91	土師 小型甕	12.8	—	—	覆土	小型の甕である。口縁部は短く、外反し、横ナゲが行なわれる。以下はへう削りが施される。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④ガラス質の鉱物粒および砂粒が多く含まれる。
3H-92	土師 甕	—	18.4	—	床面	頸部は強い横ナゲが行なわれ、屈曲する。胴部は上から下方向へのへう削りが施される。	①褐色 ②酸化 ③破片 ④砂粒が多く含まれる。石英粒も多少含まれる。
3H-93	土師 甕	—	15.6	—	覆土	頸部は棒状工具による横位の凹線が走る。	①褐色 ②酸化 ③破片 ④白色鉱物粒および石英粒が含まれる。
3H-94 (31-8)	小型甕	10.6	6.0	9.6	床面	ロクロ成形による小型の甕である。口縁部は横ナゲが行われる。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁一部欠 ④ガラス質の鉱物粒および砂粒が含まれる。
3H-95	土師 小型甕	10.3	—	—	覆土	口縁部は短く、くの字状に外反し、横ナゲが行なわれる。胴部は上から下方向へのへう削りが施される。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白色鉱物粒および砂粒が多く含まれる。
3H-96 (32-1)	須恵 甕	20.2	17.2	—	覆土	体部は球状に膨らみ、口縁部はやや外反ぎみに開く。口唇部は段状を呈し、やや内傾する。体部には叩き目が認められる。	①灰褐色 ②酸化 ③片 ④底部欠 ⑤白色鉱物粒を多く含む。⑥粘土分析資料5
3H-97 (32-2)	須恵 甕	27.4	—	—	床面	体部は彎曲ぎみに立ち上り、口縁部は短く、くの字状に外反する。体部下半に叩き目が認められる。	①灰白色 ②還元 ③片 ④底部欠 ⑤白色鉱物粒を多く含む。⑥粘土分析資料6
3H-98 (32-3)	甕	—	15.6	—	覆土	甕の底部、器外面には、縦もしくは斜方向のナゲが施される。内面には輪積み痕が残る。	①褐色 ②酸化 ③底部 ④白色鉱物粒および砂粒を多く含む。
3H-99 (32-7)	須恵 羽釜	18.2	—	—	覆土	口縁部はほぼ直立し口唇部はやや内傾ぎみで上面に2条沈線がある。肩は三角形を呈し付着がわずかに歪む。下部にはへう押えがみられる。	①灰白色 ②還元 ③口縁片 ④白色鉱物粒および砂粒を多く含む。
3H-100 (32-4)	須恵 羽釜	18.0	—	—	覆土	口縁部は直立し口唇部には凹面をもつ。肩は三角形を呈し下部に割部へう削りの際のへう押え痕。口縁部、肩横ナゲ。胴部縦位へう削り。	①灰白色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒および砂粒を多く含む。
3H-101 (32-8)	須恵 羽釜	23.3	—	—	覆土	口縁部は直立し口唇部は平坦で一条沈線が走る。肩は三角形を呈し下部にへう押えがみられる。口縁部横ナゲ。胴部縦位へう削り。	①灰白色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒および砂粒が多く含まれる。
3H-102 (32-6)	須恵 羽釜	18.8	—	—	覆土	口縁部わずかに彎曲しながら直立する。口唇部凹面をもち内側にやや突出する。口縁部、肩は横ナゲ。胴部は縦位へう削りを施す。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白色鉱物粒の他に、石英粒が含まれる。
3H-103 (32-5)	須恵 羽釜	18.0	—	—	床面	口縁部は直立する。口唇部は平坦で一条沈線が走る。肩は三角形を呈しやや下方に向く。口縁部横ナゲ、胴部縦位へう削り。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁片 ④白色鉱物粒および砂粒を多く含む。

IV 検出された遺構と遺物

4号住居址 (第23図、図版5-1)

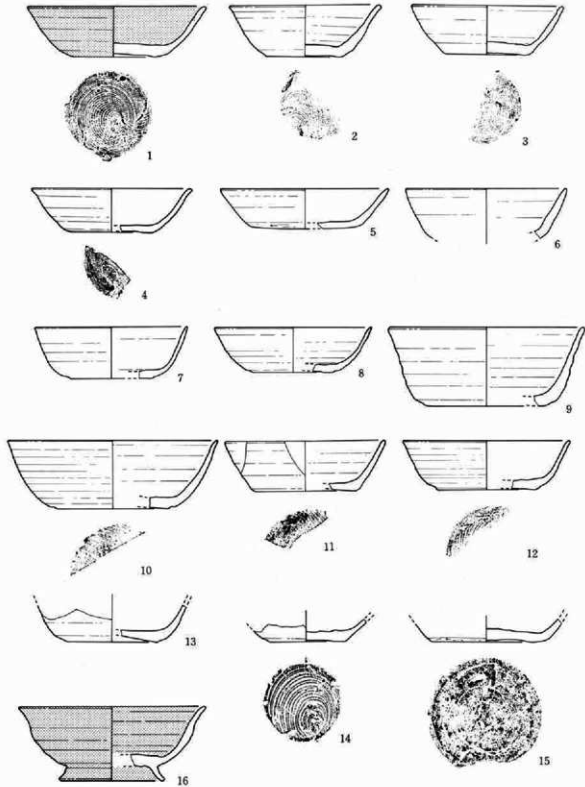
G、H-85、86、87グリッドに位置する。3号住居址を切って構築され、北壁部を5号住居址により切られている。本住居址も耕作による攪乱を受け遺構上部は破壊されている。平面形は長辺4.15m、短辺3.75mの長方形を呈し、面積は約15.6m²を測る。主軸方位はN-64°-W。壁は多少の角度をもって立ち上り平均残存高は12cm、各コーナーは丸みをもっている。床面はローム上面に構築され部分的に踏み面められた良好な面が検出された。面は南へ向かってわずかに傾斜をし、かなり凹凸が認められる。柱穴は南西コーナー及び南東コーナー附近に各々1本づつ検出された。pit 1は径30cm、深さ18cm、pit 2は径67×37cm、深さ20cm、他のものは不明である。周溝はみられない。カマドは耕作による攪乱を受け、その形状をほとんど失っている。西壁中央に接して焼土と袖部に用いたと考えられる礫が1個検出され、この部分にカマドが構築されたと判断される。床及び壁への掘り込みはみられない。北西コーナー部に長径2.2m、短径1.3m、深さ0.5mの長円形を呈する掘り込みが検出されている。この掘り込みは、発掘調査中の所見により本址に伴うものと判断される。断面形は住居址側はなだらかに立ち上り、壁側はほぼ垂直に立ち上がっている。又、この掘り込み縁辺に白色粘土が床直の状態で見られるように検出されている。

出土遺物は、坏類が大半を占めその他壺、紡錘車が検出されている。



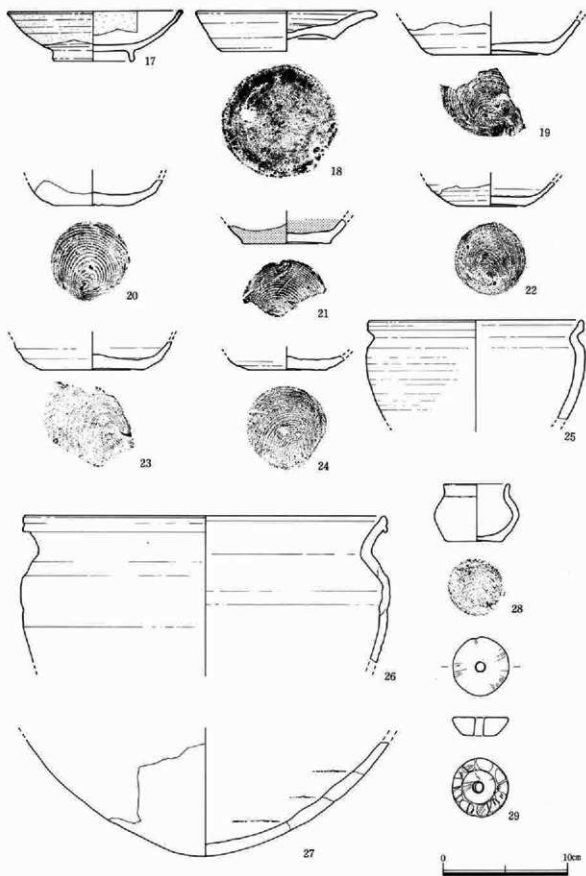
第23図 4号住居址実測図

1. 平安時代の遺構と遺物（4号住居址）



第24図 4号住居址出土土器(1)

IV 検出された遺構と遺物



第25図 4号住居址出土遺物(2)

1. 平安時代の遺構と遺物（4号住居址）

4号住居址出土土器観察表（1）

遺物番号 (図版No.)	器種 器形	口径	底径	器高	出土 位置	成形・整形の特徴	①色 ②胎 ③焼 ④残 ⑤胎 ⑥土 ⑦成 ⑧考 ⑨残 ⑩存
4H-1 (33-1)	須恵 環 イブシ	14.3	6.6	4.0	床 面	底部から彎曲ぎみに立ち上がり体部は直線的である。口唇部は丸みをもつ。底部は肉厚で底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅳ ④白色鉱物粒を多く含む。
4H-2 (33-2)	須恵 環	12.2	6.0	4.2	床 面	体部はやや膨らみをもち口縁部はわずかに外反する。口唇部は丸みをもつ。体部にロクロ目が残り、底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④白色および黒色鉱物粒が含まれる。胎土は密である。
4H-3 (33-3)	須恵 環	12.2	6.6	3.9	床 面	体部はやや内彎ぎみに立ち上がる。口唇部は多少肥厚し丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅳ ④白色鉱物粒が多く含まれ、黒色鉱物粒もみられる。
4H-4	須恵 環	12.8	6.6	3.5	床 面 覆 土	体部は内彎ぎみに立ち上がり、口縁部は外反。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④白色および黒色鉱物粒が多く含まれ、石英粒もわずかにみられる。
4H-5 (33-4)	須恵 環	13.5	8.0	3.2	床 面	口径に比し器高が低い。体部は口縁部にかけてほぼ直線的に立ち上がる。底部下端にヘラ削りがある。底面ヘラ削り。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④白色鉱物粒を多く含む。 ⑤8c前半
4H-6	須恵 環	13.0	—	—	床 面 覆 土	体部は口縁部にかけて直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ、底部欠 ④白色および黒色鉱物粒を含む。
4H-7	須恵 環	12.2	6.6	4.1	覆 土	底部は一段段状に残り彎曲ぎみに立ち上がり体部は口縁部にかけて直線的である。口唇部は尖りぎみ。底面に左回転糸切り痕。	①青灰色 ②還元 ③Ⅳ ④白色および黒色鉱物粒を含む。
4H-8	須恵 環	12.6	6.4	3.6	焼 土	底部は一段段状に残り、体部は彎曲し立ち上がる。口縁部は直線的であり口唇部はやや尖りぎみとなる。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④白色および黒色鉱物粒を多く含む。
4H-9	須恵 環	15.7	9.2	6.2	覆 土	底部からやや彎曲して立ち上がり、体部はほぼ直線的でありロクロ目が明瞭に残る。口唇部は丸みをもつ。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④白色鉱物粒を多く含む。黒色鉱物粒もわずかにみられる。
4H-10 (33-5)	須恵 環	16.8	8.8	5.4	覆 土	底部は一段段状に残り体部は彎曲し立ち上がりロクロ目が明瞭。口縁部は直線的となり口唇部は尖りぎみ。底面に静止糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④白色鉱物粒を多く含む。黒色鉱物粒もわずかにみられる。
4H-11	須恵 環	13.0	8.0	4.0	床 面 覆 土	底部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。口唇部は丸みをもつ。底面に静止糸切り痕。	①青灰色 ②還元 ③Ⅳ ④白色鉱物粒を多く含む。黒色鉱物粒もわずかにみられる。
4H-12 (33-6)	須恵 環	13.4	7.8	3.9	床 面	底部は段状に残り彎曲ぎみに立ち上がり口縁部には直線的につながる。体部にはロクロ目。口唇部はわずかに外反し丸い。回転糸切り痕。	①青灰色 ②還元 ③Ⅳ ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒が多く含まれ、石英粒もわずかにみられる。
4H-13	須恵 環	—	7.2	—	床 面	体部はやや彎曲ぎみに立ち上る。底部は歪みがみられる。一部に自然釉が付着する。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④口縁欠 ⑤白色鉱物粒が含まれる他、夾雑物は少なく、胎土は密である。
4H-14	須恵 環	—	6.2	—	床 面	左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部 ④白色鉱物粒が多く含まれる他、石英粒もわずかにみられる。

IV 検出された遺構と遺物

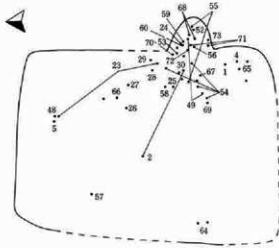
4号住居址出土遺物観察表(2)

4H-15	須恵 環	— 8.6 —	床面	比較的底径の大きな環である。底面には左回転のヘラ切り痕。	①青灰白 ②還元 ③底部 ④白色 鉱物粒が多く含まれる。
4H-16 (33-8)	須恵 埴 イブシ	15.0 8.4 6.0 (高台部)	床面	体部は彎曲しながら立ち上がり口縁部は外反し口唇部は丸みをもつ。高台部は丁寧に付けられ端部は丸みをもつ。	①灰褐色 ②酸化 ③片 ④白色 鉱物粒を多く含む。
4H-17 (33-9)	灰 軸 埴	14.0 6.4 4.0 (高台部)	覆土	体部はやや彎曲しながら立ち上がり口唇部がわずかに外反する。高台は垂直に付けられ端部外側にわずかに面をもつ。	①灰白色 ②還元 ③片 ④白色 および黒色鉱物粒がわずかに含まれる。
4H-18 (33-7)	灰 軸 環	14.5 9.0 3.3 2.3	床面	口径に比し器高が低い。底部下端にヘラ削りが施される。体部はほぼ直線的に立ち上がるが大きく歪んでいる。底面に回転ヘラ切り痕。	①灰白色 ②還元 ③完形 ④白色 および黒色鉱物粒が含まれる。
4H-19	須恵 環	— 9.2 —	床面 覆土	底部中央部は器内が薄い。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部片 ④白色 および黒色鉱物粒が多く含まれる。
4H-20	須恵 環	— 6.3 —	床面 覆土	体部は彎曲ぎみに立ち上がる。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部 ④白色 鉱物粒が多く含まれ、石英粒もわずかにみられる。
4H-21	須恵 環 イブシ	— 7.0 —	覆土	底部はわずかに段状となる。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部片 ④白色 鉱物粒を多く含む。
4H-22	須恵 環	— 5.5 —	床面	体部にロクロ目が明確に残る。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部 ④白色 鉱物粒を多く含む。黒色鉱物粒もわずかにみられる。
4H-23	須恵 環	— 8.2 —	覆土	体部下半にわずかに段をもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部片 ④白色 鉱物粒等、夾雑物が多く含まれる。
4H-24	須恵 環	— 6.2 —	床面	底部はわずかに段状に残る。底面に左回転糸切り痕。断面は胎土がバイ状を呈し、横位に薄く斜離しやすい。	①青灰色 ②還元 ③底部 ④白色 および黒色鉱物粒が含まれ、石英粒もわずかにみられる。
4H-25	須恵 壺	17.0 — —	覆土	口縁部は短く、くの字状に屈曲し口唇部は直立し尖りぎみである。	①灰白色 ②還元 ③片 ④黒色 鉱物粒が多く含まれ、白色鉱物粒も多少みられる。
4H-26 (33-10)	須恵 壺	29.0 — —	床面	口縁部は、くの字状に屈曲し口唇部は段をもち外側に凹面をもち先端は尖りぎみに直立する。	①灰白色 ②還元 ③片、唇部欠 ④黒色鉱物粒が多く含まれる。
4H-27	須恵 壺	— — —	覆土	円錐状の底部をもち、底面は凹面をもつ。器内面に輪積み痕が残る。	①青灰色 ②還元 ③底部 ④白色 鉱物粒を多く含む。
4H-28 (33-11)	小型壺	5.2 4.3 4.6	覆土	胴部中央は強く張り出し、口縁部は直立する。口唇部は丸みをもつ。全面に横ナデが施される。底面に右回転糸切り痕。ロクロ成形。	①褐色 ②酸化 ③完形 ④白色 鉱物粒が含まれる。
4H-29 (33-12)	紡錘車	4.5 2.5 1.5 (軸穴径0.9)	床面		①— ②— ③完形 ④— ⑤磨石製

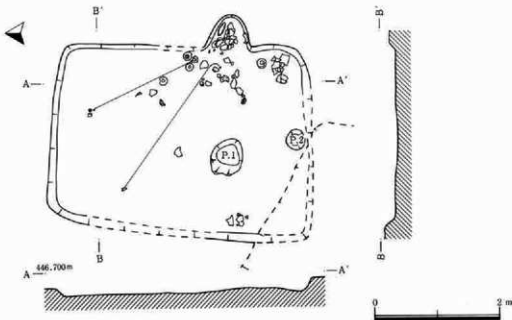
1. 平安時代の遺構と遺物 (5号住居址)

5号住居址 (第26、27図、図版5-2)

H・I-86・87・88グリッドに位置する。4号住居址、第4群粘土探掘坑を切って構築されている。本住居址も耕作等の擾乱をかなり受けており、極めて残存状態は悪い。平面形は長辺4.2m、短辺3mの長方形を呈し、主軸方位はN-90°-E、面積は約12.6㎡を測る。壁は多少角度をもって立ち上り、残存壁高は南側22cm、北側で13cmである。床面は、地山(ローム)の存在する部分は踏み固められた良好な面が認められるが、重複部分等は軟弱なものとなっている。面は多少起伏をもち、東へ向かってわずかに傾斜している。柱穴は南側中央部に接して1本検出された。径は30cmを測る。周溝はみられない。カマドは東壁中央南寄りに設けられる。カマド南側に耕作溝が東西に走っているため、残存は悪く、掘り方のみが検出された。壁掘り込みは50cmであり、床には皿状の掘り込みがわずかにみらる。貯蔵穴等の施設は認められない。遺物はカマドを中心としてその周辺に集中して出土している。

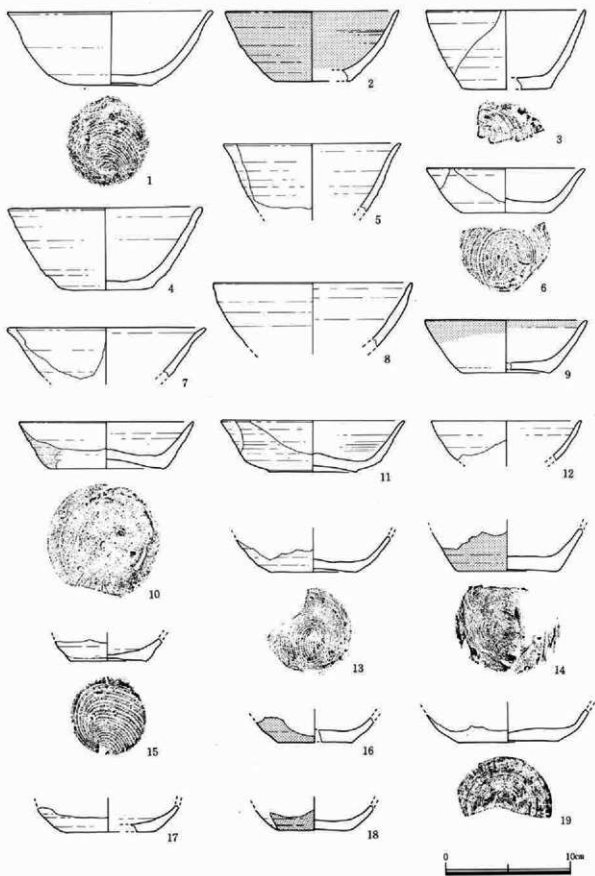


第26図 5号住居址遺物分布図



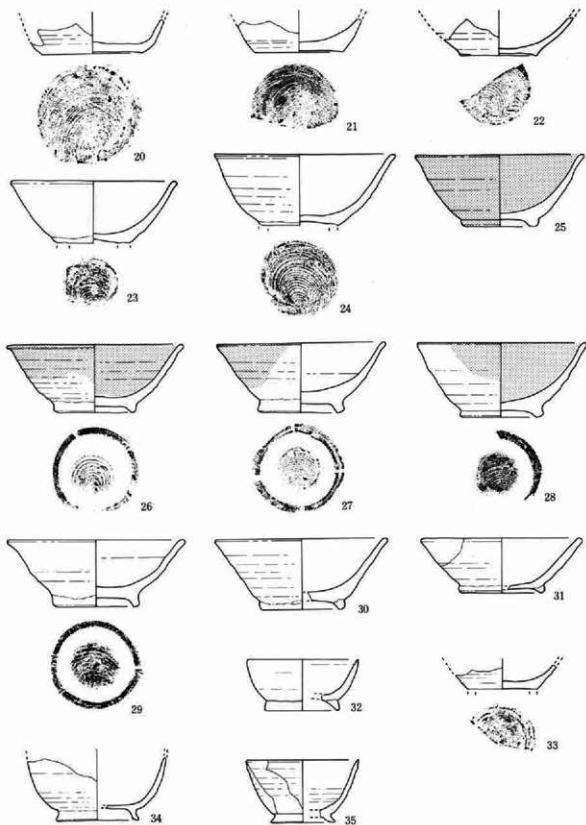
第27図 5号住居址実測図

IV 検出された遺構と遺物



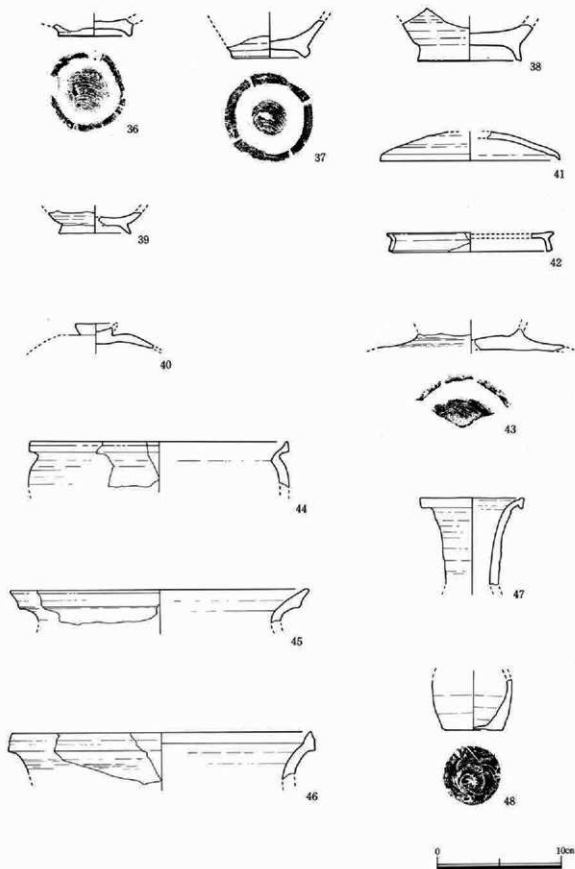
第28図 5号住居址出土土器(1)

1. 平安時代の遺構と遺物 (5号住居址)



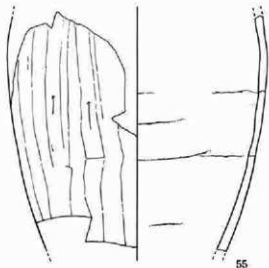
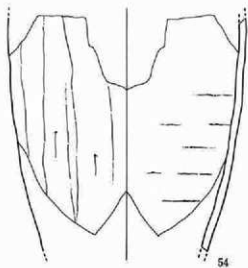
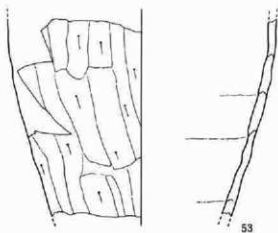
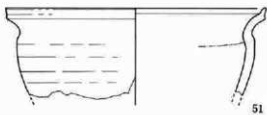
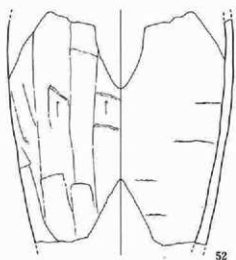
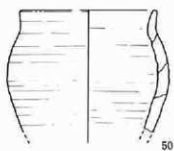
第29図 5号住居址出土土器(2)

IV 検出された遺構と遺物



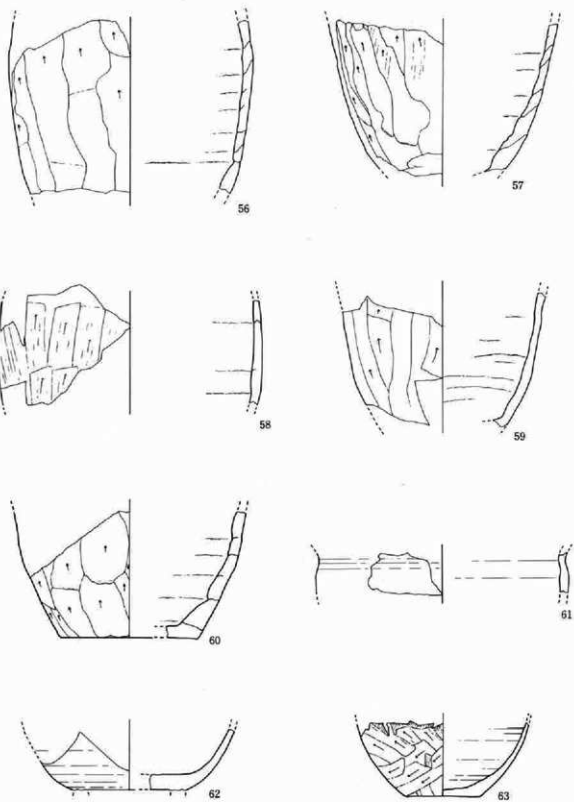
第30図 5号住居址出土土器(3)

1. 平安時代の遺構と遺物 (5号住居址)



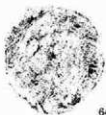
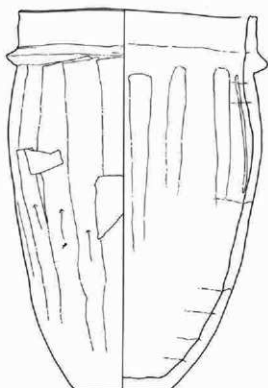
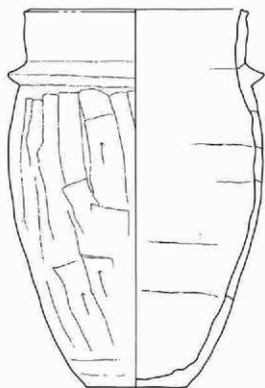
第31図 5号住居址出土土器(4)

IV 検出された遺構と遺物



第32図 5号住居址出土土器(5)

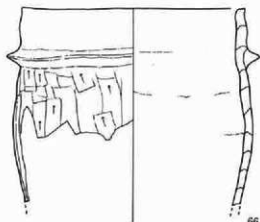
1. 平安時代の遺構と遺物 (5号住居址)



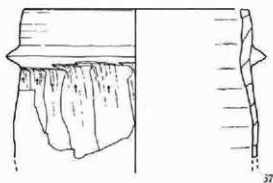
64



65



66

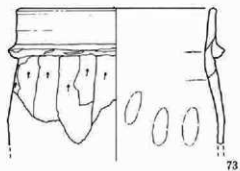
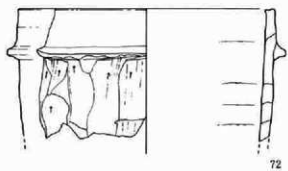
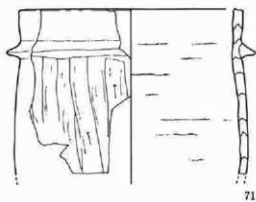
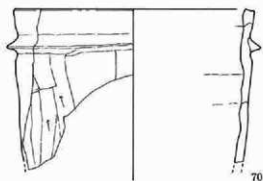
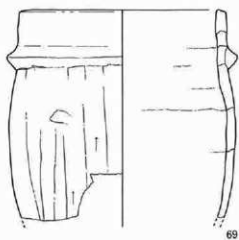
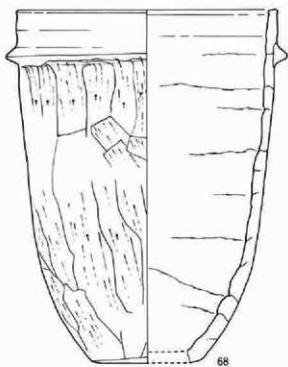


37



第33図 5号住居址出土土器(6)

IV 検出された遺構と遺物



第34図 5号住居址出土土器(7)

1. 平安時代の遺構と遺物（5号住居址）

5号住居址出土土器観察表（1）

遺物番号 (図版No.)	器 形	法 口径	法 口径	法 口径	法 口径	出 土 位	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	①色 ④胎	②調 ⑤土	③成 ⑥考	⑦残 ⑧存
5H-1 (34-1)	須 恵 環	16.5	6.5	5.8		床 面	体部は彎曲しながら立ち上がり口縁部はゆるやかに外反し、口唇部は丸みをもつ。底部は一段状に残り、底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色	②酸化	③%	④白色鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかにみられる。
5H-2 (34-4)	須 恵 環 イブシ	14.0	6.0	5.5		床 面	体部はわずかに彎曲さみに立ち上がり口縁部が明瞭に残る。口唇部は丸みをもつ。	①灰褐色	②酸化	③%	④白色鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかにみられる。
5H-3	須 恵 環	12.8	7.2	6.3		覆 土	口径と直径の差が比較的少ない深身の環である。体部はやや彎曲さみに立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色	②酸化	③%	④白色鉱物粒の他に、石英粒も多く含まれる。
5H-4 (34-5)	須 恵 環	15.6	6.0	6.5		床 面	体部はわずかに彎曲し口縁部が残る。口唇部は丸みをもつ。底面に回転糸切り痕。	①灰褐色	②酸化	③%	④白色鉱物粒および石英粒が多く含まれる。
5H-5	須 恵 環	14.2	—	—		床 面	口縁部はやや外反さみに開き、口唇部は丸みをもつ。体部に口縁部が残る。	①灰白色	②還元	③%	④白色鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかにみられる。
5H-6	須 恵 環	12.7	7.0	3.5		覆 土	体部は直線的に立ち上がり、口縁部はやや外反さみに開く。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色	②還元	③%	④白色鉱物粒を含む。石英粒はみられない。
5H-7	須 恵 環	16.0	—	—		覆 土	口縁部は外反さみに開き、口唇部は丸みをもり内側に面がある。	①灰褐色	②酸化	③%	④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒も含まれる。
5H-8	須 恵 環	16.0	—	—		覆 土	体部に口縁部が残る。口唇部は尖りさみに立ち上がる。体部左回転。	①灰白色	②還元	③%	④白色鉱物粒を多く含む。黒色鉱物粒もわずかにみられる。
5H-9 (34-6)	須 恵 環 イブシ	13.0	7.0	4.2		覆 土	体部は直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつがやや尖りさみである。底面に静止糸切り痕(?)。体部右回転。	①灰褐色	②酸化	③%	④白色鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかにみられる。
5H-10	灰 軸 環	14.0	9.0	3.7		覆 土	器高が広く底部中央は大きく盛り上っている。底部下端にへら削りが施される。底面に回転へら切り痕。	①灰白色	②還元	③%	④口縁欠④白色および黒色鉱物粒を多く含む。
5H-11	須 恵 環	14.7	7.2	4.1		覆 土	やや段状の底部から彎曲さみに立ち上がり体部は直線的である。口縁部はわずかに外反さみで口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①青灰白	②還元	③%	④白色鉱物粒を多く含む。
5H-12	須 恵 環	12.0	—	—		覆 土	口縁部はやや肥厚し、口唇部は丸みをもつ。体部右回転。	①灰白色	②還元	③%	④白色および黒色鉱物粒が含まれる。
5H-13	須 恵 環	—	7.0	—		覆 土	底面に左回転糸切り痕。	①褐色	②酸化	③%	④白色鉱物粒を多く含まれる。
5H-14	須 恵 環 イブシ	—	8.0	—		覆 土	底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色	②酸化	③%	④口縁欠④白色鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかにみられる。

IV 検出された遺構と遺物

5号住居址出土土器観察表(2)

5H-15	須恵 坏	—	6.1	—	覆土	底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部 ④白色 鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかに みられる。
5H-16	須恵 坏 イブシ	—	6.0	—	覆土	体部は彎曲ぎみに立ち上がる。底部は内厚で底 面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部 ④白色 鉱物粒を含む。
5H-17	須恵 坏	—	7.0	—	覆土	底部は一段状を呈す。底面に回転糸切り痕。 ロクロ右回転。	①灰褐色 ②酸化 ③底部 ④白色 鉱物粒を多く含む。
5H-18	須恵 坏 イブシ	—	6.0	—	覆土	体部は彎曲ぎみに立ち上がる。底面に左回転糸 切り痕。	①褐色 ②酸化 ③底部 ④白色 鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかに みられる。
5H-19	須恵 坏	—	8.0	—	覆土	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、底部は内厚 で下端にへら削り、底面に回転へら切り痕。ロ クロ右回転。	①灰白色 ②還元 ③底部 ④白色 鉱物粒の他に、石英粒も含まれる。
5H-20	須恵 坏	—	8.0	—	覆土	底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部 ④白色 鉱物粒を多く含む。
5H-21	須恵 坏	—	7.0	—	覆土	底部下端にへら削りが施される。体部左回転。 底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部 ④砂粒 が多く含まれる。
5H-22	須恵 坏	—	6.0	—	覆土	底部が段状に残る。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部 ④白色 鉱物粒とともに、石英粒も多く含 まれる。
5H-23 (34-2)	須恵 埴	13.3	6.0	—	床面	高台部は全部剥落する。体部は彎曲ぎみに立ち 上がり口唇部はわずかに外反する。体部は楕円 形に歪む。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③ ④白色 鉱物粒および石英粒が多く含まれる。
5H-24 (34-3)	須恵 埴	14.5	6.4	—	床面	高台部は全部が剥落する。体部はゆるやかに彎 曲し立ち上がる。口唇部は丸みをもちわずかに 外反する。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③高台部欠 ④ 白色鉱物粒、砂粒等夾雑物が多く胎 土はまめ粗い。石英粒も含まれる。
5H-25 (34-11)	須恵 埴 イブシ	13.5	5.7	5.7	床面	体部はやや彎曲し口縁部は外反ぎみに開く。口 唇部は丸みをもつ。高台部はつぶれぎみで低く、 端部は平坦。体部右回転。	①灰褐色 ②酸化 ③ ④白色 鉱物粒および石英粒が多く含まれる。
5H-26 (34-7)	須恵 埴 イブシ	14.2	6.6	5.4	床面	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がりロクロ目が残 る。口唇部はわずかに外反。高台部は短く端部 は平坦である。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③完形 ④白色 鉱物粒および砂粒を多く含む。
5H-27 (34-8)	須恵 埴 イブシ	13.6	6.9	5.7	床面	口縁部はわずかに外反し口唇部は丸みをもつ。 高台の貼付は雑で一部剥落し、端部は平坦であ る。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁一部欠 ④白色鉱物粒および石英粒が多く含 まれる。黒色鉱物粒が多少含まれる。
5H-28 (34-9)	須恵 埴	13.5	6.7	5.9	床面	高台は口の貼付部から剥落する。底面に右回転 糸切り痕。口縁部はわずかに外反し、口唇部は 丸みをもつ。体部にロクロ目が残る。	①灰褐色 ②酸化 ③一部欠 ④白色 鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H-29 (34-10)	須恵 埴	14.2	6.9	5.4	床面	体部は彎曲ぎみに立ち上がり口縁部わずかに外 反。口唇部は丸い。高台部の貼付は雑で一部剥 離し、端部は平坦。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③口縁一部欠 ④白色鉱物粒および石英粒を多く含 む。⑤胎土分析資料8

1. 平安時代の遺構と遺物（5号住居址）

5号住居址出土土器観察表（3）

5H-30 (34-12)	須恵 埴	13.9 6.8 5.6 (高台部)	床 面	体部は直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。高台部は低く端部は平坦である。貼付は雑で一部剥離する。	①灰褐色 ②酸化 ③珎 ④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H-31 (34-13)	須恵 埴	12.9 6.8 4.4 (高台部)	貯蔵穴	体部は直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。高台部は低く端部は平坦である。貼付部分は一剥離する。体部右回転。	①灰褐色 ②酸化 ③珎 ④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H-32	須恵 埴	9.0 6.0 4.1 (高台部)	覆 土	体部は内彎ぎみに立ち上がり口唇部は尖りぎみ。器高は低い。体部右回転。高台部は内厚で貼付は丁寧で断面は三角形を呈し、端部は平坦。	①灰褐色 ②酸化 ③珎 ④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。黒色鉱物粒もみられる。
5H-33	須恵 埴	— 5.5 — (高台貼付部)	覆 土	高台部は全部が剥落する。底面にへら切り痕。体部はやや段をもって立ち上がる。	①灰白色 ②還元 ③底部 ④白色鉱物粒の他に、黒色鉱物粒が含まれる。
5H-34 (34-14)	須恵 埴	— 6.6 — (高台部)	床 面	体部は内彎ぎみに立ち上がる。高台は端部が外に張り出し平坦面をもつ。貼付は丁寧である。	①灰白色 ②還元 ③珎、口縁欠 ④白色鉱物粒を多く含む。
5H-35	須恵 埴	9.0 5.2 5.0 (高台部)	覆 土	体部はやや内彎ぎみに立ち上がり、口唇部は尖る。高台貼付部に凹面をもち強く外反する。端部は尖りぎみであるが一部歪む。	①青灰白 ②還元 ③珎 ④白色鉱物粒を多く含む。
5H-36	須恵 埴	— 5.9 — (高台部)	覆 土	高台は低く、端部は丸みをもつ。底面に回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部 ④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H-37	須恵 埴	— 6.0 — (高台部)	覆 土	高台部は内厚で低く、端部は外側に面をもつ。底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①灰褐色 ②酸化 ③底部 ④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H-38	須恵 埴	— 8.2 — (高台部)	覆 土	全体的に内厚である。高台部はわずかに外側に張り出し端部は平坦である。体部右回転。	①青灰色 ②還元 ③底部珎 ④白色鉱物粒を多く含む他、黒色鉱物粒もみられる。
5H-39	須恵 埴	— 5.8 — (高台部)	覆 土	高台は外側に張り出し端部は外反ぎみに尖る。貼付は丁寧でしっかりしている。体部右回転。	①灰白色 ②還元 ③底部珎 ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒を含む。
5H-40	須恵 蓋	— 3.4 — (ツマミ部)	覆 土	天井部上面はへら削りが施され、中央部の中くほみのツマミが付けられ、わずかに歪む。ロクロ成形。体部左回転。	①青灰色 ②還元 ③天井部 ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒を含む。
5H-41	須恵 蓋	14.4 — —	覆 土	天井部はわずかな高まりをもつ。口縁部は体部から垂下し端部は尖りぎみとなる。	①灰白色 ②還元 ③体部珎 ④白色鉱物粒が多く、石英粒も多少含まれる。
5H-42	須恵 蓋	13.0 13.4 —	床 面	天井部末端が突出し、その内側に口縁が垂下する。端部は平坦面をもつ。	①灰白色 ②還元 ③体部珎 ④白色鉱物粒が多く含まれる。
5H-43	須恵 蓋	— — —	覆 土	内厚の天井部中央にリング状ツマミが付く。貼付は丁寧でしっかりしている。ロクロ成形。体部左回転。	①灰白色 ②還元 ③体部珎 ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒が含まれる。
5H-44	須恵 蓋	20.6 — —	覆 土	頸部がくの字状に撻れ、口縁部は短く外側に面をもつ。口唇部は直立し尖る。	①灰白色 ②還元 ③口縁部珎 ④黒色鉱物粒が多く、白色鉱物粒がやや含まれる。

IV 検出された遺構と遺物

5号住居址出土土器観察表(4)

5H-45	須恵 壺	24.0	—	—	覆土	頸部は強く括れ、口縁部は段をもち外面に面がある。口唇部は尖りぎみである。	①褐色 ②酸化 ③口縁片 ④白色鉱物粒が多く含まれる。
5H-46	須恵 壺	24.0	—	—	覆土	頸部の括れはゆるやかで、口唇部は有段となり外側に面をもつ。口唇部は直立し尖りぎみである。	①灰白色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒を多く含む。石英粒多少含まれる。
5H-47 (35-1)	須恵 長頸壺	8.3	—	—	床面	頸部はやや開きぎみに立ち上る。口縁部は外側に面をもち、口唇部は尖る。	①青灰色 ②還元 ③頸部 ④白色鉱物粒を多く含む。黒色鉱物粒もみられる。
5H-48 (35-2)	須恵 小型壺	—	4.8	—	床面	ロクロ成形。底部は非常に器内が薄く、体部は肉厚である。	①青灰色 ②還元 ③口縁欠 ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒を含む。
5H-49 (35-3)	壺	16.4	17.6	—	床面	口縁部は短くわずかに反折する。口唇部は丸みをもつ。体部はゆるやかに彎曲し上半部に最大径をもつ。横ナデ整形。	①灰褐色 ②酸化 ③片、底部欠 ④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H-50	壺	11.0	13.0	—	床面	体部は上半に最大径をもちゆるやかに彎曲する。口縁部は短く直立し、口唇部は丸みをもつ。内外面とも横ナデ。	①灰褐色 ②酸化 ③片、底部欠 ④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。⑤胎土分析資料9
5H-51 (35-4)	須恵 壺	21.7	19.0	—		体部は彎曲ぎみに立ち上がり括れた頸部から短い口縁部に至る。口縁部は反折し段をもち口唇部は尖りぎみに直立する。内外面横ナデ。	①灰褐色 ②酸化 ③片、底部欠 ④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H-52	須恵 羽釜	—	18.0	—	床面	体部はやや彎曲をもつ。外面には下から上方への縦位へラ削り。内面にはへラナデづけが行われる。	①灰褐色 ②酸化 ③片 ④白色鉱物粒および砂粒を多く含む。石英粒も含まれる。
5H-53	須恵 羽釜	—	21.5	—	覆土	体部上半に向って狭らみぎみに開く。外面は下から上方への縦位へラ削り。内面は横位のへラナデづけが行われる。	①灰褐色 ②酸化 ③片 ④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H-54 (35-6)	須恵 羽釜	—	19.1	—	床面 カマド	体部外面に下から上方への縦位へラ削り。内面にはへラナデづけが行われる。又内面には輪積み痕が明瞭に残る。	①灰褐色 ②酸化 ③片 ④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H-55	須恵 羽釜	—	20.8	—	床面	体部中央に最大径をもつ。外面には下から上方への縦位へラ削り。内面にはへラナデづけが行われる。	①灰褐色 ②酸化 ③片 ④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H-56	須恵 羽釜	—	19.6	—	床面	体部中央に最大径をもつ。外面は下から上方への縦位へラ削り。内面にはへラナデづけが行われる。輪積み痕が明瞭に残る。	①灰褐色 ②酸化 ③片 ④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H-57	須恵 羽釜	—	—	—	床面	体部外面には下から上方への縦位へラ削り。内面は横位のへラナデづけが行われ、輪積み痕が明瞭に残る。	①灰白色 ②還元 ③片 ④白色鉱物粒を多く含む。
5H-58	須恵 羽釜	—	21.0	—	床面	体部外面は下から上方への縦位へラ削り。内面には輪積み痕が残る。凹凸がある。	①灰褐色 ②酸化 ③体部片 ④砂粒、白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H-59	須恵 羽釜	—	—	—	床面	体部外面には下から上方への縦位へラ削り。内面には横ナデが行われ、輪積み痕が残る。凹凸がある。	①灰褐色 ②酸化 ③体部片 ④砂粒、白色鉱物粒および石英粒を多く含む。

1. 平安時代の遺構と遺物（5号住居址）

5号住居址出土土器観察表（5）

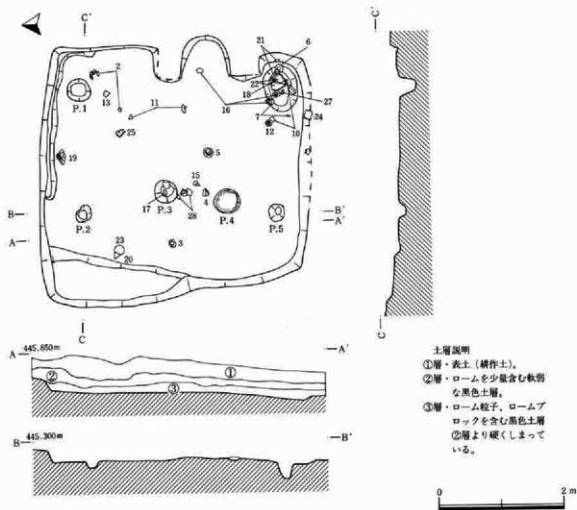
5H-60	須恵 羽釜	— 11.0 —	床 面	内厚の底部からやや彎曲ぎみに立ち上がる。外面は下から上方への縦位へう削りが行われる。内面には輪襖み痕が明瞭に残る。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅳ ④白色鉱物粒および砂粒を多く含む。
5H-61	須恵 甕	19.8 — (頸部)	覆 土	体部上半はあまり彎曲せず頸部はわずかに括れる。内外面とも横ナデ調整が行われる。内面にはカーボンが吸着する。	①褐色 ②酸化 ③頸部片 ④白色鉱物粒を多く含む他、石英粒もわずかにみられる。
5H-62	須恵 甕	— 9.0 — (高台貼付部)	覆 土	ロクロ成形。体部右回転。高台部は全部剥落し、貼付痕がみられる。	①青灰色 ②還元 ③Ⅳ ④白色鉱物粒を多く含む他、石英粒もわずかにみられる。
5H-63 (35-5)	甕	— 6.0 —	床 面	底部から彎曲ぎみに立ち上がる。体部下半に斜位のへう削りが行われる。内面は横ナデによる調整が行われる。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅳ ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
5H-64 (35-7)	須恵 羽釜	18.0 8.0 30.0	床 面 土	体部上半がやや脹らみ、口縁部はほぼ直立する。口唇部上に凹面をもつ。踵は三角形を呈す。口縁部横ナデ。体部は下からの縦位へう削り。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④砂粒、白色鉱物粒を多く含む、石英粒もわずかに認められる。
5H-65 (35-8)	須恵 羽釜	19.0 7.6 30.0	床 面 貯蔵穴	体部上半がやや脹らみ、口縁部は直立する。口唇部上に凹面をもつ。踵は三角形を呈し、下端に体部下からの縦位へう削りの止め押え痕。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④砂粒 白色鉱物粒を多く含む、石英粒も認められる。
5H-66 (36-4)	須恵 羽釜	18.0 — —	床 面 覆 土	体部上半にやや脹らみをもち、口縁部はほぼ直立し、口唇部上に凹面あり。踵は三角形を呈す。口縁部横ナデ。体部は下からの縦位へう削り。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④砂粒を多く含む、石英粒もわずかにみられる。
5H-67 (36-2)	須恵 羽釜	18.0 — —	床 面	体部上半はやや脹らみ、口縁部はわずかに内彎する。口唇部上に凹面をもつ。踵は三角形を呈し下部に体部へう削りの止め押え痕。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅴ ④砂粒、白色鉱物粒および石英粒が多く含まれる。
5H-68 (36-1)	須恵 羽釜	21.2 7.2 28.0	床 面	体部下半でわずかに彎曲し上半から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。口唇部上に凹面をもつ。踵は三角形で、体部は下からの縦位へう削り。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅳ ④砂粒、3〜4mmの小礫および石英粒を含む。
5H-69 (36-6)	須恵 羽釜	16.6 — —	床 面 覆 土	体部上半がわずかに脹らみ、口縁部は直立する。口唇部上面はやや外傾する。踵は三角形を呈す。口縁部横ナデ。体部は下からの縦位へう削り。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅳ ④砂粒、2mm前後の小礫および石英粒が含まれる。
5H-70 (36-5)	須恵 羽釜	19.4 — —	床 面	体部上半から口縁部にかけてほぼ直線的に立ち上がる。口唇部上に凹面をもつ。踵は細長い三角形を呈す。口唇部横ナデ。体部縦位へう削り。	①灰白色 ②還元 ③Ⅴ ④砂粒、白色鉱物粒を多く含む他、石英粒もみられる。
5H-71 (37-1)	須恵 羽釜	18.0 — —	床 面	体部中央がやや脹らみぎみで、口縁部は直立する。口唇部は平坦である。踵は三角形を呈しやや長い。口縁部横ナデ。体部は縦位へう削り。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅳ ④砂粒、白色鉱物粒および石英粒を多く含む。
5H-72 (37-2)	須恵 羽釜	20.6 — —	床 面	体部上半から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。口唇部上に凹面をもつ。踵は三角形を呈す。口縁部横ナデ。体部は下からの縦位へう削り。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅳ ④砂粒、石英粒が多く含まれる。
5H-73 (36-3)	須恵 羽釜	16.0 — —	床 面	体部上半がやや脹らむ。口縁部は直立し、口唇部は平坦面をもつ。踵は三角形。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅳ ④砂粒、石英粒が多く含まれる。

IV 検出された遺構と遺物

6号住居址(第35図、図版6)

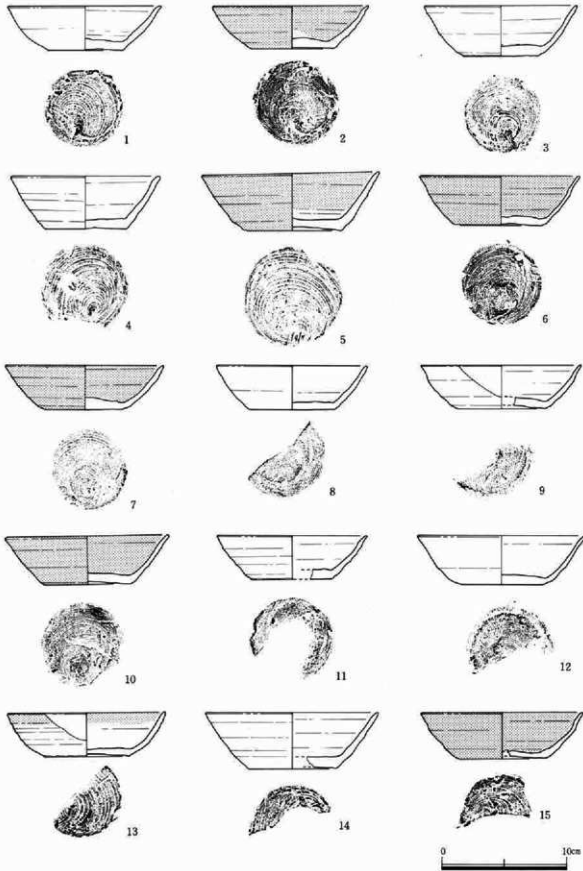
J・K-79-80グリッドに位置する。平面形は長辺4.35m、短辺4.1mを測り、ほぼ正方形プランを呈する。面積は約17.8㎡、主軸方位はN-94°-Eである。北西コーナー部分に張り出し部をもち、この部分は床面より10cm高く段状になっている。床面は良好な状態で検出され、ローム地山を固く踏みしめて床としており、ほぼ水平に構築されている。残存壁高は、東側で10cm、西側で10cmを測る。柱穴は北側壁付近に2本、南西コーナー付近に1本、計3本確認された。又、住居址中央部に口径35cm、深さ30cmのpitが1つ検出された。覆土の状態により本址に伴うものである。このpitから南へ1mのところに径30cm、厚さ10cmの扁平な河原石が床面をわずかに掘り窪めた部分に設置した状態で検出された。石上面は、床面と同じレベルである。この石は特に加工された痕跡は認められないが、上面は多少増減している。周溝は幅10cm、深さ10cmのものが北東コーナー部分に巡らされる。南東コーナー部には長径72cm、短径55cm、深さ4cmを測る貯蔵穴が検出された。カマドは東壁中央寄りに設けられる。残存状態は悪く、掘り方が検出されただけである。地山を掘り残し袖部を作り出しており、この部分から75cm東壁を掘り込み主体部を設けている。床掘り込みはみられない。

遺物はカマド及び貯蔵穴を中心とした住居東半に集中して出土している。



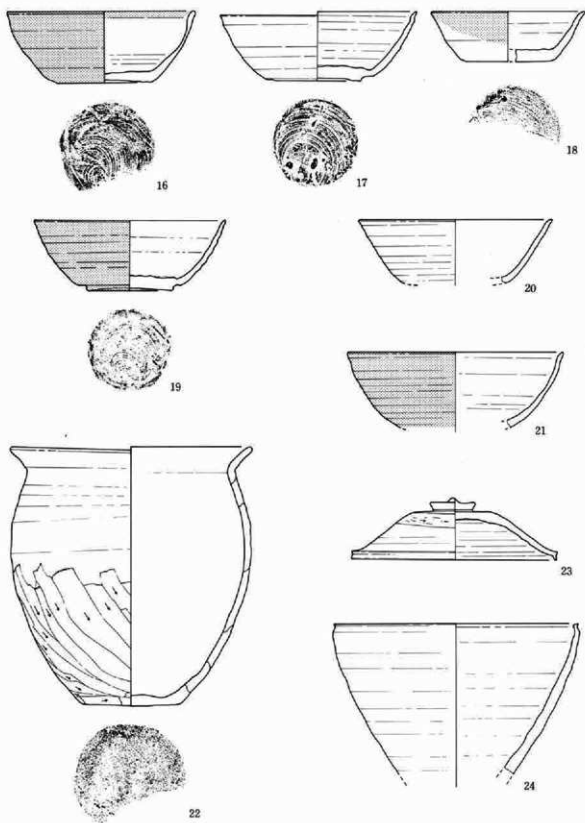
第35図 6号住居址実測図

1. 平安時代の遺構と遺物 (6号住居址)



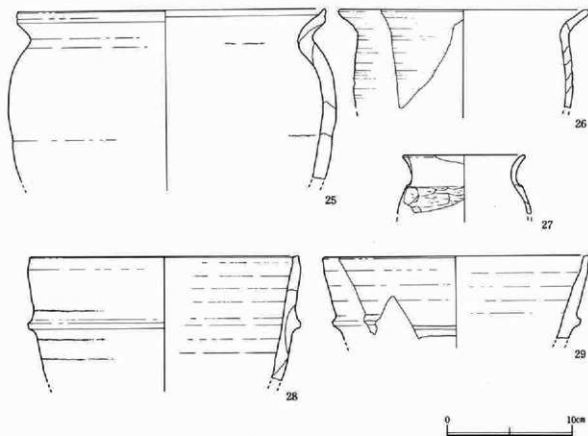
第36図 6号住居址出土土器(1)

IV 検出された遺構と遺物



第37図 6号住居址出土土器(2)

1. 平安時代の遺構と遺物 (6号住居址)



第38図 6号住居址出土土器(3)

6号住居址出土土器観察表(1)

遺物番号 (図版No)	器形	法 口径	底 径	高 器高	出土 位置	成形・整形の特徴	①色 ④土	②焼 ⑤考	③残 存
6H-1 (37-3)	須恵 環	12.3	6.0	3.6	覆土	底部からほぼ直線的に立ち上がり、口唇部はわずかに外反し、口唇部は尖りぎみである。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色	②酸化	③% ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒および石英粒が含まれる。
6H-2 (37-4)	須恵 環 イブシ	12.6	6.7	3.4	床面 覆土	体部はわずかに彎曲し、口唇部は外反りぎみで口唇部は尖りぎみである。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色	②酸化	③% ④白色鉱物粒が多く含まれる。
6H-3 (37-5)	須恵 環	12.2	6.0	4.0	床面 覆土	口唇部はやや歪みをもつ。体部は直線的に立ち上がり口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色	②還元	③% ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒が含まれるが、量的には少ない。
6H-4 (37-6)	須恵 環	12.0	6.5	4.2	床面	底部から口唇部にかけて直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色	②還元	③% ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒の他、石英粒もわずかに含まれる。
6H-5 (37-7)	須恵 環 イブシ	14.4	8.0	4.5	床面	底部はわずかに段をもち、体部は口唇部にかけて直線的に立ち上がり口唇部を絞る。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色	②酸化	③% ④白色鉱物粒が多く、石英粒も含まれる。
6H-6 (37-8)	須恵 環 イブシ	12.8	6.4	3.9	床面 覆土	口唇部はわずかに外反し、口唇部はやや尖りぎみとなる。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色	②酸化	③% ④白色鉱物粒が多く含まれる。石英粒もやや混じる。

IV 検出された遺構と遺物

6号住居址出土土器観察表(2)

6H-7 (37-9)	須恵 坏 イブシ	12.7	6.3	3.5	床 面 覆 土	底部からやや内彎ぎみに立ち上がる。口唇部は 尖りぎみで内側に面をもつ。体部にロクロ目が 残る。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅲ ④白色鉱 物粒および石英粒が含まれる。
6H-8	須恵 坏	12.2	6.8	3.5	覆 土	体部はやや内彎ぎみに立ち上がる。底面に左回 転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③Ⅲ ④白色鉱 物粒を含む。
6H-9 (37-10)	須恵 坏	12.8	7.0	3.4	床 面	口縁部に凹面をもちやや外反し、口唇部は尖り ぎみとなる。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③Ⅲ ④白色鉱 物粒、黒色鉱物粒が多く、石英粒も 多少含まれる。
6H-10 (37-11)	須恵 坏 イブシ	13.2	6.8	3.9	床 面	口縁部はやや外反し、口唇部は丸みをもつ。底 面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅲ ④白色鉱 物粒が多く含まれる。
6H-11 (37-12)	須恵 坏	12.0	6.4	3.4	床 面	体部にロクロ目が残り、口縁部はやや外反し内 側に面をもつ。体部右回転。	①灰白色 ②還元 ③Ⅲ ④黒色鉱 物粒および石英粒が含まれる。
6H-12 (37-13)	須恵 坏	13.4	6.4	3.9	床 面 覆 土	体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部はわず かに外反する。口唇部はやや尖りぎみとなる。 底面に回転糸切り痕。体部左回転。	①灰白色 ②還元 ③Ⅲ ④砂粒を 多く含む。石英粒もみられる。
6H-13 (37-14)	須恵 坏 イブシ	12.7	6.8	3.5	床 面	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は丸みをも つ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③Ⅲ ④白色鉱 物粒を含む。石英粒もわずかにみら れる。
6H-14	須恵 坏	14.0	7.0	4.5	覆 土	底部から口縁部にかけてほぼ直線的に立ち上 がる。口唇部はやや尖りぎみとなる。底面に回 転糸切り痕。体部右回転。	①灰白色 ②還元 ③Ⅲ ④白色鉱 物粒の他、石英粒も比較的多く含ま れる。
6H-15	須恵 坏 イブシ	13.0	7.0	3.7	床 面	体部にロクロ目が残り、口唇部はわずかに外反 し、口唇部はやや尖りぎみとなる。底面に右回 転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅲ ④白色鉱 物粒を多く含む。
6H-16 (37-15)	須恵 坏 イブシ	15.0	7.5	5.7	床 面	体部はやや内彎ぎみに立ち上がり、口縁部内側 は肥厚し、口唇部は丸みをもつ。底面に右回 転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③白色鉱物粒を 多く含む。石英粒もわずかにみら れる。
6H-17 (37-16)	須恵 坏	15.7	7.0	5.5	床 面 覆 土	体部はやや彎曲し、口縁部に稜をもち尖りぎみ の口唇部に至る。体部にロクロ目が残る。底面 に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③Ⅲ ④4mm前 後の黒色鉱物粒が含まれる。
6H-18 (38-1)	須恵 坏 イブシ	12.4	7.0	4.0	床 面	体部は直線的に立ち上がり、口縁部は外反ぎみ に開く。口唇部は尖りぎみとなる。底面に回 転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③Ⅲ ④砂粒、 白色鉱物粒が多く含まれ、石英粒も わずかにみられる。
6H-19 (38-2)	須恵 坏 イブシ	15.4	6.8	5.6	床 面	底部は段状に残り、体部はやや彎曲ぎみに立ち 上がる。体部にロクロ目。底面に右回転糸切り 痕。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅲ ④白色鉱 物粒が多く含まれる。
6H-20	須恵 坏	15.5	—	—	床 面 覆 土	体部にロクロ目が残り、口唇部はやや尖りぎみ となり、内側に面をもつ。	①灰白色 ②還元 ③体部Ⅲ ④白 色鉱物粒が多く、石英粒もわずかに 含まれる。
6H-21	須恵 坏 イブシ	17.4	—	—	床 面 覆 土	体部上半にわずかに稜をもつ。口縁部内側はや や肥厚する。体部右回転。	①灰褐色 ②酸化 ③体部Ⅲ ④白 色鉱物粒および石英粒を含む。

1. 平安時代の遺構と遺物（7号住居址）

6号住居址出土土器観察表（3）

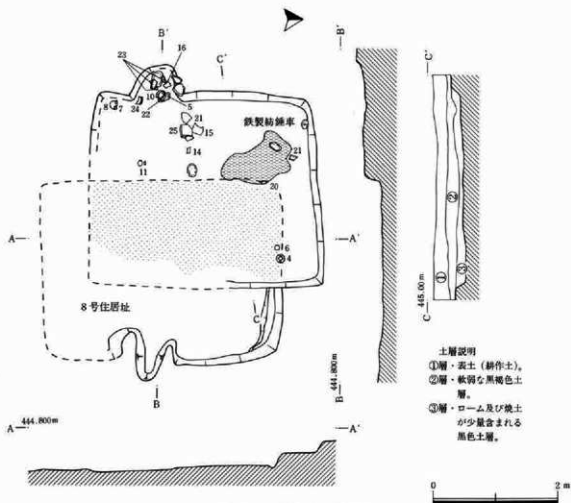
6H-22 (38-5)	要	19.4	7.8	20.5	床面	口縁部はくの字に屈曲し口唇部は丸い、体部は脹らみをもち口径と一致する。口縁部から体部上半は横ナデ。下半は下方への斜位ヘラ削り。	①褐色 ②酸化 ③ $\frac{1}{2}$ ④砂粒、白色鉱物粒を多く含む、石英粒もみられる。
6H-23 (38-3)	須恵 蓋	16.4	3.6	5.0	床面	天井部はヘラ削りが行われ、中央にボタン状ツマミが付く。体部は直線的に開き、縁辺に壁をもちやや内側から口縁部が垂下し縁部は尖る。	①灰白色 ②還元 ③完形 ④黒色鉱物粒が多く含まれる。⑤焼成時に亀裂が入る。
6H-24 (38-4)	須恵 鉢	19.6	—	—	床面	体部は開きぎみに立ち上り、口縁部はやや内彎する。口唇部は器内が薄く尖り、外側に折れ曲る。	①青灰色 ②還元 ③ $\frac{1}{2}$ ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒を含む。
6H-25 (38-8)	須恵 甕	24.6	26.2	—	床面	頸部は強く屈曲し、口縁部は外側に面をもち直立する。口唇部は尖る。	①灰褐色 ②酸化 ③ $\frac{1}{2}$ ④白色鉱物粒を多く含む他、石英粒もみられる。
6H-26	土師 甕	20.0	17.5	—	覆土	口縁部はくの字状に屈曲し、口縁部に最大径をもつ。口唇部は丸みをもつ。横ナデ調整。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
6H-27	土師 小型壺	9.8	—	—	床面	体部上半は横位のヘラ削りが行われ、口縁部は強く外反する。口唇部は丸みをもつ。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④砂粒、石英粒を多く含む。
6H-28 (38-7)	須恵 甕	21.6	—	—	床面	体部は開きぎみに立ち上り、口縁部はやや内彎する。口唇部は平直面をもちやや内傾する。踵は断面台形を呈し、貼付は丁家である。	①青灰色 ②還元 ③口縁部 $\frac{1}{2}$ ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒を多く含む。⑤横ナデ整形
6H-29 (38-7)	須恵 甕	21.2	—	—	覆土	体部は開きぎみに立ち上り、口縁部はやや内彎する。口唇部は平直面をもつ。踵は断面台形を呈し、貼付は丁家である。横ナデ整形。	①青灰色 ②還元 ③口縁部 $\frac{1}{2}$ ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒を多く含む。

7号住居址（第39図、図版7）

K・L-76・77グリッドに位置する。8号住居址を切って構築されている。南東コーナーを中心とした壁は耕作等による擾乱によりほとんど消失している。又、遺構内に耕作溝が数列東西に走っているため、特にカマドの残存状態は良くない。平面形は、長辺3.7m、短辺3.1mの長方形プランを呈し、面積は約11.5m²、主軸方位はN-90°-Wを測る。床面は、住居西半部は地山（ローム）を床面とし、8号住居址と重複する東半分は貼り床とし、硬く踏み固められた良好なものであった。面はほぼ水平である。壁は南東部分は不明であるが、平均残存壁高は14cmでありほぼ直に立ち上る。柱穴は不明である。周溝はみられない。カマド部に用いたと考えられる礫が数個認められたが、全て原位置を失っている。

遺物は全て床面直上において検出されたものであり、坏、甕類の他、北西コーナー付近には鉄製紡錘車が1点出土している。住居中央部に検出された骨蔵器（No3）は、本址廃絶後に埋置されたものであり、共存するものではない。骨蔵器周辺に認められる数個の礫も骨蔵器に伴うものと判断される。

IV 検出された遺構と遺物

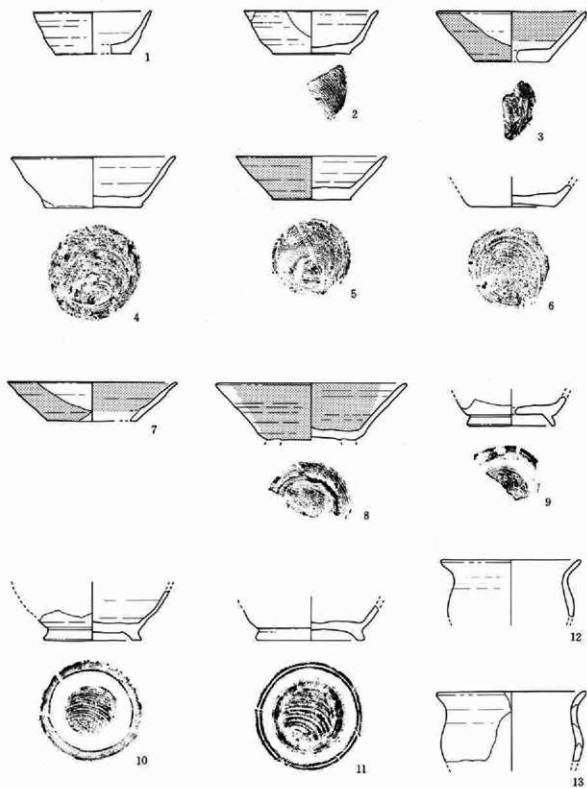


第39図 7号住居址実測図

7号候居址出土土器観察表(1)

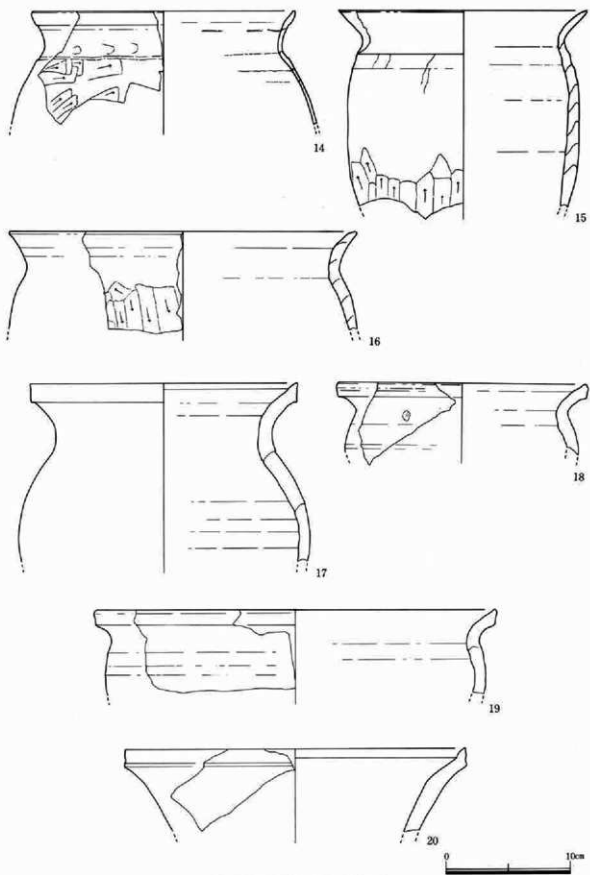
遺物番号 (図説No)	器種形	口径	底径	高さ	出土 位置	成形・整形の特徴	①色調 ②胎土	③焼成 ④備考	⑤残存	
7H-1	須恵 坏	9.5	6.0	3.4	覆土	底部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。口唇部は尖る。底面に回転糸切り痕。体部左回転。	①灰褐色	②還元	③片	④白色鉱物粒を含む。
7H-2	須恵 坏	10.8	6.0	3.5	覆土	底部はわずかに段をもつ。体部にはロクロ目が残り、口唇部は尖る。底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①灰褐色	②酸化	③片	④白色鉱物粒および石英粒を含む。
7H-3	須恵 坏 イブシ	12.0	6.0	4.0	覆土	底部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。口唇部はやや尖りぎみとなる。底面に回転糸切り痕。体部左回転。	①灰褐色	②酸化	③片	④白色鉱物粒および石英粒を含む。
7H-4 (39-2)	須恵 坏	13.2	7.6	4.1	床面	体部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反さみ。底部は内厚で底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色	②酸化	③底部片	④白色鉱物粒。石英粒を含む他、夾雑物が多い。

1. 平安時代の遺構と遺物（7号住居址）



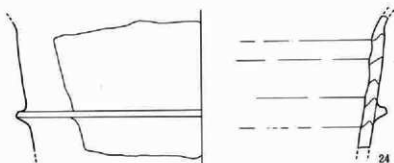
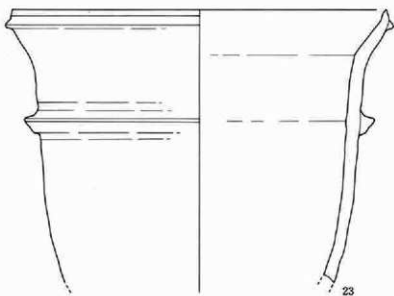
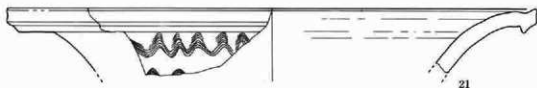
第40图 7号住居址出土土器(1)

IV 検出された遺構と遺物



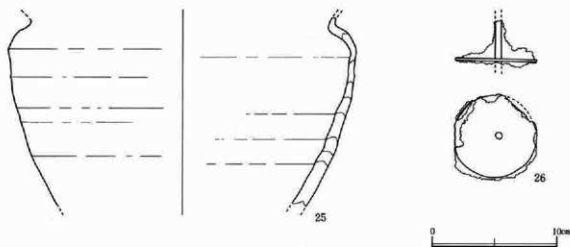
第41図 7号住居址出土土器(2)

1. 平安時代の遺構と遺物 (7号住居址)



第42図 7号住居址出土土器(3)

IV 検出された遺構と遺物



第43図 7号住居址出土遺物(4)

7号住居址出土土器観察表(2)

7H-5 (39-1)	須志 坏 イブシ	12.0 6.2 3.5	床面	体部は直線的に立ち上がり、口唇部は突る。底部は肉厚で、底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③灰 ④3mm前後の小礫および石英粒が含まれる。
7H-6	須志 坏	— 6.6 —	床面	底部縁辺が肉厚。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部 ④白色鉱物粒。黒色鉱物粒を多く含む、石英粒もわずかにみられる。
7H-7	須志 坏 イブシ	13.6 7.0 3.1	床面	体部は直線的でかなり強く開く。口唇部はやや尖りぎみとなる。底面に回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③灰 ④白色鉱物粒を多く含む、石英粒もわずかにみられる。
7H-8 (39-3)	須志 埴 イブシ	15.4 7.0 — (高台部付)	床面 覆土	高台部は全部剥落する。底面に回転糸切り痕。体部下半にわずかに痕らみをもつ。口唇部にかげ直線的に立ち上がる。口唇部は丸みをもつ。	①灰白色 ②還元 ③灰 ④砂粒、白色鉱物粒の他に、石英粒も目立つ。
7H-9	須志 埴	— 7.0 — (高台部)	覆土	高台部は外側に張り出し、端部は丸みをもつ。貼付部に凹面をもつ。体部左回転。	①灰白色 ②還元 ③灰、口唇部欠 ④白色鉱物粒。黒色鉱物粒を含む。
7H-10	須志 埴	— 7.8 — (高台部)	床面	高台部は短く、端部は平坦面をもつ。底面に回転糸切り痕。貼付は丁寧である。	①灰褐色 ②酸化 ③口唇部欠 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
7H-11	須志 埴 (高台部)	— 8.6 —	床面	高台部は短く外側に張り出し、端部は平坦面をもち中央に凹線がみられる。貼付は丁寧である。底面に回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③口唇部欠 ④白色鉱物粒を多く含む。
7H-12 (39-4)	小型埴	11.2 — —	覆土	口唇部はくの字状に屈曲し、口唇部は丸みもちわずかに肥厚する。横ナゲ調整を行う。	①灰褐色 ②酸化 ③灰 ④砂粒、白色鉱物粒を含む。 ⑤二次焼成をうけた痕跡あり。
7H-13 (39-5)	小型埴	12.0 — —	覆土	口唇部はゆるやかに外反し、口唇部は丸みをもつ。口唇部に最大径をもつ。	①褐色 ②酸化 ③灰 ④白色鉱物粒および石英粒を多く含む。 ⑤頸部内側にカーボン付着。
7H-14 (39-6)	土師 埴	21.2 — —	床面 覆土	コの字状口縁をもつ。屈曲部両端は工具による横ナゲが行われる。体部上半は左下から右上への斜位へテ削り。	①褐色 ②酸化 ③灰 ④砂粒、白色鉱物粒を含む。石英粒もわずかにみられる。

1. 平安時代の遺構と遺物（8号住居址）

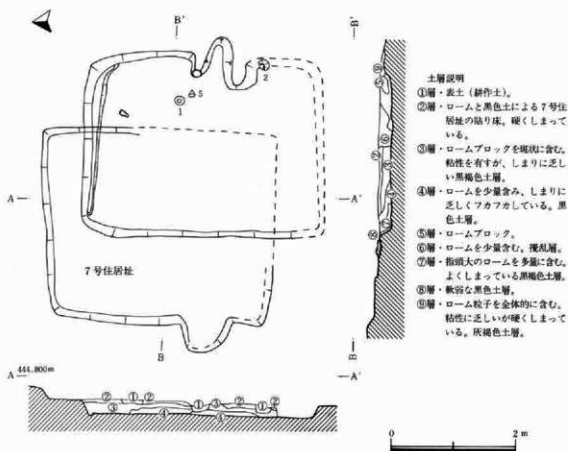
7号住居址出土遺物観察表（3）

7H-15 (39-7)	須恵 壘	20.0	—	—	床 面	口縁部はくの字状に外反。頸部下縁は強い横ナデが行われわずかに稜をもつ。口唇部は尖りざみ。体部下半には下から上への縦位ヘラ削り。	①灰白色 ②還元 ③底部欠 ④白色鉱物粒を多く含む、石英粒もみられる。
7H-16 (39-8)	土師 壘	28.0	—	—	床 面	口縁部はくの字状に外反する。口縁部は横ナデ。体部は下から上方向への縦位ヘラ削り。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④砂粒、白色鉱物粒を多く含む。石英粒もみられる。
7H-17 (39-10)	須恵 壘	21.4	—	—	覆 土	最大径を口縁部にもつ。体部はゆるやかに彎曲し、口唇部は外側に面をもち尖りざみに立ち上る。	①灰褐色 ②酸化 ③% ④白色および黒色鉱物粒を含む。
7H-18 (39-9)	須恵 壘	20.0	—	—	覆 土	頸部は屈曲し口縁部は外側に面をもつ。口唇部は直立し尖る。横ナデが行われる。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白色鉱物粒を多く含む、石英粒もみられる。 ⑤器外面に炭灰吸着。
7H-19 (40-1)	須恵 壘	32.0	—	—	覆 土	頸部は屈曲し口縁部外反。口縁部は短く外側に面をもつ。口唇部は直立し尖りざみとなる。	①灰白色 ②還元 ③% ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒および石英粒を含む。
7H-20 (40-2)	須恵 壘	27.2	—	—	床 面	口縁部はゆるやかに外反する。口縁上部に断面三角形の稜を一段もち、口唇部は直立し尖る。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を多く含む。
7H-21	須恵 壘	42.4	—	—	床 面	大型の壘。口縁部は大きく外反する。口縁部下縁は断面三角形の凸帯が付き、口唇部は直立し尖る。外面に縦位の横溝文が施される。	①灰褐色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を多く含む。
7H-22	須恵 壘	27.8	—	—	覆 土	頸部から口縁部にかけて大きく外反する。口縁部は外側に面をもち、口唇部は直立し尖る。	①灰白色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒を多く含む、わずかに石英粒もみられる。
7H-23 (40-3)	甌	30.0	—	—	床 面	体部から口縁部にかけてゆるやかに広がる。頸は断面三角形を呈し、やや上向きである。	①灰褐色 ②酸化 ③% ④白色鉱物粒および、石英粒を含む。
7H-24 (40-4)	甌	—	—	—	床 面	頸部はやや丸味をもち、口縁部は外反ぎみに開く。頸はやや上向きで、黏付は丁寧である。	①褐色 ②酸化 ③% ④砂粒、白色鉱物粒を多く含む、石英粒もみられる。
7H-25 (40-5)	須恵 壘	—	24.4 (頸部)	—	床 面	体部上半に強く張りをもつ。輪痕み痕が比較的明瞭に残る。	①灰褐色 ②酸化 ③体部% ④白色鉱物粒および石英粒を含む。
7H-26 (40-6)	鉄製 紡錘車	径 6.5 軸径 0.5	—	—	床 面		①— ②— ③輪部分は大平欠。

8号住居址（第44図、図版7-2）

L・M-76・77グリッドに位置し、東半部は7号住居址により切られる。平面形は長辺3.8m、短辺2.95mの長方形プランを呈し、面積は約11.4m²、主軸方位はN-90°-Eを測る。床面はローム面に構築され固く良好でほぼ水平である。壁は直に立ち上がり、残存壁高は北壁15cm、西壁13cm、南側は消失している。柱穴はみられない。周溝は北壁に沿って幅7cm、深さ5cm、長さ cmの規模をもつ。カマドは東壁中央に設けられる。残存状態は極めて悪く、掘り方下部が検出されたのみである。地山を掘り残し袖部をつくり出し、北面には袖石が1個検出された。出土遺物は少なく、第45図に示した土器類の他は小破片が数点検出された。

IV 検出された遺構と遺物

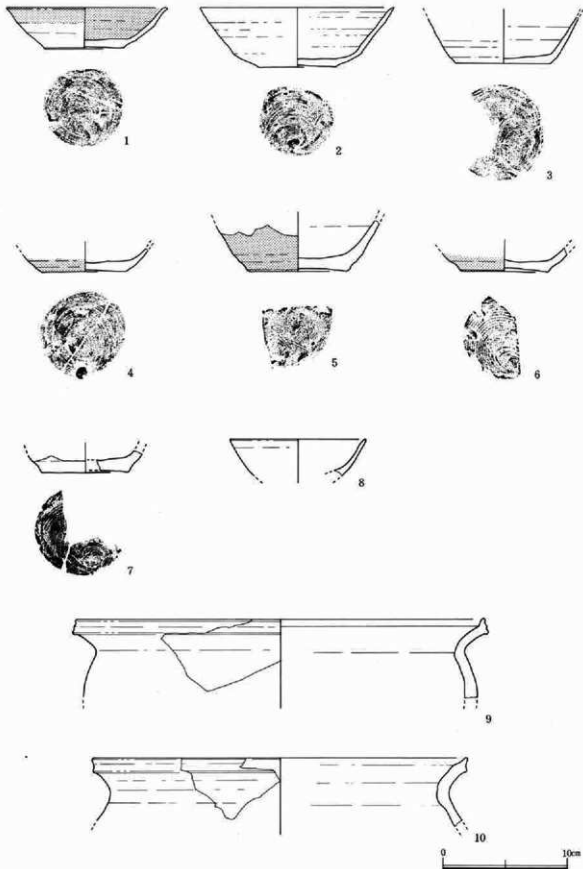


第44図 8号住居址実測図

8号住居址出土土器観察表（1）

遺物番号 (図版No.)	器種 器形	口径 底径	高さ	器高	出土 位置	成形・整形の特徴	①色 ④胎土	②酸化 ⑤備考	③残存	
8H-1 (40-7)	須恵 環 イブシ	13.0	6.4	3.3	床面	体部上半にわずかな稜をもち、口縁部はやや外反する。口唇部は丸みをもつ。口縁に比し器高は浅い。底面に右回転糸切り痕。	①褐色	②酸化	③完形	④白色鉱物粒を含む。
8H-2 (40-8)	須恵 環	15.6	6.2	4.7	床面	体部下半に稜をもち、口縁部に向け直線的に立ち上がる。口唇部は尖る。器内は薄く、底径に比し、口径が大きい。底面に左回転糸切り痕。	①褐色	②酸化	③片	④白色鉱物粒を含む。
8H-3	須恵 環	—	7.6	—	覆土	底部中央がやや薄くなるが、器厚は一定している。底面に左回転糸切り痕。切り直しがみられる。	①灰白色	②還元	③口縁部欠	④白色鉱物粒を含む。腐
8H-4	須恵 環 イブシ	—	7.0	—	覆土	体部下半はやや強く立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①褐色	②酸化	③底部	④白色鉱物粒を含む。

1. 平安時代の遺構と遺物 (8号住居址)



第45図 8号住居址出土土器

IV 検出された遺構と遺物

8号住居址出土土器観察表(2)

8H-5	須恵 環 イブシ	-	7.8	-	床 面	全体的に肉厚。体部にロクロ目が残り下端に凹面をもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③灰 ④白色鉱物粒を含む。
8H-6	須恵 環 イブシ	-	6.8	-	覆 土	体部下端に凹面をもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部灰 ④白色鉱物粒を含む。
8H-7	須恵 環	-	7.0	-	覆 土	体部下端に凹面をもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部灰 ④白色鉱物粒を含む。
8H-8	須恵 環	11.0	-	-	覆 土	体部はほぼ直線的に立ち上がり、口唇部は尖りざみである。体部右回転。	①青灰色 ②還元 ③体部灰 ④白色鉱物粒を含む。
8H-9	須恵 甕	32.7	-	-	覆 土	頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外反し外側に面をもち、口唇部は尖りざみに直立する。口縁部横ナデ調整。	①青灰色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒を含む。
8H-10	須恵 甕	30.2	-	-	覆 土	口縁部は強く外反し、外側に面をもち沈線が1条走る。口唇部はやや丸みをもち直立する。口縁部横ナデ調整。	①灰白色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒を含む。

住居址一覧表

No	グリッド	形 状	規 模 (m)	ピット規模 (径×深さ) cm	カマド位置	主軸方位	時 期
1	D-86, 87 E-86, 87	正 方 形	3.30×3.35±11.06	①37×74 ②70×48 ③43×38 ④37×30	南	N-176°-E	10 C 前 半
2	I-87, 88 J-87, 88 K-87, 88	長 方 形	3.90×3.40±13.26	①33×21 ②38×34 ③27×25 ④24×15 ⑤46×30	東	N-101°-E	9 C 後 半
3	F-85 G-85, 86 H-85, 86	正 方 形	4.05×4.10±16.61		東	N-98°-E	9 C 後 半
4	G-85, 86 H-85, 86	不 整 正 方 形	4.15×3.75±15.56	①30×12 ②40×66×20	西	N-64°-W	10 C 前 半
5	H-86, 87 I-86, 87	長 方 形	3.08×4.20±12.6	①55×30 ②32×15	東	N-90°-E	10 C 中 ~ 後
6	J-79, 80 K-79, 80 L-79, 80	不 整 正 方 形	4.18×4.35±17.84	①37×28 ②26×12 ③36×30 ④41×5 ⑤25×25	東	N-94°-E	9 C 後 半
7	K-76, 77 L-76, 77	長 方 形	3.18×3.70±11.47		西	N-90°-W	10 C 前 半
8	L-76, 77 M-76, 77	長 方 形	2.95×3.85±11.36		東	N-90°-E	9 C 後 半

(2) 粘土採掘坑

本遺跡の調査により確認された遺構の中で最も規模が大きく特徴的なものは粘土採掘坑である。この採掘坑は連続的に掘削作業が行われているため、規模は大きなものから小さなものまで様々であり、一回の採掘作業を単位として捉えることはかなり困難が生じる。ここでは採掘坑として連続しているものを群として捉えることとし、以下その内容を記述する。

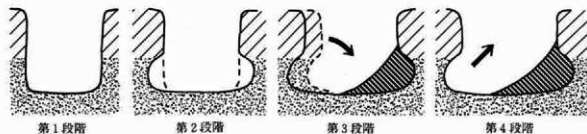
今回の発掘調査により第1群から第11群にわたる粘土採掘坑を検出し得た。各群ともローム層下に堆積する白色粘土の採掘を目的としており、採掘坑底部の白色粘土を掘り取るとともに壁部分の粘土もえぐり取っている。規模の大きなものはこの作業が連続的に行われたことを示し、各群の規模の大小はこの作業の連続性に起因している。又、採掘坑は大半が遺跡北半に位置している。これは、この遺跡における白色粘土層の堆積状態によるものであり、両側に向かって粘土層が薄くなっており、効率的な作業を行うため北半に集中したものであろう。又、調査区北についても試掘調査を実施したが、採掘坑の存在は認められない。このことから、採掘坑は西側へ広がるのが考えられるが、南・北及び東側は調査区域内で限定されると思われる。

採掘坑底面にはグリーンタフが多く含まれており壁部分にはほとんど見られないことから不純物の少ない良質の粘土のみを掘り取っていると考えられる。

本遺跡における採掘坑は壱坑を基本とし、これを連続的に拡張することにより粘土の採掘を行っている。この採掘方法を模式的に示すと次のようになる。(第46図)

- 第1段階 壱坑の掘削の後、底部の粘土の採掘
- 第2段階 壁部分の粘土の採掘
- 第3段階 採掘坑の拡張及び旧坑の埋め戻し
- 第4段階 拡張部分の粘土の採掘

以上のような作業の連続的な繰り返しが粘土採掘坑の基本的な方法と考えられる。この間に廃坑となった採掘坑の凹みとして残っている部分に土器類の廃棄も行われている。採掘坑内から出土する遺物は概ね採掘坑廃棄後に流れ込んだ黒色土及び黒褐色土層中より検出される。

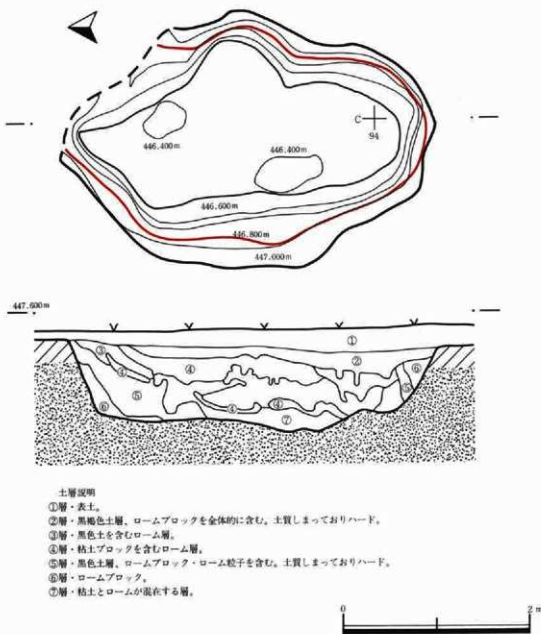


第46図 粘土採掘坑掘削模式図

IV 検出された遺構と遺物

第1群粘土採掘坑（第47図、図版8-1）

B・C-93・94グリッドに位置し、第3群および第4群粘土採掘坑の間に掘削される。北壁部は7号土坑により切られている。平面形は4m×2.7mの不整形円形プランを呈し、深さは80cmを測る。面積（開口部）は7.68㎡、白色粘土採掘量は3.51㎡である。1㎡当たりの粘土採掘量は0.46㎡となり、他群に比べ量も高い数値を示している。規模は比較的小さく、2回から3回程度の採掘作業が行われたものと考えられる。壁は直線的に立ち上がりオーバーハングする部分は見られない。底面は起伏をもち、グリーンタフの小礫が含まれている。遺物は出土していない。

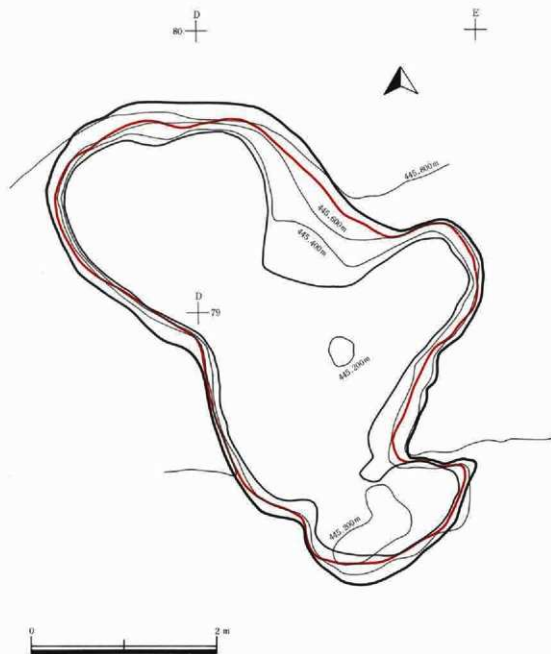


第47図 第1群粘土採掘坑実測図

1. 平安時代の遺構と遺物

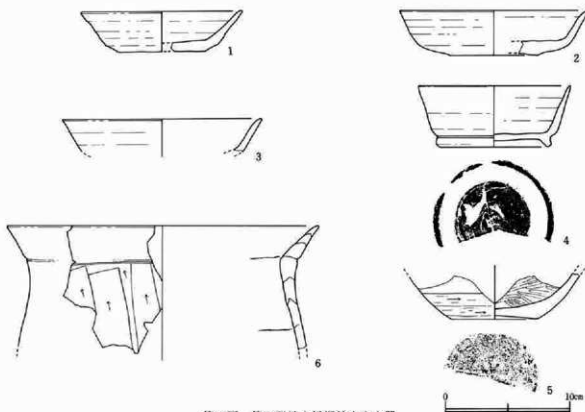
第2群粘土採掘坑（第48図、図版8-2）

C・D-78・79グリッドに位置する。遺跡南側に掘り込まれた採掘坑は本址と第5群粘土採掘坑のみである。先に記したが、南側傾斜面にしがたい堆積する白色粘土層が薄くなっているため、効率的な採掘作業には適していない。実際掘削した面積に比べ、採掘された粘土量も遺跡北側に掘り込まれた採掘坑より少ないものとなっている。平面形は不整形を呈し、断面形は一部オーバーハングするが、全体的には鍋底状に立ち上がる。面積（開口部）は約13.57㎡、白色粘土採掘量は約3.56㎡を測る。1㎡当たりの粘土採掘量は0.26㎡である。遺物は量的には少ないが、覆土上部から須恵器の坏、甕等が出土している。（第49図）



第48図 第2群粘土採掘坑平面図

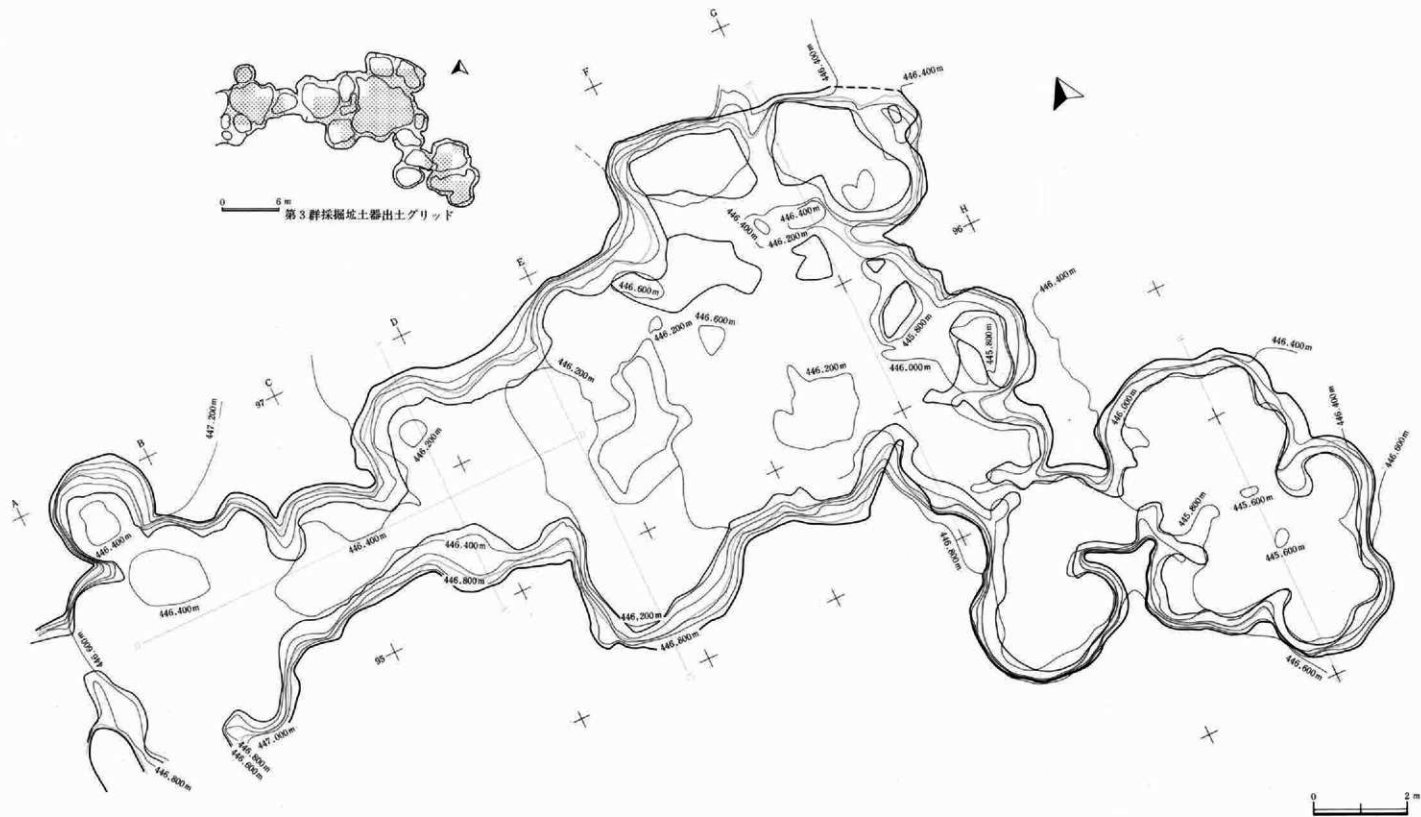
IV 検出された遺構と遺物



第49図 第2群粘土採掘域出土土器

第2群粘土採掘域出土土器観察表

遺物番号 (回割%)	器 種 形	法 口径 底径 口径高	寸 法 口径高	出 土 位 置	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	①色 ②土 ③焼 ④成 ⑤残 ⑥存
2採-1	須恵 坏	13.0 7.0 3.2		覆土 2層	底部下端にヘラ削りが行われ、体部にクロ目が残る。口唇部は肉厚であるがやや尖りぎみになる。底面に回転ヘラ切り痕。体部左回転。	①灰白色 ②還元 ③灰 ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒が含まれる。
2採-2	須恵 坏	15.1 7.0 3.5		覆土 D-78	底部から体部にかけて大きく屈曲しながら立ち上がる。口唇部は尖りぎみ。底面に回転ヘラ切り痕。体部右回転。	①灰白色 ②還元 ③灰 ④白色鉱物粒が多く含まれる。
2採-3	須恵 坏	16.0 — —		覆土 D-78	口唇部はやや尖りぎみ。体部左回転。	①灰白色 ②還元 ③口唇部灰 ④白色鉱物粒が多く含まれる他、石英粒も多少みられる。
2採-4 (41-1)	須恵 坏	12.3 8.6 4.9		覆土 2層	底径と口径の差が少なく、体部は直立ぎみに立ち上がる。口唇部は尖りやや内側に面をもつ。高台の貼付は真好で底面に左回転ヘラ切り痕。	①灰白色 ②還元 ③灰 ④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒も含まれる。
2採-5	須恵 坏	— 7.0 —		覆土 2層	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がる。器内面は全面的に磨きが行われ平滑である。底面は回転ヘラ切り。	①褐色 ②酸化 ③灰 ④白色鉱物粒が含まれる他、石英粒もわずかにみられる。
2採-6	壺	25.0 21.2 (頸部)		覆土 D-78	口縁部はゆるやかに外反し、頸部に2条沈線が走る。口唇部は丸みをもつ。体部は下から上方向への縦位ヘラ削りが施される。	①灰褐色 ②酸化 ③灰 ④白色鉱物粒の他、砂粒が多く含まれる。

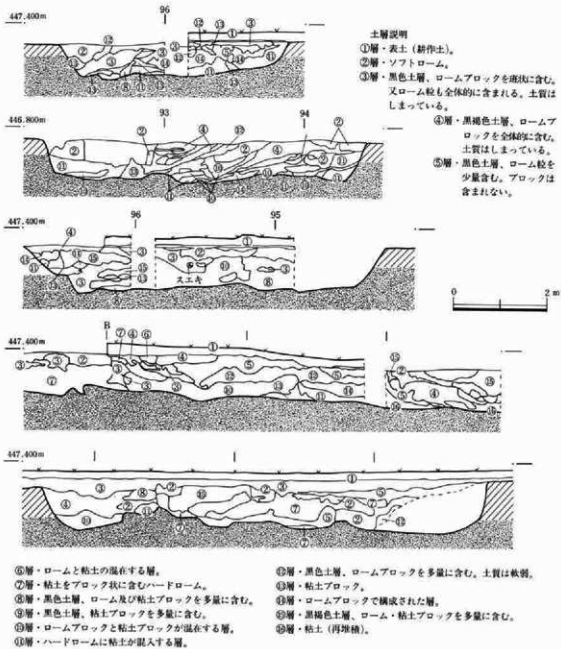


第50図 第3群粘土採掘地平面図

1. 平安時代の遺構と遺物

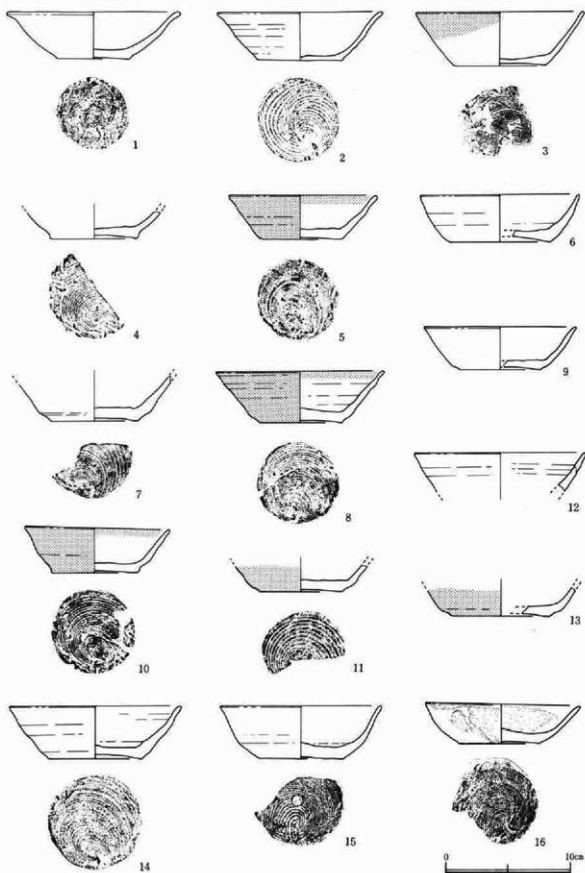
第3群粘土採掘地 (第50・51図、図版9・10)

遺跡北側に位置し、36グリッドにわたり掘削される。規模としては第4群粘土採掘地に次ぐ大きな採掘地である。東端は第7群粘土採掘地に接し、西端は調査区域外にのびているため不明である。面積(開口部)は約176.48㎡を測る。白色粘土採掘量は、総量59.75㎡、1㎡当りに換算すると0.34㎡となる。採掘地の掘削の方法は第46図に示したものを基本としているが、作業の進行に関しては一定の方向性は看取できない。小規模の採掘地が集中的に掘削されたことにより、最終的に本址のような形態に至ったものと判断される。遺物は須恵器の坏、甕、羽釜等が出土しているが、覆土上層(主に黒色土層)から検出されている。



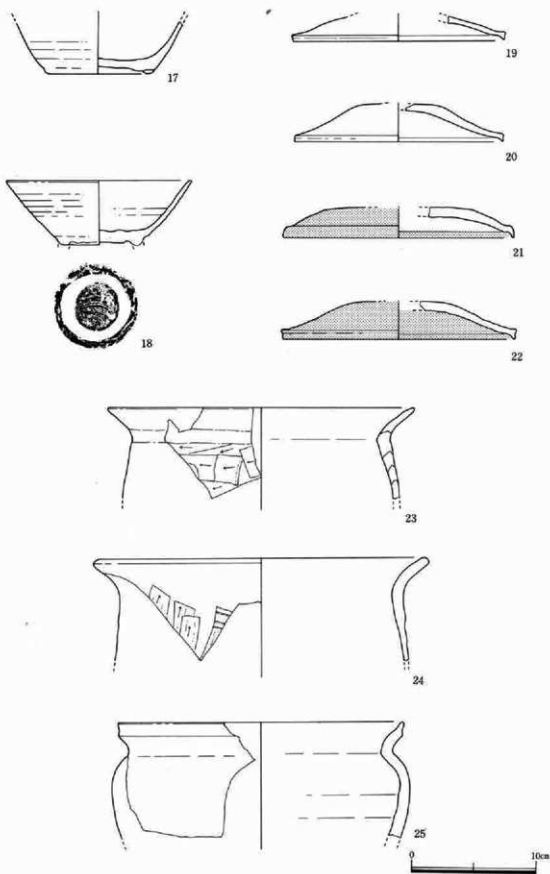
第51図 第3群粘土採掘地土層断面図

IV 検出された遺構と遺物



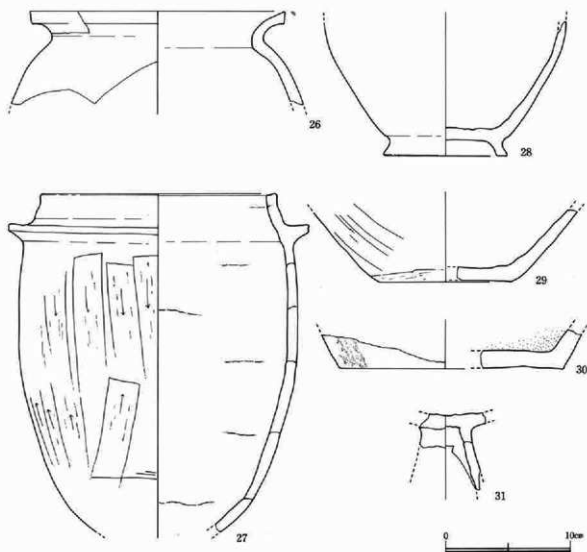
第52図 第3群粘土採掘域出土土器(1)

1. 平安時代の遺構と遺物



第53図 第3群粘土探掘址出土土器(2)

IV 検出された遺構と遺物



第54図 第3群粘土探掘坑出土土器(3)

第3群粘土探掘坑出土土器観察表(1)

遺物番号 (図説No)	器 種 形	法 口径	底 径	身 高	出 土 位	成 形 ・ 装 形 の 特 徴	①色調 ②胎土	③焼成 ④備考	⑤残存	
3探-1 (41-2)	須 恵 坪	14.0	5.8	3.7	覆 土 I-94	器高が低く体部は大きく開く。口縁部は外反し口唇部は丸みをもつ。胎土は砂質でザラつく。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色	②酸化	③Ⅲ	④白色鉱物粒および石英粒を含む。
3探-2 (41-3)	須 恵 坪	13.4	6.8	3.8	覆 土 G-95	体部は大きく開き、ロクロ目が残る。口縁部は外反し、口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。体部は楕円形に歪んでいる。	①褐色	②酸化	③Ⅲ	④白色鉱物粒および石英粒を含む。
3探-3 (41-4)	須 恵 坪 イブシ	13.6	7.4	4.3	覆 土	体部は直線的に立ち上がり、口唇部上面に平坦面をもつ。底面に左回転糸切り痕。	①褐色	②酸化	③Ⅲ	④白色鉱物粒を含む。
3探-4	須 恵 坪	-	7.0	-	覆 土 A-96	底部は段状に残り、やや張り出しぎみとなる。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色	②還元	③Ⅲ	④白色および白色鉱物粒の他、石英粒を含む。

1. 平安時代の遺構と遺物

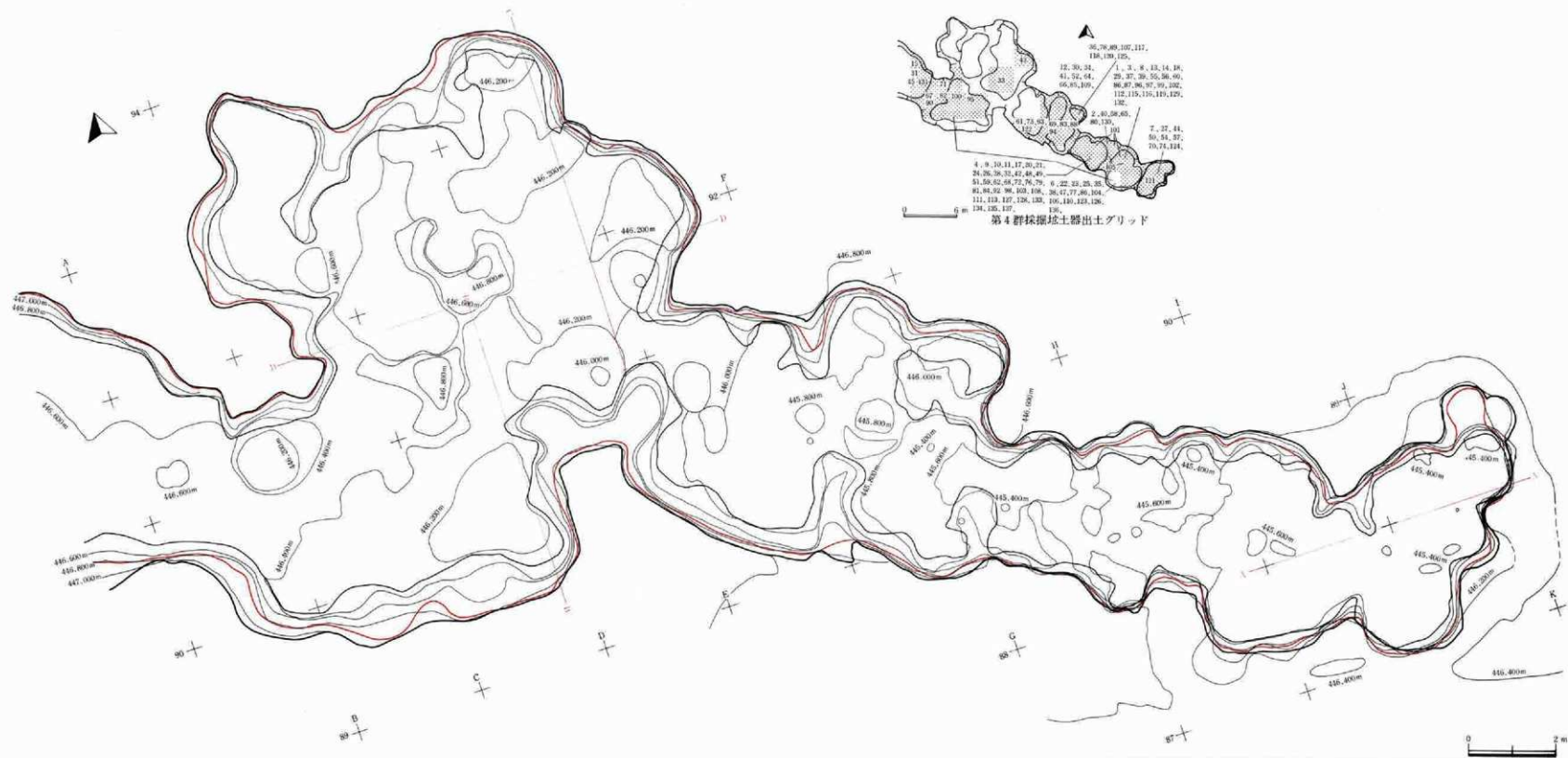
第3群粘土探掘出土土器観察表(2)

3探-5 (41-6)	須恵 坏 イブシ	12.0	6.4	3.5	実 5	体部は直線的に立ち上がり、口唇部はやや外反ぎみに開く。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②酸化 ③突起 ④白色鉱物粒を多量に含む。
3探-6	須恵 坏	12.6	8.0	3.8	覆土 I-92	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は尖る。底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①灰褐色 ②酸化 ③片 ④白色および黒色鉱物粒の他石英粒を含む。
3探-7	須恵	—	7.0	—	覆土 B-95 1層	底部はやや内厚で、体部は彎曲ぎみに立ち上る。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部へ体部片 ④白色鉱物粒を含む。
3探-8 (41-5)	須恵 坏 イブシ	13.6	6.6	4.1	覆土 H-92	体部はほぼ直線的に立ち上がり、ロクロ目が明瞭に残る。口唇部はやや丸みをもつが、内側に面をもつ。底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③片 ④白色鉱物粒および石英粒を含む。
3探-9	須恵 坏	12.2	6.4	3.4	覆土 E-95	体部下半にやや脹らみをもり、口唇部は尖りぎみに立ち上がる。底面に左回転糸切り痕。	①青灰色 ②還元 ③片 ④白色鉱物粒を多量に含む。
3探-10 (41-7)	須恵 坏 イブシ	11.7	6.8	3.5	実 4	底部は段をもち、体部は直線的に立ち上がる。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③突起 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
3探-11	須恵 坏 イブシ	—	6.6	—	覆土 A-96	底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③底部片 ④白色鉱物粒を含む。
3探-12	須恵 坏	13.8	—	—	覆土 F-96 2層	体部にロクロ目が残り、口唇部は丸みをもつ。体部右回転。	①灰白色 ②還元 ③片、底部欠 ④白色鉱物粒を含む。
3探-13	須恵 坏 イブシ	—	7.6	—	覆土 I-92	底部はやや段状に残り、わずかに歪みがみられる。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部片 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
3探-14 (41-8)	須恵 坏	13.8	7.6	4.2	実 7	体部にはロクロ目が明瞭に残り、口唇部は尖りぎみに丸みをもつ。底部はやや段状に残り、右回転糸切り痕がみられる。	①灰白色 ②還元 ③片 ④白色および黒色鉱物粒を含む。
3探-15 (41-9)	須恵 坏	13.0	6.8	4.2	覆土 B-95	底部は内厚で体部はやや彎曲ぎみに立ち上がる。口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②還元 ③片 ④白色鉱物粒を多量に含む。
3探-16	須恵 坏	12.4	6.4	3.1	覆土 A-96	体部は大きく楕円形に歪む。一部に自然釉が付着している。底面に左回転糸切り痕。	① ②還元 ③片 ④白色および黒色鉱物粒を含む。 ⑤一部に自然釉
3探-17	須恵 埴 (高台部)	—	8.5	—	覆土 F-94 F-95	高台部は非常に低く一部を残しほとんど剥落している。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁、高台部欠 ④白色鉱物粒を含む。
3探-18 (41-12)	須恵 埴 (高台付部)	15.0	6.7	—	覆土 H-93	底径に比して口径は大きく開く。高台部は低く丸みをもつ。体部は直線的に立ち上がり、口唇部はやや尖りぎみ。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③片、高台部欠 ④白色および黒色鉱物粒を含む。 ⑤体部左回転
3探-19	須恵 蓋	16.8	—	—	覆土 A-96	体部末端に縁をもち、口縁部は尖りぎみに垂下する。ロクロ成形左回転。	①灰白色 ②還元 ③ツマミ部欠 ④白色および黒色鉱物粒を含む。

IV 検出された遺構と遺物

第3群粘土採掘場出土土器観察表(3)

3探-20	須 蓋	16.8	—	—	覆土 D-96	体部末端にわずかに輪をもつ。口縁部は短く、尖りぎみに垂下する。天井部は回転ヘラ削りが施される。ロクロ成形右回転。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅲ、ツマミ部欠 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
3探-21	須 蓋 イブシ	18.6	—	—	覆土 G-96	天井部には回転ヘラ削りが施される。器厚は天井部から体部にかけて一定する。口縁部は尖りぎみに垂下する。ロクロ成形左回転。	①灰褐色 ②還元 ③Ⅲ、ツマミ部欠 ④白色および黒色鉱物粒を含む。
3探-22	須 蓋 イブシ	18.6	—	—	覆土 H-92	天井部にはヘラ削りが施され、体部はゆるやかに開く。口縁部は直前に屈曲し、外側に面をもつ。口唇部は尖る。ロクロ成形左回転。	①褐色 ②酸化 ③Ⅲ、ツマミ部欠 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
3探-23	蓋	24.6	—	—	覆土 A-95	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部はやや丸みをもつ。口縁部横ナデ。体部は右から左方向への横位ヘラ削りが施される。	①褐色 ②酸化 ③Ⅲ ④白色鉱物粒の他、石英粒もわずかに含まれる。
3探-24	蓋	26.8	—	—	覆土 E-94	頸部はくの字状に屈曲し、口唇部は外反する。口唇部はやや肉厚で丸みをもつ。口縁部横ナデ。体部は下から上方への縦位ヘラ削り。	①灰白色 ②還元 ③Ⅲ ④白色および黒色鉱物粒を含む。
3探-25 (41-10)	須 蓋	23.0	—	—	覆土 A-96	口縁部は、くの字状に屈曲し、段をもち尖りぎみの口唇部へと立ち上る。	①褐色 ②酸化 ③Ⅲ ④白色鉱物粒を含む。
3探-26	須 蓋	20.4	—	—	覆土 B-95 E-94	口縁部は短く、口唇部は尖りぎみに直立する。頸部はくの字状に屈曲し、体部はゆるやかな丸みをもつ。	①青灰色 ②還元 ③Ⅲ ④白色鉱物粒を含む。
3探-27 (42-1)	羽 蓋	19.0	—	—	覆土 G-96	体部上半に最大径をもつ。口唇部は内傾し、口唇部上面は平坦である。踵はやや上向きで底面の三角形を呈する。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅲ、底部欠 ④白色鉱物粒を多量に含む。石英粒もわずかにみられる。
3探-28 (41-13)	須 蓋 (高台部)	—	10.0	—	覆土 D-95	蓋の底部、高台の最付は丁寧であるが一部に剝離がみられる。高台は強く張り出し、端部に平坦面をもつ。ロクロ成形右回転。	①灰白色 ②還元 ③底部 ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒の他、石英粒も含まれる。
3探-29	蓋	—	10.6	—	覆土 I-92	底部下端に右から左方向への横位ヘラ削りが施される。表面に炭葉が吸着する。	①褐色 ②酸化 ③底部Ⅲ ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
3探-30	蓋	—	18.0	—	覆土 E-94	器表面部に降灰による自然釉が付着する。	①灰白色 ②還元 ③底部Ⅲ ④白色および黒色鉱物粒を含む。
3探-31	高 坏	—	—	—	覆土 D-95	器台部との接合は良好である。底面に右回転糸切痕	①灰白色 ②還元 ③破片 ④黒色鉱物粒を多く含む。

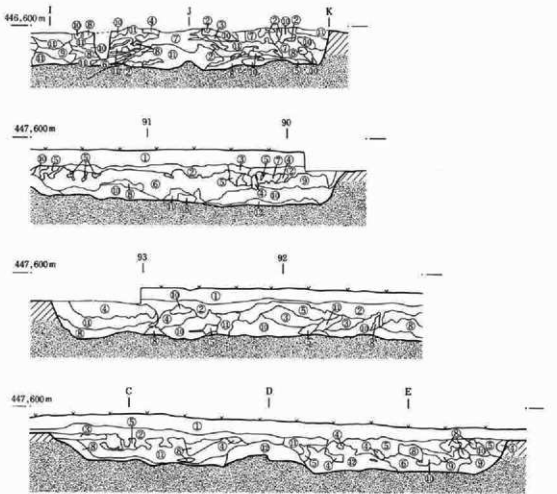


第55図 第4群粘土掘地平面図

1. 平安時代の遺構と遺物

第4群粘土探掘坑 (第55・56図、図版12-2、13-1)

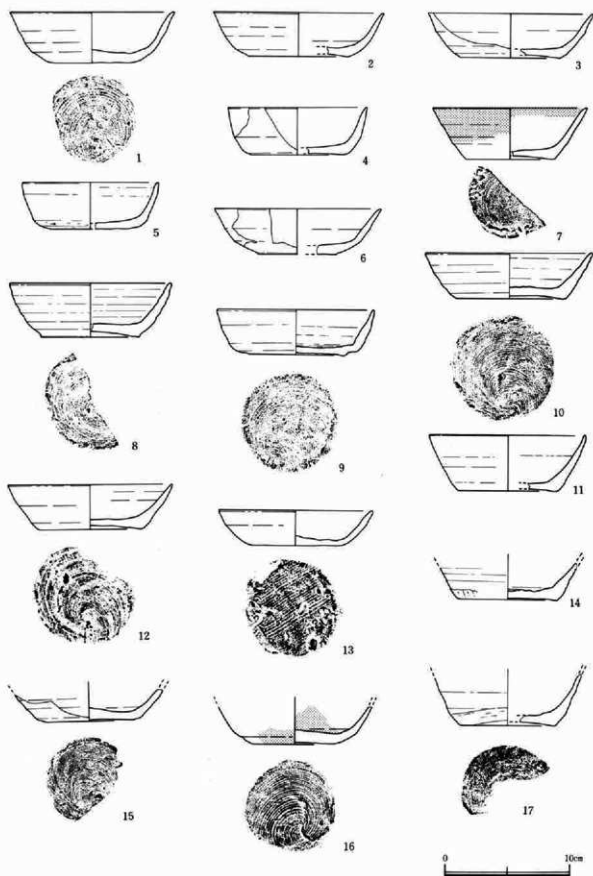
第3群粘土探掘坑の南側に位置する最も規模の大きな探掘坑である。西端部は調査区域外にのび、東端部は2号住居址及び5号住居址に切られている。又、第1群粘土探掘坑とも接している。面積(開口部)は223.15㎡、白色粘土探掘量は83.55㎡を測る。底面は起伏が著しく、多数回にわたる探掘作業の痕跡を残している。第11群粘土探掘坑を単一作業の探掘坑とすれば、本探掘坑は80回前後の探掘作業が連続的に行われた規模である。又、探掘作業についての方向性は認められず、比較的無作為に掘り進めていることが土層状態により判断される。遺物は覆土上部から須恵器の坏、埴・壺・壺等の土器類が多数出土している。



- 土層説明
- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| ①層・表土 | ⑦層・黒色土層 ロームブロックを多量に含む。 |
| ②層・黒褐色土層 ロームブロックを全体的に含む。土質は締る。 | ⑧層・粘土ブロック |
| ③層・黒褐色土層 ロームブロックを多量に含む。 | ⑨層・黒色土・ローム 手々にて構成される層。 |
| ④層・ロームブロック | ⑩層・茶褐色土層 (ハードローム) |
| ⑤層・黒色土層 粒子細かくローム若干含む。 | ⑪層・ローム+粘土+黒色土 |
| ⑥層・ロームブロック+茶褐色土(ハードローム)の混在する層 | ⑫層・青白色粘土 |

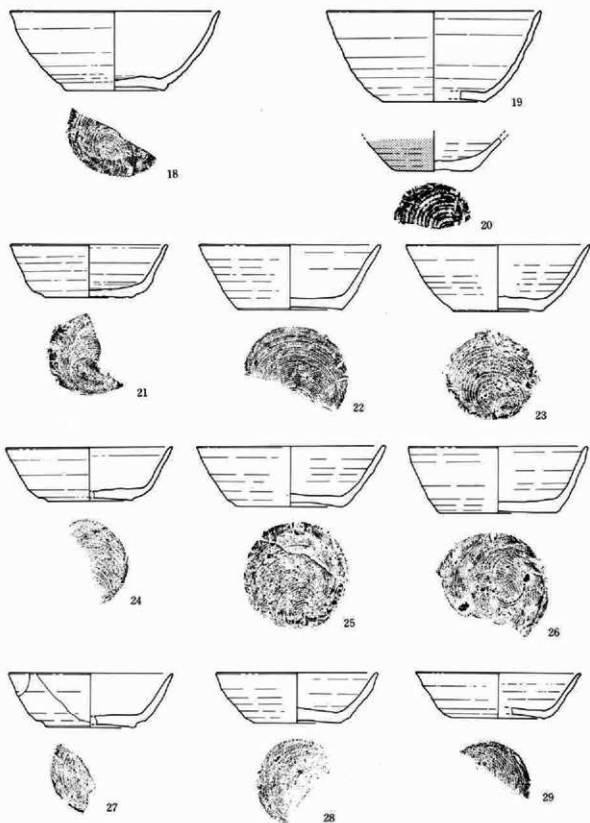
第56図 第4群粘土探掘坑土層断面図

IV 検出された遺構と遺物



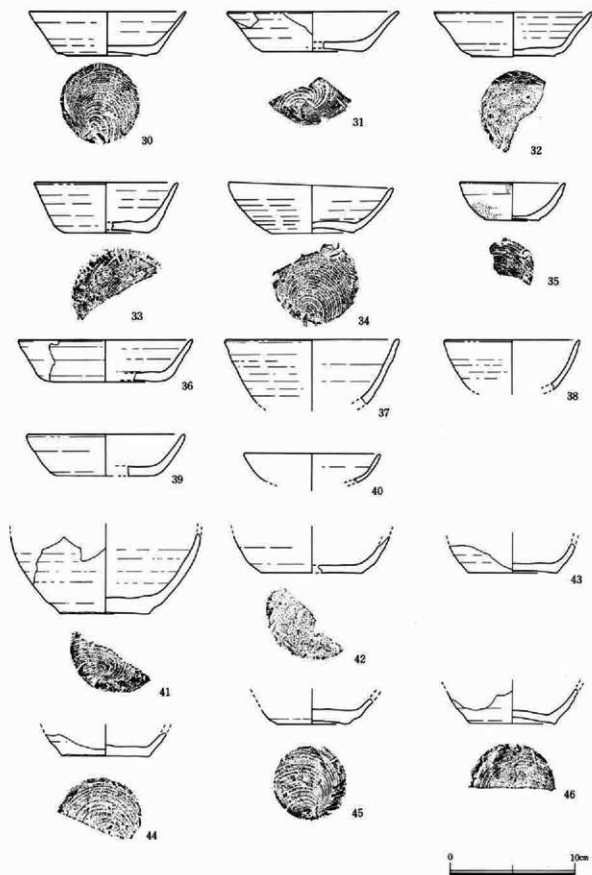
第57図 第4群粘土採掘域出土土器(1)

1. 平安時代の遺構と遺物



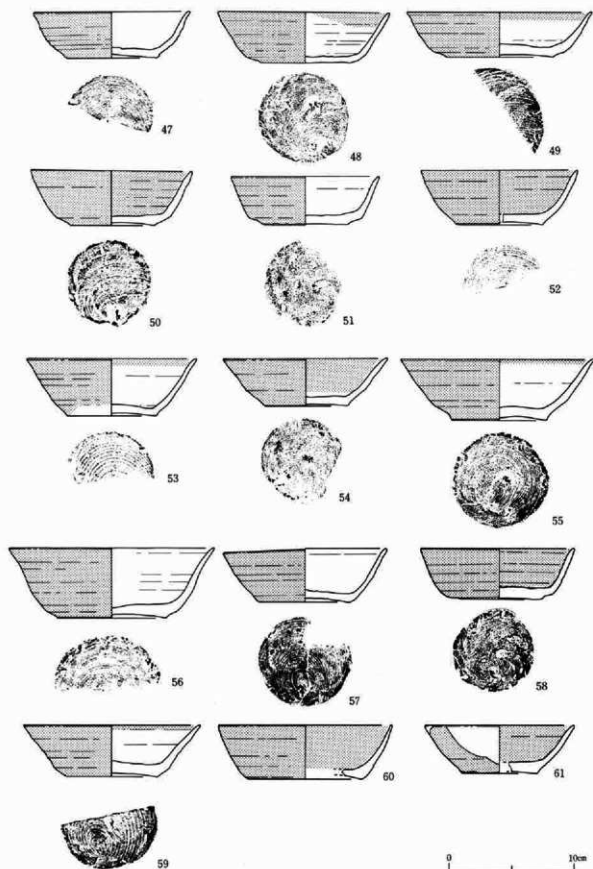
第58図 第4群粘土採掘址出土土器(2)

IV 検出された遺構と遺物



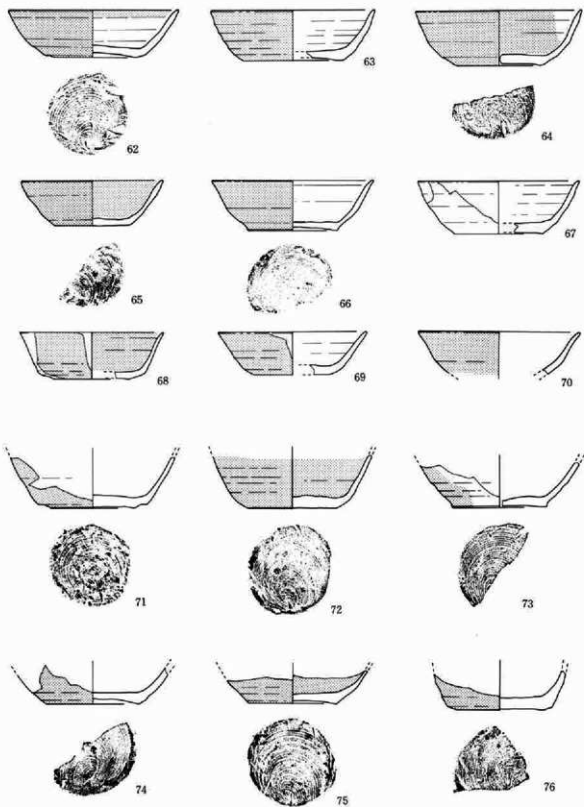
第59図 第4群粘土採掘地出土土器(3)

1. 平安時代の遺情と遺物



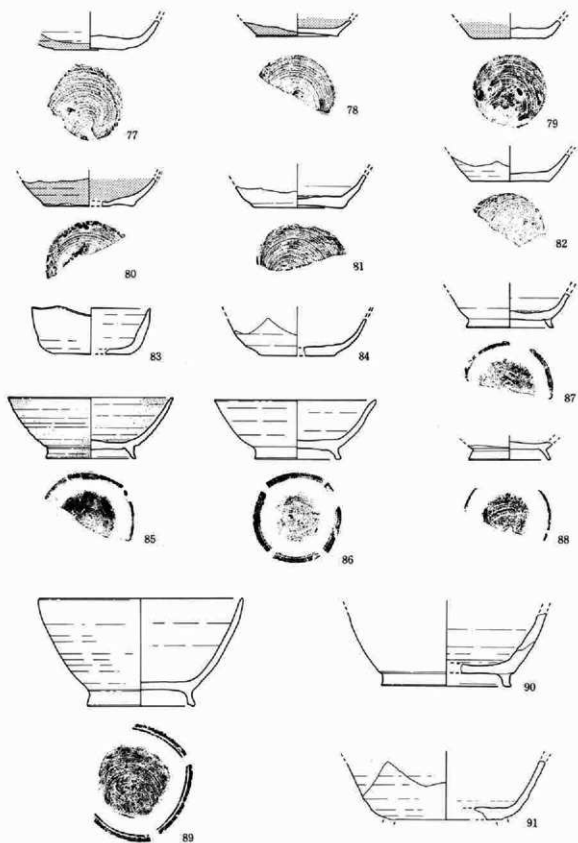
第60図 第4群粘土採掘場出土土器(4)

IV 検出された遺構と遺物



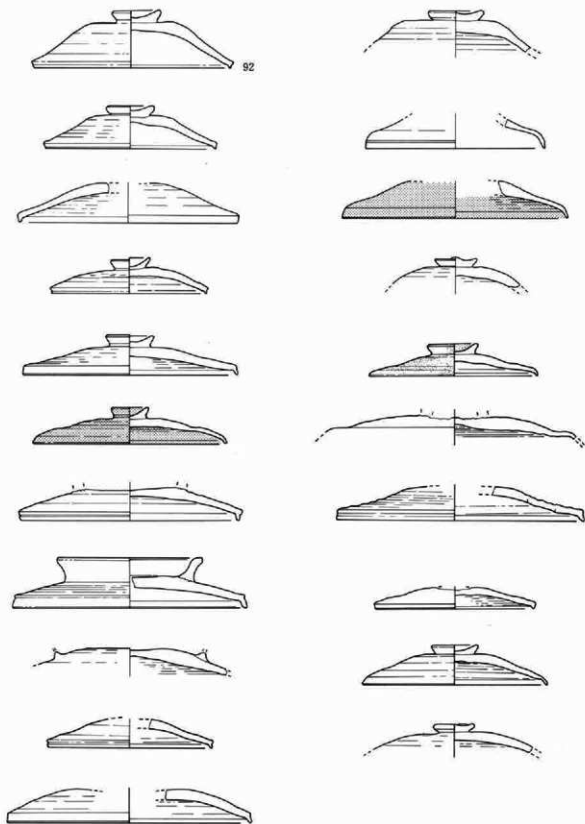
第61図 第4群粘土採掘場出土土器(5)

1. 平安時代の遺構と遺物



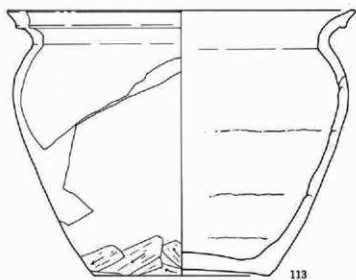
第62図 第4群粘土採掘場出土土器(6)

IV 検出された遺構と遺物

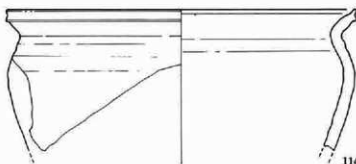


第63図 第4群粘土採掘場出土土器(7)

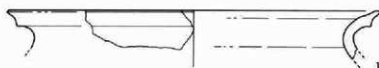
IV 検出された遺構と遺物



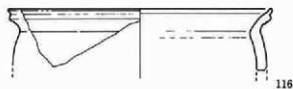
113



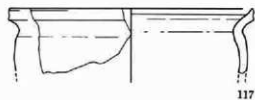
114



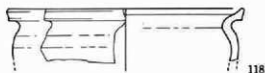
115



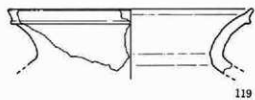
116



117



118

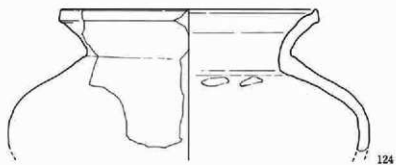
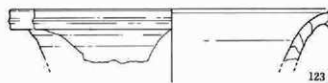
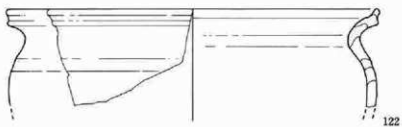
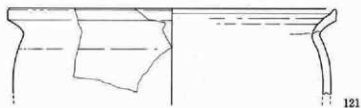
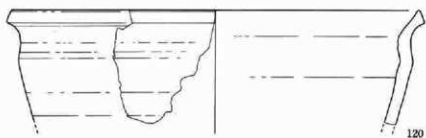


119



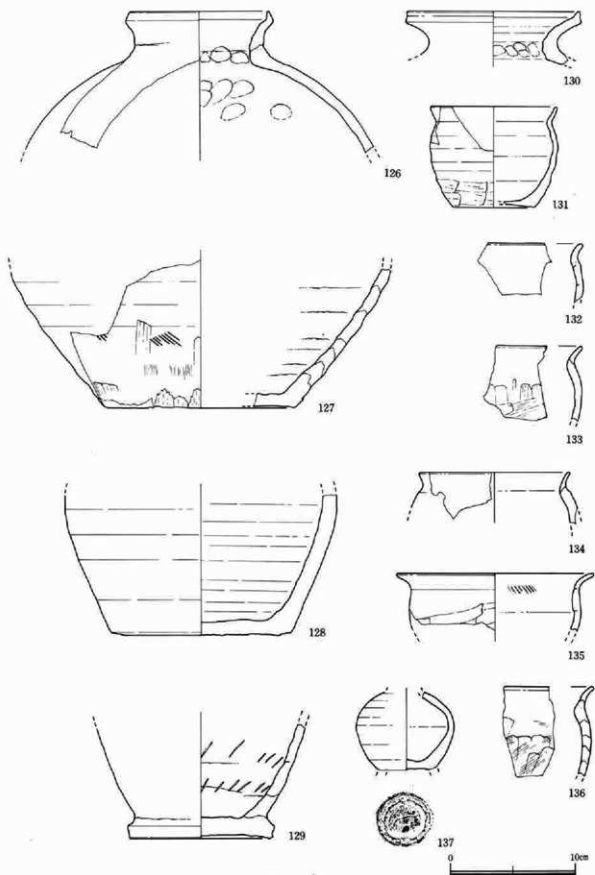
第64図 第4群粘土探掘壇出土土器(8)

IV 検出された遺構と遺物



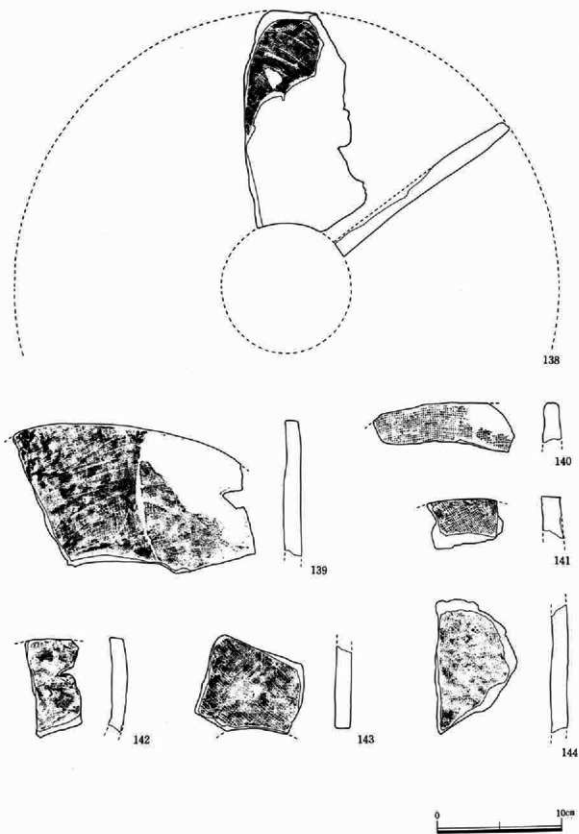
第65図 第4群粘土採掘域出土土器(9)

1. 平安時代の遺構と遺物



第66図 第4群粘土採掘地出土土器00

IV 検出された遺構と遺物



第67図 第4群粘土探掘址出土遺物0

1. 平安時代の遺構と遺物

第4群粘土探掘域出土土器観察表(1)

遺物番号 (図版No)	器形	口径	底径	器高	出土 位置	成形・整形の特徴	①色 ②土質 ③成分 ④備考
4探-1	須恵 環	13.2	7.0	4.0	覆土 I-88	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④白色鉱物粒がやや含まれる。
4探-2	須恵 環	13.6	8.0	3.5	覆土 H-89	体部はゆるやかに彎曲し立ち上がる。口唇部はやや尖りぎみ。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④白色および黒色鉱物粒が含まれる。
4探-3	須恵 環	13.2	8.0	3.5	覆土 I-88	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、上半部でわずかに屈曲する。底面に回転糸切り痕。体部左回転。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④白色および黒色鉱物粒が含まれる。
4探-4	須恵 環	11.2	7.4	3.8	覆土 H-88	口径と底径の差が比較的少ない。体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は尖りぎみに直立する。底面に回転糸切り痕。体部左回転。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒がわずかに含まれる。
4探-5	須恵 環	11.0	7.0	3.7	覆土 G-88	体部は下端に右方向のヘラ削りが施され、口唇部に向ってやや内彎ぎみに立ち上がる。底面に右回転ヘラ削り。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅳ ④鉱物粒がわずかに含まれる。
4探-6	須恵 環	13.4	6.2	3.6	覆土 I-87	体部下半に段をもち、直線的に立ち上る。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④黒色鉱物粒を多く含む。
4探-7 (42-2)	須恵 環 イブシ	12.4	7.0	4.1	覆土 J-88	体部は直線的に立ち上がり、口唇部は尖りぎみとなる。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④白色、および黒色鉱物粒の他、石英粒もわずかに含まれる。
4探-8 (42-3)	須恵 環	13.0	8.0	4.3	覆土 I-88	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面はわずかに段状に残り、底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④白色鉱物粒を含む。
4探-9 (42-4)	須恵 環	12.7	7.8	3.6	覆土 H-88	底部は一部段状に残り、体部は短くほぼ直線的に立ち上がる。口唇部はやや尖りぎみ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③完形 ④白色および黒色鉱物粒を含む。
4探-10 (42-5)	須恵 環	13.4	8.6	3.7	覆土 H-88	体部はほぼ直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③完形 ④白色および黒色鉱物粒を含む。
4探-11	須恵 環	12.5	8.0	4.4	覆土 H-88	体部は直線的に立ち上がり、口唇部はわずかに内彎する。底面に不明瞭ながら回転糸切り痕がみられる。体部右回転。	①灰白色 ②酸化 ③Ⅳ ④白色鉱物粒を含む。
4探-12 (42-6)	須恵 環	13.2	8.3	3.6	覆土 G-89 D1層	体部は直線的に立ち上がり、口唇部はやや尖りぎみとなる。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④白色および黒色鉱物粒の他、石英粒をわずかに含む。
4探-13 (42-7)	須恵 環	12.4	7.0	2.8	覆土 I-88 1層	体部は比較的短く、上半部でわずかに彎曲する。口唇部は丸みをもつ。底面に静止糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④白色および黒色鉱物粒を多く含む。
4探-14	須恵 環	—	7.8	—	覆土 I-88	体部は直線的に立ち上がり、一部に輪襖み痕が残る。底面に左回転のヘラ削り。	①灰白色 ②酸化 ③Ⅳ ④白色鉱物粒を多く含む。

IV 検出された遺構と遺物

第4群粘土探掘堀出土土器観察表(2)

4探-15	須恵 環	—	7.0	—	覆土 A-92	体部下端に面をもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部④ ④白色鉱物粒を含む。
4探-16	須恵 環 イブシ	—	6.6	—	覆土 F-90	体部下半がやや彎曲ぎみに立ち上がる。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部 ④白色鉱物粒の他、石英粒を含む。
4探-17 (42-8)	須恵 環	—	7.6	—	覆土 H-88	体部はほぼ直線的に立ち上がり、下端に左方向へのへう削りが施される。底面にも同様左回転へう切り痕がみられる。体部左回転。	①灰褐色 ②酸化 ③④ ④白色鉱物粒を含む。
4探-18 (42-9)	須恵 環	16.8	7.8	6.3	覆土 I-88	底部は段状に残り、体部はやや彎曲ぎみに立ち上がる。口唇部は尖りぎみ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③④ ④白色鉱物粒を含む。
4探-19 (42-10)	須恵 環	17.2	8.0	7.2	覆土 G-88	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は尖りぎみとなる。体部にはワクロ目が残る。底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①褐色 ②酸化 ③④ ④白色鉱物粒を含む。
4探-20	須恵 環 イブシ	—	6.0	—	覆土 H-88 2層	底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①灰褐色 ②酸化 ③底部④ ④白色鉱物粒を多量に含む。石英粒もわずかにみられる。
4探-21 (42-11)	須恵 環	12.6	7.0	4.2	覆土 H-88 上層	底部はやや段状に残り、体部は下半に膨らみをもって立ち上がる。口唇部はやや尖りぎみ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③④ ④白色鉱物粒を含む。
4探-22 (42-12)	須恵 環	14.6	8.4	5.2	覆土 I-87	体部は直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①灰白色 ②還元 ③④ ④白色鉱物粒の他石英粒を含む。
4探-23 (43-1)	須恵 環	14.7	7.3	5.3	覆土 I-87 P10	体部はわずかに彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部はやや尖りぎみとなる。底面に右回転糸切り痕。	①青灰色 ②還元 ③④ ④白色鉱物粒を含む。
4探-24 (43-2)	須恵 環	13.4	6.8	4.3	覆土 H-88	底部はわずかに段状に残る。体部は下半はやや膨らみ、上半は直線的に立ち上がる。口唇部は尖りぎみ。底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①灰白色 ②還元 ③④ ④白色および黒色鉱物粒を含む。
4探-25 (43-3)	須恵 環	15.1	8.4	4.8	覆土 I-87	体部は直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。底部に焼成時のヒビが入る。	①灰白色 ②還元 ③定形 ④白色鉱物粒を多量に含み、黒色鉱物粒もみられる。
4探-26 (43-4)	須恵 環	14.4	9.2	5.3	覆土 H-88 上層	体部はほぼ直線的に立ち上がり、上半部でわずかに内傾する。底面に右回転糸切り痕。切り直しがみられる。	①灰褐色 ②酸化 ③④ ④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒もみられる。
4探-27	須恵 環	13.2	7.0	4.3	覆土 J-88	底部は段状に残る。体部は下半でやや彎曲し、上半はほぼ直線的に立ち上がる。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③④ ④白色鉱物粒の他、石英粒を含む。
4探-28 (43-5)	須恵 環	13.0	6.8	4.0	覆土 H-88	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、ワクロ目が明確に残る。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③④ ④白色および黒色鉱物粒を含む。
4探-29 (43-6)	須恵 環	13.2	7.4	3.6	覆土 I-88	体部は直線的に立ち上がり、口唇部は尖りぎみとなる。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③④ ④白色鉱物粒を多量に含む他、石英粒もみられる。

1. 平安時代の遺構と遺物

第4群粘土探掘出土土器観察表(3)

4探-30 (43-7)	須恵 坏	12.6	6.4	3.5	覆土 G-89	体部は直線的に立ち上がり、口唇部は尖りざみとなる。体部下端に面をもち、底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③% ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を含む。
4探-31	須恵 坏	13.8	8.0	3.2	覆土 A-91 1層下	体部は直線的に立ち上がり、上半分でわずかに外反ざみに開く。口径に比し器高は低い。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③% ④白色鉱物粒の他、小礫も多少含まれる。
4探-32 (43-8)	須恵 坏	12.7	6.7	3.5	覆土 H-88	底部は段状に残り、体部はやや外反ざみに立ち上がる。口唇部は尖りざみ。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③% ④白色鉱物粒もみられる。
4探-33 (43-9)	須恵 坏	11.6	6.5	4.0	覆土 D-91	体部は直線的に立ち上がる。底径は比較的大きく底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③% ④白色鉱物粒の他、夾雑物が多い。
4探-34 (43-10)	須恵 坏	13.2	6.6	3.5 4.0	覆土 G-89	体部は大きく楕円形に重む。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③% ④白色鉱物粒も多く含まれる。
4探-35	須恵 坏	8.4	4.4	3.0	覆土	体部は彎曲ざみに立ち上がり、口唇部は尖る。底面に回転糸切り痕。一部に自然釉が付着する。	①灰白色 ②還元 ③% ④白色鉱物粒、石英粒が含まれる。
4探-36	須恵 坏	14.0	9.0	3.3	覆土 G-90	口径に比し体部は低く、直線的に立ち上がる。口唇部はやや尖りざみ。底面に左回転のヘラ削りがみられる。	①灰白色 ②還元 ③% ④白色鉱物粒が含まれる。
4探-37	須恵	14.0	—	—	覆土 I-88	体部はやや彎曲ざみに立ち上がり、ロクロ目が明瞭に残る。口唇部は丸みをもつ。体部左回転。	①灰白色 ②還元 ③%、底部欠 ④白色鉱物粒が多く含まれ、石英粒もわずかにみられる。
4探-38	須恵 坏	11.0	—	—	覆土 I-87	体部はやや彎曲ざみに立ち上がり、口唇部は尖りざみに直立する。	①灰白色 ②還元 ③底部欠 ④白色鉱物粒が多く含まれる。
4探-39	須恵 坏	12.7	8.0	3.3	覆土 I-88	体部は口径に比し低く、直線的に立ち上がる。口唇部は丸みをもつ。底面に回転ヘラ切り痕。	①灰白色 ②還元 ③% ④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒も含まれる。
4探-40	須恵 坏	10.9	—	—	覆土 H-89 1層	体部は彎曲ざみに立ち上がり、口唇部は尖りざみである。	①灰白色 ②還元 ③底部欠 ④白色鉱物粒が多く含まれる。
4探-41	須恵 坏	—	7.0	—	覆土 G-89 1層	体部は彎曲ざみに立ち上り、ロクロ目が残る。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③% ④白色鉱物粒が多く含まれ、石英粒もわずかにみられる。
4探-42	須恵 坏	—	8.0	—	覆土 H-88	底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部欠 ④白色鉱物粒が多く含まれる。
4探-43	須恵 坏	—	7.0	—	覆土 E-92	体部はやや彎曲ざみに立ち上る。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部欠 ④白色鉱物粒が多く含まれる。
4探-44	須恵 坏	—	7.0	—	覆土 J-88	底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部欠 ④白色鉱物の他、石英粒が含まれる。

IV 検出された遺構と遺物

第4群粘土採掘域出土土器観察表(4)

4探-45	須恵 環	—	3.6	—	覆土 A-91	底部は一部段状に残る。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部 ④鉱物 粒及び石英粒を含む。
4探-46	須恵 環	—	7.0	—	覆土	底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部 ^{1/2} ④白 色鉱物を多く含む。
4探-47 (43-11)	須恵 環 イブシ	12.6	7.2	3.6	覆土 I-87	体部はやや彎曲ぎみに立ち上り、上部でわずかに外反し、丸みをもつ口唇部にづく。底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①灰白色 ②還元 ③ ^{1/2} ④白色鉱 物粒を多く含む他、黒色鉱物粒もみ られる。
4探-48 (43-12)	須恵 環 イブシ	13.8	7.0	4.0	覆土 H-88 上層	底部は一部段状に残る。体部は下部でやや彎曲し、口唇部にかけて直線的に立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③ ^{1/2} ④白色鉱 物粒を多く含む。
4探-49 (43-13)	須恵 環 イブシ	14.8	8.4	3.6	覆土 H-88	底部はやや段状となる。体部はわずかに彎曲ぎみに立ち上り、ロクロ目が残る。底面に回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③ ^{1/2} ④白色鉱 物粒を多く含む。石英粒もわずかに みられる。
4探-50 (43-14)	須恵 環 イブシ	12.9	6.8	4.3	覆土 J-88	体部は楕円形に歪む。口唇部は尖りぎみとなる。底部はやや段状に残り、底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③完形 ④白色 鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかに みられる。
4探-51 (44-1)	須恵 環 イブシ	12.0	6.6	3.8	覆土 H-88	底部は段状に残り、体部は直線的に立ち上がる。口唇部は尖りぎみ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③ ^{1/2} ④白色鉱 物粒を多く含む。石英粒もわずかに みられる。
4探-52 (44-2)	須恵 環 イブシ	12.5	6.8	4.3	覆土 G-89	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は尖りぎみとなる。底面に回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③ ^{1/2} ④白色鉱 物粒を多く含む。
4探-53 (44-3)	須恵 環 イブシ	13.6	7.0	4.5	覆土 B-90 I-87	体部は直線的に立ち上がり、ロクロ目が残る。口唇部はやや尖りぎみ。底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①褐色 ②酸化 ③ ^{1/2} ④白色鉱物 粒、ガラス質の黒色鉱物粒が含まれる。
4探-54 (44-4)	須恵 環 イブシ	13.3	6.6	3.8	覆土 J-88	底部はやや段状に残り、体部は直線的に立ち上がる。口唇部は尖りぎみ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③ ^{1/2} ④白色鉱 物粒が多く含まれる。
4探-55 (44-5)	須恵 環 イブシ	15.4	7.6	4.8	覆土 I-88 1層	底部はやや段状に残り、体部はほぼ直線的に立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③ ^{1/2} ④白色鉱物 粒が多く含まれ、石英粒もみられる。
4探-56 (44-6)	須恵 環 イブシ	16.4	8.7	5.6	覆土 I-88	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、上部はやや外反する。口唇部は尖りぎみとなる。底部は段状に残り、底面に回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③ ^{1/2} ④白色鉱 物粒を多く含む。石英粒もわずかに みられる。
4探-57 (44-7)	須恵 環 イブシ	13.2	7.4	4.3	覆土 J-88	体部は彎曲ぎみに立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③ ^{1/2} ④白色鉱物 粒を多く含む。
4探-58 (44-8)	須恵 環 イブシ	12.3	6.5	4.0	覆土 H-89	底部はわずかに段状を呈し、体部は直線的に立ち上がる。口唇部はやや尖りぎみ。底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③ ^{1/2} ④白色鉱物 粒を多く含む。石英粒もわずかにみ られる。
4探-59 (44-9)	須恵 環 イブシ	14.2	7.2	4.0	覆土 H-88	体部はやや外反ぎみに開く。口唇部は尖りぎみ。体部にロクロ目が残る。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③ ^{1/2} ④白色鉱 物粒を多く含む。黒色鉱物粒、石英 粒もわずかにみられる。

1. 平安時代の遺構と遺物

第4群粘土探掘堀出土土器観察表(5)

4探-60	須恵 坪 イブシ	14.0	9.0	4.3	覆土 I-88	体部は内彎ぎみに立ち上がり口唇部は尖る。底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③珩 ④白色鉱物粒を多く含む。
4探-61	須恵 坪 イブシ	12.0	6.0	3.8	覆土 E-89	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底部はやや段状を呈し、底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③珩 ④白色鉱物粒を多く含む他、石英粒もわずかにみられる。
4探-62 (44-10)	須恵 坪	13.6	6.6	3.8	覆土 E-89	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底部はやや段状を呈し、底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③珩 ④白色鉱物粒の他、石英粒も含まれる。
4探-63	須恵 坪 イブシ	13.2	8.0	4.0	覆土 F-90	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部はやや尖りぎみとなる。体部にはクロコ目が残る。底面に回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③珩 ④白色鉱物粒・石英粒を含む。
4探-64	須恵 坪 イブシ	13.3	6.6	4.4	覆土 G-89	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は尖りぎみとなる。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③珩 ④白色鉱物粒を多く含む他、石英粒もみられる。
4探-65	須恵 坪 イブシ	11.4	6.0	3.6	覆土 H-89 1層	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は尖りぎみ。底面に右回転糸切り痕。炭素吸着面の剥離が著しい。	①灰褐色 ②酸化 ③珩 ④白色鉱物粒を含む。
4探-66	須恵 坪 イブシ	13.0	7.2	4.0	覆土 G-89	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部はわずかに外反ぎみに開く。底部はやや段状に残る。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③珩 ④白色鉱物粒を多く含む、石英粒もわずかにみられる。
4探-67	須恵 坪	13.0	7.0	4.2	覆土 A-90	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部はやや外反ぎみに開き尖る。底面に回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③珩 ④白色鉱物粒を含む。
4探-68	須恵 坪 イブシ	11.4	5.8	3.7	覆土 H-88	体部下半で閉曲し、上半は直線的に立ち上がり口唇部は尖る。底面に回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③珩 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
4探-69	須恵 坪 イブシ	12.0	6.0	3.4	覆土 F-89	体部下半から彎曲ぎみに立ち上がり、上半は直線的にやや尖りぎみの口唇部に至る。底面に回転糸切り痕。体部左回転。	①褐色 ②酸化 ③珩 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
4探-70	須恵 坪 イブシ	13.0	—	—	覆土 J-88	体部中央に稜をもち、口唇部はやや外反ぎみに開く。器表面及び口唇部に部分的にカーボン付着する。	①灰褐色 ②酸化 ③珩、底部欠 ④白色および黒色鉱物粒を含む。
4探-71	須恵 坪 イブシ	—	6.6	—	覆土 B-91	底部はわずかに段状に残る。体部はほぼ直線的に立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③珩、口縁部欠 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
4探-72	須恵 坪 イブシ	—	7.0	—	覆土 H-88	底部は段状に残り、底面に右回転糸切り痕。体部は下半でやや彎曲するが上半へは直線的に立ち上がる。	①褐色 ②酸化 ③珩、口縁部欠 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
4探-73	須恵 坪 イブシ	—	7.6	—	覆土 E-89	底部は粘土がやや検出する。体部は彎曲ぎみに立ち上がり、クロコ目が明確に残る。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③珩 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
4探-74	須恵 坪 イブシ	—	7.4	—	覆土 J-88	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、下腹部に凹面をもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部珩 ④白色鉱物粒の他、石英粒をわずかに含む。

IV 検出された遺構と遺物

第4群粘土探掘坑出土土器観察表(6)

4探-75	須恵 坑 イブシ	-	7.0	-	夏土 G-88	体部は下半から彎曲ぎみに立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③口縁部欠 ④白色紅物粒を含む。
4探-76	須恵 坑 イブシ	-	7.0	-	夏土 H-88	比較的流径の大きな坑。体部はほぼ直線的に立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③底部欠 ④白色紅物粒を含む。
4探-77	須恵 坑 イブシ	-	5.6	-	夏土 I-87	体部は彎曲ぎみに立ち上がる。底部はわずかに段状に残り、底面に左回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③底部欠 ④白色物粒、石英粒を含む。
4探-78	須恵 坑 イブシ	-	6.6	-	夏土 G-90	底部は粘土がわずかに突出する。底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③底部欠 ④白色紅物粒を多く含む、石英粒もわずかにみられる。
4探-79	須恵 坑 イブシ	-	5.6	-	夏土 H-88 上層	底面に右回転糸切り痕。器表面の刺離が著しい。	①褐色 ②酸化 ③底部 ④白色紅物粒、石英粒を含む。
4探-80	須恵 坑 イブシ	-	7.2	-	夏土 H-89	底部はわずかに段状に残る。体部は彎曲ぎみに立ち上がる。底面に回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③底部欠 ④白色紅物粒、石英粒を含む。
4探-81	須恵 坑	-	7.2	-	夏土 H-88	体部下端にやや張りをもつ。体部が彎曲ぎみに立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③底部欠 ④白色紅物粒、石英粒を含む。
4探-82	須恵 坑	-	6.2	-	夏土 B-90	底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③底部欠 ④白色紅物粒、石英粒を含む。
4探-83	須恵 坑	9.5	6.0	3.7	夏土 F-89	口径と底径の差が少ない坑。体部はやや内彎ぎみに立ち上がる。口唇部は尖りぎみ。体部左回転。	①灰褐色 ②酸化 ③片 ④白色紅物粒を含む。
4探-84	須恵 坑	-	6.2			体部下端に凹面をもち、彎曲ぎみに立ち上がる。底部は粘土がわずかに突出し、底面に回転糸切り痕。体部右回転。	①灰白色 ②還元 ③底部欠 ④白色および黒色紅物粒、石英粒を含む。
4探-85 (45-1)	坑	13.2	7.2	4.9	夏土 G-89	高台の貼付はしっかりしている。端部はやや尖りぎみで内側に面をもつ。体部は彎曲ぎみに立ち上がる。体部左回転。	①灰白色 ②還元 ③片 ④白色紅物粒を含む。⑤一部に自然釉付着。
4探-86 (44-11)	須恵 坑	12.8	6.9	4.7	夏土 I-87	高台の貼付はしっかりしている。端部はやや器厚を増し、平坦面をもつ。体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部はやや尖りぎみ。体部左回転。	①灰白色 ②還元 ③片 ④白色紅物粒を含む。
4探-87	須恵 坑	-	7.0	-	夏土 I-88 1層	高台の貼付はしっかりしており、端部は尖りぎみで内側に面をもつ。底面には回転ヘラ切り痕。体部右回転。	①青灰色 ②還元 ③片 ④白色紅物粒を含む。
4探-88	須恵 坑	-	6.5		夏土 F-89	高台の貼付はしっかりしている。やや彎曲ぎみで端部は丸みをもつ。底面に回転糸切り痕。体部左回転。	①灰白色 ②還元 ③高台部欠 ④白色紅物粒を含む。
4探-89 (44-12)	須恵 坑	16.4	8.4	8.6	夏土 G-90	法量の大きな坑。高台の貼付はしっかりしており、端部は平坦で中央に凹面をもつ。体部は内彎ぎみに立ち上がり、口唇部は尖りぎみ。	①灰白色 ②還元 ③片 ④白色紅物粒を含む。⑤底面に回転糸切り痕。体部右回転。

1. 平安時代の遺構と遺物

第4群粘土探掘出土土器観察表(7)

4探-90	須恵焼	— 10.4 —	覆土 A-90 I層	高台の貼付はしっかりしており、肩部は平坦面をもつ。	①青灰色 ②酸化 ③珩 ④白色鉱物粒を含む。
4探-91	須恵焼	— 10.0 — (高台貼付部)	覆土 F-90	高台は貼付部から全部剥落する。体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、口縁部は外側に突出する。天井部は右回転のヘラ削り。	①灰白色 ②還元 ③珩 ④白色および黒色鉱物粒の他、石英粒を含む。
4探-92 (45-4)	須恵蓋	15.8 3.9 4.5 (ツマミ部)	覆土 H-88 I-88	天井部は高く中央に中くほみツマミが付く。口縁部に凹面をもち、尖りぎみの端部がわずかに突出する。天井部は右回転のヘラ削り。	①青灰色 ②還元 ③珩形 ④白色鉱物粒を多く含む。
4探-93 (45-2)	須恵蓋	— 4.5 — (ツマミ部)	覆土 E-89	天井部中央にボタン状ツマミが付く。	①灰白色 ②還元 ③珩、口縁部欠 ④白色および黒色鉱物粒を含む。
4探-94	須恵蓋	13.6 3.8 3.4	覆土 F-89	天井部中央に中くほみのツマミが付く。天井部は右回転のヘラ削りが施される。口縁部は外側に凹面をもち、端部は尖りぎみでわずかに突出。	①灰褐色 ②酸化 ③珩 ④白色および黒色鉱物粒を含む。
4探-95	須恵蓋	14.4 — —	覆土 C-90	体部から口縁部にかけて曲線的に連続する。口縁部はやや彎曲し、尖りぎみの端部に至る。	①灰白色 ②還元 ③体部珩 ④白色および黒色鉱物粒を含む。
4探-96	須恵蓋	17.4 — —	覆土 I-88	天井部から体部はなだらかに連続し、口縁部は直に屈曲する。端部は尖りぎみ。天井部には右回転のヘラ削りが施される。	①灰白色 ②還元 ③珩、ツマミ部欠 ④白色および黒色鉱物粒を含む。
4探-97	須恵蓋 イブシ	18.0 — —	覆土 I-88	天井部には右回転ヘラ削りが施される。体部から口縁部はなだらかに屈曲し、端部は丸みをもつ。	①灰褐色 ②酸化 ③珩、ツマミ部欠 ④白色鉱物粒を多く含む。
4探-98 (45-3)	須恵蓋	12.4 3.2 2.8 (ツマミ部)	覆土 H-88	天井部から体部にかけてやや彎曲ぎみに開く。天井部は右回転ヘラ削り、中央に中くほみツマミが付く。口縁部は外側に凹面。端部は尖る。	①灰褐色 ②酸化 ③珩 ④白色および黒色鉱物粒を含む。
4探-99	須恵蓋	— 3.4 — (ツマミ部)	覆土 I-88 I層	天井部は右回転のヘラ削りが施され、中央部にボタン状ツマミが付く。	①灰白色 ②還元 ③珩 ④白色鉱物粒を含む。
4探-100	須恵蓋	17.2 3.8 3.2 (ツマミ部)	覆土 B-90	天井部はわずかに高まり、中央に中くほみツマミが付く。体部は直線的に開き、口縁部は直に屈曲し、端部は丸みをもつ。	①灰白色 ②還元 ③珩 ④白色および黒色鉱物粒の他、石英粒をわずかに含む。
4探-101 (45-5)	須恵蓋	13.6 4.1 2.6 (ツマミ部)	覆土 G-89 I-88	天井部はわずかに高く、体部は直線的に開き、口唇部は彎曲ぎみに屈曲する。端部はやや尖りぎみ。外面に自然釉付着。	①灰白色 ②還元 ③珩 ④白色鉱物粒を含む。
4探-102	須恵蓋 イブシ	15.4 3.0 2.9	覆土 I-88	天井部中央に中くほみツマミが付く。体部はやや彎曲し、口縁部へゆるやかに屈曲する。端部は丸みをもつ。	①褐色 ②酸化 ③珩 ④白色鉱物粒を含む。
4探-103 (45-6)	須恵蓋 イブシ	— 5.5 — (ツマミ貼付部)	覆土 H-88	リング状ツマミは接合部から全部剥落する。天井部は内厚で回転ヘラ削りが施される。器体に歪みがある。	①灰褐色 ②酸化 ③ツマミ、口縁部欠 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
4探-104 (45-8)	須恵蓋	17.6 9.2 — (ツマミ貼付部)	覆土 I-87	天井部に左回転糸切り痕。リング状ツマミは接合部から全部剥落する。体部は直線的に開き、口縁部は直に屈曲し外側に沈線が走る。	①灰白色 ②還元 ③ツマミ部欠 ④白色鉱物粒を多く含む。

IV 検出された遺構と遺物

第4群粘土探掘坑出土土器観察表(8)

4探-105	須恵 蓋	19.8	—	—	覆土 H-88 I-88	天井部に右回転ヘラ削りが施される。体部には ロケ目が見られ、口縁部は直に屈曲し、外側に やや凹面をもつ。端部は尖りぎみ。	①灰白色 ②還元 ③片、ツمام部 欠 ④白色鉱物粒を多く含む。
4探-106 (45-9)	須恵 蓋	18.8	11.6	4.0	覆土 I-87	リング状ツمامは肉厚で上端部に平坦面をも つ。一部接合部から剥落する。体部はやや彎曲 し、末端がわずかに突出し、口縁部は直に屈曲 する。	①灰白色 ②還元 ③片 ④白色お よび黒色鉱物粒を含む。
4探-107	須恵 蓋	12.6	—	—	覆土 G-90	ツمامは接合部から剥落。天井部はわずかに高 まり、体部はほぼ直線的に開く。口縁部は短く 屈曲し、端部は尖りぎみである。	①灰白色 ②還元 ③片、ツمام部 欠 ④白色鉱物粒を含む。
4探-108	須恵 蓋	—	12.2	—	覆土 H-88	リング状ツمام内側に左回転ヘラ削りが施され る。天井部は中央が厚いが厚く、周辺部が肉厚 となる。	①灰褐色 ②酸化 ③天井部 ④白 色鉱物粒の他、石英粒をわずかに含 む。
4探-109 (45-7)	須恵 蓋	14.8	3.8	3.2	覆土 G-89	天井部中央に中くぼみツمامが付く。体部はほ ぼ直線的に開き、口唇部へなだらかに続く。端 部は丸みをもつ。天井部には左回転ヘラ削り。	①灰褐色 ②酸化 ③片 ④白色お よび黒色鉱物粒を含む。
4探-110	須恵 蓋	13.2	—	—	覆土 I-87	天井部からゆるやかに体部に続き、口縁部は直 角に屈曲し、外側に凹面をもつ。端部はやや尖 りぎみ、天井部には左回転ヘラ削りが施される。	①灰白色 ②還元 ③片、ツمام部 欠 ④白色鉱物粒の他、石英粒を含 む。
4探-111	須恵 蓋	—	3.4	—	覆土 H-88	天井部には左回転ヘラ削りが施され、中央部に ボタン状ツمامが付く。	①褐色 ②酸化 ③口縁部欠 ④白 色鉱物粒、石英粒を含む。
4探-112	須恵 蓋	19.8	—	—	覆土	天井部から体部にかけて彎曲ぎみに開く。口縁部 は体部末端から垂下し、端部はやや尖りぎみ。	①灰白色 ②還元 ③片、ツمام部 欠 ④白色鉱物粒を含む。
4探-113 (45-10)	須恵 壺	28.0	14.0	21.0	覆土 H-88	最大径を口縁部及び体部上半にもつ。体部は上 半に向けて開きぎみに立ち上がり、頸部はくの 字状に外反する。口縁部は外側に面をもつ。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部欠 ④白色鉱物粒を多く含む。黒色鉱物 粒もみられる。 ⑤固上還元。
4探-114 (46-1)	須恵 壺	28.2	—	—	覆土 J-87	頸部はくの字状を呈し、口縁部は短く、外側に 凹面をもつ。口唇部は尖りぎみに直立する。最 大径は口縁部及び体部上半にある。	①灰白色 ②還元 ③片 ④白色鉱 物粒、3mm前後の黒色鉱物粒を含む。
4探-115	須恵 壺	29.8	—	—	覆土 I-88	頸部は彎曲ぎみに外反し、口縁部に稜をもつ。 口唇部は尖りぎみで、外側にのびる。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④ 白色鉱物粒を多く含む。石英粒もみ られる。
4探-116	須恵 壺	21.0	—	—	覆土 I-88 I層	最大径を口縁部にもつ。口縁部は短く、外側に 凹面をもつ。口唇部は尖りぎみで、やや外側に 立ち上がる。	①灰白色 ②還元 ③口縁部片 ④ 白色鉱物粒を多く含む。
4探-117	須恵 壺	19.6	—	—	覆土 G-90	最大径を口縁部にもつ。口縁部は短く、外側に 面をもつ。口唇部は尖りぎみで直立する。	①灰白色 ②還元 ③口縁部片 ④ 白色鉱物粒を多く含む。
4探-118	須恵 壺	19.0	—	—	覆土 G-90	最大径を口縁部をもつ。口縁部は強く外反し外 側に面をもつ。口唇部は尖りぎみで直立する。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④ 白色鉱物粒および黒色鉱物粒を含 み。石英粒もみられる。
4探-119	須恵 壺	19.6	—	—	覆土 I-88	口縁部は強く外反し、外側に凹面をもつ。口唇 部は尖りぎみで、外側に立ち上がる。	①灰白色 ②還元 ③口縁部片 ④ 白色鉱物粒および石英粒を多く含 む。

1. 平安時代の遺構と遺物

第4群粘土採掘出土土器観察表(9)

4探-120	須恵 壺	32.6	—	—	覆土 G-90	最大径を口縁部にもつ。口縁部は短く、外側に面をもつ。口唇部は尖りぎみで直立する。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白色鉱物粒を多く含む、石英粒もみられる。
4探-121	須恵 壺	26.2	—	—	覆土 J-87	最大径を口縁部にもつ。体部上半はあまり彎曲せず、頸部でくの字状に外反する。口縁部は外側に面をもち、口唇部は尖りぎみに直立する。	①灰白色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒及び黒色鉱物粒を多く含む。
4探-122 (46-2)	須恵 壺	30.0	—	—	覆土 E-89	最大径を口縁部にもつ。口縁部は強く外反し、外側に面をもつ。口唇部は丸みをもち直立する。	①灰白色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒及び石英粒が含まれる。
4探-123 (46-3)	須恵 壺	25.8	—	—	覆土 I-87	口縁部は強く外反し、段をもつ。段外面には縁をもち、口唇部はやや尖りぎみで直立する。	①青灰色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒及び黒色鉱物粒が多く、石英粒もわずかに含まれる。
4探-124 (46-4)	須恵 壺	20.5	—	—	覆土 J-88	肩部は張り、頸部に向かってすぼまり、口縁部は開く。最大径を肩部にもつ。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白色鉱物粒を多く含む、石英粒もわずかにみられる。
4探-125 (46-5)	須恵 壺	29.0	—	—	覆土 G-90	体部は頸部から強く張り出す。口縁部はゆるやかに外反し、段状の口縁となり外側に面をもつ。	①青灰色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒及び黒色鉱物粒が含まれる。
4探-126	須恵 壺	11.2	—	—	覆土 I-87	体部は大きく張らぬ。口縁部は短く、やや開きぎみで径は小さい。口唇部は尖りやや内傾する。	①青灰色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒を多く含む、黒色鉱物粒、石英粒もみられる。
4探-127	須恵 壺	15.0	—	—	覆土 H-88 上層	器内は一定している。器内外面に輪積み痕が残る。	①灰白色 ②還元 ③底部片 ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を多く含む。石英粒もわずかにみられる。
4探-128 (46-7)	須恵 底部	14.4	—	—	覆土 H-88	体部に比し、底部はやや器内が薄い。器内面に輪積み痕が残る。	①青灰色 ②還元 ③底部片 ④白色鉱物粒の他に黒色鉱物粒も多く含まれる。
4探-129 (47-1)	須恵 底部	11.1	—	—	覆土 I-88	底部は段状に張り出す。器内面には輪積み痕が残る、ヘラ押しによる整形痕がみられる。	①青灰色 ②還元 ③底部片 ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を多く含む。
4探-130 (47-6)	須恵 壺	13.6	—	—	覆土 H-89 1層	口縁部は強く外反し、口唇部は尖りぎみに直立する。体部は強く張り出す。	①青灰色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を含む。
4探-131	土部 小型壺	10.0	6.6	9.0	覆土 A-91	最大径を口縁部及び体部上半にもつ。体部は丸みをもって立ち上がり、口縁部は短く、やや外反する。体部下端に横位のヘラ削りが見られる。	①灰褐色 ②酸化 ③片 ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を多く含む、石英粒もわずかにみられる。
4探-132	土部 小型壺	—	—	—	覆土 I-88	口縁部は彎曲ぎみに外反し、口唇部は丸みをもつ。口縁部から体部にかけて横ナデ整形が行われる。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
4探-133	土部 小型壺	—	—	—	覆土 H-88 2層	体部はやや丸みをもって立ち上がり、口縁部はゆるく外反する。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
4探-134	土部 小型壺	11.8	—	—	覆土 H-88 2層	器内は体部から口縁部にかけかなり薄くなる。口縁部横ナデ整形。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白色鉱物粒、石英粒が含まれる。

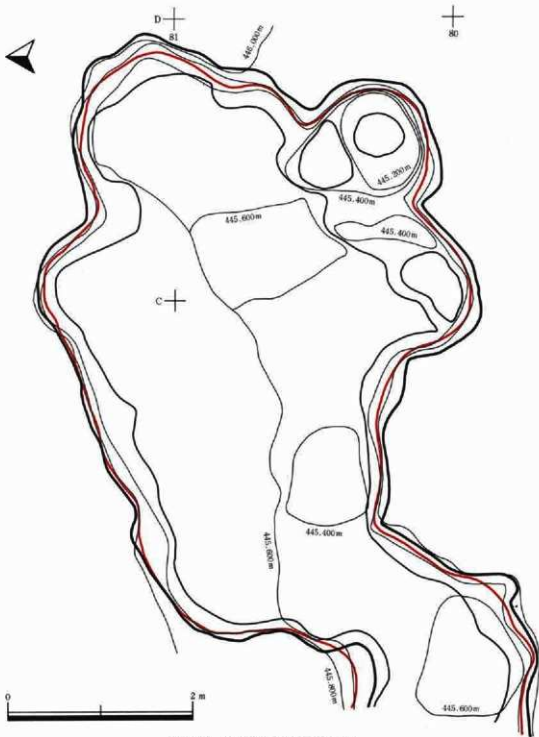
IV 検出された遺構と遺物

第4群粘土探掘出土遺物観察表(10)

4探-135	土 師 小型甕	15.6	— —	覆 土 H-88	最大径を口縁部にもつ。口縁部は強く開き、口 唇部は丸みをもつ。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部④ 白色鉱物粒、石英粒を含む。
4探-136	土 師 小型甕	—	— —	覆 土 I-87	口縁部はゆるく外反する。口縁部から体部上半 にかけては横ナデ、以下は斜位方向の整形痕が 認められる。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部④ 白色鉱物粒、石英粒を含む。
4探-137 (47-2)	須 恵 甕	—	4.7 — (高台接合部)	覆 土 H-88	体部は球状に膨らみ、中位に最大径をもつ。高 台は、貼付部から全部剥落する。	①青灰色 ②還元 ③体部④ 白色鉱物粒を多く含む。
4探-138	粗 輪	径43.5	穴径10.4	覆 土 G-90	両面に布目痕がみられる	①褐色 ②酸化 ③④ ⑤白色鉱物 粒を多く含む。黒色鉱物粒、石英粒 もわずかにみられる。
4探-139	同 上			覆 土 G-90	同 上	①褐色 ②酸化 ③破片 ④同上
4探-140	同 上			覆 土 G-88	同 上	①褐色 ②酸化 ③破片 ④同上
4探-141	同 上			覆 土 G-89 1層	同 上	①褐色 ②酸化 ③破片 ④同上
4探-142	同 上			覆 土 F-89	同 上	①褐色 ②酸化 ③破片 ④同上
4探-143	同 上			覆 土 G-88	同 上	①褐色 ②酸化 ③破片 ④同上
4探-144	同 上			覆 土 C-90	同 上	①褐色 ②酸化 ③破片 ④同上

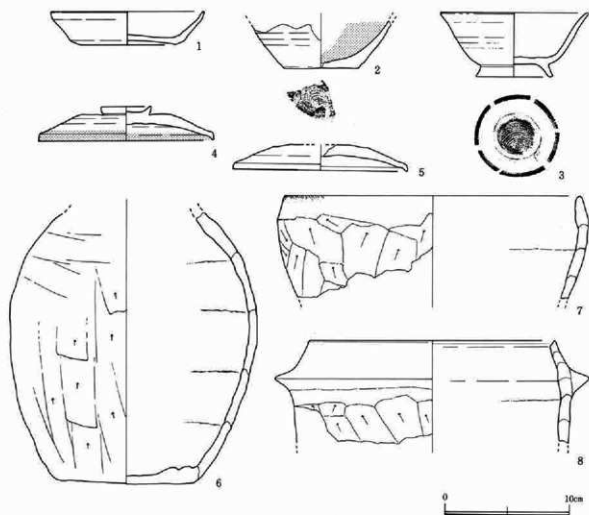
第5群粘土探掘址(第68図)

第2群粘土探掘址の北側1.2mに位置する。西側は調査区域外にのびており、南側壁部は1号土壇・2号土壇により切られる。規模は西端部は不明であるが、面積(開口部)は23.35㎡、粘土探掘量は6.46㎡を測る。1㎡当たりの粘土探掘量は0.28㎡であり、第2群粘土探掘址同様に掘削規模に比し少ない量を示している。出土遺物は第69図に示すが、出土状態は覆土上部より散発的に検出された。他に小破片が若干出土している。



第68図 第5群粘土探掘址平面図

IV 検出された遺構と遺物



第69図 第5群粘土採掘場出土土器

第5群粘土採掘場出土土器観察表(1)

遺物番号 (図版No)	器 種 形	口 径	法 直径	足 高	土 質	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	①色調 ②胎土 ③焼成 ④備考	⑤残存
5探-1 (47-4)	須恵 杯	12.3	7.6	2.6	硬土	底径が大きく、器高の低い杯。口縁部はやや直 立ぎみに立ち上がり、口唇部は尖りぎみ。体部 下半に右方向へのへら削り。	①灰白色 ②酸化 ③Ⅳ ④白色鉱 物粒を含む。	
5探-2	須恵 杯 イブシ	—	6.0	—	硬土 B-81	底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③Ⅳ、口縁部欠 ④白色鉱物粒を含む。	
5探-3 (47-6)	須恵 碗	11.9	6.0	5.1	硬土 B-83	体部にはロクロ目が残り、口縁部はわずかに外 反りぎみ、口唇部は丸い。高台の成形は丁事で端 部は丸みをもつ。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②酸化 ③Ⅳ ④白色鉱 物粒を含む。	
5探-4	須恵 蓋 イブシ	14.0	4.0	2.7	硬土	天井部中央にボタン状ツマミが付く。体部は短 く、口唇部は垂直に屈曲し突る。口縁部内外面 に炭素の吸着がみられる。	①灰白色 ②還元 ③Ⅳ ④白色鉱 物粒を含む。	

1. 平安時代の遺構と遺物

第5群粘土探掘出土土器観察表(2)

5探-5	須恵 蓋	14.0	—	—	覆土	口縁部にやや段をもち、口唇部は外側に凹面をもつ。端部はやや丸みをもつ。	①褐色 ②酸化 ③ツマミ欠 ④白色鉱物粒を含む。
5探-6 (47-3)		—	11.0	—	覆土 B-81	底径が大きく、体部中央に最大径をもつ。体部には上方への	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部欠 ④白色鉱物粒を含む。
5探-7 (47-5)	鉢	23.8	—	—	覆土 B-81	鉄鉢状の鉢。体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口縁部はやや肉厚で直立ぎみに立ち上がる。体部は上方へのヘラ削り。口縁部は横ナブ。	①灰白色 ②還元 ③写 ④白色鉱物粒を含む。
5探-8 (47-7)	羽釜	19.8	—	—	覆土 B-81	口縁部は内傾し、口唇部は尖りぎみで内側に凹面をもつ。脚は三角形を呈し付着は丁寧。体部は上方へのヘラ削りが施される。	①灰褐色 ②酸化 ③写 ④白色鉱物粒を含む。

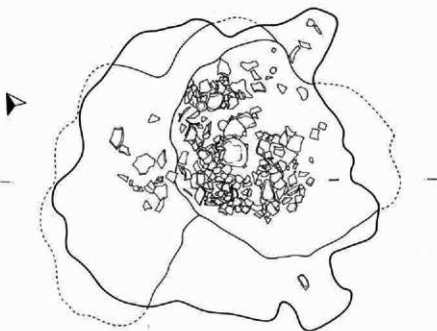
第6群粘土探掘(第70図、図版13-2、14、15)

L・M-85・86グリッドに位置する比較的小規模の探掘である。この探掘は土層断面の観察により最低2回の探掘作業が行なわれていることが看取される。まずA坑が掘削され、底部及び壁部の粘土探掘が行なわれた後、西側の壁を崩しB坑を掘り進めている。A坑の覆土はこの壁部の土層、ローム層及び一旦掘り上げられた白色粘土のブロック等が堆積している。B坑はA坑より浅いが同じように底部、壁部の白色粘土を採集している。又西側壁部は大きくオーバーハングするが、東側壁部(A坑と重複する側)はゆるやかに立ち上がり、この部分に白色粘土が帯状に残っていることから、粘土採集の際は掘り取った粘土を掻き上げながら作業を進めたと判断される。探掘終了後、壁の崩壊、黒色土の流れ込み等により堆積しており、この段階で凹みとして残っている部分に第72～78図に示す遺物が一括廃棄されている。

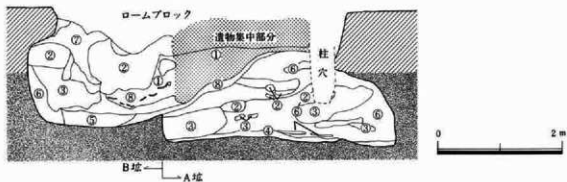
第6群粘土探掘出土土器観察表(1)

遺物番号 (図版No)	器種 器形	口径	底径	高さ	出土 位置	成形・整形の特徴	①色調 ④胎土	②焼成 ⑤備考	③残存
6探-1 (47-8)	須恵 杯	12.0	6.6	3.8	覆土	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部が丸みをもつが外側にわずかな段をもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③写 ④白色および黒色鉱物粒を含む。	⑤底面にへつによる「メ」印あり。	
6探-2 (47-9)	須恵 杯 イブシ	13.0	7.0	4.0	覆土 No60	体部下平にわずかな彎曲部をもち、上半は直線的に立ち上がる。口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。器表一部に炭素吸着。	①灰褐色 ②酸化 ③写 ④白色鉱物粒が多く含まれる他、石英粒も少量みられる。		
6探-3	須恵 杯 イブシ	—	6.6	—	覆土	底面に回転糸切り痕。体部左回転	①灰褐色 ②酸化 ③写 ④白色鉱物粒の他、石英粒も含まれる。		
6探-4 (47-10)	須恵 杯 イブシ	13.1	7.5	3.8	覆土	底面はわずかに段をもち、体部はやや彎曲ぎみに立ち上がる。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③写 ④白色鉱物粒の他、石英粒も含まれる。		

IV 検出された遺構と遺物



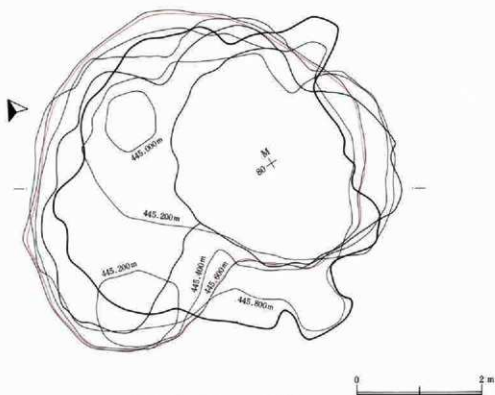
466.400m



土層説明

- ①層・ローム粒及びブロックを含む黒色土層。遺物は、ほとんどの層から出土。
- ②層・ロームブロック（ソフト）
- ③層・ロームブロック（ハード）
- ④層・ロームブロックを含む粘土層。
- ⑤層・ロームと粘土の混在する層。
- ⑥層・粘土ブロック。
- ⑦層・粘土及び黒色土
- ⑧層・粘土及び黒色土を混入するローム。
- ⑨層・黒褐色土層。

第70図 第6群粘土採掘地実測図

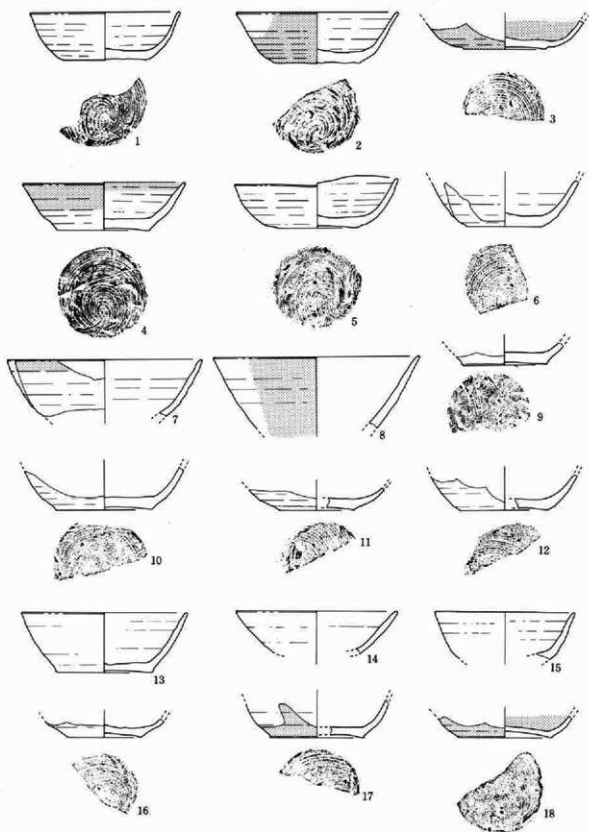


第71図 第6群粘土採掘坑平面図

第6群粘土採掘坑出土土器観察表(2)

6探-5 (47-11)	須恵 坑	13.1	6.4	3.6 4.1	覆土	体面はやや内傾ぎみに立ち上がり、ロクロ目が残る。底面に左回転糸切り痕。一部に切り傾じがみられる。器自体は成形時の歪みがある。	①灰白色 ②還元 ③完形 ④白色 鉱物粒の他、石英粒も含まれる。
6探-6	須恵 坑	—	6.0	—	覆土	体部下手にやや傾らみをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③底部欠 ④白色 鉱物粒、石英粒が含まれる。
6探-7	須恵 坑 イブシ	15.6	—	—	覆土	体面はやや彎曲ぎみに立ち上がり、ロクロ目が明瞭に残る。口唇部は尖りぎみに直立する。体部右回転。	①褐色 ②酸化 ③欠、底部欠 ④ 白色鉱物粒を多く含む。
6探-8	須恵 坑 イブシ	16.6	—	—	覆土	体面は直線的で大きく開く。口唇部は丸みをもつ。体部左回転。	①灰褐色 ②酸化 ③欠、底部欠④ 白色鉱物粒を多く含む。
6探-9	須恵 坑	—	6.7	—	覆土	底面わずかに段状に残る。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部欠 ④白色 鉱物粒の他、石英粒も含まれる。
6探-10	須恵 坑	—	7.6	—	覆土	体面は底部からやや彎曲ぎみに立ち上る。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部欠 ④白色 鉱物粒の他、黒色鉱物粒、石英粒 も含まれる。
6探-11	須恵 坑	—	6.0	—	覆土	底面はわずかに段状に残る。底面に左回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③底部欠 ④白色 鉱物粒、黒色鉱物粒が含まれる。

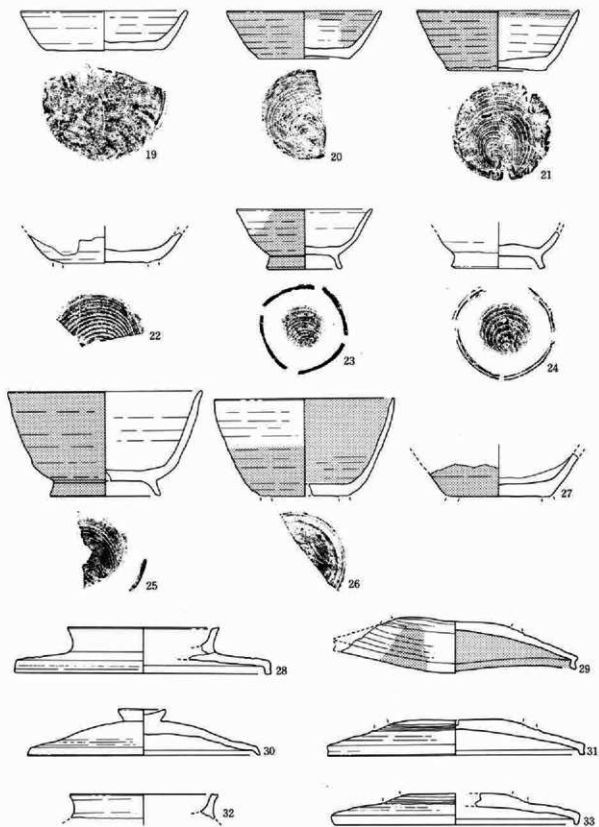
IV 検出された遺構と遺物



第72図 第6群粘土採掘址出土土器(1)

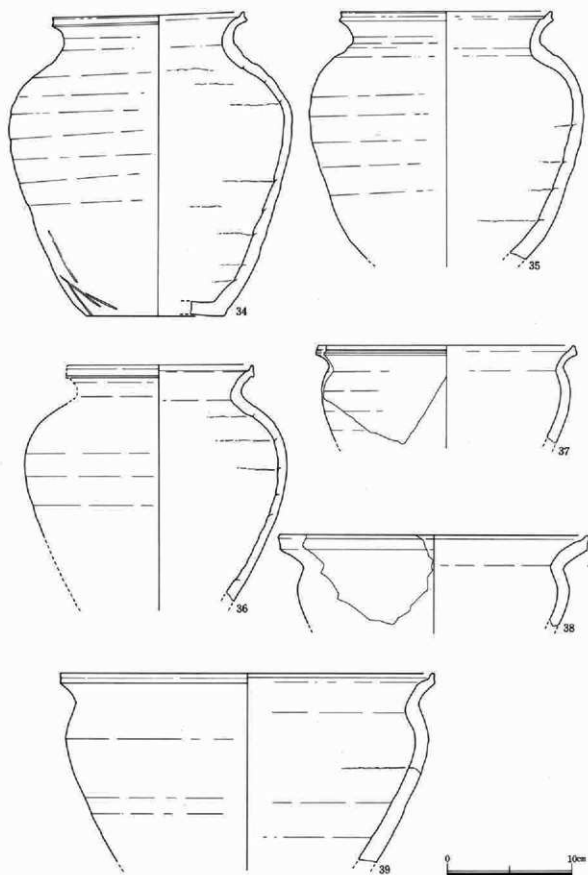
0 10cm

1. 平安時代の遺構と遺物



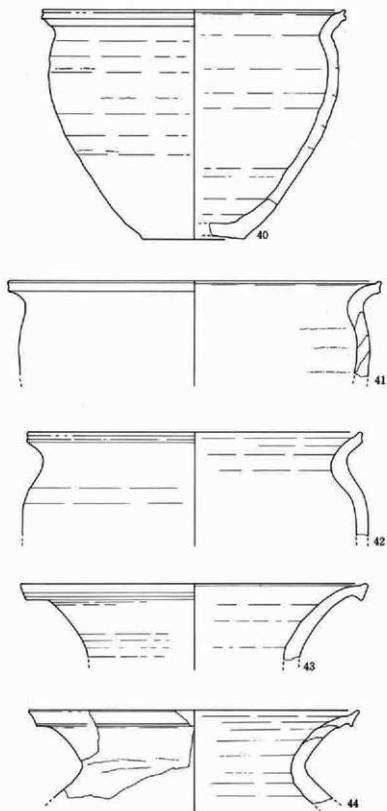
第73図 第6群粘土採掘域出土土器(2)

IV 検出された遺構と遺物



第74図 第6群粘土探掘域出土土器(3)

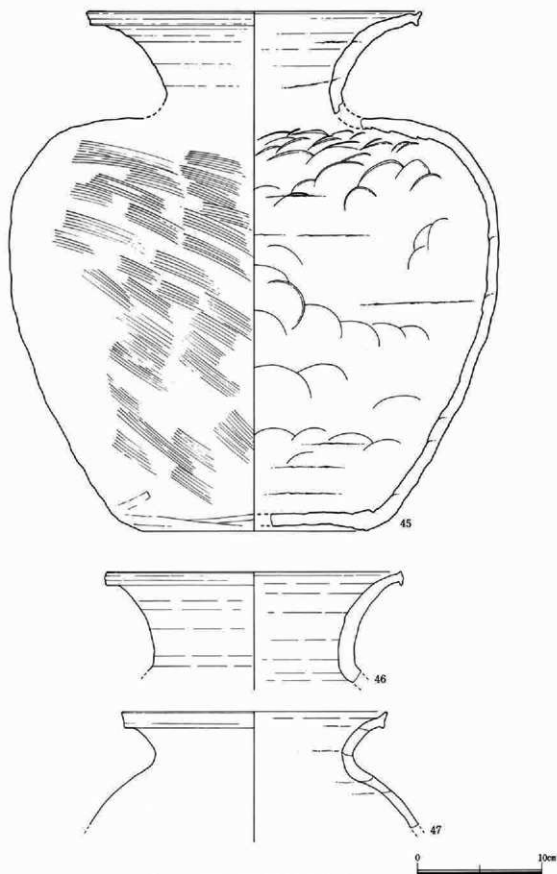
1. 平安時代の遺構と遺物



第75図 第6群粘土採掘場出土土器(4)

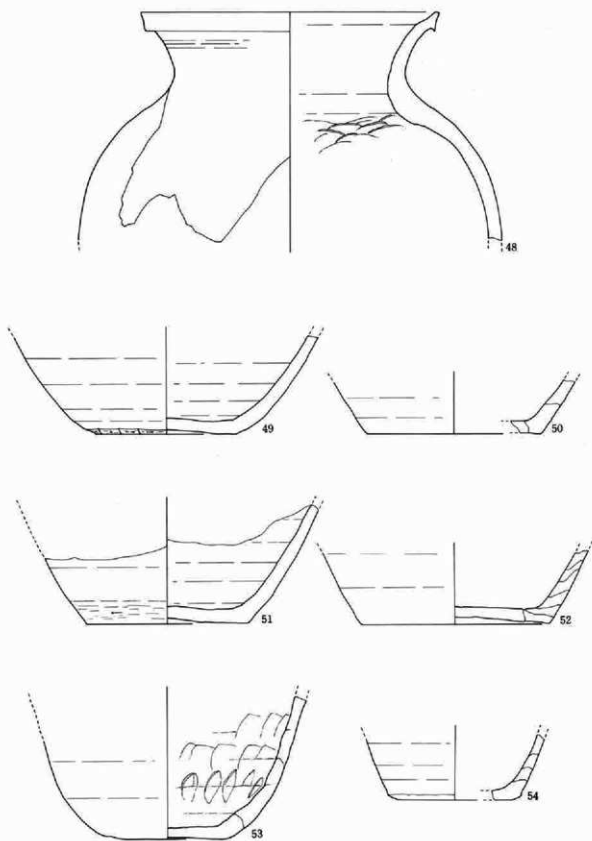


IV 検出された遺構と遺物



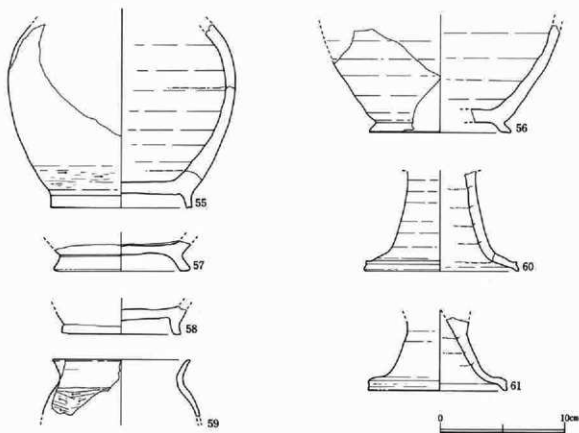
第76図 第6群粘土採掘地出土土器(5)

1. 平安時代の遺構と遺物



第77図 第6群粘土採掘出土土器(6)

IV 検出された遺構と遺物



第78図 第6群粘土採掘址出土土器(7)

第6群粘土採掘址出土土器観察表(3)

6探-12	須恵 坏	—	7.0	—	覆土	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がる。底面に回転 糸切り痕。体部左回転。	①灰褐色 ②酸化 ③底部% ④白 色鉱物粒。石英粒を多く含む。
6探-13	須恵 坏	13.4	7.6	4.8	覆土	体部はわずかに彎曲する。口唇部は丸みをもつ が、やや尖りぎみに立ち上がる。底面に回転糸 切り痕。	①灰白色 ②還元 ③% ④白色鉱 物粒を多く含む。
6探-14	須恵 坏	13.0	—	—	覆土	体部上半はやや肉厚となる。口唇部は丸みをもち、 体部にはロクロ目が残る。体部右回転。	①灰白色 ②還元 ③体部% ④白 色鉱物粒。石英粒をわずかに含む。
6探-15	須恵 坏	11.2	—	—	覆土	体部は楕円形に歪み、底部は接合部から剥落し ている。体部下半はやや彎曲し、口唇部にか けて直線的に立ち上がる。	①灰白色 ②還元 ③%、底部欠④ 白色および黒色鉱物粒の他、石英粒 をわずかに含む。
6探-16	須恵 坏	—	5.8	—	覆土	体部は下半でやや彎曲ぎみに立ち上がる。底面 に回転糸切り痕。	①灰青色 ②還元 ③底部% ④白 色鉱物粒を多く含む。

1. 平安時代の遺構と遺物

第6群粘土採掘場出土土器観察表(4)

6採-17	須恵 環 イブシ	—	7.6	—	覆土	体部下半はやや彎曲し立ち上がる。底面に回転 糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部欠 ④白 色鉱物粒、石英粒を含む。
6採-18	須恵 環 イブシ	—	7.4	—	覆土	底面は内側にやや彎曲し、右回転糸切り痕がみ られる。	①灰褐色 ②酸化 ③底部欠 ④白 色鉱物粒、石英粒を含む。
6採-19 (48-1)	須恵 環	13.4	9.5	3.2	覆土	底径が大きく、器高の低い環。底面にはヘラ削 りが施される。	①灰白色 ②還元 ③欠 ④
6採-20 (48-2)	須恵 環 イブシ	12.5	7.4	4.8	覆土	体部は直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをも つ。体部にはクロロ目が残る。底面に右回転糸 切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③欠 ④白色鉱 物粒の他、黒色鉱物粒をわずかに含 む。
6採-21 (48-3)	須恵 環 イブシ	13.0	7.8	4.8	覆土	底面はわずかに段状に残る。体部はほぼ直線的 に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に右 回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③欠 ④白色鉱 物粒を多く含む。
6採-22	須恵 塊	—	8.5	—	覆土	高台部は貼付部から全部剥落している。底面に 回転糸切り痕。体部左回転。	①灰褐色 ②還元 ③底部欠 ④白 色および黒色鉱物粒を含む。
6採-23 (48-4)	須恵 塊 イブシ	11.0	6.0	4.7	(高台部)	法量の比較的小きな塊。高台の貼付は丁寧に外 側に張り出し、端部は丸みをもつ。体部はやや 彎曲ぎみに立ち上がる。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部欠 ④白 色鉱物粒の他、石英粒をわずかに含 む。
6採-24 (48-5)	須恵 塊	—	7.4	—	覆土	底部は肉厚で、高台の貼付はしっかりしている。 外側に張り出し、端部は平坦面をもつ。底面に 回転糸切り痕。	①青灰色 ②還元 ④口縁部欠 ④ 白色鉱物粒を多く含む。
6採-25 (48-6)	須恵 塊 イブシ	15.6	8.8	8.3	覆土 J-81 2層	口径・器高とも大きい。高台貼付はしっかりし ており、端部は丸みをもつ。体部にクロロ目。 口唇部はやや尖りぎみ。底面回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③欠 ④白色お よび黒色鉱物粒を含む。
6採-26 (48-7)	須恵 塊 イブシ	14.5	7.2	—	覆土	法量の大きな塊。体部はクロロ目が残り、やや 内彎ぎみに立ち上がる。口唇部尖りぎみ。高台 は貼付部から全部剥落している。体部左回転。	①灰褐色 ②酸化 ③欠、高台部欠 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
6採-27	須恵 塊	—	8.4	—	覆土	高台部は貼付部から全部剥落する。全体的に器 肉が厚い。	①灰褐色 ②酸化 ④口縁・高台部 欠 ④白色鉱物粒を多く含む。石英 粒もみられる。
6採-28 (48-8)	須恵 蓋	20.4	12.1	3.6	覆土	天井部から体部にかけて直線的に連続し、口縁部 は短く屈曲し端部は平坦。天井部に大きなリン グ状ツマミが付く。ツマミ上端部は平坦面あり。	①灰白色 ②還元 ③欠 ④白色鉱 物粒、石英粒を含む。
6採-29 (48-9)	須恵 蓋 イブシ	19.4	11.4	—	覆土	体部は大きく歪む。天井部回転ヘラ削り。体部 にはクロロ目が残る。末端部はやや張り出す。 口縁部は直角に屈曲し、端部は平坦面をもつ。	①灰褐色 ②酸化 ③欠 ④白色鉱 物粒を含む ⑤リング状ツマミは貼 付部から剥落
6採-30 (49-1)	須恵 蓋	18.6	3.8	3.7	覆土	天井部は右回転のヘラ削りが施され、中央部に 中くぼみツマミが付く。口縁部は体部にややや 開きぎみに屈曲し、端部は尖りぎみとなる。	①灰白色 ②還元 ③欠 ④白色お よび黒色鉱物粒の他、石英粒をわず かに含む。
6採-31	須恵 蓋	20.6	13.0	—	覆土	天井部はやや肉厚となるが、体部にかけてあま り変化なく開く。口縁部は直角に屈曲し端部は 平坦。リング状ツマミは貼付部から全部剥落。	①灰白色 ②還元 ③欠 ④白色お よび黒色鉱物粒を含む。

IV 検出された遺構と遺物

第6群粘土採掘出土土器観察表(5)

6探-32	須恵 蓋	—	11.8	—	覆土	貼付部から剥落する。上端部に凹面をもつ。	①灰白色 ②還元 ③ツマミ部 ④白色鉱物粒を含む。
6探-33	須恵 蓋	19.4	11.6	—	覆土	天井部は肉厚となるが、器高は扁平である。天井部に付けられるリング状ツマミは貼付部から全部剥落する。口縁部は短く体部から垂下する。	①灰白色 ②還元 ③片 ④白色鉱物粒を多く含む。
6探-34 (48-10)	須恵 蓋	15.4	11.2	23.8	覆土	体部上半に最大径をもつ。口縁部は外反し、外側に面をもつ。器内外面には横方向の整形痕が残る。	①青灰色 ②還元 ③体部一部欠 ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒が含まれる。
6探-35 (49-3)	須恵 蓋	17.0	—	—	覆土	体部は丸みをもって、立ち上がり、上半に最大径をもつ。口縁部は短く、くの字状に外反し、外側に凹面をもつ。口唇部は尖り、直立する。	①灰白色 ②還元 ③片、底部欠 ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒が多く含まれる。
6探-36 (49-7)	須恵 蓋	15.0	—	—	覆土	体部は丸みをもって立ち上がり、上半に最大径をもつ。口唇部は短く、外反し外側に面をもつ。	①灰白色 ②還元 ③底部欠 ④白色鉱物粒を多く含む、黒色鉱物粒もみられる。
6探-37 (49-2)	須恵 蓋	20.5	—	—	覆土	最大径を口縁部にもつ。頸部はくの字状に外反し、口縁部は短く、外側に凹面をもつ。口唇部は尖り、直立する。	①灰白色 ②還元 ③口縁部片 ④白色および黒色鉱物粒を含む他石英粒もみられる。
6探-38 (49-5)	須恵 蓋	24.8	—	—	覆土 黒色土	最大径を口縁部にもつ。頸部はくの字状に強く外反し、口縁部は短く、外側に面をもつ。口唇部は尖り、直立する。	①青灰色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒を多く含む。石英粒はみられない。
6探-39 (49-4)	須恵 蓋	30.0	—	—	覆土	最大径を口縁部にもつ。頸部はくの字状に外反し、口縁部は短く、外側に面をもつ。口唇部は尖り、直立する。	①灰白色 ②還元 ③片 ④白色鉱物粒を多く含む、黒色鉱物粒もみられる。石英粒はみられない。
6探-40 (49-8)	須恵 蓋	24.2	8.2	8.2	覆土	最大径を口縁部にもつ。体部は上半に向って丸みをもって立ち上がり、頸部はくの字状に外反する。口縁部は外側に凹面をもつ。	①青灰色 ②還元 ③片 ④白色鉱物粒を多く含む、黒色鉱物粒もみられる。
6探-41 (49-6)	須恵 蓋	30.0	—	—	覆土	最大径を口縁部にもつ。体部上半はあまり瓶つみをもたず、頸部は強く外反する。口縁部は短く外側に凹面をもつ。	①灰白色 ②還元 ③片 ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒を多く含む。
6探-42 (50-1)	須恵 蓋	26.8	—	—	覆土	最大径を体部上半にもつ。頸部はくの字状に外反し、口縁部は外側に面をもつ。	①灰白色 ②還元 ③片 ④白色鉱物粒を多く含む、黒色鉱物粒、石英粒も多少みられる。
6探-43 (50-2)	須恵 蓋	27.8	—	—	覆土	口縁部はゆるやかに外反し、外側に面をもつ。口唇部は尖り、直立する。	①灰白色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒を多く含む、石英粒もみられる。
6探-44 (50-31)	須恵 蓋	26.5	—	—	覆土	口縁部は外反し、外側に面をもつ。口唇部は尖り、外側にやや開く。	①青灰色 ②還元 ③片 ④白色鉱物粒を多く含む、黒色鉱物粒、石英粒もみられる。
6探-45 (50-4)	須恵 蓋	26.8	18.0	41.0	覆土	体部は丸みをもって立ち上がり、上半に最大径をもつ。口縁部は彎曲ぎみに外反し、外側に凹面をもつ。体部には叩き目が施される。	①青灰色 ②還元 ③片 ④白色鉱物粒を多く含む。⑤図上還元
6探-46 (50-5)	須恵 蓋	23.6	—	—	覆土	口縁部はゆるやかに外反する。外側に面をもち凹縁が高る。口唇部は尖り、直立する。	①青灰色 ②還元 ③口縁片 ④白色鉱物粒を多く含む。

1. 平安時代の遺構と遺物

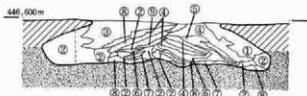
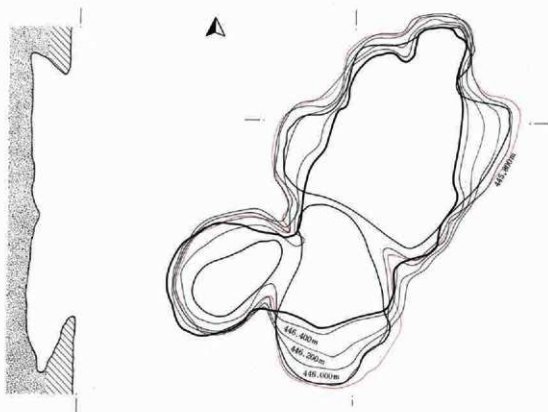
第6群粘土探掘域出土土器観察表(6)

6探-47 (50-6)	須 恵 壺	21.2	—	—	覆土	体部上半に最大径をもつ。頸部はくの字状に外反する。口縁部は外側に面をもち、口唇部は尖り直立する。	①青灰色 ②還元 ③口縁片 ④白色鉱物粒を多く含み、黒色鉱物粒もみられる。
6探-48 (51-3)	須 恵 壺	24.0	—	—	覆土	体部は球状を呈し、口縁部は外反ぎみに開き、段状となり外側に面をもつ。体部上半にあて目と叩き目が認められる。器面に釉が付着する。	①青灰色 ②還元 ③片、底部欠 ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を多く含み、石英粒も認められる。
6探-49 (51-1)	須 恵 底 部	11.0	—	—	覆土	体部下端および底面に左回転のヘラ削りが施される。体部はやや丸みをもって立ち上がる。	①灰白色 ②還元 ③底部片 ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒が多く含まれる。
6探-50 (51-4)	須 恵 底 部	14.0	—	—	覆土	底部に比し体部はやや肉厚となる。底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。体部内面に輪積み痕が残る。	①灰白色 ②還元 ③底部片 ④白色鉱物粒を多く含まれる。黒色鉱物粒もみられる。
6探-51 (51-2)	須 恵 底 部	13.0	—	—	覆土	体部下端にヘラ削りが施される。内面には輪積み痕が残る。	①灰白色 ②還元 ③底部 ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒が多く含まれる。
6探-52	須 恵 底 部	15.0	—	—	覆土	底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。	①灰白色 ②還元 ③底部片 ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒を含む。
6探-53	須 恵	9.6	—	—	覆土	体部は丸みをもって立ち上がる。内面には輪積み痕とともに整形痕が残る。	①青灰色 ②還元 ③底部片 ④白色鉱物粒を多く含む。
6探-54	須 恵	9.2	—	—	覆土	底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。器内面に輪積み痕が残る。	①青灰色 ②還元 ③底部片 ④白色鉱物粒を多く含む。
6探-55 (51-6)	須 恵 壺	—	11.3	—	覆土	高台は円筒状を呈し、端部は平坦面をもつ。貼付は丁寧。体部はやや丸みをもって立ち上がる。	①灰白色 ②還元 ③片、口縁部欠 ④白色鉱物粒を外く含み、黒色鉱物粒もみられる。
6探-56 (51-7)	灰 輪 壺	—	11.3	—	覆土	高台は外側に張り出す。体部はやや丸みをもって立ち上がる。	①灰白色 ②還元 ③底部片 ④石英粒がわずかに含まれる。
6探-57	須 恵 壺	—	11.0	—	覆土	段の高台部と思われる。やや外側に張り出し、端部に平坦面をもつ。接合部で剥落する。	①灰白色 ②還元 ③底部 ④白色鉱物粒がわずかに含まれるが、夾雑物は少ない。
6探-58	須 恵 壺	—	9.5	—	覆土	段の高台部と思われる。高台は内凹状を呈し、端部に平坦面をもつ。底面にヘラ切り痕がみられる。接合部で剥落する。	①青灰色 ②還元 ③底部 ④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒がわずかに含まれる。
6探-59	土 師 小 型 壺	11.0	—	—	覆土 H-80 I層	口縁部はゆるやかに外反し、横ナデ整形、体部には横位のヘラ削りが施される。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒がわずかに含まれる。
6探-60 (51-8)	須 恵 高 坏	12.4	—	—	覆土	柱部内面には輪積み痕が明確に残る。裾部は強く開き、末端に横をもつ。端部は尖り、やや外側に張り出す。	①灰白色 ②還元 ③脚部片 ④白色鉱物粒および黒色鉱物粒が含まれ、石英粒もみられる。
6探-61	須 恵 高 坏	11.2	—	—	覆土 黒色土	柱部内面に輪積み痕が残る。裾部は強く開き、端部は外側に面をもち、尖りぎみに垂下する。	①灰白色 ②還元 ③脚部片 ④白色鉱物粒を多く含む他、黒色鉱物粒、石英粒もみられる。

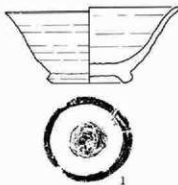
IV 検出された遺構と遺物

第7群粘土採掘址（第79図、図版16-1）

第3群粘土採掘址に東接して掘り込まれる。面積（開口部）は20.30㎡の規模をもち、粘土採掘量は8.22㎡を測る。壁部は大きくオーバーハンクし、白色粘土がかき出されている。土層断面図A-A'にその状況が看取され、この部分では西側の粘土採掘終了後、東側へと移動している。1㎡当たりの採掘量は0.40㎡である。



第79図 第7群粘土採掘址実測図



第80図 第7群粘土採掘址出土土器

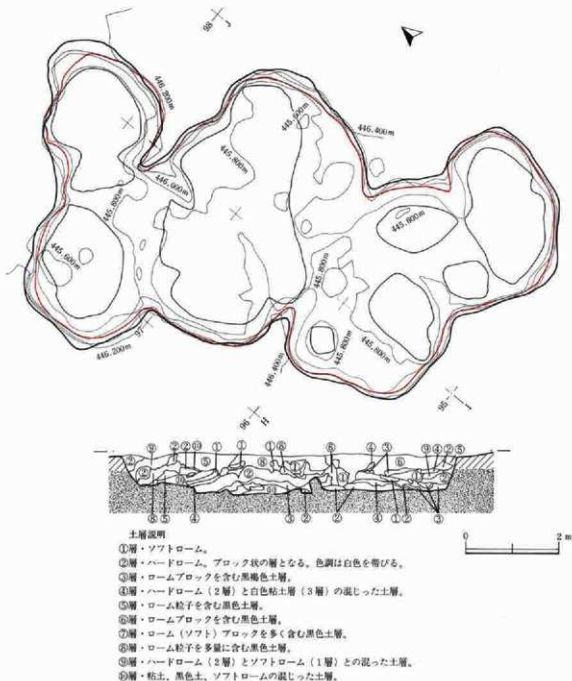
土層説明

- ①層・ロームブロック 壁が崩れ堆積したものであり部分的に黒色土を混入する。
- ②層・ロームブロック（ハード）
- ②'層・②層に粘土を混入する層。
- ③層・ロームブロックを含む軟弱な黒褐色土層。
- ④層・ロームブロック及び粘土ブロックの混在する層。
- ⑤層・ロームブロックを混入する白色粘土層。

- ⑥層・粘土ブロックを混入するローム（ハード）層。
- ⑦層・
（ソフト）層。
- ⑧層・ローム（ハード）と粘土が互に混在する層。
- ⑨層・ロームブロック（ソフト、ハード）混在する層。

第8群粘土採掘場（第81図、図版16-2）

遺跡北側に位置し、10グリッドにわたり掘り込まれている中規模の採掘場である。西側は第3群粘土採掘場、東側は第9群粘土採掘場に接している。壁面はほぼ垂直もしくは傾斜をもって立ち上がり、オーバーハングする部分は少ない。底面は細かい起伏があり多数回にわたる採掘作業の痕跡を残している。面積（開口部）は52.51㎡、白色粘土採掘量は20.31㎡を測る。1㎡当たりの粘土採掘量は0.38㎡となり、遺跡北側に位置する他群採掘場とほぼ同様の傾向を示す。本採掘場からは遺物の出土はない。

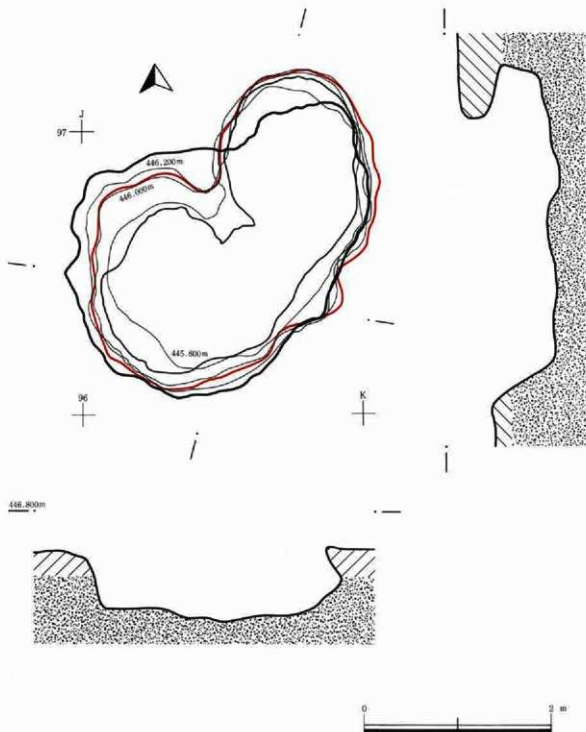


第81図 第8群粘土採掘場平面図

IV 検出された遺構と遺物

第9群粘土採掘地（第82図、図版16-2、17-1）

第8群粘土採掘地に東接して掘り込まれるが、新旧関係については不明である。開口部の面積は6.82㎡、深さは約80cmを測る。壁部は北側及び東側において白色粘土が抉り取られているが、他の部分は梯形断面を呈する。白色粘土採掘量は約3.08㎡であり、1㎡あたり採掘量は0.45㎡を測る。遺物はグリット調査時において土器片が数点出土したのみである。



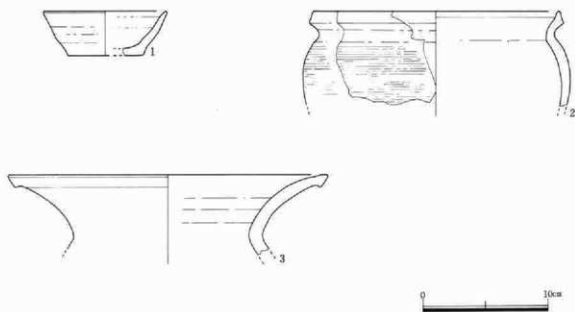
第82図 第9群粘土採掘地実測図

第10群粘土採掘坑（第83図）

遺跡北端部、F・G-97・98グリッドに位置する。本採掘坑北側も確認調査を行ったが粘土採掘坑及びその他の遺構は検出されなかった。面積（開口部）は6.96㎡を測り、第9群粘土採掘坑と同様の規模であるが、粘土採掘量は1.61㎡で、1㎡当たりの採掘量は0.23㎡となっている。この採掘量は、今回検出された採掘坑の中で最も少なく、遺跡北端部においても南半部と同じように効率的な採掘作業には適していなかったことが示される。



第83図 第10群粘土採掘坑平面図



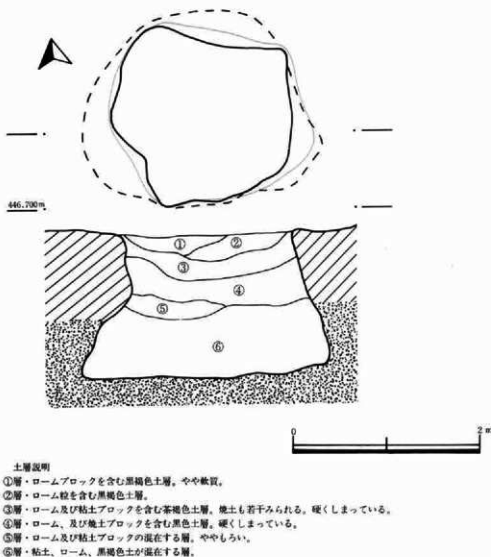
第84図 第10群粘土採掘坑出土土器

IV 検出された遺構と遺物

第11群粘土採掘場（第85図、図版17-2）

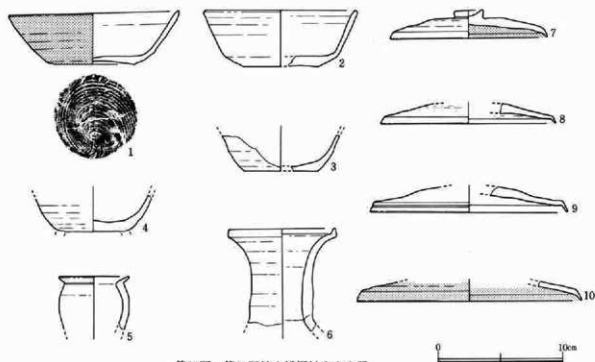
H-89グリッドに位置し、第4群粘土採掘場の北側に近接して掘り込まれる。今回の調査により検出された採掘場の中で最も小規模のものである。平面形は口径1mの不整形円形を呈し、深さは80cmを測る。白色粘土層から下部は壁部が抉り取られオーバーハングし、底径は1.4mを測る。底部の粘土中にはグリーンタフの小礫が含まれるが壁部には含まれないことから、他の採掘場と同じように含有物の少ない良質の白色粘土のみを目的として採掘している。開口部面積は2.69㎡、粘土採掘量は0.94㎡であり、1㎡あたりの採掘量は0.35㎡を測る。遺物は覆土上部から坏、甕等の土器類が出土している。（第86図）

本採掘場はその規模から考えて、人間一人が作業できる大きさであり、粘土採掘作業の基本的な一単位と捉えることができ、第46図の掘削工程の第2段階で終了したものである。



第85図 第11群粘土採掘場実測図

1. 平安時代の遺構と遺物



第86図 第11群粘土採掘場出土土器

第11群粘土採掘場出土土器観察表(1)

遺物番号 (採掘%)	器 種 形	法 径	法 径	法 径	出 土 位	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	①色 ②土 ③焼 ④成 ⑤残 ⑥存
11採-1 (52-1)	須恵 環 イブシ	13.7	6.5	4.3		体部はほぼ直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。器外面は磨減が著しい。	①褐色 ②酸化 ③完形 ④白色鉱物粒の他、砂粒を多く含む。
11採-2	須恵 環	12.4	6.0	4.5	覆土	体部下半に腫をもち、口縁部にかけて直線的に立ち上がる。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。	①青灰色 ②還元 ③ $\frac{1}{2}$ ④白色鉱物粒の他、黒色鉱物も含まれる。
11採-3	須恵 環	—	6.0	—	覆土	体部は底部からやや増曲ぎみに立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③口縁部欠 ④白色鉱物粒の他、石英粒も多少みられる。
11採-4	須恵 塊	—	5.8	—	覆土	高台は貼付部より全部剥落している。外面にロクロ目が残り、底面に回転糸切り痕がみられる。	①青灰色 ②還元 ③体部欠 ④白色鉱物粒の他、石英粒もみられる。
11採-5	須恵 小型壺	5.6	—	—	覆土	体部は球状を呈し、頸部でくびれ、口縁部は短く、くの字状に外反する。	①灰白色 ②還元 ③ $\frac{1}{4}$ 、底部欠 ④白色鉱物粒を多く含む。
11採-6 (52-3)	須恵 長頸壺	8.6	—	—	覆土	頸部は円柱状に立ち上がり、口縁部は開く。口唇部は尖りぎみで直立する。頸部下半内側に輪積み痕が残る。	①灰白色 ②還元 ③口縁-頸部 ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒が含まれる。
11採-7 (52-2)	須恵 蓋 イブシ	12.6	2.4	2.2	覆土	天井部は左方向のへう削りが施され、中央部に中くぼみツマミが付く。体部はやや増曲ぎみに開き、口唇部は尖りぎみである。	①褐色 ②酸化 ③完形 ④白色鉱物粒を多く含む、石英粒もわずかにみられる。

IV 検出された遺構と遺物

第11群粘土採掘場出土土器観察表(2)

11探-8	須恵 蓋	14.0	—	—	覆土	体部左回転。口唇部はやや開きぎみで端部は尖る。	①青灰色 ②還元 ③体部片 ④白色鉱物粒を多く含む。
11探-9	須恵 蓋	15.8	—	—	覆土	体部から口縁部にかけてわずかに彎曲ぎみに開く。口唇部は尖り、開きぎみとなる。体部左回転	①灰白色 ②還元 ③体部片 ④白色鉱物粒を多く含む。
11探-10	須恵 蓋 イブシ	18.0	—	—	覆土	口唇部はやや尖りぎみで強く開く。	①褐色 ②酸化 ③体部片 ④白色鉱物粒を多く含む他、石英粒もわずかにみられる。

第7群及び第10群粘土採掘場出土土器観察表

遺物番号 (図版No.)	器種 器形	口径	底径	高さ	出土 位置	成形・整形の特徴	①色調 ②焼成 ③胎土 ④備考	⑤残存
7探-1 (51-10)	須恵 埴	14.0	5.8	6.0	覆土 J-93	体部やや彎曲ぎみに立ち上がり、口縁部は外反する。口唇部は丸みをもつ。器台は肉厚で、端部がやや張り出しぎみ。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部一部欠 ④白色鉱物粒が多く含まれる。石英粒も多少みられる。	
10探-1	須恵 坏	19.6	—	—	覆土 G-98	小型の坏である。体部はわずかに彎曲ぎみに立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③片 ④白色鉱物粒が多少含まれる。	
10探-2	須恵 埴	10.0	6.0	3.5	覆土 F-98	最大径を体部上半にもつ。口縁部は短く、やや外反し、口唇部は尖りぎみでやや内傾する。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒が多く含まれ、石英粒も多少みられる。	
10探-3	須恵 埴	25.5	—	—	覆土	口縁部は外側に大きく開き、外側に段状の面をもつ。口唇部はやや丸みをもつ。	①青灰色 ②還元 ③口縁部片 ④白色鉱物粒を多く含む他、黒色鉱物粒もみられる。	

粘土採掘場一覧表

採掘場	採掘面積(m ²)	白色粘土採掘量(m ³)	1m ² 当りの採掘量(m ³)	備考
第1群	7.68	3.51	0.46	
第2群	13.57	3.56	0.26	
第3群	176.48	59.75	0.34	
第4群	223.15	83.55	0.37	西端部は未調査
第5群	23.35	6.46	0.28	西端部は未調査
第6群	2.49	2.07	0.44	西端部は未調査
第7群	20.30	8.22	0.40	
第8群	52.51	20.31	0.38	
第9群	6.82	3.08	0.45	
第10群	6.96	1.61	0.23	
第11群	2.69	0.94	0.35	粘土採掘場最少単位

(3) 土 壇

土壇として確認された遺構は計27基である。各土壇は、遺跡中央部の台地平坦部に位置し南側斜面にはほとんど検出されていない。又、遺跡北半部には粘土採掘壇が大きく掘り込まれており、土壇と重複している。このことにより、土壇の平面プランの確認には困難が生じたため、採掘壇に関わる土壇についてグリッド調査による断面確認を行った。当然採掘壇より古い土壇は検出し得ないが、新しいものは実数に近い基数を検出し得るよう調査を行った。各土壇の時期は出土遺物により平安時代に属するものが6基、近世(江戸時代)に属するものが15基確認された。その他遺物の出土をみない土壇が6基存在する。

1号土壇(第87図、図版18-1)

C-80グリッドに位置し、第5群粘土採掘壇を切って掘り込まれている。平面形は口径130cm、底径115cmの円形プランを呈し、深さは80cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面も平坦である。覆土はロームブロック(ソフト)を含み締まりに乏しく軟弱な黒褐色土の上層とローム粒子、粘土及び炭火物を少量含み締まりに乏しい黒色土の下層に分層できる。下層は底面から平均20前後の厚さで堆積している。遺物はほとんど覆土上層から出土し、下層からは土器片3点のみ検出された。

2号土壇(第87図、図版18-2)

1号土壇の西側150cmに位置し、同様に第5群粘土採掘壇を切って掘り込まれている。又、2号掘立柱建物北西コーナーの柱穴により北壁の一部が切られている。平面形は口径125cm、底径100cmの円形プランを呈し、深さは40cmを測る。壁は粘土採掘壇を切っている関係から、ローム及び粘土ブロックを含む黒色土からなる不安定なものであり、底面は白色粘土層で作られている。覆土はこぼし大のローム、粘土ブロックを含む硬く締まった黒褐色土である。遺物は北東部壁際に底面から10cm上部に須恵器の坏が出土している。

3号土壇(第87図、図版18-3)

E-79グリッドに位置し、ローム面において検出された。平面形は開口部85cm×62cmの楕円形プランを呈し、深さは22cm、長軸方位はN-70°-Eを測る。底面は平坦であり、壁は鍋底状を呈しゆるやかに立ち上がっている。覆土はロームブロックを含む黒色土層である。遺物は須恵器の坏が6点、埴1点、土師器の甕片が出土している他、人頭大の凝灰岩も出土している。

4号土壇(第87図、図版18-4)

E-80グリッドポイントを中心に位置し、ローム面において検出された。平面形は口径70cm、底径55cmの円形プランを呈し、深さは15cmを測る。底面はほぼ平坦であり、壁は西側においてゆるやかなものとなっている。覆土はロームブロックを含む黒褐色土であり、遺物は須恵器の坏が1点出土している。

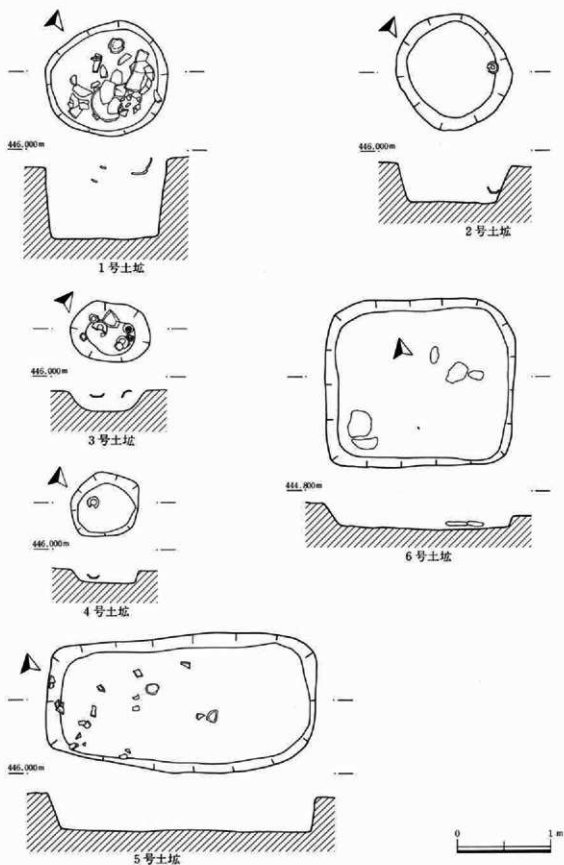
5号土壇(第87図、図版18-5)

J、K-87グリッドに位置する。2号住居址南西コーナー部分を切って掘り込まれている。平面形は開口部288cm×144cmの楕円形プランを呈し、深さは42cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

6号土壇(第87図、図版18-6)

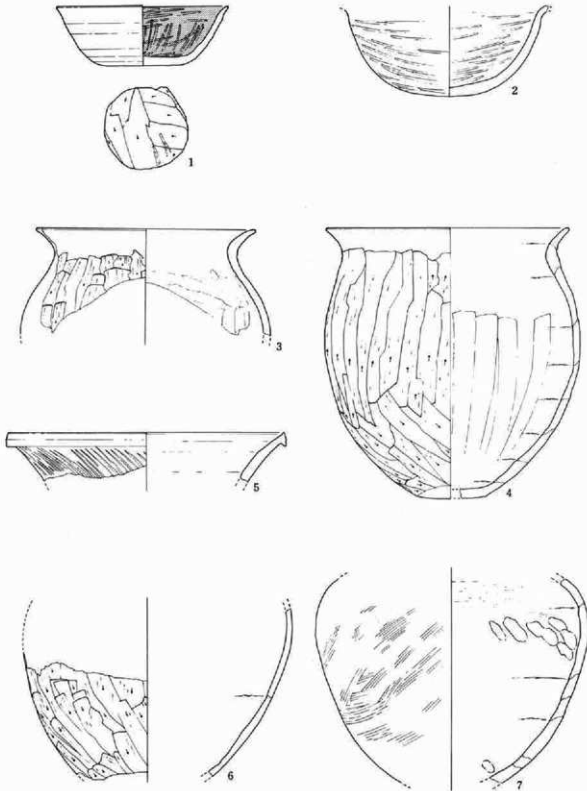
J・K-76グリッドに位置する。7号住居址西側に接して検出された。平面形は長辺2m×短辺1.7mの長方形を呈するが、各コーナーは丸みをもつ。残存壁高は西側で22cm、東側で12cmを測り、底面は細かい起伏がみられるがほぼ平坦である。又土壇内には扁平な河原石が数個検出されているが、使用痕もしくは焼火等の痕跡は認められない。遺物は床面に接して須恵器の破片が数片出土している。

IV 検出された遺構と遺物



第87図 土坑実測図

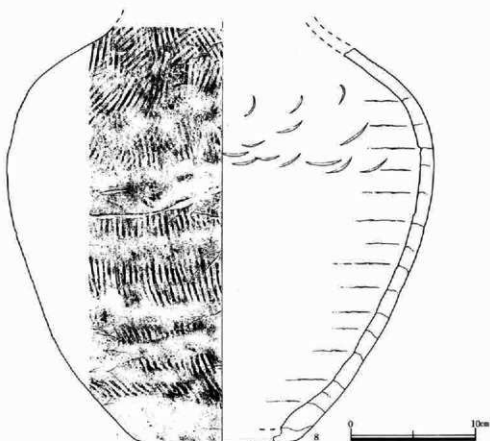
1. 平安時代の遺構と遺物



第88図 1号土埴出土土器(1)



IV 検出された遺構と遺物

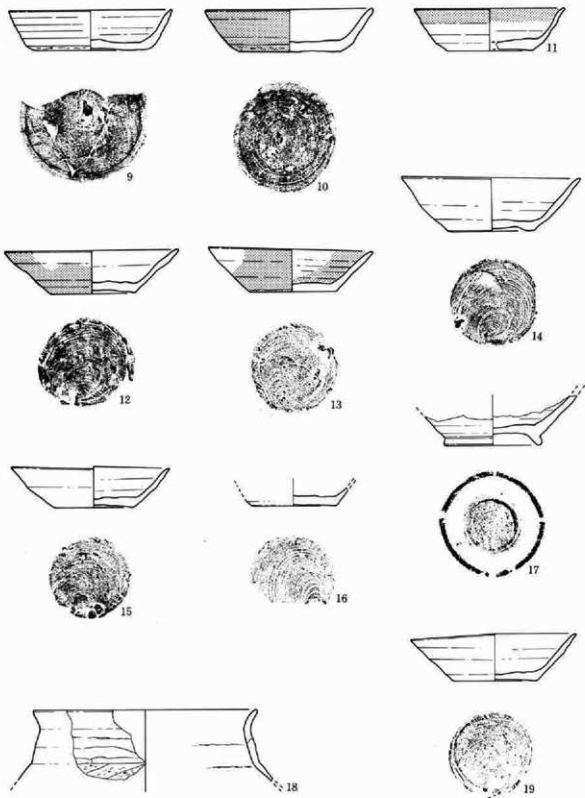


第89図 1号土坑出土土器(2)

1号土坑出土土器観察表

遺物番号 (図版No)	器形	法 口径	底径	器高	出土 位置	成形・整形の特徴	①色調 ④胎土	②焼成 ⑤備考	③残存	
1 (53-1)	土器 坏 内黒	18.4	8.7	6.4	1土坑	法量の大きな坏である。内面は不十分な内黒処理が行なわれ、体部にはロクロ目が残る。底面はヘラ削りが施される。	①褐色	②酸化	③欠	④鉱物粒を含む。
2	土器 鉢	—	—	—	1土坑	底部から体部は短面しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口縁部は横ナデ、体部内外面は横位の削ぎが行われる。	①褐色	②酸化	③口縁部欠	④白色鉱物粒、石英粒を含む。
3 (53-2)	土器 壺	23.5	—	—	1土坑	口縁部はくの字状に外反し、口唇部は丸みをもつ。口縁部は横ナデ、体部は上から下方向へのヘラ削りが施される。	①褐色	②酸化	③体部欠	④白色鉱物粒を含む。
4 (53-3)	土器 壺	25.9	7.3	28.6	1土坑	口縁部はくの字状に外反し、体部は地状を呈する。口縁部は横ナデ。体部上半は上方向への、下半は下方向へのヘラ削りが施される。	①褐色	②酸化	③欠	④鉱物粒を含む。
5	須恵 壺	29.4	—	—	1土坑	口唇部は尖りぎみで、外側に面をもつ。口縁部は大きく外反する。	①灰白色	②還元	③口縁部欠	④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を含む。 ⑤8と同一個体と思われる。
6 (53-4)	土器 壺	—	—	—	1土坑	体部下半部。右方向へのヘラ削りが施される。	①褐色	②酸化	③体部欠	④砂粒、鉱物粒を含む。

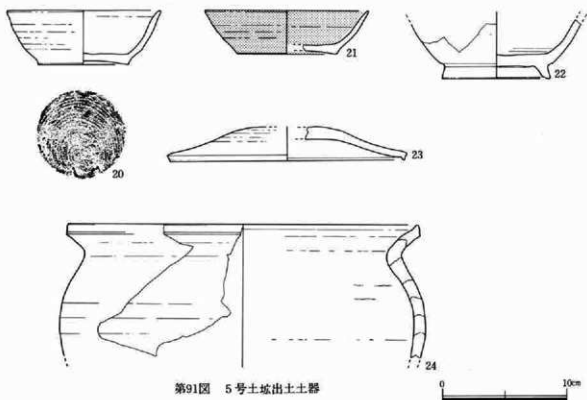
1. 平安時代の遺構と遺物



第90図 2、3、4号土城出土土器



IV 検出された遺構と遺物



第91図 5号土坑出土土器

1・2・3・4号土坑出土土器観察表

7	甕			1土坑	体部は球状を呈す。器内外面に整形痕が明瞭に残る。	①褐色 ②酸化 ③体部写 ④白色鉱物粒を含む。	
8 (53-6)	須恵 甕	—	14.5	—	器内外面にタタキ目整形痕が明瞭に残る。	①灰白色 ②還元 ③口縁部欠 ④白色および黒色鉱物粒を含む。	
9 (54-1)	須恵 坏	13.1	9.0	3.2	2土坑	器高が低く、底径の大きな坏である。体部はほぼ直線的に立ち上がる。底面はヘラ削りが行なわれ、体部下端に一条ヘラ削りがみられる。	①灰白色 ②還元 ③写 ④白色鉱物粒を含む。
10 (54-2)	須恵 坏 イブシ	13.6	8.1	3.4	2土坑	器高が低く、底径の大きな坏である。底面及び体部下端に左回転ヘラ削りが行なわれる。	①灰褐色 ②酸化 ③宛形 ④白色 鉱物粒を多量に含む他、石英粒もみられる。
11 (54-3)	須恵 坏 イブシ	12.1	7.0	3.4	3土坑	体部にクロロ目が残り、口唇部は丸みをもちやや外反する。底面に右回転糸切り痕。口縁部に沿って炭素の吸着がみられる。	①褐色 ②酸化 ③写 ④白色鉱物 粒、石英粒を含む。
12 (54-4)	須恵 坏 イブシ	14.0	6.7	3.4	3土坑	体部はほぼ直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③写 ④白色鉱物 粒、石英粒を含む。
13 (54-5)	須恵 坏 イブシ	13.3	7.0	3.4	3土坑	口縁部が大きく歪む。体部は直線的に立ち上がり口唇部は尖りぎみ。底面に左回転糸切り痕。炭素の吸着は不完全だが、器内外面にみられる。	①灰褐色 ②酸化 ③写 ④白色鉱物 粒、石英粒を含む。

1. 平安時代の遺構と遺物

3・4・5号土壇出土土器観察表

14 (54-6)	須 恵 環	14.3	7.0	4.1	3土壇	体部はわずかに彎曲し、口縁部はやや外反りである。底面に左回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③片 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
15 (54-7)	須 恵 環	12.7	6.3	3.1	3土壇	口縁部がやや歪み器体に亀裂が入る。体部はやや膨らみを持ち、口縁部は外反りである。底面に左回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③完形 ④白色鉱物粒を含む。
16	須 恵 環	—	6.7	—	3土壇	底面に左回転糸切り痕。	①褐色 ②酸化 ③底部片 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
17 (54-8)	須 恵 壇	—	7.8 (高台部)	—	3土壇	高台の貼付は丁寧であり、底面に回転糸切り痕。高台は低く丸みを持ちやや張り出しぎみである。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁部欠 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
18	土 部 壺	18.0	—	—	3土壇	コの字状口縁を呈する壺である。	①褐色 ②酸化 ③口縁部片 ④白色および黒色鉱物粒の他、石英粒を含む。
19 (54-9)	須 恵 環	13.3	6.6	3.7	4土壇	体部はほぼ直線的に立ち上がり、口唇部は尖りぎみである。底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③完形 ④白色および黒色鉱物粒の他、石英粒を含む。
20 (54-10)	須 恵 環	12.3	7.2	4.3	5土壇	体部はやや彎曲ぎみに立ち上がる。底面に右回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③片 ④白色鉱物粒および石英粒を含む。
21	須 恵 環 イブシ	13.1	8.0	3.5	5土壇	器厚は比較的薄く、体部はやや彎曲ぎみで口唇部は尖りぎみに立ち上がる。体部にはロウロ目が見える。底面に回転糸切り痕。	①灰褐色 ②酸化 ③片 ④白色鉱物粒および石英粒を含む。
22	須 恵 壺	—	8.6 (高台部)	—	5土壇	高台の貼付は丁寧である。体部上半欠。	①灰白色 ②還元 ③底部片 ④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を含む。
23	須 恵 壺	18.8	—	—	5土壇	天井部から体部にかけてやや彎曲ぎみに開く。口唇部は垂直に彎曲し外側に面をもつ。	①灰褐色 ②酸化 ③ツマミ部欠 ④白色鉱物粒、石英粒を含む。
24	須 恵 壺	26.0	—	—	5土壇	口縁部は短く、くの字状に外反する。口唇部は尖りぎみに直立し外側に面をもつ。	①灰褐色 ②酸化 ③口縁～体部片 ④白色鉱物粒を含む。

IV 検出された遺構と遺物

(4) 骨蔵器出土遺構

骨蔵器を伴う遺構は2ヶ所検出された。第1群粘土採掘坑と重複する7号土坑からNo1・No2骨蔵器が検出されている。No3骨蔵器を出土するL-76グリッド遺構はわずかに掘り込みが確認されたが、全体的には攪乱が著しく土坑としての形状は把握できなかった。

7号土坑(第92図、図版19-1)

C-94グリッドに位置し、南壁部を第1群粘土採掘坑によって切られている。平面形は2.3m×1.8mの楕円形を呈し、中央部に径1.1m、深さ50cmの規模の円形の掘り込みがあり、段状の土坑となっている。No1骨蔵器は、土坑上段部に横倒し状態で検出された。口縁部及び底部を一部欠くがほぼ完形である。No2骨蔵器は、第1群粘土採掘坑に切られているため採掘坑側へ傾斜した状態で検出された。口縁の一部を欠くがほぼ完形である。その他覆土中から第94図1～3の土器類が出土している。

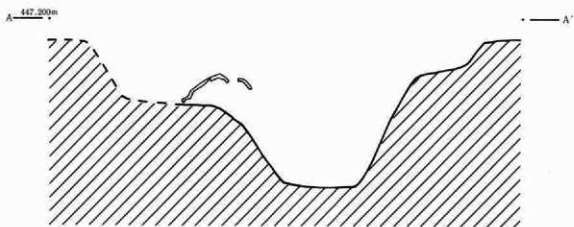
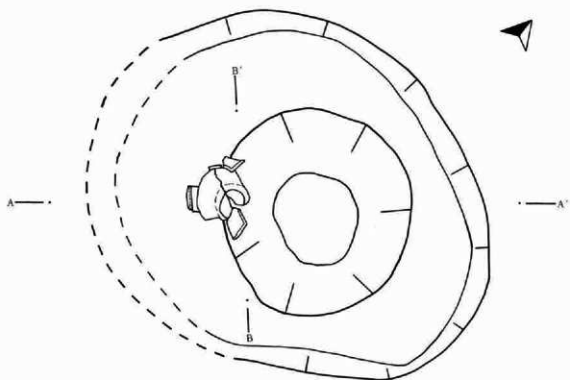
L-76グリッド遺構(第93図、図版19-4)

No3骨蔵器は予備調査の際検出され、7号住居址を切って埋置されている。掘り方は耕作等の攪乱によりほとんど残っていないが、トレンチ調査時土層断面下部にわずかに掘り込みが確認された。又7号住居址床面をわずかに掘り込んでいる。骨蔵器は口縁部及び体部の一部を欠き、耕作等により当初の原位置は失われているが、大きな移動はないと考えられる。骨蔵器内には土が詰っており、この中に骨片が検出されている。周囲には河原石による石組状のものが検出されている。これらの石も出土状態からNo3骨蔵器に伴うものと判断されるが、やはり攪乱による移動が認められ、本来どのような形で用いられているのかは不明である。又、骨蔵器に伴うと考えられる蓋についてもすでに失われており検出されなかった。

7号土坑及びL-76グリッド出土土器観察表

遺物番号 (図版No.)	器種 器形	法 口径	底径	器高	出位 土層	成形・整形の特徴	①色 ②土質 ③焼成 ④残存
1	須恵 坑 イブシ	12.9	6.5	3.5	7号土坑	体部はやや彎曲し立ち上がり、クロロ目が残る。底面に右回転糸切り痕。横挽成であるが、底面内外面には旋車の痕跡はみられない。	①褐色 ②酸化 ③完形 ④白色紅物粒の他、石英粒を含む。
2	須恵 坑 イブシ	11.4	6.0	5.4 (高台部)	7号土坑	体部は下半でやや彎曲し、上半は直立ぎみに立ち上がる。高台は貼付、成形ともに丁寧に成形は平坦。器内外面とも均一に皮素吸着する。	①灰白色 ②還元 ③片 ④白色紅物粒の他、石英粒を含む。
3	須恵 坑	—	6.8	—	7号土坑	底面に右回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③底部 ④白色紅物粒を含む。
4 (19-2)	須恵 壺	29.4	13.9	21.8	7号土坑	最大径を口縁部および体部上半にもつ。頸部は強く括れ、口縁部は短く、外側に凹面をもち、口唇部は尖りぎみに立ち上がる。	①青灰色 ②還元 ③完形 ④白色および黒色紅物粒の他、石英粒も多少含まれる。
5 (19-3)	骨蔵器	17.8	16.6	19.5	7号土坑	体部は円筒状を呈し、口縁部は雑な成形である。	①灰白色 ②還元 ③一部欠 ④白色紅物粒および石英粒を含む。
6 (19-5)	須恵 壺	15.0	9.4	20.5	L-76	底面に左回転糸切り痕。	①灰白色 ②還元 ③完形 ④白色および黒色紅物粒の他、石英粒も多少含まれる。

1. 平安時代の遺構と遺物

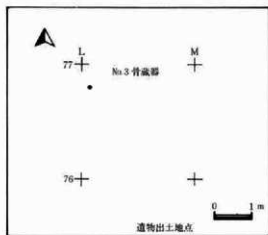
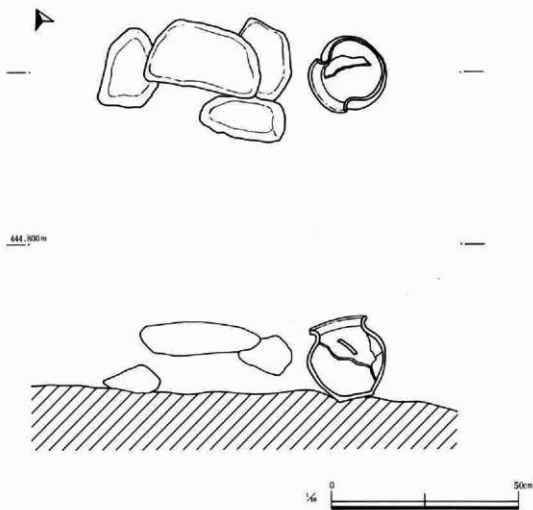


土層説明
 ①層・ローム粒子を含む黒色土層。
 ②層・黒色を少し含むローム層。

第92図 7号土坑実測図

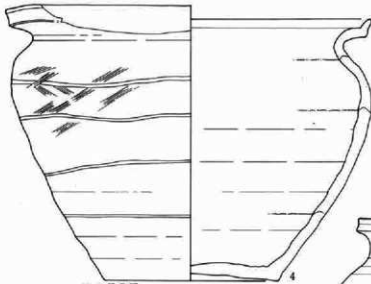
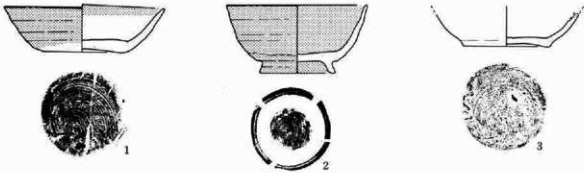


IV 検出された遺構と遺物

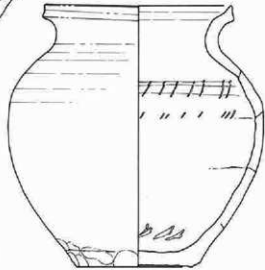


第93図 No.3 骨遺器出土状態図 (L-グリッド)

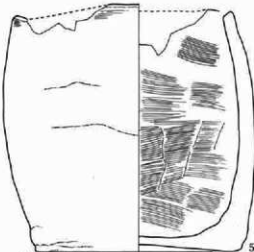
1. 平安時代の遺構と遺物



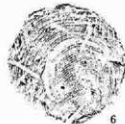
No. 1 骨流器



No. 3 骨流器

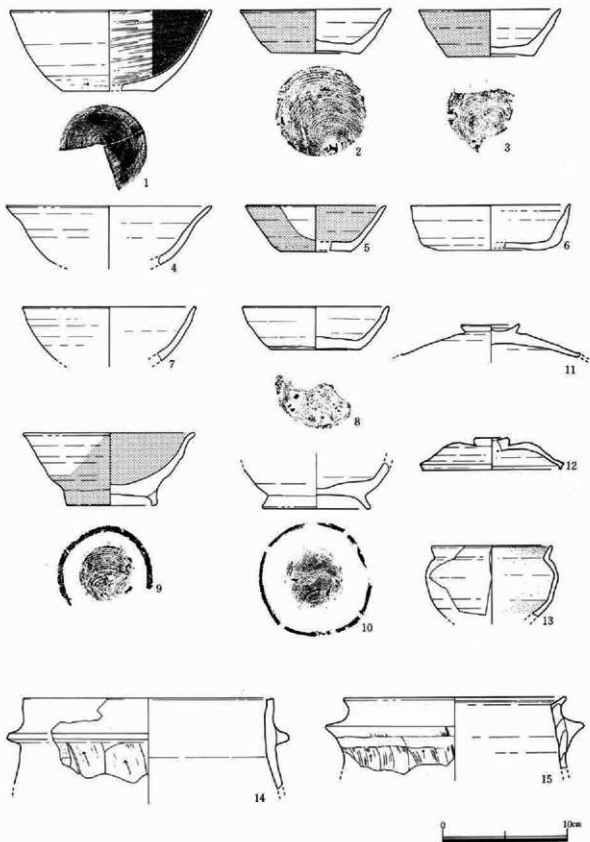


No. 2 骨流器



第94図 7号土壇、L-76グリッド出土土器

IV 検出された遺構と遺物



第95図 グリッド出土土器

1. 平安時代の遺構と遺物

グリッド出土土器観察表

遺物番号 (図面No.)	器形 口徑 底徑 器高	出土 位置	成形・整形の特徴	①色調 ④胎土	②酸化 ⑦焼成	③気泡 ⑧備考	⑨残存
1 (52-4)	土師 内黒 16.2 7.2 6.4	3トレ	体部は彎曲ぎみに立ち上がり口唇部は丸みをもつ。内黒の環である。内面はよく磨かれ光沢をもつ。底面は右回転ヘラ削りが施される。		②酸化	③気	④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒がわずかに含まれる。
2 (52-5)	須恵 環 イブシ 12.0 7.2 3.4	C-76	体部はわずかに張り込み、口縁部はやや外反ぎみに開く。口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。		②酸化	③完形	④白色鉱物粒が多く含まれる他、夾雑物は少ない。
3	須恵 環 イブシ 11.4 7.0 3.7	B-83	体部はほぼ直線的に立ち上がり、口唇部は丸みをもつ。底面に右回転糸切り痕。		②酸化	③気	④白色鉱物粒が多く含まれる。
4	須恵 環 16.5 — —		体部はやや丸みもち、口縁部はゆるやかに外反する。		②酸化	③気、底部欠	④石英粒がわずかに含まれる。
5	須恵 環 イブシ 11.3 5.6 3.7	B-83 1層	体部はほぼ直線的に立ち上がり、口唇部は尖りぎみとなる。器外面及び口縁部内側に皮素の吸着がみられ黒色を呈する。底面に回転糸切り痕。		②酸化	③気	④白色鉱物粒を多く含む。
6	須恵 環 12.8 8.0 3.6	J・K -82・ 83	口径が大きく、器高が低い。体部はやや彎曲ぎみに立ち上がり器内が厚く、口唇部は尖りぎみである。底面に右回転糸切り痕。		②酸化	③気	④白色鉱物粒、黒色鉱物粒を含む他、石英粒もわずかにみられる。
7	須恵 環 14.0 — —	B-83 1層	体部はやや内彎ぎみに立ち上がる。口唇部は丸みもち、わずかに内傾する。		②還元	③気、底部欠	④白色鉱物粒を多く含む。
8	須恵 環 11.8 7.0 3.3	B-82 1層	体部はやや彎曲し、口唇部は丸みをもつ。底部は内厚で底面に右回転糸切り痕。		②還元	③気	④白色鉱物粒、石英粒を含む。
9 (52-6)	須恵 環 イブシ 13.8 7.3 5.8 (高台部)	B-87	体部は彎曲ぎみに立ち上がり、口縁部はやや外反する。口唇部は丸みをもつ。高台部は円筒状を呈し、端部は平明、底面に右回転糸切り痕。		②酸化	③完形	④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒、石英粒も含まれる。
10	須恵 碗 — 8.7 — (高台部)	C-76	高台の貼付は丁寧で、強く張り出し端部は丸みをもつ。底面に左回転糸切り痕。		②還元	③口縁部欠	④白色鉱物粒の他、黒色鉱物粒もわずかに含まれる。
11	須恵 蓋 — 4.7 — (ツマミ部)	B-83 1層	天井部中央に扁平ボタン状ツマミが付く。		②還元	③口縁部欠	④白色鉱物粒、石英粒が含まれる。
12 (52-8)	須恵 蓋 11.0 2.8 2.5 (ツマミ部)		天井部は高く、口縁部に殻をもつ。口唇部は垂直に屈曲し、端部は尖り外側に凹線が走る。		②還元	③気	④石英粒がわずかに含まれる。
13	須恵 小型甕 9.6 — —	F-86 1層	口縁部は短く、くの字状に外反し、口唇部は丸みをもつ。		②還元	③気	④白色鉱物粒、黒色鉱物粒が含まれる。
14 (52-10)	須恵 羽釜 20.0 — —	4トレ	口縁部はほぼ直立し、口唇部は平坦面をもつ。脚は丸みもち、しっかり付着する。体部には下から上方向へのヘラ削りが施される。		②酸化	③口縁部片	④砂粒、白色鉱物粒を多く含む他石英粒もみられる。
15 (52-9)	須恵 羽釜 17.8 — —	B-83	口縁部は短く、口唇部は外側に強く張り出し、上面には凹線が散在する。脚は三角形を呈し、体部は下から上方向へのヘラ削りが施される。		②還元	③口縁部片	④黒色鉱物粒が多く含まれる他、石英粒もわずかにみられる。

IV 検出された遺構と遺物

2、近世の遺構と遺物

(1) 掘立柱建物址

遺構(柱穴)は全てローム上面で検出される。この段階で柱穴プラン内の掘り下げ、及び半載を行い平面もしくは断面による柱痕の確認調査を行ったが、掘立柱建物址として抽出し得たものに関しては確認できなかった。又、掘立柱建物に伴うと考えられる柱穴は遺構中央部を中心にかなり多く検出されたが、建物址として抽出し得たものは6棟である。

1号掘立柱建物址(第97図、図版20-1)

2号掘立柱建物址と重複し、調査区域西端に投して検出され建物址西半は不明である。柱穴掘り方は円形であり、径は平均40cmを測り、主軸方位はN-16°-Eである。柱間は桁行7.8m、梁行は不明である。又、本址に伴う遺物は検出されていない。

2号掘立柱建物址(第99図、図版20-1)

本址西側で1号掘立柱建物址と重複し、一部は1号・2号及び3号土壇を切っている。規模は梁行2間(5.5m)×桁行2間(12.0m)、主軸方位はN-14°-Eを測る。柱穴掘り方は円形であり、径は平均45cm内外である。P5とP6間に存在すると考えられる柱穴は未検出である。西側にP8・P9が検出されたが、これは廂と考えられるが、P9に直交する北西部の柱穴は検出できなかった。柱間は梁行5.5m、桁行5.6m。

3号掘立柱建物址(第100図、図版20-2)

遺跡南半中央部に位置する。1間(6.0m)×1間(7.9m)の掘立柱建物址である。主軸方位はN-15°-Eを測る。柱穴掘り方は円形を呈し径は40cm内外である。検出されたP1からP4以外の柱穴は確認できなかった。

4号掘立柱建物址(第98図、図版21-1)

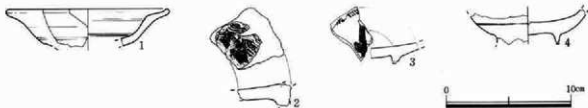
3号及び4号住居址の東側に位置する。又、P1は5号住居址南東コーナーを切って掘り込まれている。規模は1間(4.5m)×2間(5.4m)、主軸方位はN-8°-Eを測る。柱穴掘り方は円形を呈し、径は平均45cm内外であり、P2及びP5内からは標が検出されている。柱間は梁行4.5m、桁行2.7mである。

5号掘立柱建物址(第101図、図版21-2)

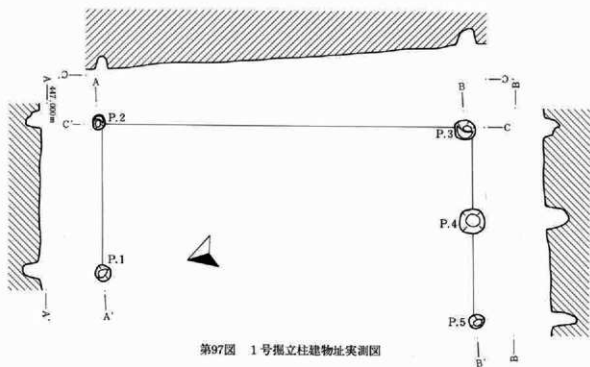
遺跡北半東側に位置する1間(4.0m)×2間(4.0m)の掘立柱建物址である。6号掘立柱建物址と大きく重複するが新旧関係は不明である。又、P6は12号土壇を切って掘り込まれている。主軸方位はN-6°-Eである。柱穴掘り方は円形を呈し、径は平均40cm内外であり、柱間は梁行4.0m、桁行2.0mである。

6号掘立柱建物址(第102図、図版21-2)

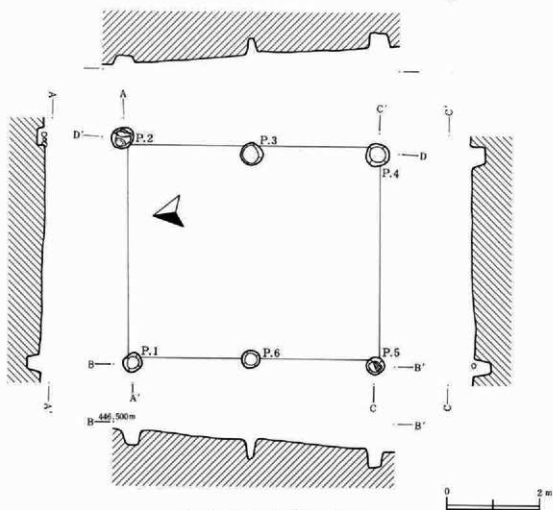
5号掘立柱建物址と重複する1間(3.85m)×2間(4.3m)の掘立柱建物址である。主軸方位はN-96°-Eを測り、柱穴掘り方は円形を呈し、径は平均40cm内外である。柱間は梁行3.85m、桁行2.0mである。



第96図 3・4号掘立柱建物址関係遺物

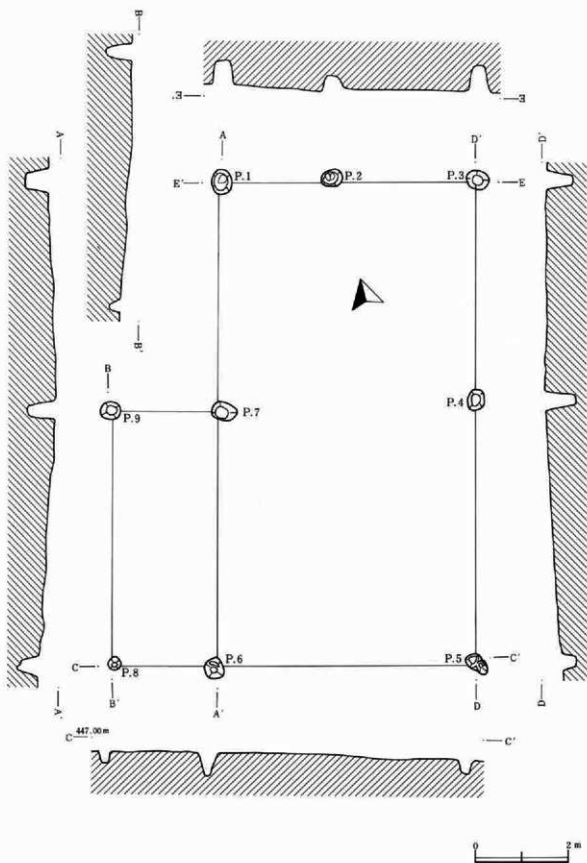


第97図 1号掘立柱建物址実測図

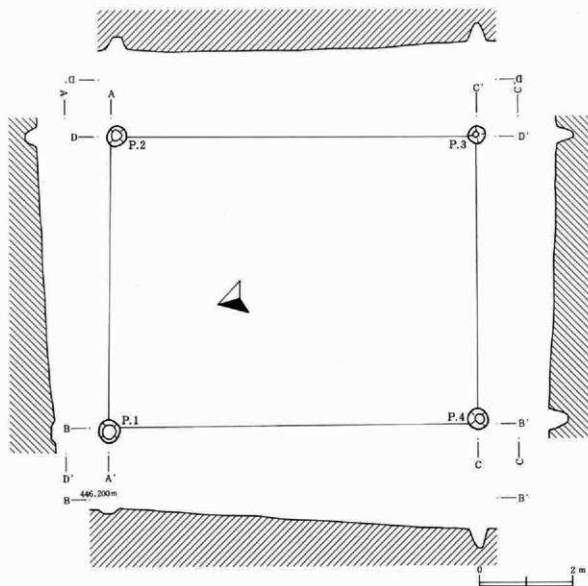


第98図 4号掘立柱建物址実測図

IV 検出された遺構と遺物



第99図 2号掘立柱建物址実測図



第100図 3号掘立柱建物址実測図

掘立柱建物址柱穴計測表 (単位はcm)

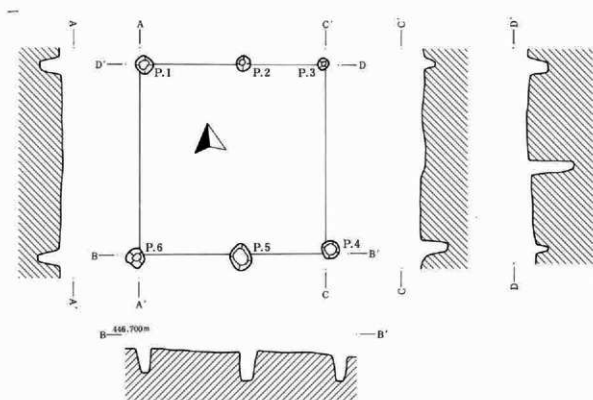
	No	径	深さ
1号	P 1	35.0	36.0
	P 2	30.0	32.0
	P 3	44.0	35.0
	P 4	55.0	50.0
	P 5	32.0	54.0
2号	P 1	50.0	50.0
	P 2	43.0	34.0
	P 3	45.0	57.0
	P 4	40.0	68.0

	No	径	深さ
2号	P 5	40.0	30.0
	P 6	42.0	50.0
	P 7	50.0	60.0
	P 8	28.0	22.0
	P 9	40.0	55.0
3号	P 1	48.0	10.0
	P 2	42.0	24.0
	P 3	38.0	38.0
	P 4	42.0	40.0

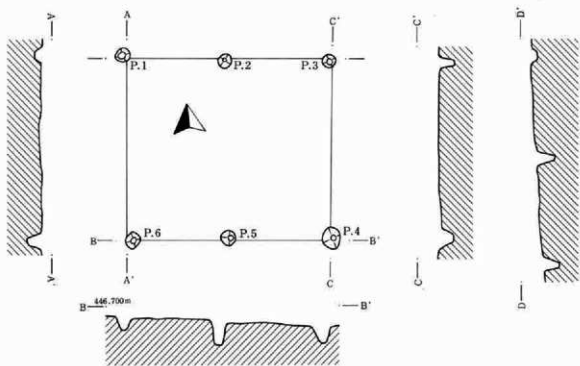
	No	径	深さ
4号	P 1	44.0	33.0
	P 2	46.0	16.0
	P 3	50.0	30.0
	P 4	50.0	30.0
	P 5	39.0	38.0
	P 6	40.0	45.0
5号	P 1	40.0	44.0
	P 2	30.0	92.0
	P 3	25.0	23.0

	No	径	深さ
5号	P 4	38.0	55.0
	P 5	48.0	60.0
	P 6	40.0	48.0
6号	P 1	30.0	15.0
	P 2	36.0	40.0
	P 3	30.0	33.0
	P 4	40.0	36.0
	P 5	32.0	50.0
	P 6	32.0	30.0

IV 検出された遺構と遺物



第101図 5号獨立柱建物址実測図



第102図 6号獨立柱建物址実測図



(2) 土 壇

発掘調査により土壇として確認し得た遺構は計27基であり、内6基は出土遺物により平安時代に属するものとして前述した。他の土壇は出土遺物及び形状により近世に属すると判断されるものである。これらの土壇はその形状により2種に分類される。1つは“桶”を埋置したと判断されるものと、他は覆土中に礫を多く含むものである。各土壇は遺跡南半、台地平坦部に集中して分布しており、平安時代に属する土壇とは立地が異なっている。その他、遺物等を全く出土しない土壇が6基検出されたが、これらについては所属する時期について確定できない。

a. 桶を埋置した土壇

桶を埋置したと判断される土壇は7基検出された。この土壇の特徴は、掘り方と埋設する桶との間に粘土を裏込めとしていることである。桶自体は9号及び11号土壇において一部残存していたが、大半は消失している。しかし、裏込めとした粘土面に桶の胴部、底部に使用される“タガ”が痕跡として残っている。

8号土壇(第103図、図版22-1)

B-93グリッドに位置し、第4群粘土探掘坑を切って掘り込まれている。平面形(掘り方)は口径90cm底径70cmの円形プランを呈し、深さは50cmを測る。底面には径70cm、幅5cm、深さ2cmを測る桶のいわゆる“アシ”部の痕跡が検出された。裏込めは白色粘土が用いられ、掘り方に沿って平均5cmの厚さで巡っている。礫は覆土上部に検出され、他出土遺物はない。

9号土壇(第103図、図版22-2)

B-89グリッドに位置する。平面形は口径50cm、底径45cmの円形プランを呈し、深さは20cmを測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。粘土による裏込めは行われていない。底面及び壁面に桶の一部が残存していた。(第105図-6)

10号土壇(第103図、図版22-3)

E-90グリッドに位置し、第4群粘土探掘坑を切って掘り込まれている。平面形(掘り方)は、口径140cm、底径90cmの円形プランを呈し、深さは50cmを測る。裏込めは白色粘土が用いられ、壁面に沿って巡り、この面に幅3cm、深さ2cmのタガの痕跡が1条検出された。底面はほぼ平坦であり縁辺に沿って径104cm、幅6cm、深さ2cmの桶のアシ部の痕跡が同様に検出された。覆土中から礫が8個及びキセルの吸口(第105図-2)が出土している。

11号土壇(第103図、図版22-4)

C・D-92・93グリッドに位置し、第4群粘土探掘坑を切って掘り込まれている。平面形(掘り方)は口径100cm、底径84cmの円形プランを呈し、深さは54cmを測る。裏込めは白色粘土に暗褐色が混在する土が壁に沿って巡り、幅4cm、深さ2cmのタガの痕跡が13cm間隔で2本検出された。底面はわずかに起伏をもつが、縁辺には径90cm、幅5cm、深さ2cmのアシ部分の痕跡が検出された。遺物は桶の底部と考えられる板材の一部(第105図-7)が底面に密着して検出され、覆土下部に礫が5個出土している。

12号土壇(第103図、図版22-5)

M-92グリッドに位置し、5号獨立柱建物址(P6)に切られている。平面形(掘り方)は162cm×98cmの楕円形のプランを呈し、深さは30cmを測る。残存状態は悪いが、底面に径90cmのアシ部分の痕跡が検出された。壁面の裏込めはみられない。遺物は寛永通宝、磁石(第105図-1・4・5)が出土している。

13号土壇(第103図、図版22-6)

IV 検出された遺構と遺物

N-90グリッドに位置する。西半はかなり削平され、又耕作による攪乱も受けており残存はあまり良くない。平面形(掘り方)は口径130cm、底径58cmの円形プランを呈し、深さは50cmを測る。裏込めは暗褐色土を混在する白色粘土であり、壁に沿って巡っている。底面には径85cm、深さ8cmの円形の窪みがみられる。タガ及びアシ部の痕跡は検出されなかった。遺物は覆土下部よりキセルの吸口(第105図-3)が1点出土している。

14号土坑(第103図、図版23-1)

13号土坑の南側10cmに位置する。平面形(掘り方)は口径120cm、底径70cmの円形プランを呈し、深さは22cmを測る。裏込めは暗褐色土を混在する灰色粘土が用いられ、壁に沿って巡っている。タガの痕跡は認められなかった。底面に径100cm、幅10cm、深さ4cmの桶のアシ部の痕跡が検出された。遺物の出土は見られない。

6、礫を出土する土坑

これに属する土坑は計8基検出された。又、礫はほとんど覆土上層から出土する。

15号土坑(第104図、図版23-2)

A-90グリッドに位置し、第4群粘土探掘坑を切って掘り込まれている。平面形は2m×1.7mの楕円形プランを呈し、深さは残存高で24cmを測る。底部は若干起伏があり西へわずかに傾斜している。礫は計19個出土したが、ほとんどのものは底面から30~50cmの高さから検出された。

16号土坑(第104図、図版23-3)

11号土坑の南側70cmに位置し、第4群粘土探掘坑を切って掘り込まれている。平面形は1.1mの円形プランを呈し、深さは70cmを測る。底面は平坦であり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。礫は2個出土し、覆土下部より寛永通宝が2点(第106図-8)出土している。

17号土坑(第104図、図版23-5)

N-95グリッドに位置する。平面形は径1.2mの円形プランを呈し、深さは20cmを測る。礫は5個検出された。又、石臼(第113図-1)が礫に混在して出土している。底面はわずかに東側へ傾斜し、壁は鍋底状に立ち上がる。

18号土坑(第104図、図版23-4)

E・F-90グリッドに位置し、第4群粘土探掘坑を切って掘り込まれている。平面形は1.5m×1.3mの楕円形プランを呈し、深さは110cmを測る。底面は平坦であり梯形断面を呈する。礫は第3層に多く検出され下部からフィゴの羽口(第106図-10)が1点出土している。

19号土坑(第104図、図版23-6)

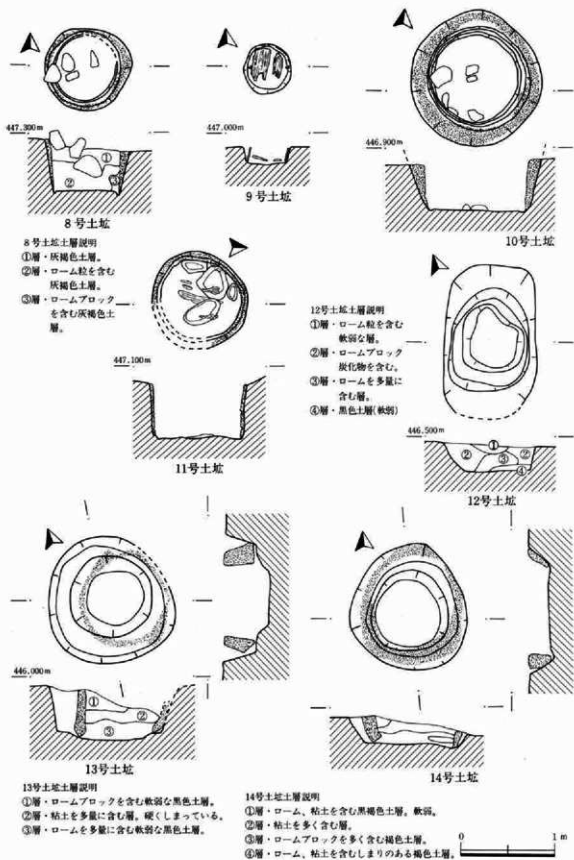
H-89グリッドに位置する。平面形は開口部1.3m×1.1mの楕円形プランを呈し、深さは48cmを測る。底面は平坦であり、梯形断面を呈する。礫は24個見られ、礫に混在して陶器片が混在して出土している。

20号土坑(第104図、図版24-2)

L-73グリッドに位置する。南側斜面に位置するものは本土坑のみである。平面形は径1mの円形プランを呈し、深さは土層断面の観察により96cmを測る。礫は1個のみであり、2層中に含まれる。

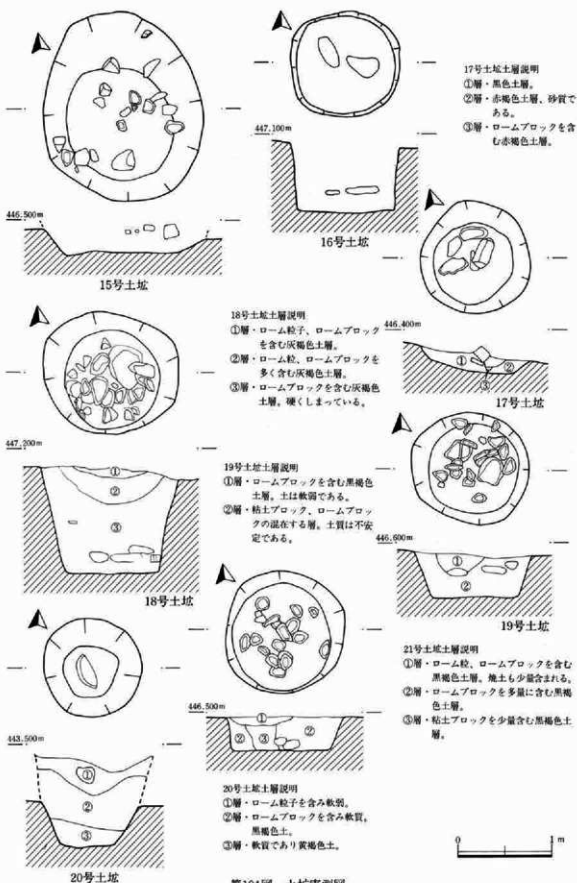
21号土坑(第104図、図版24-1)

19号土坑の東側20cmに位置する。平面形は1.3mの円形プランを呈し深さは36cmを測る。形態は19号土坑に類似する。礫は22個みられ、陶器片が混在して出土している。



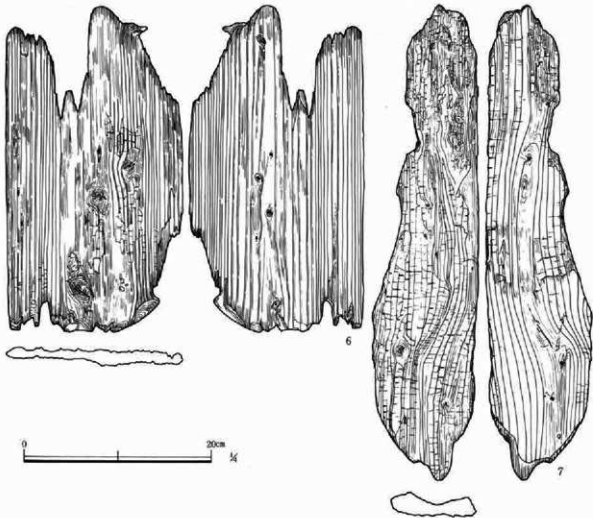
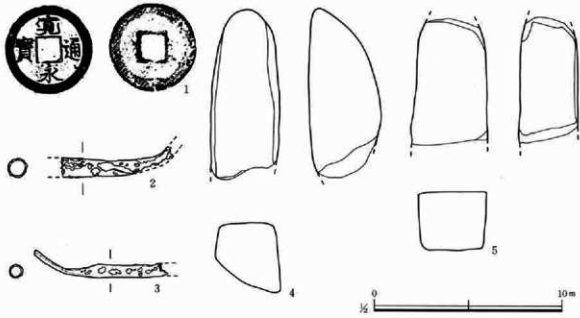
第103図 土壇実測図

IV 検出された遺構と遺物



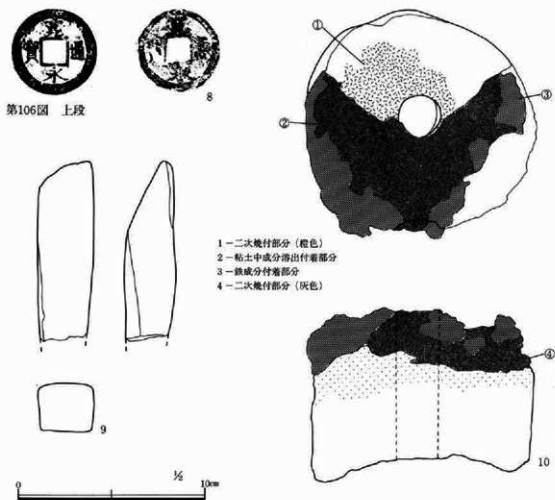
第104図 土坑実測図

2. 近世の遺構と遺物



第105図 9・10・11・12・13号土坑出土遺物

IV 検出された遺構と遺物



第106図 16・18号土坑出土遺物

土坑出土遺物一覧表

No	出土土坑	種類	残存	計測数値(cm)	材質	備考
1	12号土坑	古銭	完	径2.3		寛永通宝
2	10号土坑	キセル嵌口	破片	長さ6.0径1.0	銅	銅
3	13号土坑	キセル嵌口	破片	長さ7.5径0.7	銅	
4	12号土坑	磁石	両端欠	長さ9.0	流紋岩	
5	12号土坑	磁石	両端欠	長さ6.5	流紋岩	
6	9号土坑	板材	破片	長さ34.4幅19.0厚さ1.2		
7	11号土坑	板材	破片	長さ50.0幅9.0厚さ2.0		
8	16号土坑	古銭	完	径2.2		寛永通宝
9	18号土坑	磁石	一端欠	長さ9.5	流紋岩	
10	18号土坑	羽口	両端欠	高さ9.0径12.0孔径2.2		

22号土坑 (第107図)

D-92グリッドに位置する。平面形は径105cmの円形を呈し、深さは35cmを測る。断面形は鍋底状を呈し、底部に粘土が敷かれ底面は平坦となっている。桶が埋設された跡は認められない。覆土上部には礫が多数検出された。遺物は鉄製の鉄砲玉が1個出土している。

C. 遺物出土のない土坑

出土遺物がなく、形態等に特徴がみられず所属すべき時期についても有効な情報をもっていない土坑を一括する。これらは遺跡北東部に分布している。

23号土坑 (第107図、図版24-3)

I-93・94グリッドに位置する。平面形は開口部120cm×100cmの楕円形プランを呈し、深さは26cmを測る。底面は平坦で、梯形断面を呈する。

24号土坑 (第107図、図版24-4)

M-96グリッドに位置する。平面形は120cm×90cmの楕円形プランを呈し、深さ68cmを測る。底面はほぼ平坦で、梯形断面を呈する。

25号土坑 (第107図、図版24-5)

L-94グリッドに位置する。平面形は100cm×80cmの楕円形プランを呈し、深さ40cmを測る。長軸方位はN-33°-Wである。底面東部に30cm×18cmの小ピットがみられる。

26号土坑 (第107図、図版24-6)

17号土坑の南東側40cmに位置する。平面形は径145cmの円形プランを呈し、深さは50cmを測る。底面は平坦であり、壁もしっかりしている。

27号土坑 (第107図、図版25-1)

J-92グリッドに位置する。平面形は118cm×102cmの不整の楕円形プランを呈し、深さは24cmを測る。底面は平坦であり、方形を呈する。

28号土坑 (第107図、図版25-2)

K-84グリッドに位置する。7号土坑内に掘り込まれている。平面形は150cm×124cmの不整円形プランを呈し、深さは42cmを測る。

(3) 集石状遺構 (第108図、図版25-3)

A-77・78グリッドに位置し、西側部は調査区外にのびている。1号獨立柱建物址と重複関係にあるが新旧関係は不明である。平面形は不整形であり、断面形は深さ75cmの浅い皿状を呈する。集石部分は径2.8mの円形を呈し、大小の河原石が平面的に敷かれている。又、集石外側には2ヶ所施土の散布がみられる。時期は出土遺物から江戸時代に比定されよう。

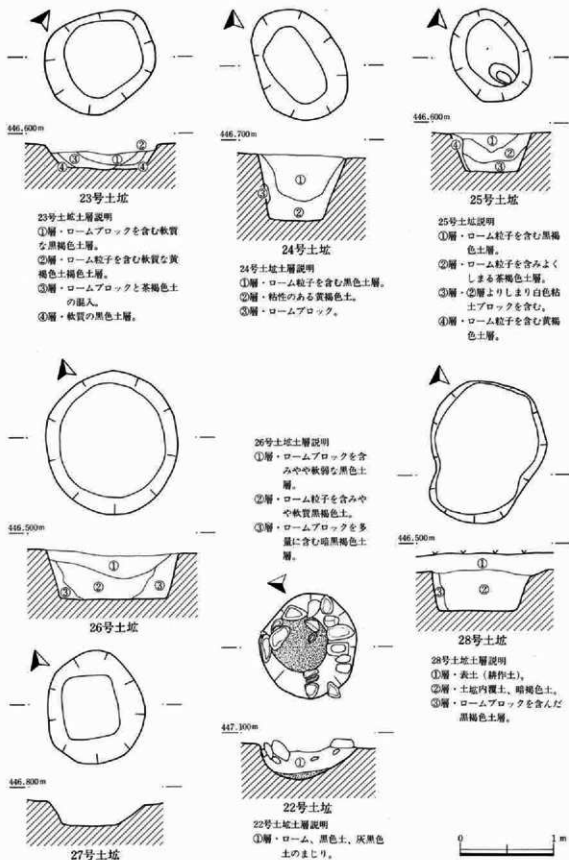
(4) 溝状遺構 (第110図、図版26-1)

遺跡北端部に位置し、ほぼ東西方向に横たわる。西端部は調査区外にのび、東端部も石組遺構と重複する部分から不明となる。幅40cm、深さ24cm、長さ22.4mを測り、E-97グリッド付近で2条に分岐する。覆土にわずかに砂層が堆積し、流水の痕跡が認められるが、遺構の性格は不明である。出土遺物はみられない。

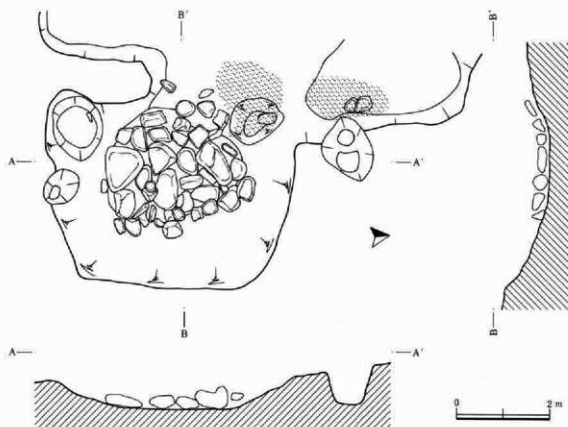
(5) 石組遺構 (第111図、図版26-2)

G-92からH-95グリッドにわたりほぼ南北方向に大小の河原石が帯状に連なる。全長は15.6mを測る。H-96グリッドにおいて溝状遺構を切っている。

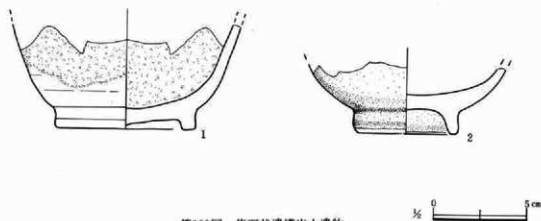
IV 検出された遺構と遺物



第107図 土坑実測図



第108図 集石状遺構実測図

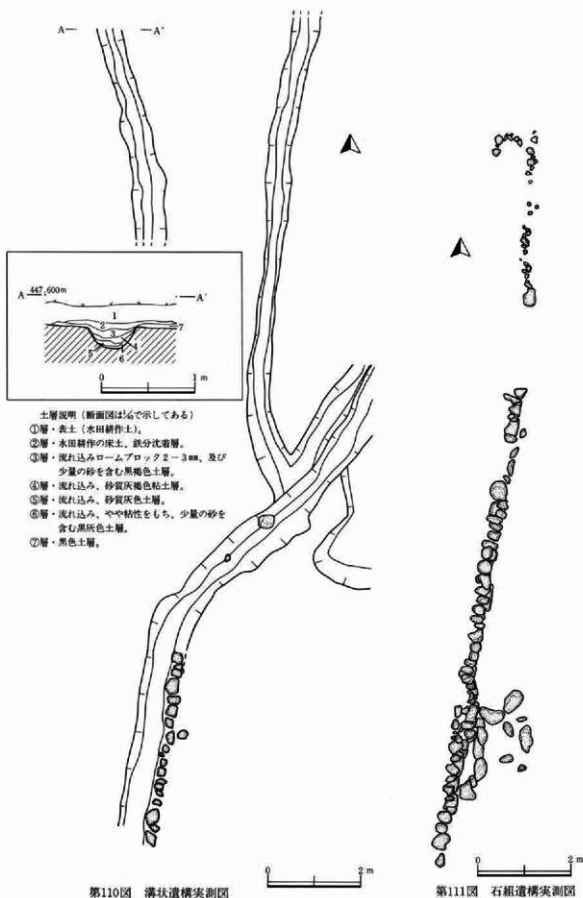


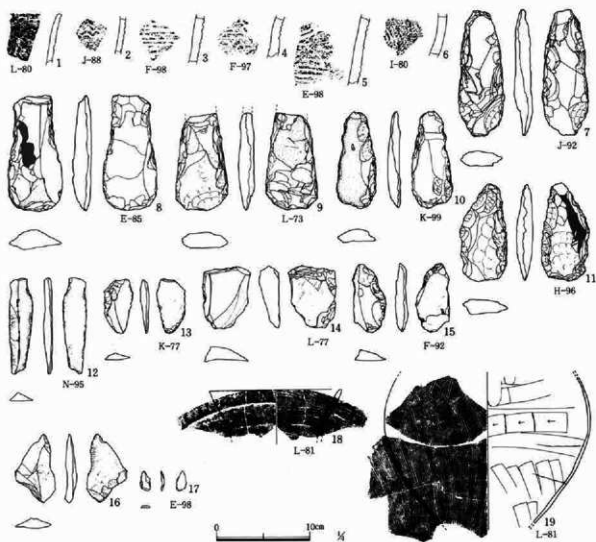
第109図 集石状遺構出土遺物

集石状遺構出土遺物観察表

遺物番号 (区画No)	器 形	法 口径	量 底径	量 器高	出 土 位 置	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	①色 ④胎土	②焼 ⑤成 ⑥備考	③残 存
1	碗	—	7.4	—	覆土	陶器。削り高台で断面は方形を呈する。縦軸へたぬり。	①黄褐色	③体部上半欠	⑤美濃
2	碗	—	5.2	—	覆土	陶器。削り高台。縦軸は良好である。灰軸。	①灰褐色	③体部上半欠	⑥瀬戸

IV 検出された遺構と遺物

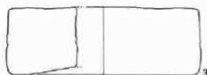
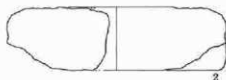
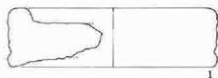
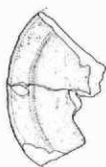




第112図 グリッド出土遺物

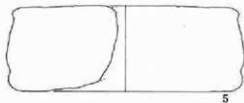
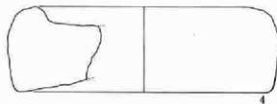
番号	説	明
1	口縁部片。山形押型文。	
2	山形押型文。	
3	半截竹管により平行沈文が施される。	
4	半截竹管により整い平行線文が施される。	
5	半截竹管により平行沈文が施される。縄文R L。	
6	R L横位。	
7	打弁。黒色頁岩。長12cm、厚1.5cm	10 打弁。黒色頁岩。長10cm、厚1.2cm
8	打弁。黒色頁岩。基部欠。厚2cm	11 黒色頁岩。長10cm、厚1.8cm
9	打弁。安山岩。基部欠。厚1.6cm	12 細粒砂岩質黒色頁岩。
		13 剝片。安山岩。
		14 剝片。安山岩。
		15 剝片。安山岩。
		16 剝片。黒色頁岩。
		17 剝片。チャート。
		18 壺口縁部。折返し口縁下に刷毛目が施される。古墳前期。
		19 S字台付壺胴下半部。鋭い刷毛目が施される。古墳前期。

IV 検出された遺構と遺物

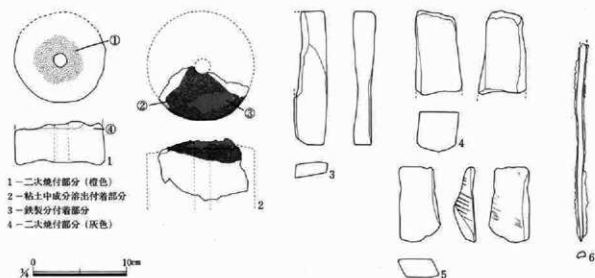


石臼計測表

No	出土位置	部位	直径	高さ	石質
1	17号土塚	下臼	31.5	11.2	安山岩
2	H-86	上臼	27.8	7.7	安山岩
3	G-86	下臼	25.8	8.8	安山岩
4	H-98	下臼	29.2	8.3	安山岩
5	H-98	上臼	36.0	11.2	安山岩



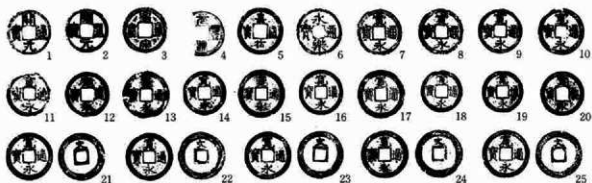
第113図 石臼実測図



第114図 羽口、砥石、鉄製品実測図

羽口・砥石・鉄製品一覧表

番号	出土位置	種別	説明	備
1	K-96・1層	羽口	上半部欠。長(現存) 4cm、径9.7cm、孔径1.4cm。	
2	L-80	羽口	長欠。径(推定) 11.4cm 孔径1.6cm	
3	H-97.1層	砥石	一部欠。長14cm、四面使用。波紋岩	
4	C-81.1層	砥石	両端部欠。長(現存) 8cm、四面使用。波紋岩	
5	7トレ	砥石	長8cm、五面使用、波紋岩	
6	F-84.3層	鉄製品	端部欠。長(現存) 29.7cm、断面は方形を呈する。	



第115図 古銭拓影図(表採及びグリッド出土)

1 開元通宝	5 高祐通宝	9 寛永通宝	13 寛永通宝	17 寛永通宝	21 寛永通宝	25 寛永通宝
2 開元通宝	6 永樂通宝	10 寛永通宝	14 寛永通宝	18 寛永通宝	22 寛永通宝	
3 皇宋通宝	7 寛永通宝	11 寛永通宝	15 寛永通宝	19 寛永通宝	23 寛永通宝	
4 元豐通宝	8 寛永通宝	12 寛永通宝	16 寛永通宝	20 寛永通宝	24 寛永通宝	

V 成果と問題点

平安時代の遺跡について

本遺跡は、大規模に採掘された粘土採掘域の存在により、その性格が規定され、平安時代の土器生産に関わる工人集落と理解される。現在まで窯跡自体の調査は実施され、同時に一定の理解がなされてきたが、土器製作に関する製作工程についてはほとんど不明といってよかった。しかし最近に至り、原料（粘土）の採掘から製作にわたる一連の工程について関連遺構の抽出とともに、その実体が除々にはあるが解明されつつある。

一般的に土器の生産は、原料（粘土）の採掘、粘土の精製（素地土）、土器製作（成形）、乾燥、焼成等の工程が必要であるが、本遺跡において検出された遺構について、他遺跡の調査例も参考にしながら、これらの工程を考えあわせ若干整理しておきたい。

原料（粘土）の採掘は、11群にわたり検出された粘土採掘域の存在により確定し得る。次の段階として粘土の精製（素地土）があるが、本遺跡内ではこれに関する遺構は検出されていない。調査例では、多摩ニュータウン№146遺跡（注1）において、粘土採掘坑とともに、粘土の均質化および水簸の機能も考えられる粘土土坑が54基検出されている。土器の製作（成形）に関しては、製作施設としての工房址の存在について考えなければならない。工房址としての性格をもつ遺構については、いくつかの調査例の中から注目されてきた。これらの例により抽出される構造上の特徴はロクロピット（注2）の存在であろう。加えて素地土の存在および作業的機能をもつ遺物の存在もあげられる（注3）。ロクロピットについてはロクロ自体の検出がない現在、未だにその実体について不明な部分も多いが今日までの知見に基づき、その可能性は強いと判断される。本遺跡においても、工房址の性格をもつ遺構について先の調査例に基づけば、4号住居址および6号住居址にその可能性がうかがえる。乾燥工程に関しては、南多摩窯址群G29号窯第II地区において工房址に近接する柱穴群について、乾燥、収納の場としての建物址の復原が行なわれている（注4）。これによると、柱穴群の位置は不規則であるが、土間状の床面および乾燥用の炉等の検出がされている。本遺跡では、これに類する遺構は検出していない。尚、焼成段階としての窯の内容については省いたが、各遺跡とも窯址に近接していることが確認されている。以上が、焼成段階に至るまでの製作工程に関わる遺構例であるが、これらについては、付表1にまとめておく。

- 注1 多摩ニュータウン№146遺跡で検出された粘土採掘坑は、坑道と堅坑が一体構造となり、各採坑が個別に完結していることが特徴であり、藪田遺跡において検出されたものとは形態及び掘削方法等全く異なっている。54基検出された粘土土坑は8割以上の土坑について粘土が掘り抜かれている。機能的には、土器製作にわたっての、粘土の均質化および水簸を行なったものと結論している。
- 注2 大川清「土器製作技術の実体」歴史学論6-5（昭和55年）の中で「ロクロ軸木穴」として指通され、新聞遺跡1（昭和56年）報告中に松本富雄「ロクロピット」として整理されている。
- 注3 南多摩窯址群—新緑山地区62号窯址発掘調査報告書（昭和56年）の大法寺遺跡で検出された工房址には、ロクロピットとともに、製作台として使用されたと考えられる石台が確認されている。

住居址について

検出された住居址は8軒である。住居址は、遺跡北半部に粘土採掘域が存在するため、中央部から南半部にかけて構築される。又、集落としての広がりは西側に展開し、西接する藪田遺跡では11軒の平安時代に属する住居址が検出されている。今回調査した住居址は報文中に示した通り、後世の擾乱が著しく、残存状態は極めて悪く遺構の形態を把握するにとどまるものもあり、構造的な問題について積極的に抽出する内容

にとほしい。その中で、3号住居址において検出された貯蔵施設について若干ふれておきたい。この施設は10cm前後床面を掘り込み、その回りに河原石による石囲いをしている点、特徴的である。位置から見て一般的に貯蔵施設と考えられる部分に造られているため、同様の機能をもっているかと判断できるが、類例にとほしく、又、今回の調査においても、具体的な機能面に立ち入る材料をもたない。他調査例をまちたい。次に、4号住居址および6号住居址について考えてみたい。両遺構とも住居址として扱っているが、構造的および機能的な面において、一般の住居址とは異なる面をもつと考えられる。まず4号住居址であるが、平面形は、やや不整な隅丸方形を呈し、カマドは、攪乱が著しく不明確であるが、西壁中央付近に構築されたと判断できる構造的には、北西コーナー部分に存在する楕円形の掘り込みが注目される。調査進行時には、この掘り込みについて、形態、規模等にやや奇異な感じをもったが、特に意識していなかった。しかし、最近工場の掘出しが行われ、ロクロピットの存在について資料が増加する中で、本址において検出された掘り込みについて、同様な機能をもつのではないかと推定される。しかしこれは、形状においてやや類似していることと、縁辺に白色粘土が置かれていたということ以外、積極的に類推し得る材料がなく、逆にこの掘り込みの遺構内における位置、底面および土層の状態からは否定的な結論も導き出し得る。以上のことからここでは、本遺跡の性格も考えあわせ、この住居址が工場的機能をもつ遺構として、つまり先の掘り込みについてロクロピットの可能性が推定できるということを指摘するにとどめるを得ない。6号住居址は、偏平な河原石が床面をやや掘りくぼめ設置されており、これについては、原料粘土をこねる際の作業台として使用されたことが考えられる。又、北側に接して径35cm、深さ30cmのピットが存在するが、位置からみて柱穴とは考えにくい。これについてロクロピットとしての可能性が推定できないであろうか。形態、規模からみると、これまで検出された他遺跡例と比べ異なるため疑問が残るが、少なくとも工作台としてのロクロ軸木を固定することは可能であろう。本住居址についても一部推定の域を出ないが、やはり工場址としての性格を取看し得る。なお、本址については、白色粘土の検出はなかった。

付表1. 生産遺跡一覧表

遺跡名	生産工程		粘土精選(黒地土)	土器製作(成形)	乾燥	焼成(窯址)	文献
	原料(粘土)	採掘					
菟田東遺跡		○		○		月夜野窯址群	
南多摩窯址群G62号窯室II地区				○	○		1
〃 大法寺窯遺跡				○			2
多摩ニュータウン№146遺跡	○		○	同 №146遺跡		御殿山窯址群	3
新聞遺跡				○			4
保埜遺跡				○			5
相去遺跡				○			6
瀬谷子遺跡				○	○		7
島田バイパス遺跡	○						8

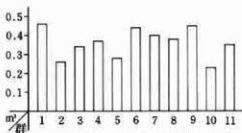
文献

- 1 南多摩窯址群—御殿山地区62号窯址発掘調査報告書 八王子バイパス鍾水遺跡調査会 昭和56年
- 2 服部敬史 「東京都八王子市大法寺與遺跡の調査—平安時代の須恵系工場址に関する予察—」
- 3 多摩ニュータウン遺跡—昭和56年度—(第1分冊) (財)東京都埋蔵文化財センター 昭和57年
- 4 新聞遺跡1 三芳町埋蔵文化財報告11 三芳町教育委員会 昭和56年
- 5 文献4、5参照
- 6 大川清 「土器製作技術の安寧—ロクロ以前と以後—」 歴史公論6—5 昭和55年
- 7 瀬谷子遺跡 江利市教育委員会 昭和46年 尚、報告書は未見であり、服部敬史「東京都八王子市大法寺與遺跡の調査」(文献2)中の引用資料を参考にさせていただいた。
- 8 静岡県における検出例は、本遺跡の採掘地と同様の形態と判断される。国道1号線島田バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 一昭和58年度分一 島田市教育委員会 昭和49年

V 成果と問題点

粘土採掘場について

今回検出した粘土採掘場の特徴は、明り掘削を基本とする連続的な拡張によって、形態的には不整形をとることであり、同時に形成される不整形プランは、円形の集合と判断されることである。又、連続的な掘削作業をくり返すことにより、1回毎の掘削単位は失なわれ、粘土採掘の作業方法等について把えにくいものとなっている。その中で報文中に示したように、第11群粘土採掘場を掘削作業の最少単位として把えることができた。なお、この採掘場についても、あと1回ないし2回程度の掘削により第4群粘土採掘場と連続する位置に掘り込まれている。掘削作業における単位として把えられた第11群粘土採掘場を基本に、他群における作業工程を考えると、第46図に示した方法がとられていると理解できる。又、他群粘土採掘場の底面にはかなり起伏が残っており、部分的には第11群粘土採掘場程度の大きさの掘り残しと把えることができ、平面形における不整形円形の形状を考え合わせ、個別の掘削作業は比較的小規模であったと判断される。つまり1個の採掘場の掘削（原料粘土の採掘）は、掘削および運搬を含め3名ないし4名程度で実施しているのではなかろうか。しかし、同時にどの程度の採掘を実施したかは判断できない。次に粘土採掘場の位置であるが、これは報文中に記したようにローム層下に堆積する白色粘土層（原料粘土）の層厚に関係するものであり、下の棒グラフにみるように、2群、5群、10群では1㎡あたりの採掘量は平均値以下を示している。又3群、4群を中心として比較的安定した粘土採掘が行なわれており、明らかに効率的な作業を実施した結果によるものである。しかし、掘削作業自体の計画性については、各群の分布及び群毎の掘削方向をみるかぎり看取され得ない。最も大規模に掘削されている3群、4群についても計画的な作業は認められず、調査中の土層断面等の観察により、比較的無策為に作業が進められていると考えられる。各採掘場は結果的に、今回群として把えたような形態になったのであろうが、その過程において第11群もしくは6群程度の採掘場が所々に掘り込まれ、その粘土採掘状況に応じて、良好な部分は集中して掘削され、次第に拡張されたが、それ以外の部分については、多少の拡張をもって終了するという形で作業が実施されていたと判断できる。



付表2. 1㎡あたりの粘土採掘量 (m³)

VI 化学分析

藪田東遺跡出土土器の胎土分析

花 岡 敏 一 (群馬県工業試験場)
中 沢 悟 (群馬県埋蔵文化財調査事業団)
原 雅 信 (同 上)

はじめに

1975年にはじめて胎土分析の試料数は180点を数え、過去5回にわたる報告がある⁽¹⁾。この分析の結果、県内10ヶ所の古窯跡群のうち、太田金山、安中秋間、中之条、吉井、乗付窯跡群についての一傾向が明らかとなったほか、集落出土須恵器の産地同定も可能となってきた。

今回の分析報告は月夜野窯跡群の関連遺跡である藪田東遺跡出土須恵器と各窯支群の須恵器を主体試料とし、月夜野窯址群の分析結果を加えたものである。したがって本稿は月夜野窯跡群に関して初回報告となる。なお、本稿の考古学的な記述は、中沢、原によるものである。

1. 試料について

藪田東遺跡は藪田遺跡と一連の遺跡であり、須恵器生産に伴う粘土採掘坑と工人集落が確認された。調査では窯跡の検出はなかったものの隣接地に焼土、須恵器の散布が見られることから周辺に窯体の存在が確実視され、それを藪田A支群として呼称したい。このため月夜野窯跡群は、北より、水沼A、真沢A、深沢B、C、沢入A、藪田A、洞A支群の7個所に支群構成を認めることができる。(付図1)

以下、窯跡群の立地基盤に不可欠な地質、および、製作地同定に必要な須恵器の胎土傾向について触れておきたい。

① 地 質 (付図1)

月夜野窯跡群は東を利根川、南を赤谷川に挟まれた一角にある味城山の東から東北麓裾に7支群をもって構成された利根・沼田・吾妻地方最大規模の窯跡群である⁽²⁾。操業年代は8世紀の窯跡の存在する沢入A支群を古い例とし、10世紀代の深沢B・C支群まで2世紀以上継続している。

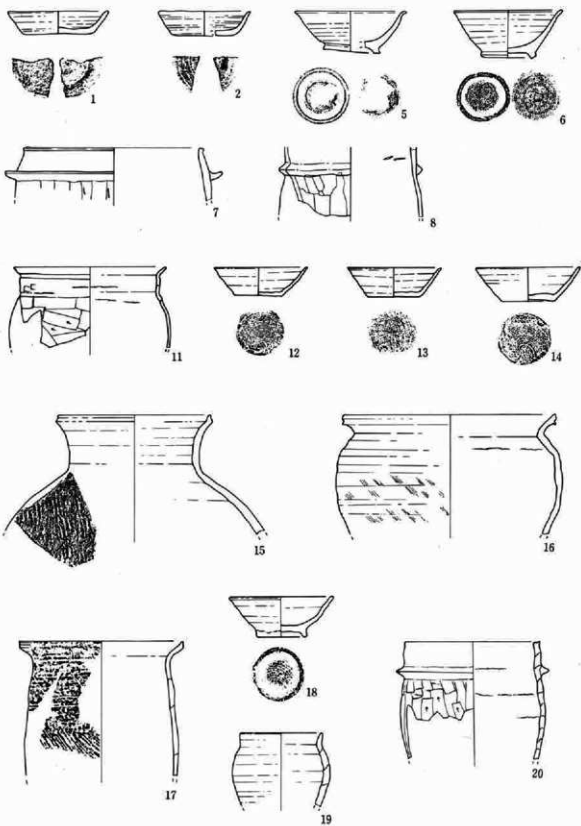
この窯跡群を地質図⁽³⁾と対照してみると生成の異なる3つの基盤層上に位置していることが判り、調査時における地質鑑定上も同様の所見を得ている。基盤



付図1. 周辺地質図 1:50,000

新井朋夫『群馬県地質図』(国339)をもとにしているが一部について加除筆である。

VI 化学分析



第116图 胎土分析资料实测图

0 — 10 cm
1/4

付表1. 胎土分析資料観察表

試料	時期	器種	胎土の肉眼観察	備考
1	8C中頃	坏	灰白色を呈しているが、還元でかなり固く焼きしめられている。胎土傾向Bの製品と思われる。黒色鉱物は非常に少ないが含まれている。石英粒はほとんど含まれていない。底部は手持ち一定方向へ削りである。白色鉱物を少量含む。	沢入A支群1号窯
2	8C中頃	坏	黒色を呈している。還元でかなり固く焼きしめられている。胎土傾向Bの製品と思われる。小さな白色鉱物が多く目立つ。黒色鉱物はほとんど認められない。	沢入A支群2号窯
5	10C中頃	埴	褐色を呈する埴である。胎土中に多くの石英粒を含んでおり、胎土傾向Aの特色をもつ。胎土中に小さな白色鉱物も多く含む。黒色鉱物は認められない。	深沢C支群
6	10C中頃	埴	褐色を呈する埴である。胎土中に多くの石英粒を含んでおり、胎土傾向Aの特色をもつ。胎土中に小さな白色鉱物も多く含む。黒色鉱物は認められない。	深沢C支群
7	10C中頃	羽釜	灰褐色を呈する羽釜である。胎土中に石英粒が目立つ。胎土傾向Aの特色をもつ。胎土中に小さな白色鉱物も多く含む。非常に少量の黒色鉱物を含む。	深沢C支群
8	10C中頃	羽釜	表面が炭素吸着により黒色を呈している。断面及び内側の一部がやや褐色を呈している。胎土中に多くの石英粒を含んでおり、胎土中に小さな白色鉱物も多く含む。	深沢C支群
11	9C後半	つの子口縁の壺	光沢をもちガラス質で黒色の粒子を多く含む。1mm以下の砂粒を大量に含む。	土師器 3号住居址
12	9C後半	坏	灰白色の軟質還元焙焼の坏。1mm内外の白色鉱物を多く含む。黒色鉱物はほとんど認められない。砂粒含まず密な胎土。胎土傾向Bの特色を持つ。	左回転 3号住居址
13	9C後半	坏	イブシ焼成の坏。断面内側底部に褐色。他の表面に炭素吸着あり、1mm内外の白色鉱物を多く含む。黒色鉱物はほとんど認められない。砂粒含まず密な胎土。胎土傾向Bの特色を持つ。	左回転 3号住居址
14	9C後半	坏	酸化焙焼成の坏。1mm内外の白色鉱物を多く含む。黒色鉱物はほとんど認められない。砂粒含まず密な胎土。胎土傾向Bの特色を持つ。	右回転 3号住居址
15	9C後半	壺	1mm内外の白色鉱物を多く含む。黒色鉱物はほとんど認められない。砂粒含まず密な胎土。胎土傾向Bの特色を持つ。	3号住居址
16	9C後半	壺	1mm内外の白色鉱物を多く含む。黒色鉱物はほとんど認められない。砂粒含まず密な胎土。胎土傾向Bの特色を持つ。	3号住居址
17	9C後半	壺	褐色を呈する壺である。胎土中に多くの砂粒が混入している。石英粒の混入は少ない。胴中央に平行印目痕あり。(6号住居址)	東北地方から影響を受けて作られた壺?
18	10C後半	埴	灰白色を呈する埴である。胎土中に多く石英粒を含んでおり、胎土傾向Aの特色を持ち、Bの生産地にAの製品が混入された可能性がある。	5号住居址
19	10C中頃	小型壺	褐色を呈した小型壺である。胎土中に多くの石英粒を含んでおり、38と同じことが考えられる。	5号住居址
20	10C後半	羽釜	灰白色を呈した羽釜である。胎土中には石英粒をほとんど含んでいない胎土傾向Bの製品と思われる。黒色鉱物をわずかに含む。	5号住居址
21	第三系層	粘土	やや褐色を帯びている白色粘土である。粘土は帯状に堆積しておりその中に数本の褐色を呈した毛い小礫が混入している。表面上の肉眼観察では石英、長石はほとんど認められない。水で粘土質の部分をとりのぞくと、それらが確認されるが、大きな粒子ではない。	飯田東遺跡粘土採掘 坑内の粘土

VI 化学分析

の生成は、付図1のとおり、Aの変成安山岩上に水沼A、真沢A支群が、Bの石英安山岩質凝灰岩上に深沢B・C支群がある。Cの緑色凝灰岩上に位置するのは今回の分析対象となった藪田東遺跡（藪田A支群に含まれる）、沢入A、洞A支群が立地する。いずれも第三系に時期する。

② 胎土傾向

支群個々の須恵器の胎土を仔細に観察すると各支群は、立地する生成基盤ごとにとまるとの傾向があり、生成基盤層と須恵器胎土とは直接的な関係があることが明かとなった。このうち水沼A・真沢A支群については、資料がなく除外するが、他の5支群については資料が大量にあり、それに基づいて胎土の観察所見を得た。以下のとおりである。

石英安山岩質凝灰岩の基盤〔深沢B・C支群〕 素地は粒子が荒く、粗である。夾雑鉱物に石英、長石の大粒を多く含む。以下胎土傾向Aとする。

緑色凝灰岩の基盤〔沢入A、藪田A、洞A支群〕 素地は粒子が細く、密である。夾雑鉱物に石英・長石の微細粒を含むが少量である。特徴的に黒色鉱物粒(Fe_3O_4 と SiO_2 の混合物)を少量含む。以下胎土傾向Bとする。

変性安山岩の基盤〔水沼A、真沢A支群〕 資料がなく観察から除外する。

③ 試料の選択

今回の分析試料の選択は、本報告の性質上、藪田東遺跡試料を中心とするものであるが、月夜野窯跡群内における藪田A支群（藪田東遺跡を含む）の位置づけができるようにも配慮した。

藪田東遺跡の資料は3・5・7号住居址内より出土したもので11の土師器を除いて全て須恵器である。基本的にはいずれも胎土傾向Bに含められるため、それらの須恵器は、藪田東遺跡の粘土採掘場などから得られた原料を基に同遺跡および周辺で製作されたと考えられるが、5号住居址出土18の壺にかぎり胎土傾向Aであり、こうした各支群からの搬入の可能性のあるものも対象とした。11～16の製品は3号住居址出土であり、9世紀の製品と考えられ、17は6号住居址から出土し、9世紀後半の製品である。18～20は5号住居址出土であり、10世紀代の製品と考えられる。以上のように各時期を通観しうることも選択条件の一つとした。

また月夜野窯跡群内における藪田東遺跡の位置づけができるよう、胎土傾向Bの沢入A支群、胎土傾向Aの深沢C支群の須恵器を加え、さらに、既分析の沢入A(3・4)、洞A(9・10)の各支群の分析値を補足した。

消費地との関連では、吾妻郡中之条町菅田、平遺跡の須恵器3例(29・30・31)と、沼田市、大釜遺跡の須恵器7例(22～28)を加え、関連を求めた。なお今回の試料の考古学的要目は付表1、付表2に示した。

2. 分析の意図と目的

- (1) 12、13、14は3号住居址出土の坏であり、器形の特徴からみてほぼ同一時期のものと考えられるが、焼成方法において違いがみられる。12は軟質の還元焰焼成であり、13は断面と底部内面が褐色を呈しているが、その他の表面は炭素分を吸着している燻焼成の坏である。それぞれ焼成方法に差異が認められるが、胎土は肉眼で観察した限りでは共通するため、胎土分析によりほぼ同一の胎土が使用されている可能性を確認したい。
- (2) 3号住居址出土の坏類と壺、甕類という器種の異なる製品に使用されている胎土に差異が認められるか否かを確認したい。

2. 分析の意図と目的

- (3) 6号住居址出土17の甕は、伴出遺物からみて3号住居址の年代に近く、9世紀後半の製品と考えられる。この甕は形態上東北地方に見られる土師器の長甕に類似し、器内も薄手に仕上げている。しかし体部下手にあて目と平行叩き目が認められ、口唇部の特色とあわせて考えると須恵器製作工人の手による製品と考えられる。この甕の胎土は11の土師器甕に近いのか、15、16の須恵器の査斐類に近いのか確認したい。
- (4) 18の埴は、5号住居址出土であるが、胎土を肉眼で観察すると藪田東遺跡の特色である胎土傾向Bではなく、胎土傾向Aを示し、大量の石英粒を認めることができる。5号住居址の他の埴の多くにも、その傾向が認められる。胎土傾向Bの藪田東遺跡の中に、胎土傾向Aの製品（おそらく深沢B、C支群製品と考えられる。）が搬入されたことが想定できる。肉眼観察で認められるこの差異を胎土分析においても認められるか確認したい。
- (5) 18の埴は、還元焰焼成による埴であるにもかかわらず、器内中に重層状の粘土の走向が認められ、お菓子のパイを想起させるほど粗雑である。そのため大量の水を吸収する。同じ胎土傾向を示すものの中で緻密な胎土の13・14の埴があり、この両者が胎土分析の結果同じ胎土傾向を示すことを確認したい。
- (6) 19の小型甕は、10世紀代のもので酸化焰焼成であり、ロクロ使用により製作されている。この甕は9世紀後半代17の甕の後に続く東北地方の影響下で製作された甕の一種であることも考えられる。胎土分析により土師器である11の甕、須恵器である16の甕、東北の影響下にあると考えられる17の甕の三者のうちどの甕に最も胎土が近いかを確認したい。
- (7) 20の羽釜は、還元焰焼成による製品である。表面観察からみると16の甕に近似しており、胎土傾向Bの製品である。肉眼観察による同じ胎土傾向を持つ埴12～14、甕、甕の15、16と胎土分析の結果において近似している傾向を確認したい。
- (8) 1、2の埴は、沢入A支群より出土した埴である。この地域は藪田東遺跡同様に緑色凝灰岩上に位置しており、胎土傾向Aの地域と考えられる。しかし沢入A支群の操業年代は8世紀中頃～後半と考えられているため、藪田東遺跡の9世紀～10世紀の製品とは時期を異にしている。同様な地質上に位置するが、場所と時期が異なる2者において胎土傾向がどのようであるのか確認したい。
- (9) 5、6は、深沢C支群より出土した10世紀代の埴である。この地域は石英安山岩質凝灰岩上に位置し、胎土傾向Aである。両埴とも肉眼観察上、多くの石英粒を観察することができ、胎土傾向Bの藪田東遺跡の製品と胎土傾向を異にしている。この肉眼観察と胎土分析の結果とが一致するか否かについて確認したい。
- (10) 7、8の羽釜は、5、6の埴同様、深沢C支群より出土した10世紀代の羽釜である。肉眼観察では、13、14の埴同様に多くの石英粒を含んでいる。器種の異なる羽釜と埴において、2者が同一傾向の胎土である可能性を確認したい。
- (11) 深沢C支群出土の7、8の羽釜と藪田東遺跡出土の20の羽釜は、両遺跡内の他の器種と同じ胎土傾向にあるか否かについて知りたい。つまり羽釜も他の須恵器と同じ原料（粘土）を使用していることを確認したい。
- (12) 肉眼観察による胎土傾向Bの製品である12～16、20と胎土傾向Aの製品である5～8の間に胎土分析の結果全体的にどの程度の違いがあるのかを知りたい。
- (13) 藪田東遺跡において、粘土採掘場より採集した粘土と、3号住居址及び5号住居址出土の製品とが胎土分析の結果において一致するか否か確認したい。（11の土師器と深沢C支群の製品と見られる18の埴及び

VI 化学分析

肉眼観察により胎土傾向をやや異にする19の小型鑛を省く。

- (14) 飯田東遺跡の東南約5.5kmに位置し、沼田市に所在する大釜遺跡⁽⁸⁴⁾において出土した須恵器は、どこの生産地の製品である可能性が高いのかを胎土分析の結果により確認したい。その結果須恵器の供給地の一つである月夜野窯跡群との関連を追求したい。
- (15) 飯田東遺跡の西南約13.5kmに位置し、月夜野窯跡群の製品供給先の1つであると考えられている吾妻地方に所在する中之条町菅田、平道跡出土須恵器の既分析結果⁽⁸⁵⁾を基に、月夜野窯跡群の胎土傾向と同一であるのか否かについて確認したい。

3. 試験方法

分析用試料は各試料を10 μ 以下に粉砕し、5~10gを径4cmの円板に成型し、蛍光X線分析試料およびX線回折試料とした。

元素分析には、蛍光X線分析装置（理学電機製K G-4型）を使用した。管球は銀対陰極、計数法はチャート方式（4/min）を使用した。詳細な条件は表2に示した。なおケイ素（Si）、アルミニウム（Al）、マグネシウム（Mg）は定時計数法によった。また、蛍光X線分析値は、粘土標準試料（日本標準試料委員会認定、科学技術社発売）R-601、R-602、R-603、および埴輪既試料の3点（NoA、B、C）の湿式化学分析試料を標準として求めた。なお、この値は表3に示した。

表2. 分析条件

分析元素	管電圧 電流	分光結晶	検出器	波高分析	測定数
Fe Sr Rb Mn Zr Zn Ba	50 KV 20 mA		LiF	S-C	積分方式 1
Ca K Ti Si Al	50 KV 20 mA		EDDT	P-C	積分方式 1
Mg	50 KV 20 mA		ADP	P-C	積分方式 1

表3. 標準試料の分析値

成分 試料	SiO ₂ (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	TiO ₂ (%)	CaO (%)	MgO (%)	K ₂ O (%)	SrO (%)	Rb ₂ O (%)	MnO (%)	Ca/K (%)	Sr/Rb (%)
R-601	50.3	33.0	1.16	0.56	0.15	0.29	1.71				0.11	0.24
R-602	45.9	37.3	0.69	0.12	1.41	0.37	0.58				3.06	51.08
R-603	46.1	37.0	0.66	0.09	1.66	0.29	0.40				5.24	25.58
A	66.7	18.6	6.00	0.94	1.09	1.29	1.39	0.028	0.007	0.09	1.08	2.29
B	64.4	17.1	6.03	0.61	0.86	0.55	2.63	0.024	0.012	0.17	0.46	1.16
C	68.0	17.6	1.65	0.49	0.94	0.58	2.77	0.034	0.016	0.10	0.48	1.21

4. 試験結果

以下に、分析目的の(1)~(15)について結果を報告する。

- (1) 試料12、13、14は近似値にあり、ほぼ同一の数値にある（付図2、3）。
- (2) 試料12、13、14と試料15、16は付図2では接近しており、ほぼ同一の数値にある（付表4）
- (3) 試料17は12~16、20の一群内にあり（付図2）、とCa/KとSr/Rb比の高い試料11と差が生じた（付図2）。
- (4) 試料18は、付図2、3のとおり深沢領域に入るが沢入領域にも近接する。

4. 試験結果

成分 試料	SiO ₂ (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	TiO ₂ (%)	CaO (%)	MgO (%)	K ₂ O (%)	Ca/K	Sr/Rb
1	68.2	18.5	2.42	0.64	0.50	0.46	1.96	0.36	2.10
2	66.0	21.0	5.19	0.66	0.78	0.45	1.45	0.76	2.84
3	70.6	18.4	2.96	0.67	0.57	0.76	1.75	0.43	1.92
4	66.5	20.5	5.14	0.73	0.83	0.75	1.32	0.83	2.21
5	65.2	21.7	2.94	0.67	0.78	0.38	1.38	0.79	2.43
6	66.1	23.0	2.41	0.66	0.90	0.43	1.46	0.84	3.24
7	64.2	20.4	3.04	0.64	0.77	0.30	1.38	0.77	2.97
8	66.0	20.3	2.23	0.62	1.05	0.40	1.46	0.99	3.04
9	68.6	18.4	4.29	0.82	0.70	1.12	1.49	0.62	1.79
10	65.7	18.7	5.51	1.02	0.48	0.77	1.36	0.47	0.86

月夜野露跡群試料

成分 試料	SiO ₂ (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	TiO ₂ (%)	CaO (%)	MgO (%)	K ₂ O (%)	Ca/K	Sr/Rb
11	63.7	19.2	5.73	0.80	1.70	0.67	1.49	1.59	2.74
12	66.3	20.0	4.20	0.68	0.48	0.50	1.76	0.36	1.63
13	66.0	19.2	3.36	0.70	0.48	0.44	1.46	0.44	1.42
14	67.0	18.0	4.56	0.65	0.41	0.45	1.51	0.38	1.90
15	66.4	21.4	4.39	0.74	0.45	0.51	1.36	0.46	1.75
16	66.2	22.8	3.60	0.76	0.40	0.50	1.43	0.39	1.45
17	67.1	18.5	5.53	0.66	0.46	0.43	1.60	0.39	1.27
18	65.0	24.0	3.30	0.66	0.98	0.45	1.31	1.01	2.83
19	63.1	21.0	4.36	0.74	0.77	0.40	1.61	0.65	2.14
20	66.2	21.5	3.65	0.75	0.68	0.56	2.15	0.43	1.41
21	65.2	20.2	4.40	0.75	0.59	0.49	1.62	0.50	1.08

蔽田東遺跡試料

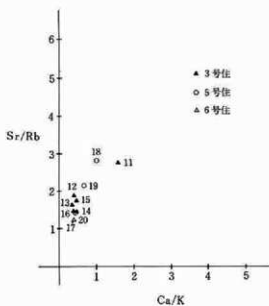
成分 試料	SiO ₂ (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	TiO ₂ (%)	CaO (%)	MgO (%)	K ₂ O (%)	Ca/K	Sr/Rb
22	71.2	15.5	2.70	0.65	0.27	0.45	1.04	0.36	0.78
23	67.0	19.5	3.13	0.65	0.35	0.52	2.17	0.21	0.60
24	68.6	16.8	2.80	0.80	0.37	0.49	2.04	0.25	0.95
25	68.0	19.3	2.87	0.90	0.37	0.50	1.86	0.27	1.01
26	65.0	19.1	4.55	0.77	0.35	0.55	1.77	0.26	1.16
27	65.2	22.1	3.10	0.70	0.79	0.44	1.47	0.75	1.91
28	66.1	22.0	3.77	0.75	0.72	0.48	1.50	0.67	2.02

大釜遺跡試料

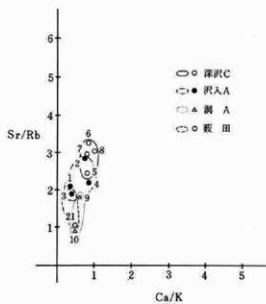
成分 試料	SiO ₂ (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	TiO ₂ (%)	CaO (%)	MgO (%)	K ₂ O (%)	Ca/K	Sr/Rb
29	68.6	17.4	4.67	0.67	0.94	1.15	1.73	0.71	1.38
30	68.9	21.4	2.70	0.88	0.29	0.59	1.46	0.26	2.79
31	66.0	18.0	6.60	0.89	0.95	1.02	1.21	1.04	1.95

平遺跡試料

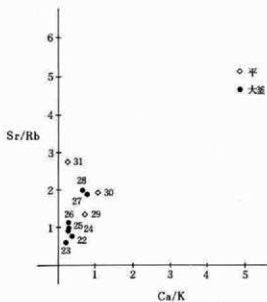
VI 化学分析



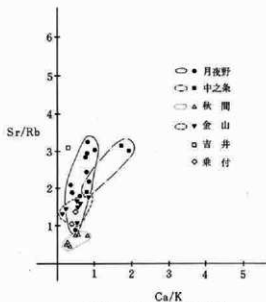
付図2 葦田東遺跡住居址試料



付図3 月夜野窯跡群試料



付図4 大釜平遺跡試料



付図4 県内高比群の領域

4. 試験結果

- (5) 試料18は付図2のとおり試料13、14と接近している。
- (6) 試料19は付図2のとおり試料11とは差を生じて位置し、試料16、17に近い。
- (7) 試料20は、付図2のとおり試料12～16の一群内にある。
- (8) 付図3に示したとおり既分析と今回の分析により試料5～8の深沢Cと試料1～4の沢入AとはCa/KとSr/Rb比において前者が高く、後者が低い値となり、その間に領域の設定が可能である。しかし、領域の一部は重複する。
- (9) 試料5、6は付図3に領域設定したとおり、Ca/KとSr/Rb比に差がある。
- (10) 付図3に示したとおり試料7、8は、試料5、6の間に位置し、近似値にある。
- (11) 付図2、3のとおり試料7、8は深沢領域に、試料20は藪田領域に入り、成分値は同領域内の他試料に接近してある。
- (12) 付図2、3のとおり試料12～16、20の一群と、試料5～8の深沢領域の一群とは異なる傾向を示した。
- (13) 付図2のとおり、藪田東遺跡粘土試料21に、試料12～16、20は近接した値を示した。
- (14) 大釜遺跡出土須恵器のうち試料27、28は付図4の月夜野窯跡群領域に入り、試料22、23は秋間窯跡群領域に入る。
- (15) 平遺跡出土須恵器のうち試料31を除く、29、30は付図4のとおり月夜野窯跡群領域に入る。

まとめ

今回の分析によって月夜野窯跡群および各支群の胎土傾向を知ることができた。

藪田東遺跡の試料については、洞A支群・沢入A支群・深沢C支群の各支群の胎土傾向と異なることが確認できた。そのため同遺跡周辺に試料21の粘土を用いた窯支群の存在を示唆する結果を得た。

しかしながら、今回の分析も前回と同様Ca/K、Sr/Rbとの関係から領域設定を行ったが、県内の各窯跡群との間に重複が多出するようになった。このことはCa/KとSr/Rbとの関係だけでは同定が困難であり、胎土の内視観察を採用しつつ、他の分析も合わせて行う必要を確認した。

注

- (1) a 「土器の胎土分析」『塚越古墳群』群馬県教育委員会（昭和55年）
b 「瓦の胎土分析」『天代瓦窯遺跡』中之条町教育委員会（昭和57年）
c 「湯井遺跡出土須恵器の胎土分析」『湯井遺跡』群馬県教育委員会（昭和57年）
d 「瓦の胎土分析について」『山王高寺跡第7次発掘調査報告書』前橋市教育委員会（昭和57年）
e 「土器の胎土分析について」『清里・坪場遺跡』群馬県埋蔵文化財事業団（昭和57年）
- (2) 『月夜野窯跡群』『土器部会研究資料 No.2』群馬歴史考古同人会（昭和58年）
- (3) 新井房夫『群馬県地質図』(昭和39年)
- (4) 大釜遺跡は、平安時代の集落址で、住居址出土須恵器、7点を分析した。胎土傾向は月夜野窯址群の胎土傾向B・Cの両者を含んでいる。詳しくは、花岡、大西「土器の胎土分析」『大釜遺跡・金山古墳群』群馬県埋蔵文化財調査事業団（昭和58年）を参照して頂きたい。
- (5) 平遺跡は古瓦を伴う奈良時代の遺跡で、表層による同期の試料を分析した報告が^{*)}にある。分析時点では月夜野窯跡群の試料の結果がなく、対比させることができなかった。3点の内視観察は、月夜野窯跡群の胎土傾向Cである。

Ⅶ 藪田東遺跡周辺の地質

磯貝基一

1. 地 形

利根郡月夜野町深沢、橋上、橋下地域は、大峰山(1254.8m)の南東山麓に位置し、西に味城山、東に南流する利根川、南に東流する赤谷川によって囲まれている。この地域からは多くの遺跡が発見され、古くから人間生活の舞台であったことを示している。藪田東遺跡は利根川と赤谷川の合流地点から北西約2kmの橋上地区内にある。

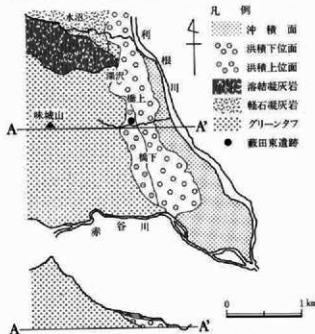
本地域には、河岸段丘がよく発達し、東流する利根川の小支流によって小さな谷がぎざまれている。河岸段丘は、沖積面と洪積面に分けられ、洪積面は上位面と下位面に細分される。沖積面と洪積面との段丘崖は30mの高さに達するが、洪積上位面と下位面との比高差は数mにすぎない。また、味城山東方には、小規模な扇状地形がみられ、本遺跡はその中に含まれる。(第117図)

一般に本地域の沖積面と洪積下位面は水田として耕作され、洪積上位面は畑として利用されている。集落は洪積上位面と下位面の境界付近に散在し、遺跡も集落の近くに多いが、窟跡群は味城山の山麓に分布している。藪田東遺跡は標高440mの洪積上位面上にある。

2. 地 質

味城山を中心とする山塊は、グリーンタフ(緑色凝灰岩)からなり、石英安山岩質～流紋岩質の緑色をおびた凝灰岩、凝灰角礫岩、火山角礫岩から構成されている。深沢～水沼地域の西方には、大峰山をつくる石英安山岩質の溶結凝灰岩と軽石凝灰岩が分布し、軽石凝灰岩の一部は堆積状況から水中堆積物であると考えられる。

段丘堆積物は、グリーンタフの凝灰角礫岩、大峰山の溶結凝灰岩、軽石凝灰岩を基盤として、下位より砂礫層、河床礫層、白色粘土層、関東ローム層、表土(黒土)の順に堆積している。(第118図)



第117図 地質図および地質断面図

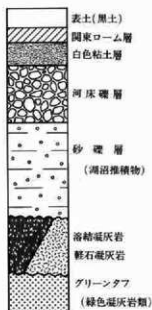
砂礫層は赤褐色を呈し、ほぼ水平な葉理がよく発達しており、水沼付近ではグリーンタフの凝灰角礫岩にアバット不整合(第119図)の関係でついているのが観察される。直径10cm以下の小円礫、細礫と砂層からなり、礫種は花コウ岩、石英せん緑岩、安山岩、流紋岩、砂岩、泥岩、チャート、ホルンフェルスなどである。沼田市一帯に広く分布する沼田湖成層の末端部と考えられる。

河床礫層は下位の砂礫層と同種の円礫からなるが、直径30cm程の大円礫を含んでおり、かつての利根川河床に堆積したものである。

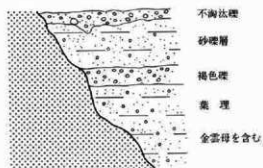
白色粘土層は下部及び中部にグリーンタフの小礫、細礫を含み、上部は粘土化が進んで良質の白色粘土となっている。本層に含まれる鉱物

1. 地形 2. 地質 3. 粘土層について

は長石、石英、角せん石、黒雲母、磁鉄鉱、ガラスなどである。
 関東ローム層は褐色でやや粘性をおび、最下部は粘土化している。
 鉱物組成は斜長石、しそ輝石、普通輝石、磁鉄鉱、ガラスからなり、
 最下部の粘土化している部分には角せん石が含まれている。



第118図 模式地質柱状図



第119図 アバット不整合スケッチ

表土(黒土)
 は粘性の強い黒
 色帯をはさみ、
 ニッ岳降下軽石
 を含んでいる。

3. 粘土層について

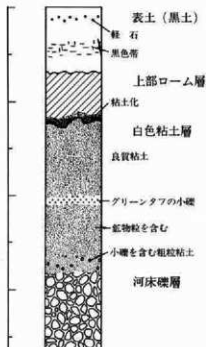
藪田東遺跡付近の洪積上位面下の粘土層は、層厚約1.5mの白色粘土からなり、下位の河床礫層と上位の上部ローム層(関東ロームの一部)によってはさまれている。(第120図)

下半部には小礫や鉱物粒がみられ、粘土化も弱い、上半部では粘土化が進み良質の粘土からなっている。発見された粘土採掘地では、主に上半部の良質の粘土部を採集している。

白色粘土層中には、グリーンタフの小礫及び長石、石英、角せん石、黒雲母、磁鉄鉱等の鉱物が含まれている。また下半部には金雲母が観察される。

白色粘土は主に粘土鉱物のハロイサイト及び加水ハロイサイトからなっている。ハロイサイトを主成分とする粘土は、乾燥するとひび割れができやすく、陶磁器用粘土には不向きとされている。したがって、白色粘土が採掘され、土器や須恵器の原料として使われたとするならば、おそらく、異質物を混ぜ合わせて使用したものと考えられる。

本地域の白色粘土は、グリーンタフの小礫や長石、石英、角せん石、黒雲母、磁鉄鉱、ガラス等のグリーンタフや溶結凝灰岩の構成鉱物を含むことから、今から2万5千年前ころこの付近にあった沼の底に味城山や大峰山をつくっているグリーンタフや溶結凝灰岩が浸食、運搬されてきて堆積した後、粘土化されたものと考えられる。



第120図 藪田東遺跡西崖の柱状図

版 圖

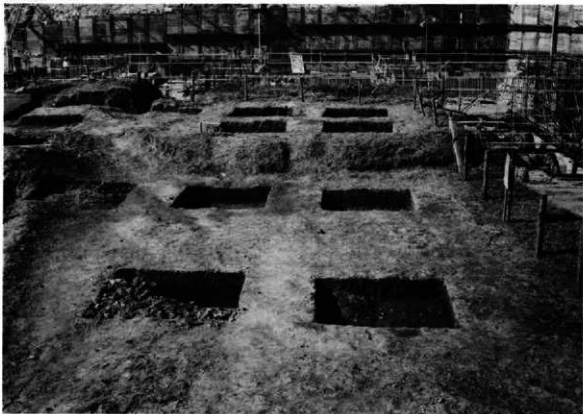


1. 遺跡遠景（南西から）



2. グリッド調査

図版 2



1. 水田部分グリッド調査



2. 粘土採掘坑発掘作業

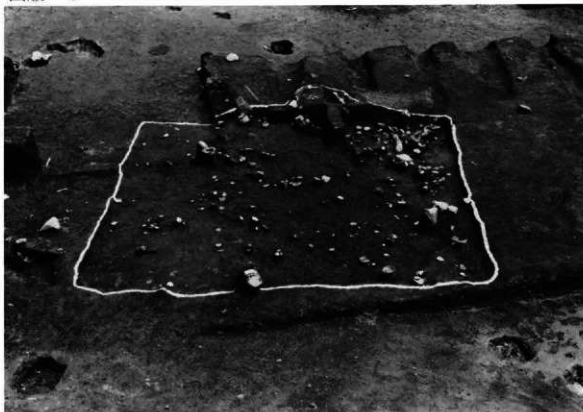


1. 1号住居址



2. 2号住居址

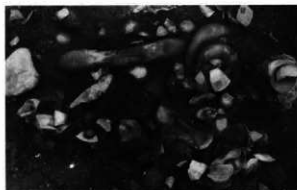
図版 4



1. 3号住居址



2. 同住居址カマド部分遺物出土状態



4. 同住居址貯蔵施設部分遺物出土状態



3. 同住居址カマド掘り方



5. 同住居址貯蔵施設部分遺物出土状態



1. 4号住居址



2. 5号住居址

図版 6



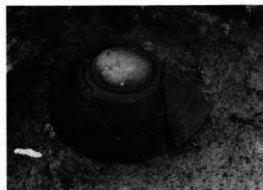
1. 6号住居址



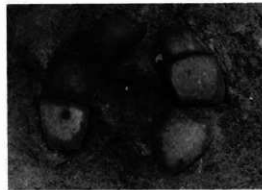
2. 同住居址遺物出土状態 (P23)



4. 同住居址遺物出土状態 (P5)



3. 同住居址遺物出土状態 (P19)



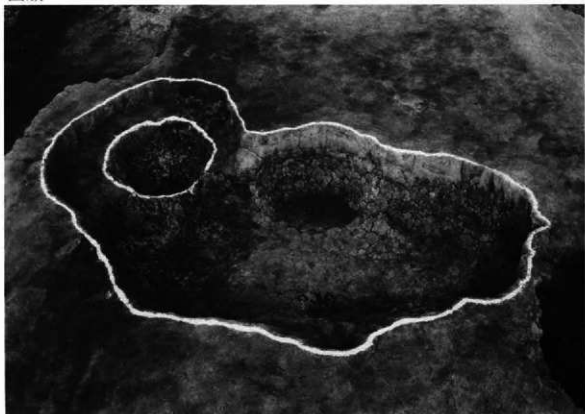
5. 同住居址遺物出土状態 (P2)



1. 7号住居址



2. 7号及び8号住居址



1. 第1群粘土採掘址



2. 第2群粘土採掘址



1. 第1・3・4群粘土採掘坑発掘状況



2. 同完掘状態

図版 10



1. 第3群粘土採掘場検出状態



2. 第3群粘土採掘場



1. 第3·7·8·9群粘土埴轮址



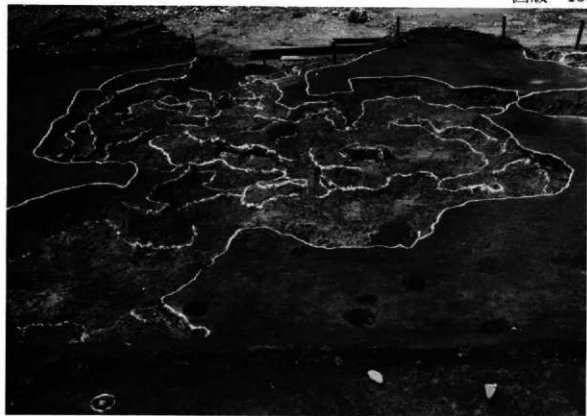
2. 第3·7·8群粘土埴轮址



1. 第3·7·8群粘土探掘址



2. 第4群粘土探掘址



1. 第4群粘土採掘地



2. 第6群粘採掘地遺物出土状態

图版 14



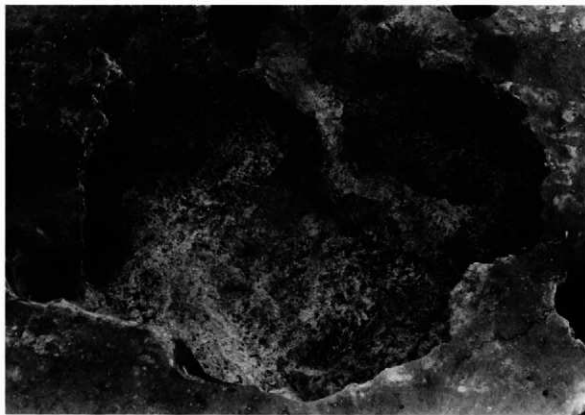
1. 第6群粘土探掘坑土层断面



2. 第6群粘土探掘坑土层断面



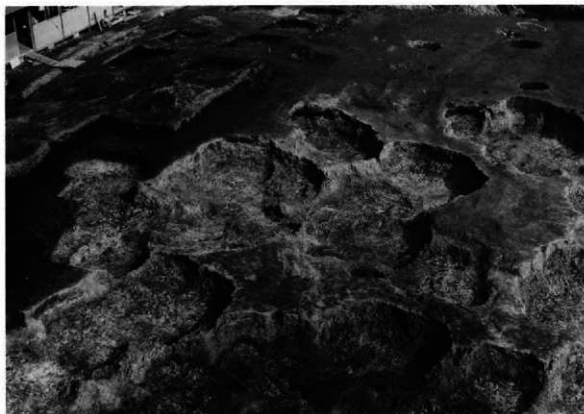
1. 第6群粘土採掘地



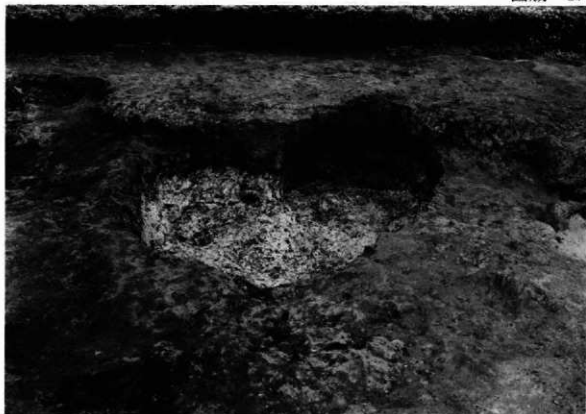
2. 第6群粘土採掘地



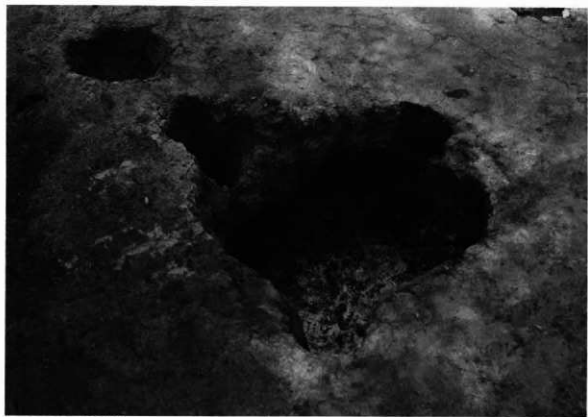
1. 第7群粘土採掘地



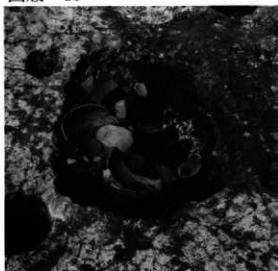
2. 第8・9群粘土採掘地



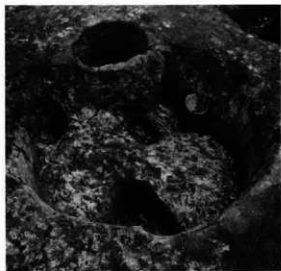
1. 第9群粘土採掘址



2. 第11群粘土採掘址



1. 1号土坑



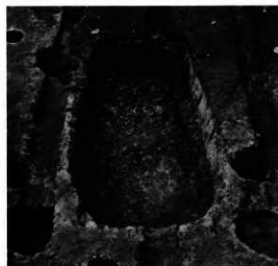
2. 2号土坑



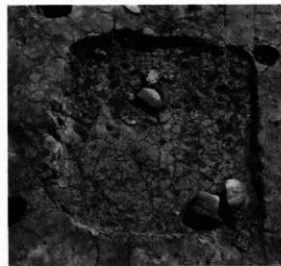
3. 3号土坑



4. 4号土坑



5. 5号土坑



6. 6号土坑



1. 7号土坑 (No 1 骨藏器出土状态)



2. No 1 骨藏器



3. No 2 骨藏器



4. No 3 骨藏器出土状态



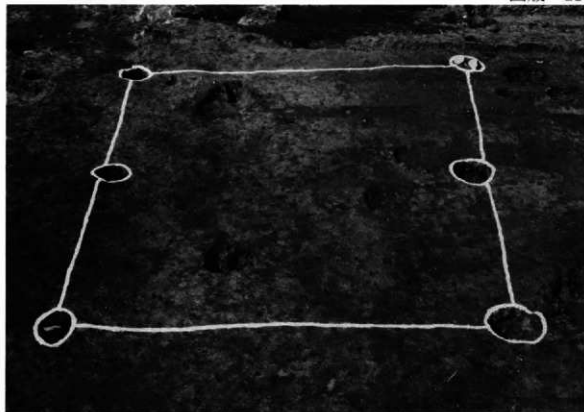
5. No 3 骨藏器



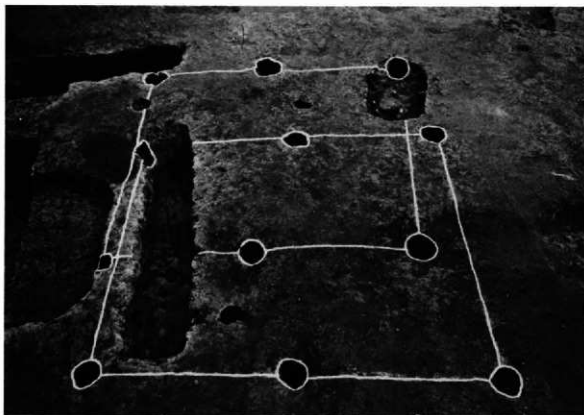
1. 1号及び2号掘立柱建物址



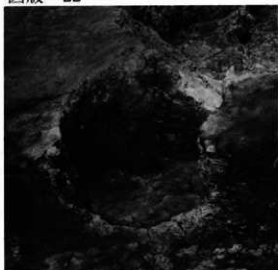
2. 3号掘立柱建物址



1. 4号掘立柱建物址



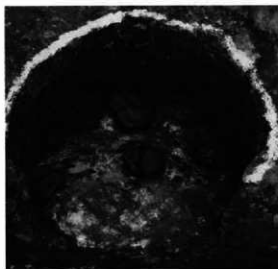
2. 5号及び6号掘立柱建物址



1. 8号土坑



2. 9号土坑



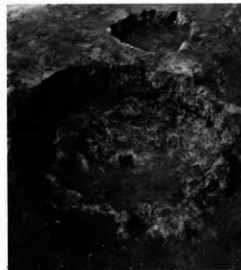
3. 10号土坑



4. 11号土坑



5. 12号土坑



6. 13号土坑



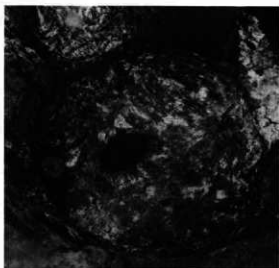
1. 14号土坑



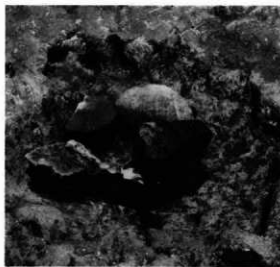
2. 15号土坑



3. 16号土坑



4. 18号土坑



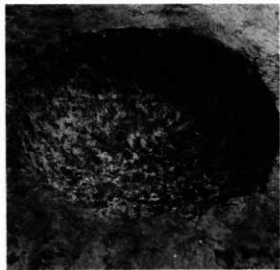
5. 17号土坑



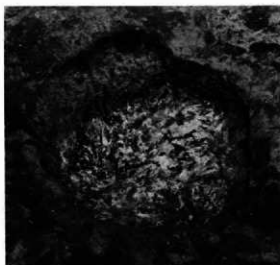
6. 19号土坑



1. 21号土城



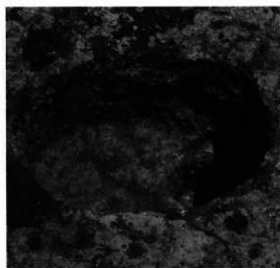
2. 20号土城



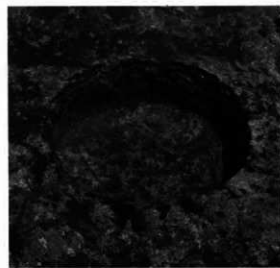
3. 23号土城



4. 24号土城



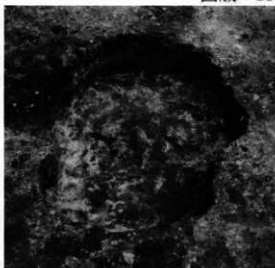
5. 25号土城



6. 26号土城



1. 27号土壇



2. 28号土壇



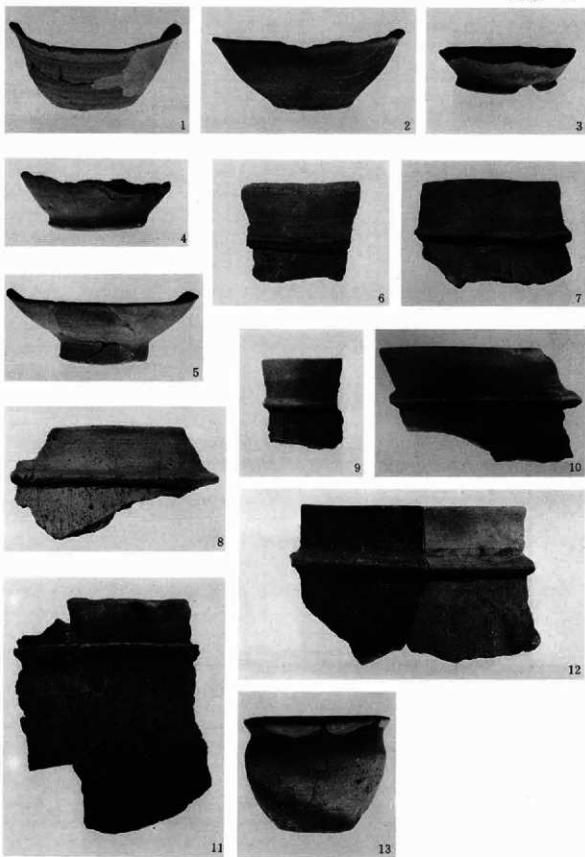
3. 集石状遺構



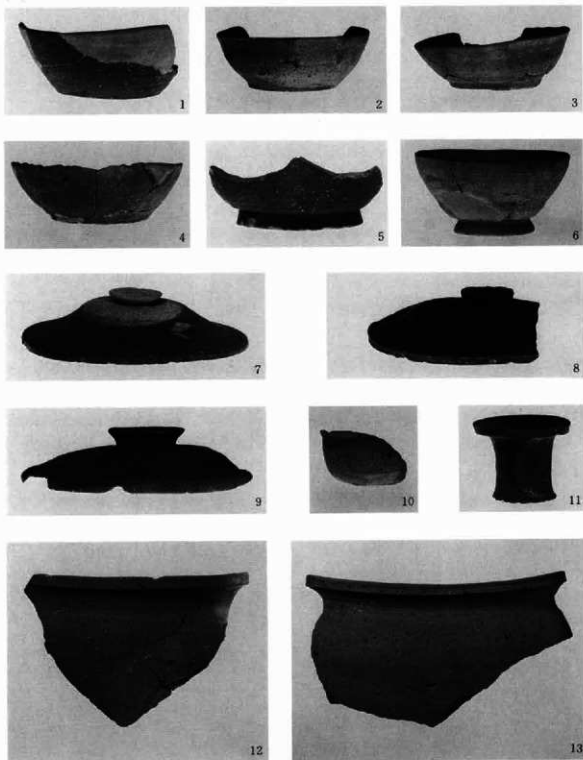
1. 溝状遺構



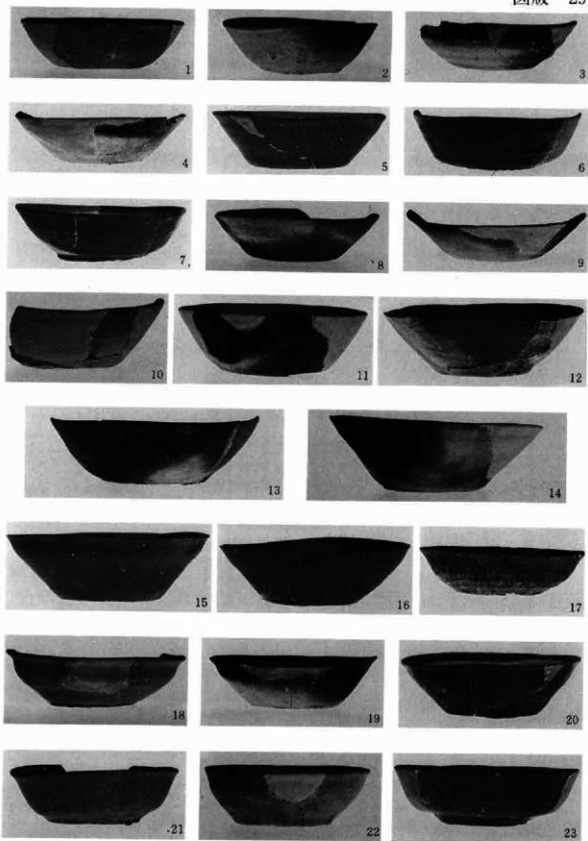
2. 石組遺構



1号住居址出土土器

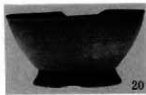


2号住居址出土土器

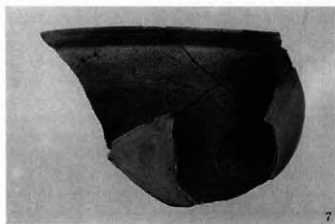


3号住居址出土土器

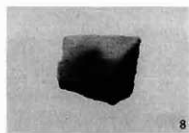
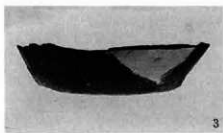
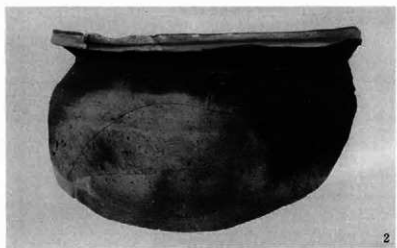
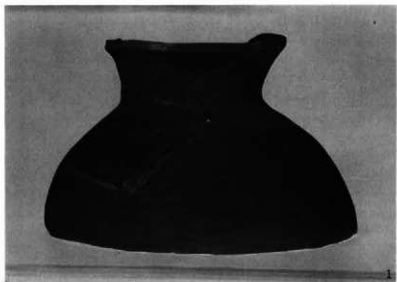
図版 30



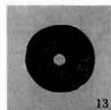
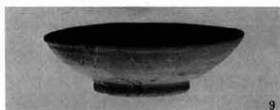
3号住居址出土土器

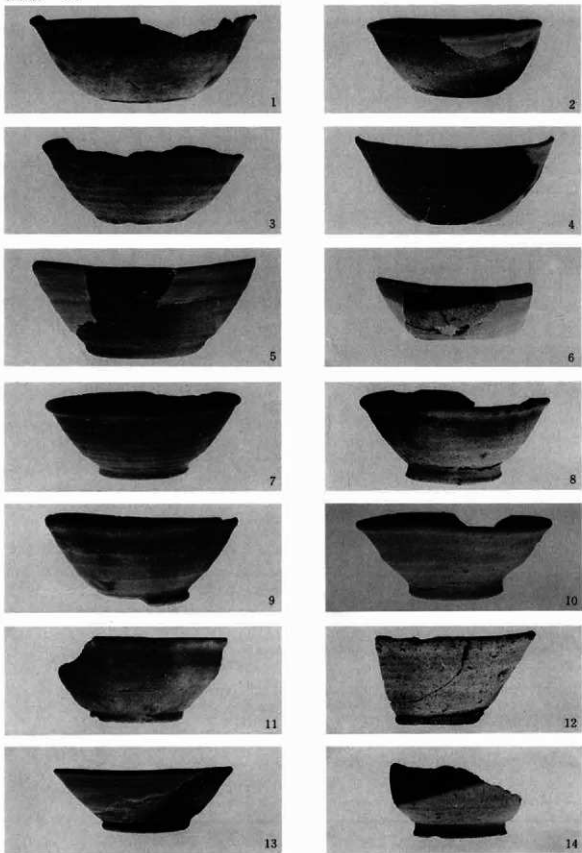


3号住居址出土土器



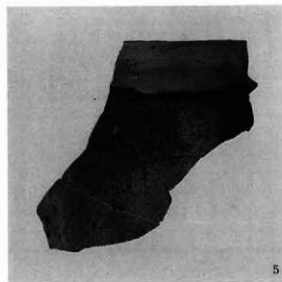
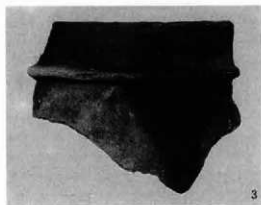
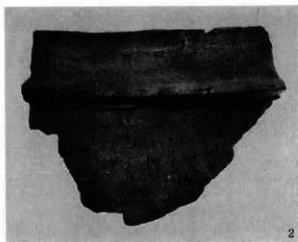
3号住居址出土土器





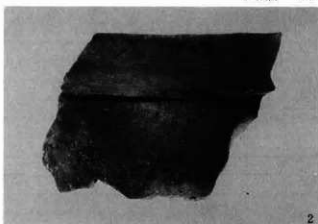


5号住居址出土土器





1



2

5号住居址出土土器



3



4



5



6



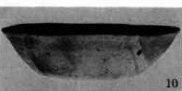
7



8



9



10



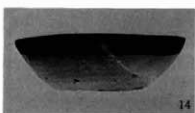
11



12



13



14

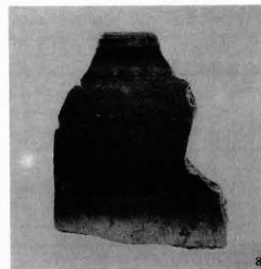
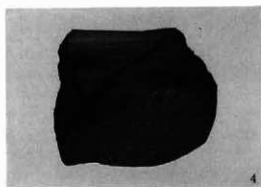
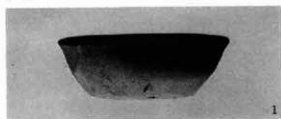


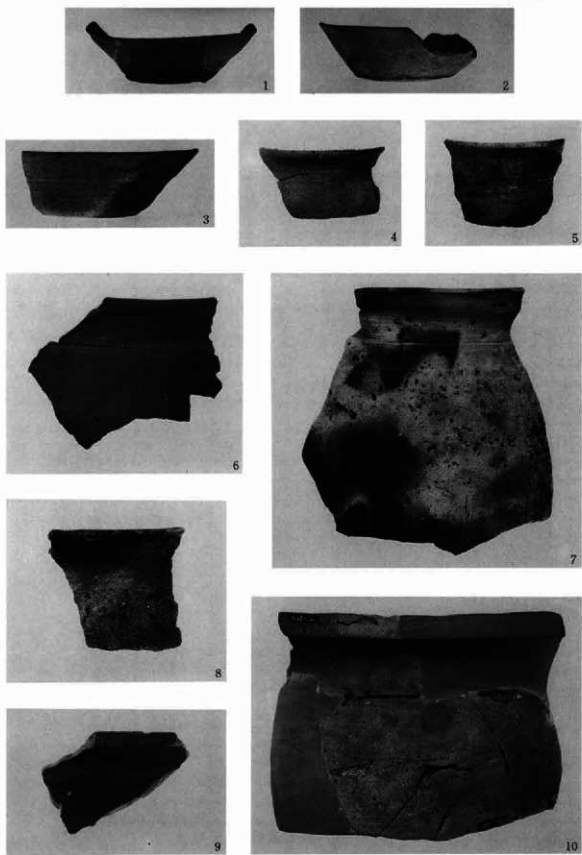
15



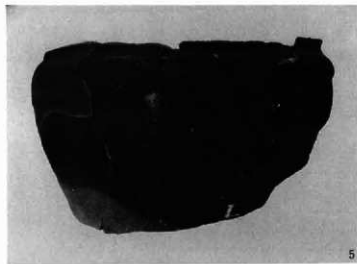
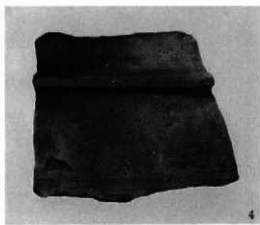
16

6号住居址出土土器





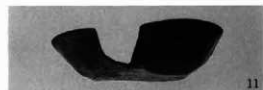
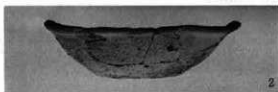
7号住居址出土土器

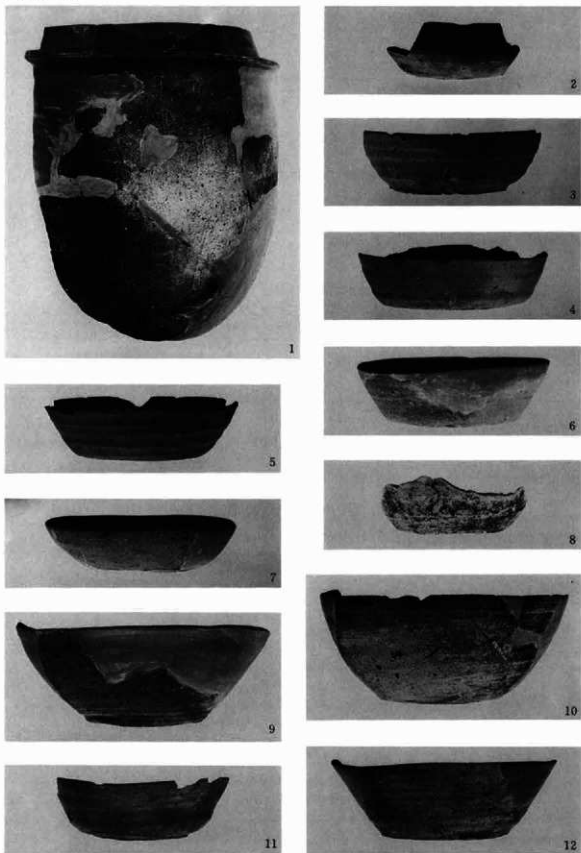


7号住居址出土遺物

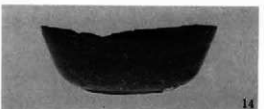
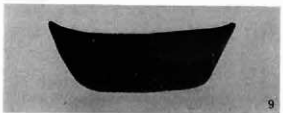


8号住居址出土土器





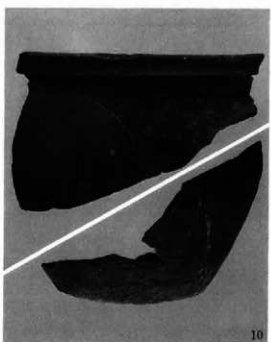
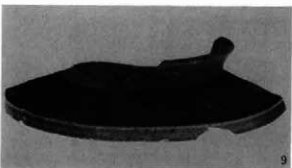
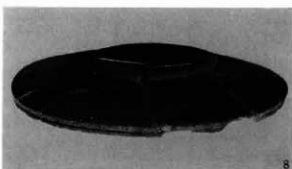
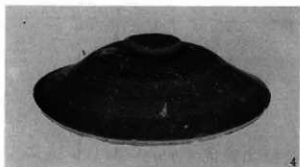
第3・4群粘土採掘地出土土器



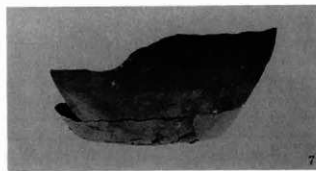
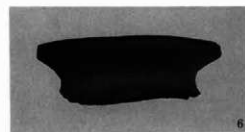
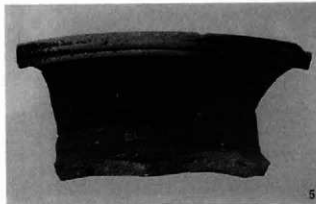
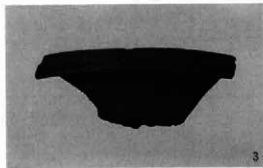
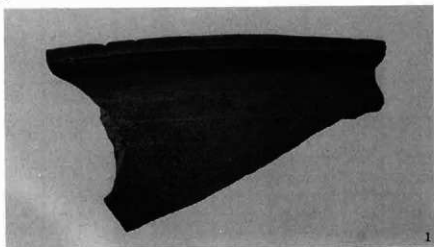
第4群粘土採掘地出土土器



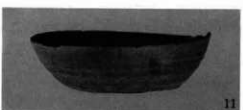
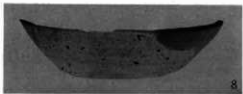
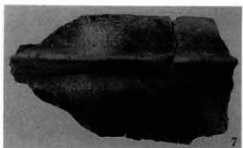
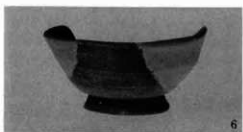
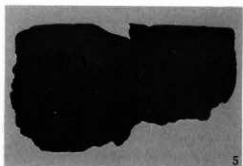
第4群粘土探掘出土土器

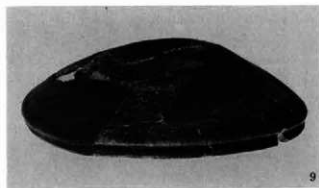
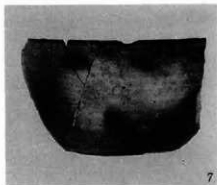
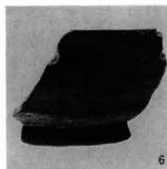
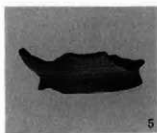
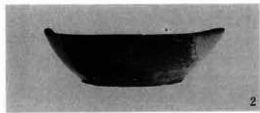
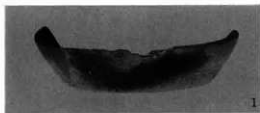


第4群粘土探掘出土土器

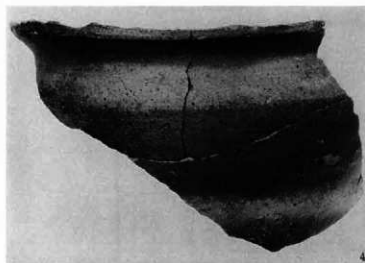


第4群粘土採掘出土土器

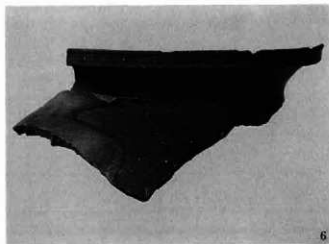
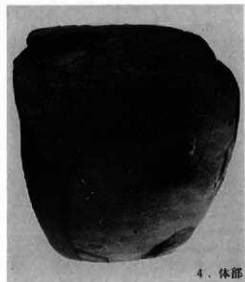
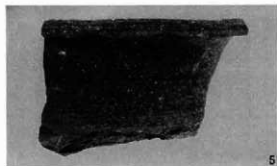
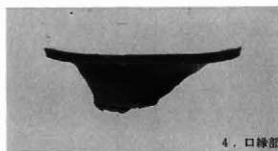
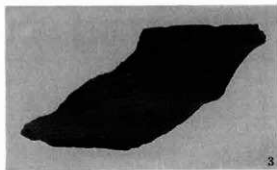
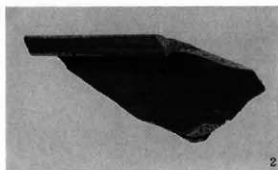




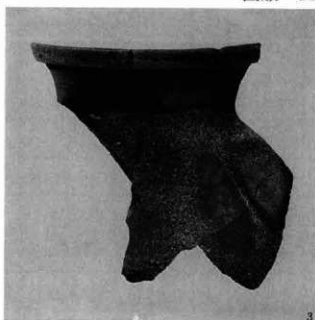
第6群粘土採掘地出土土器



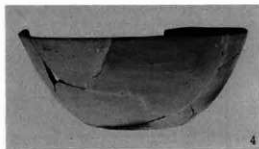
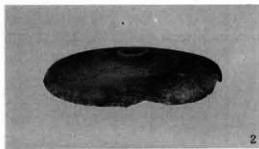
第6群粘土採掘地出土土器

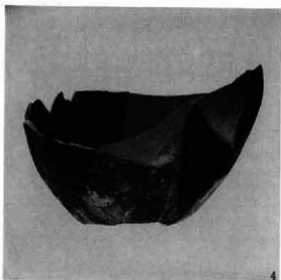
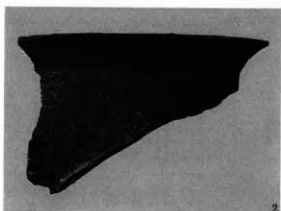


第6群粘土採掘址出土土器

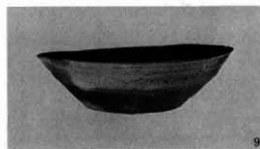
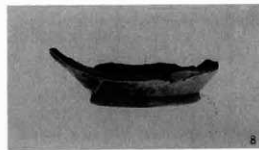
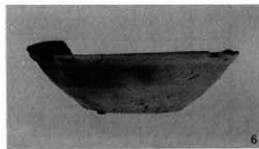
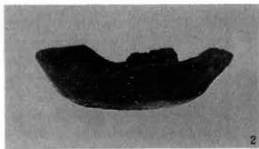
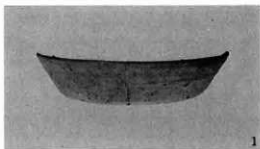


第6·7群粘土探掘址出土土器





图版 54





1



2



3



4



7



8



9



5



6

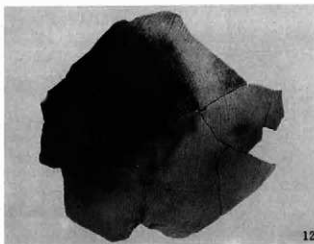
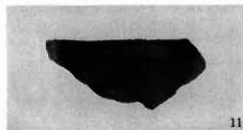
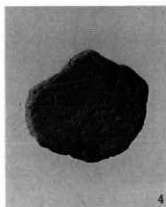
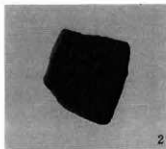


10



11

図版 56



グリッド出土遺物

藪田東遺跡

国道291号街路改良工事地域
埋蔵文化財発掘調査報告書

印刷 昭和58年3月28日

発行 昭和58年3月31日

編集・発行 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北碓村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511 (代表)

印刷 朝日印刷工業株式会社